
福山市 福祉に関するアンケート調査 報告書

2023年（令和5年）11月
福山市

～ 目 次 ～

I 調査の概要	1
II 調査結果（18歳以上）	3
II-1 回答者の属性	3
II-2 調査結果	4
【1】障がいの状況について	4
1 所持手帳の種類	4
2 各種診断や認定の状況	6
3 強度行動障がいの状況	9
【2】障がい福祉サービス等の利用について	10
1 障がい福祉サービスの利用状況・利用意向	10
2 障がい福祉サービスに対して困ったこと	15
3 サービスを利用していない理由	19
4 サービスを利用しやすくするために必要なこと	21
5 障がいや福祉サービスに関する情報の入手先	23
【3】住まいや暮らしについて	27
1 現在の生活の場	27
2 今後3年以内に希望する暮らし方	28
3 主な介助者	30
4 介助者の年齢や健康状態	32
5 希望する暮らしを送るために必要な支援	35
【4】相談について	37
1 相談したいこと	37
2 相談先に望むこと	41
3 基幹相談支援センター（クローバー）の利用状況	44
4 権利擁護支援センターの利用状況	46
5 成年後見制度の認知状況	48
6 成年後見制度の利用意向	50
7 地域活動支援センターの利用状況	52
8 ピアサポート活動への参加意向	54
9 障がいのある人のために手助けできること	56
【5】就労について	58
1 就労状況	58
2 一般就労への希望	60
3 一般就労したいと思わない理由	61
4 今後の就労継続意向	62
5 仕事をする上で困ったこと	64

6	今後の就労意向	67
7	働きやすいと思うために必要なこと	68
【6】	地域での暮らしについて	70
1	障がいのある人に対する地域の人の理解	70
2	近所の人との付き合い程度	72
3	地域の行事や活動などへの参加状況	74
4	地域の活動への参加意向	77
【7】	行政の福祉施策について	79
1	市が力を入れるべき取組	79
II-3	資料 調査票	81
III	調査結果（18歳未満）	103
III-1	回答者の属性	103
III-2	調査結果	105
【1】	障がいの状況について	105
1	所持手帳の種類	105
2	各種診断や認定の状況	107
3	強度行動障がいの状況	110
【2】	障がい福祉サービス等の利用について	111
1	障がい福祉サービスの利用状況・利用意向	111
2	障がい福祉サービスに対して困ったこと	119
3	児童発達支援や放課後等デイサービスを利用している理由	122
4	児童発達支援や放課後等デイサービスの利用日数の増減について	124
5	児童発達支援や放課後等デイサービスの療育への影響について	125
6	療育に良い影響があると思わない理由	125
7	児童発達支援や放課後等デイサービスで困ったこと	126
8	サービスを利用していない理由	128
9	サービスを利用しやすくするために必要なこと	130
10	障がいや福祉サービスに関する情報の入手先	132
【3】	ふだんの暮らしについて	134
1	主な介助者	134
2	介助や支援にあたっての不安や悩み	136
3	主な介助者が必要としている支援	138
【4】	相談について	140
1	発達の遅れや障がいに気付いたときにほしい情報	140
2	相談したいこと	142
3	子どもが成年期を迎えた後に希望する暮らし方	144
4	基幹相談支援センター（クローバー）の利用状況	146

5	こども発達支援センターの利用状況	147
6	相談先に望むこと	148
7	発育・発達上の支援が必要な子どものために必要なこと	150
8	ピアサポート活動への参加意向	152
9	近所の人との付き合い程度	153
【5】	日中の過ごし方について	154
1	通所・通学先	154
2	ペアレント・メンターの認知状況	156
3	ペアレント・メンターへの相談意向	157
【6】	行政の福祉施策について	158
1	市が力を入れるべき取組	158
Ⅲ-3	資料 調査票	160
Ⅳ	フリーアンサー集約結果	179
【1】	18歳以上	179
【2】	18歳未満	180
	参考資料／地域生活拠点ブロック別地図	181

I 調査の概要

【調査の目的】

本調査は、「第7期福山市障がい福祉計画・第3期福山市障がい児福祉計画」(2024年度(令和6年度)～2026年度(令和8年度))を策定するため、障がい者手帳等所持者における、障がいの状況、住まいや暮らし、保健・医療、就労、保育・教育などについての意識や福祉ニーズ等を調査し、計画の基礎資料とすることを目的として実施した。

【調査概要】

調査対象	市内に住所を有する身体障がい者手帳,療育手帳,精神障がい者保健福祉手帳の所持者及び障がい児通所支援受給者
調査期間	2023年(令和5年)7月31日～8月14日
調査方法	郵送による調査票の配布・回収
配布数	3,500人(18歳以上:2,900人,18歳未満:600人)
回収数	1,372人(18歳以上:1,107人,18歳未満:265人)
回収率	39.2%(18歳以上:38.2%,18歳未満:44.2%)

◆障がい別回収状況(18歳以上)◆ (数値部分上段は構成比%,下段は回答件数)

サンプル数	身体障がい者手帳						療育手帳*			
	1級	2級	3級	4級	5級	6級	○A	A	○B	B
100.0	17.9	7.9	7.7	8.9	4.3	2.9	3.3	7.2	4.7	6.6
1107	198	88	85	99	48	32	36	80	52	73

精神障がい者保健福祉手帳			無回答
1級	2級	3級	
0.8	14.7	8.5	9.8
9	163	94	108

注:「問4① 手帳の種類・等級」より
※等級の表記については、次頁(6)を参照

◆障がい別回収状況(18歳未満)◆ (数値部分上段は構成比%, 下段は回答件数)

サンプル数	身体障がい者手帳						療育手帳※			
	1級	2級	3級	4級	5級	6級	○A	A	○B	B
100.0	9.1	1.9	2.6	0.4	0.0	0.0	8.3	9.4	6.0	15.1
265	24	5	7	1	0	0	22	25	16	40

精神障がい者 保健福祉手帳			手帳は 持っていない	無回答
1級	2級	3級		
0.4	1.1	10.2	39.6	6.4
1	3	27	105	17

注:「問4① 手帳の種類・等級」より

※等級の表記については、本頁(6)を参照

【報告書の見方について】

- (1) 集計は小数点以下第2位を四捨五入している。そのため、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- (2) 2つ以上の回答を可能とした(複数回答)質問の場合、その回答比率の合計は100%を超える場合がある。
- (3) 数表, 図表, 文中に示すNは, 比率算出上の基数(標本数)である。全標本数を示す「全体」を「N」, 「該当数」を「n」で表記している。この基数(n数)が少ない場合(目安として10未満), 統計的な意味が薄れるため, その場合は参考値程度とする必要がある。
- (4) 図表中における障がい種別や年齢別などのクロス集計結果については, 該当する属性等の設問に対する無回答者(例えば, 年齢別でクロス集計する場合における年齢の無回答者)を除いて表記しているため, 属性ごとの基数の合計と全体の基数は同じにならない場合がある。
- (5) 図表中においては見やすさを考慮し, 回答割合が極端に少ない数値(例:0.0%, 0.1%など)は, 図と干渉して見えにくい場合などに省略している場合がある。また, 複数回答の図表中においては, 見やすさを考慮し, 回答割合の高い順に並べ替えて表記している場合がある。
- (6) 本報告書の図表や文章では, 療育手帳の等級について, 次のように略記している。

マルエー	Ⓐ	→	○A
マルビー	Ⓑ	→	○B

- (7) 上記のほか, 個別に参照事項がある場合は, 本報告書の該当箇所に適宜記載した。

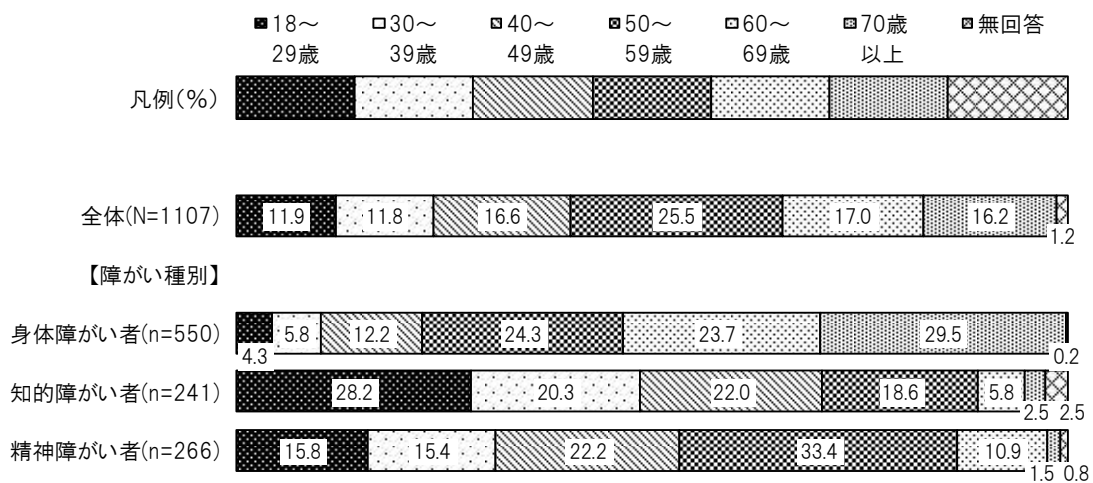
Ⅱ 調査結果（18歳以上）

Ⅱ-1 回答者の属性

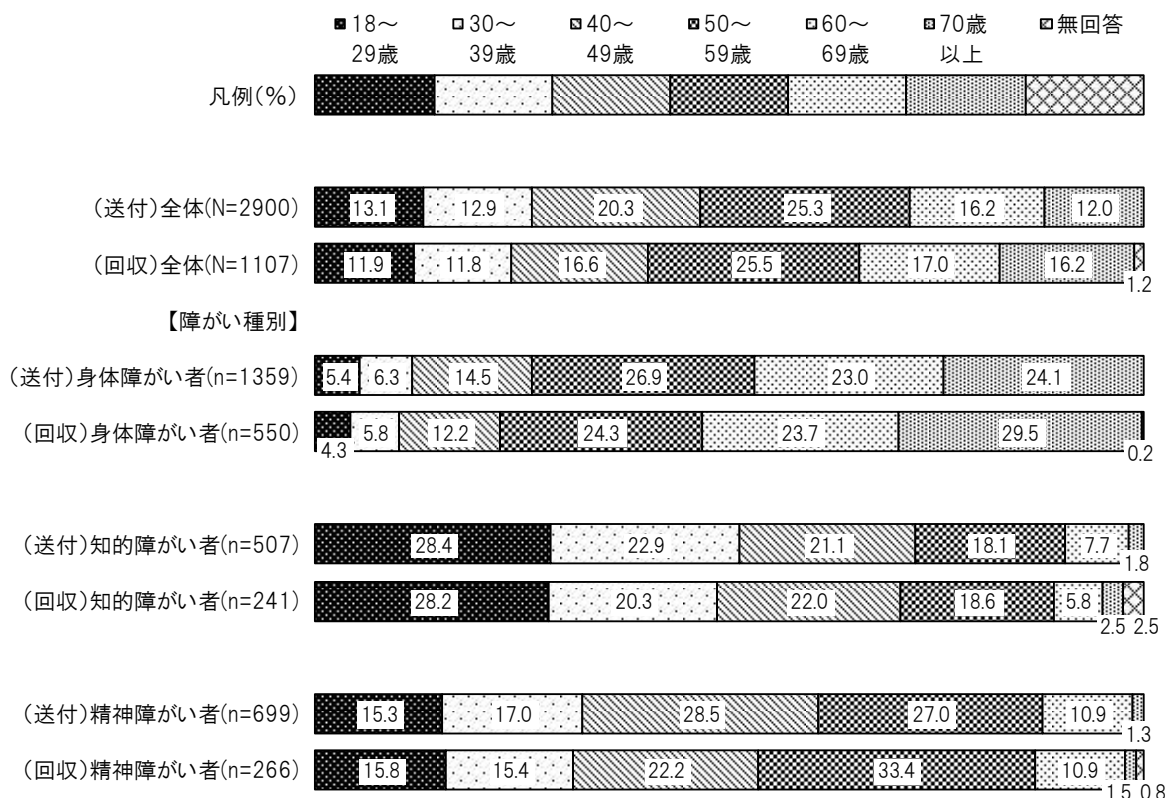
1 年齢別構成

年齢別構成では、「50～59歳」が25.5%と最も高く、次いで「60～69歳」（17.0%）、「40～49歳」（16.6%）が続いている。

障がい種別では、身体障がい者で「60～69歳」「70歳以上」、知的障がい者で「18～29歳」、精神障がい者で「50～59歳」の割合がそれぞれほかの障がいを大きく上回っている。



【参考／アンケート送付対象者の年齢区分との比較】



注：送付全体には、自立支援医療（精神通院）受給者を含む。

Ⅱ-2 調査結果

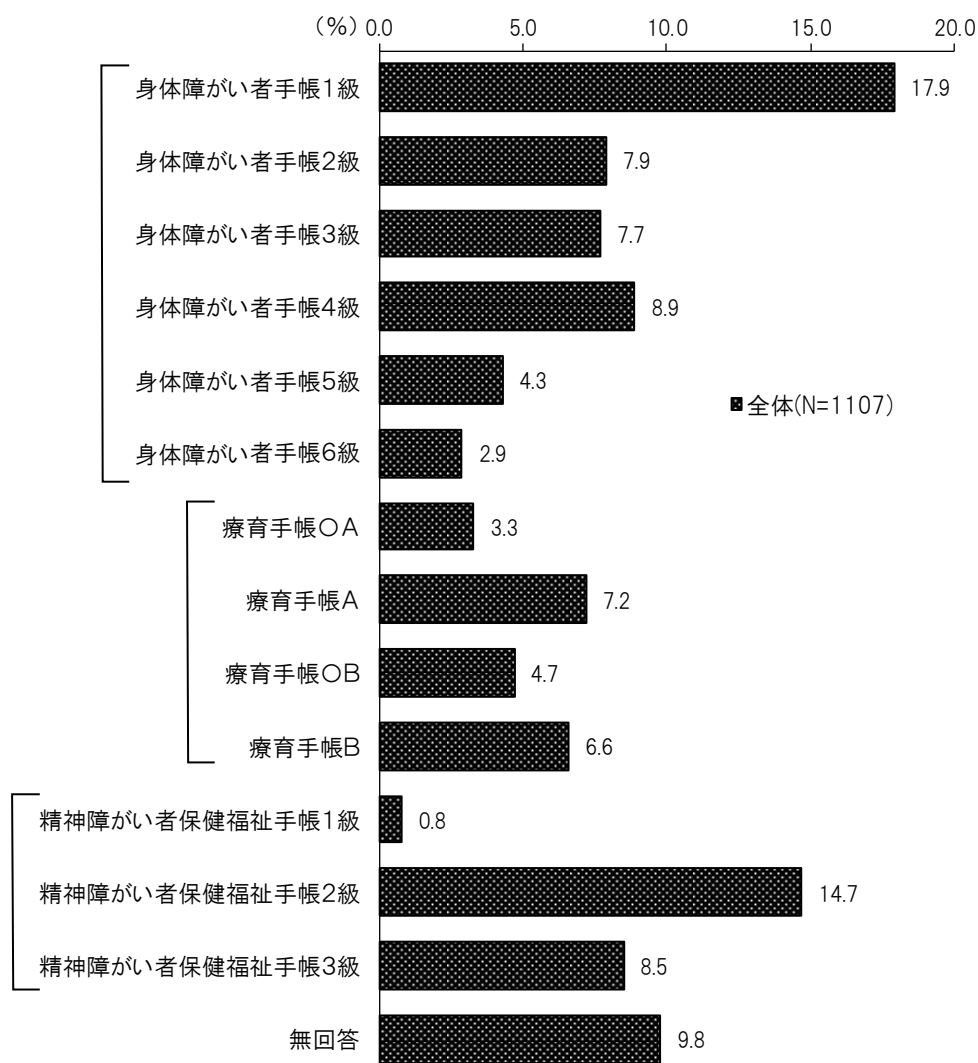
【1】障がいの状況について

1 所持手帳の種類

問4 あなたは①次の手帳をお持ちですか。②身体障がい者手帳をお持ちの場合は、手帳に書かれている障がい名もお答えください。（あてはまるものすべてに○印）

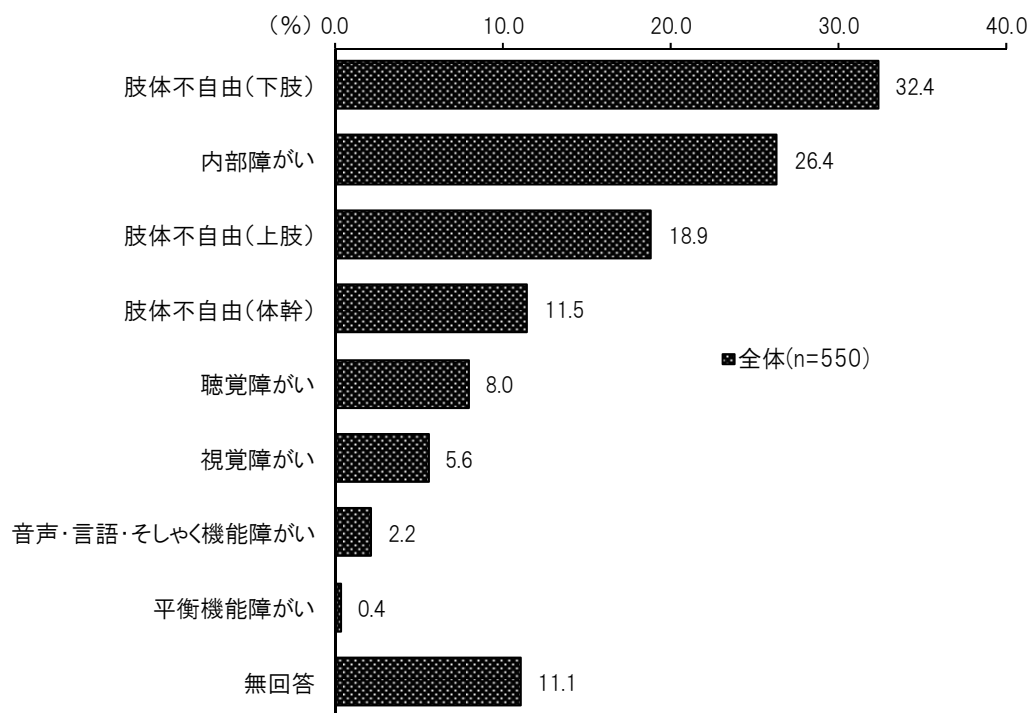
（1）所持手帳の種類

所持手帳を種類別で見ると、身体障がい者手帳は「1級」の割合が17.9%と最も高く、次いで「4級」（8.9%）が続いている。また、療育手帳では「A」（7.2%）、「B」（6.6%）、精神障がい者保健福祉手帳では「2級」（14.7%）の割合が高くなっている。



(2) 障がいの種類（身体障がい者）

身体障がい者においては、「肢体不自由（下肢）」の割合が32.4%と最も高く、次いで「内部障がい」（26.4%）、「肢体不自由（上肢）」（18.9%）、「肢体不自由（体幹）」（11.5%）の順となっている。



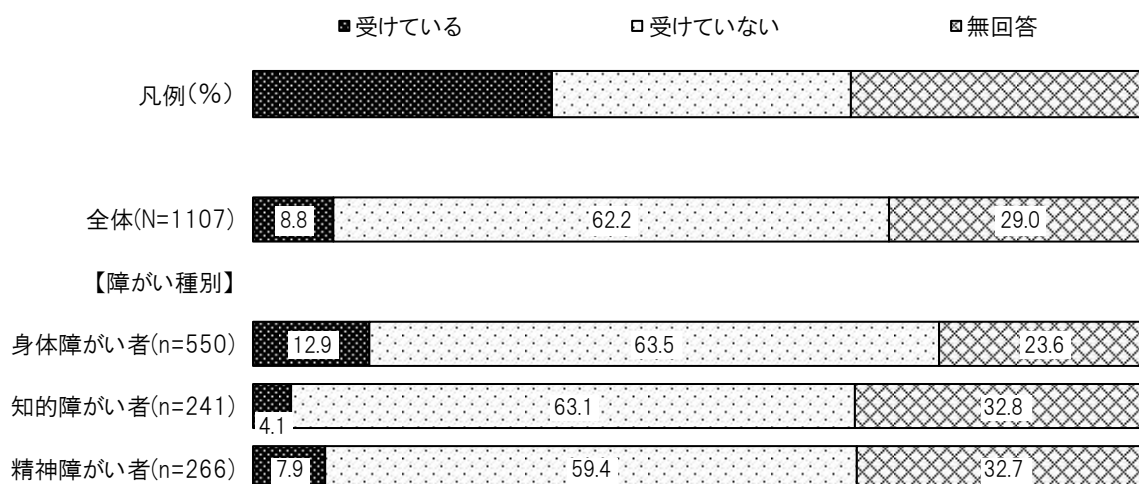
2 各種診断や認定の状況

問5 あなたは、次にあげる項目について、医師からの診断や認定などを受けていますか。
(○印は1つずつ)

(1) 難病の診断

難病の診断については、「受けている」の割合が8.8%となっている。

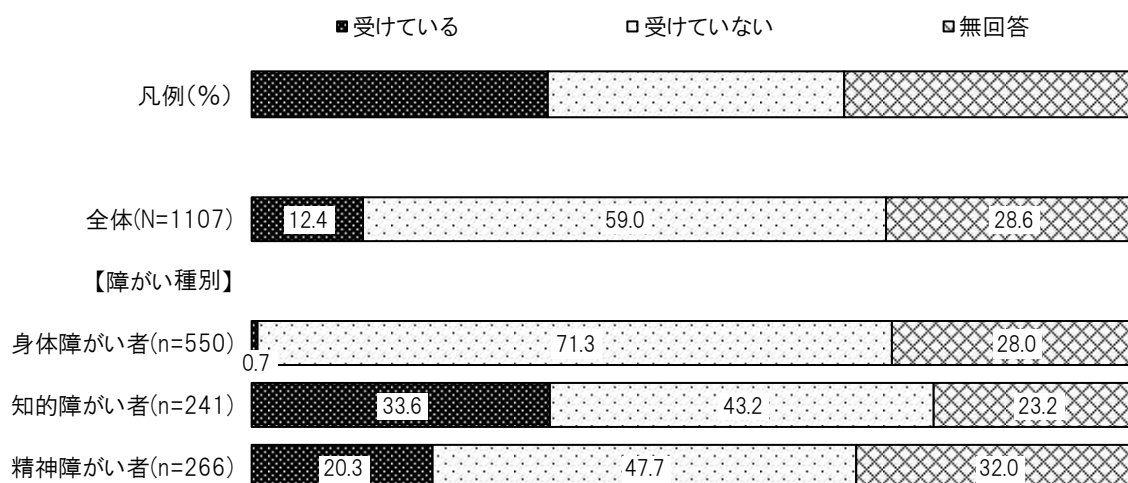
障がい種別では、身体障がい者で「受けている」の割合がほかの障がいに比べて高くなっている。



(2) 発達障がいの診断

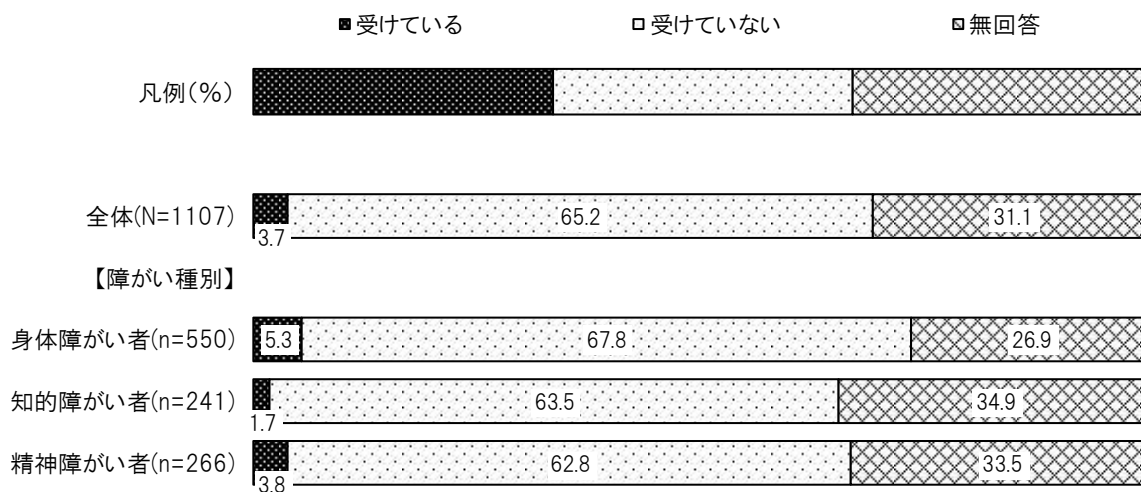
発達障がいの診断については、「受けている」の割合が12.4%となっている。

障がい種別では、知的障がい者で約3割、精神障がい者で約2割が「受けている」と回答している。



(3) 高次脳機能障がいの診断

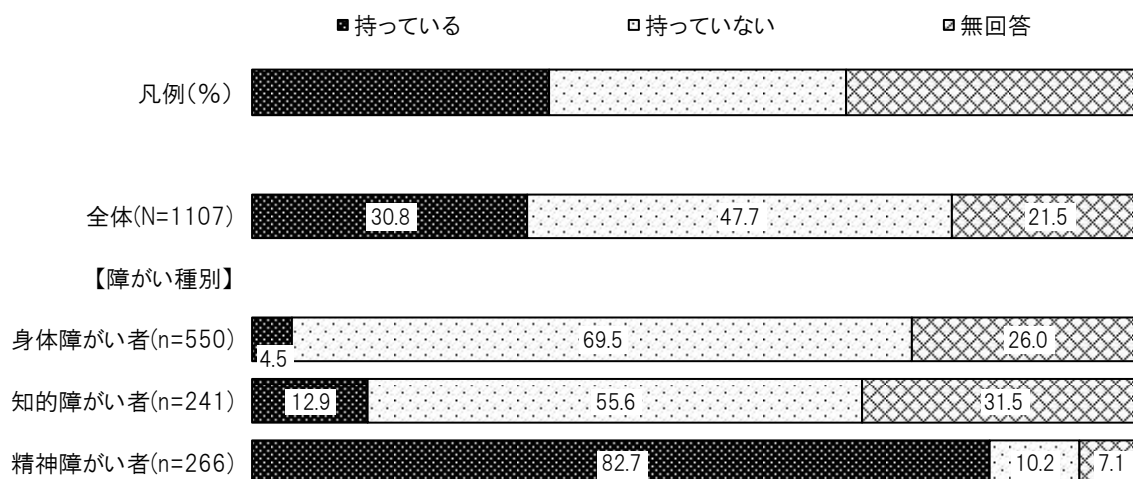
高次脳機能障がいの診断については、「受けている」の割合が3.7%となっている。障がい種別では、大きな差はみられない。



(4) 自立支援医療（精神通院）の受給者証

自立支援医療（精神通院）の受給者証については、約3割（30.8%）が「持っている」と回答している。

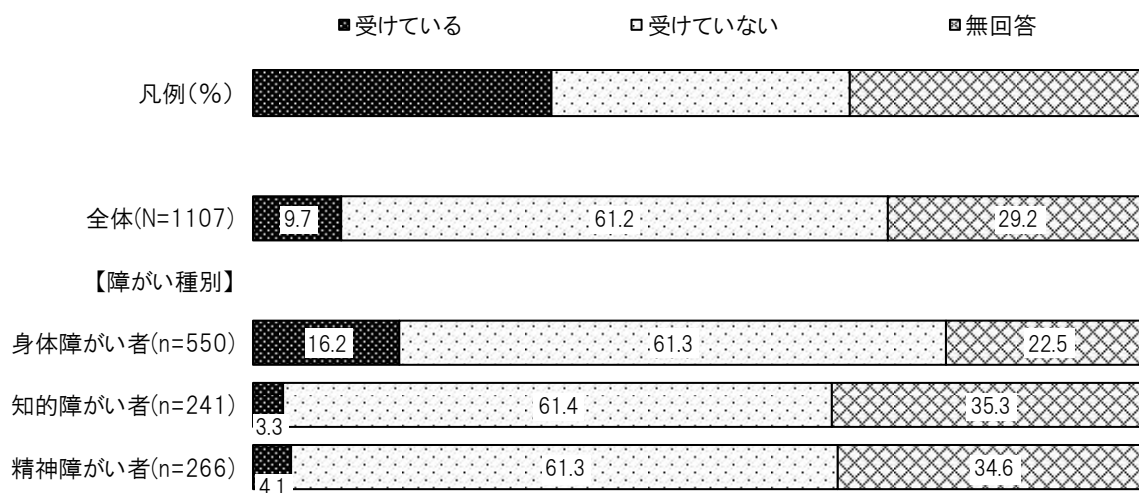
障がい種別では、精神障がい者の8割以上が「持っている」と回答している。



(5) 介護保険制度の要支援・要介護認定

介護保険制度の要支援・要介護認定については、「受けている」の割合が9.7%となっている。

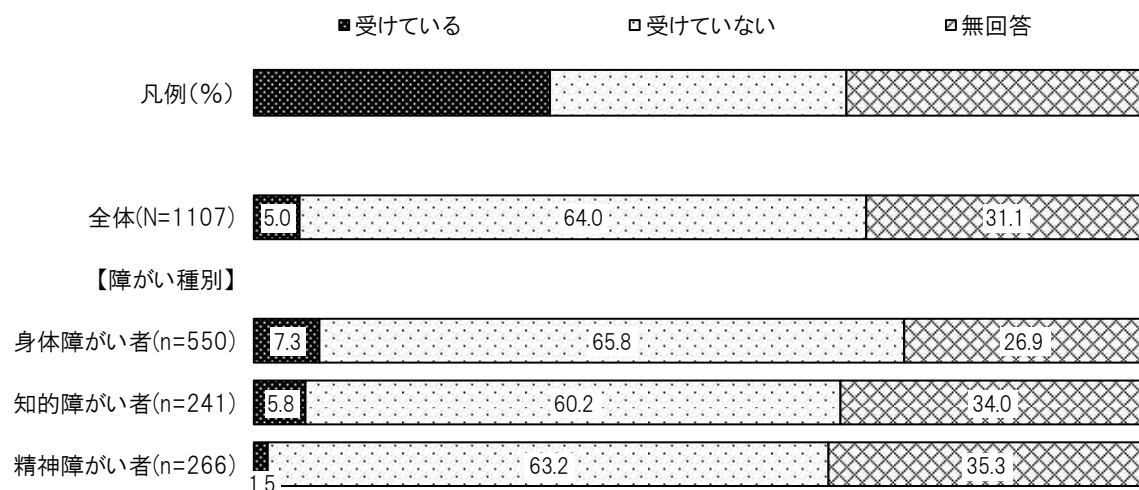
障がい種別では、身体障がい者で「受けている」の割合がほかの障がいを大きく上回っている。



(6) 医療的ケア

医療的ケアについては、「受けている」の割合が5.0%となっている。

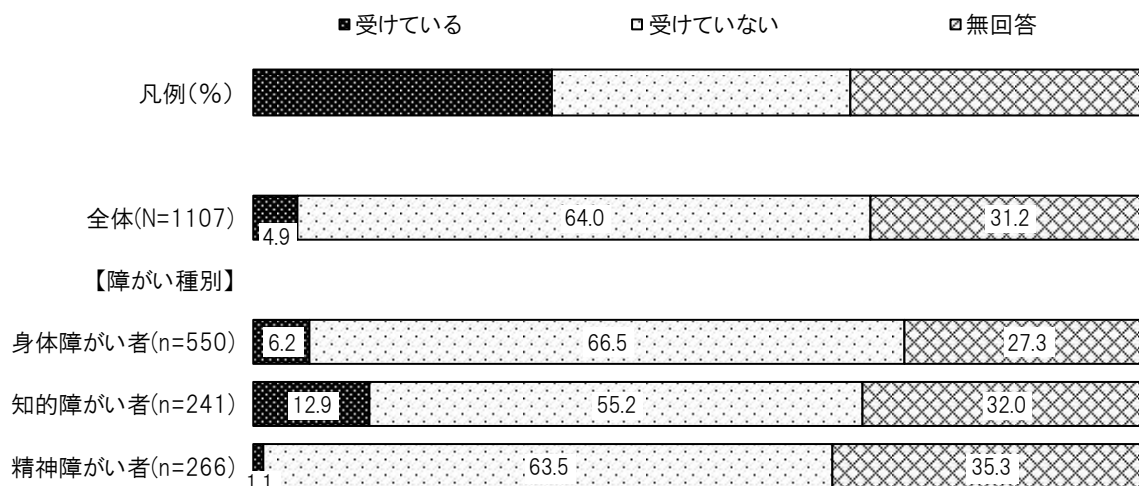
障がい種別では、身体障がい者や知的障がい者で「受けている」の割合が精神障がい者に比べて高くなっている。



(7) 重症心身障がいの診断

重症心身障がいの診断については、「受けている」の割合が4.9%となっている。

重症心身障がいとは、重度の肢体不自由と重度の知的障がいが重複した状態のことをいうが、知的障がい者で「受けている」の割合がほかの障がいに比べて高くなっている。

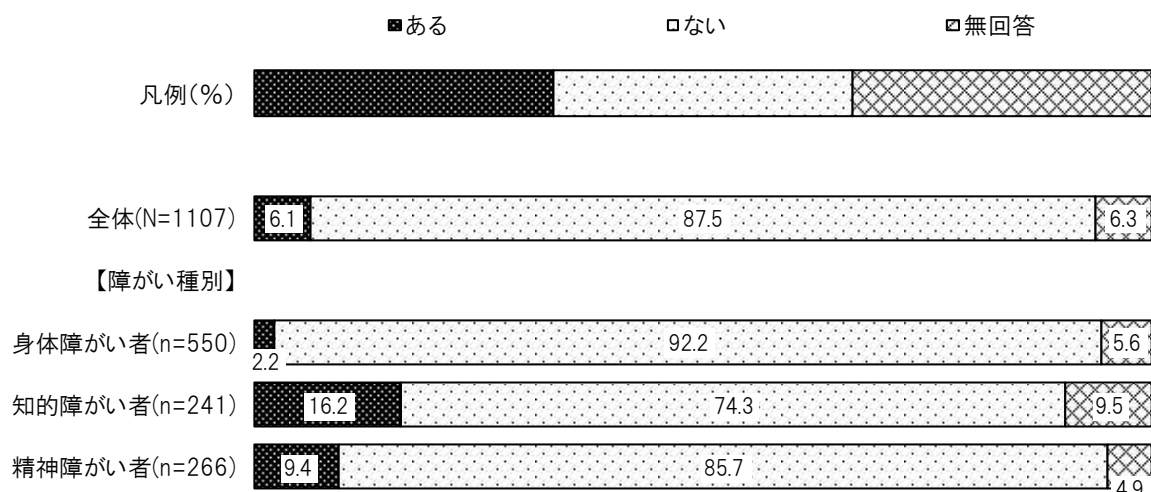


3 強度行動障がいの状況

問6 あなたは「強度行動障がい」があるとされたことがありますか。(○印は1つ)

強度行動障がいについては、「ある」の割合が6.1%となっている。

障がい種別では、知的障がい者で「ある」の割合がほかの障がいに比べて高くなっている。



【2】障がい福祉サービス等の利用について

1 障がい福祉サービスの利用状況・利用意向

問7 あなたが、現在利用している障がい福祉サービスについておたずねします。

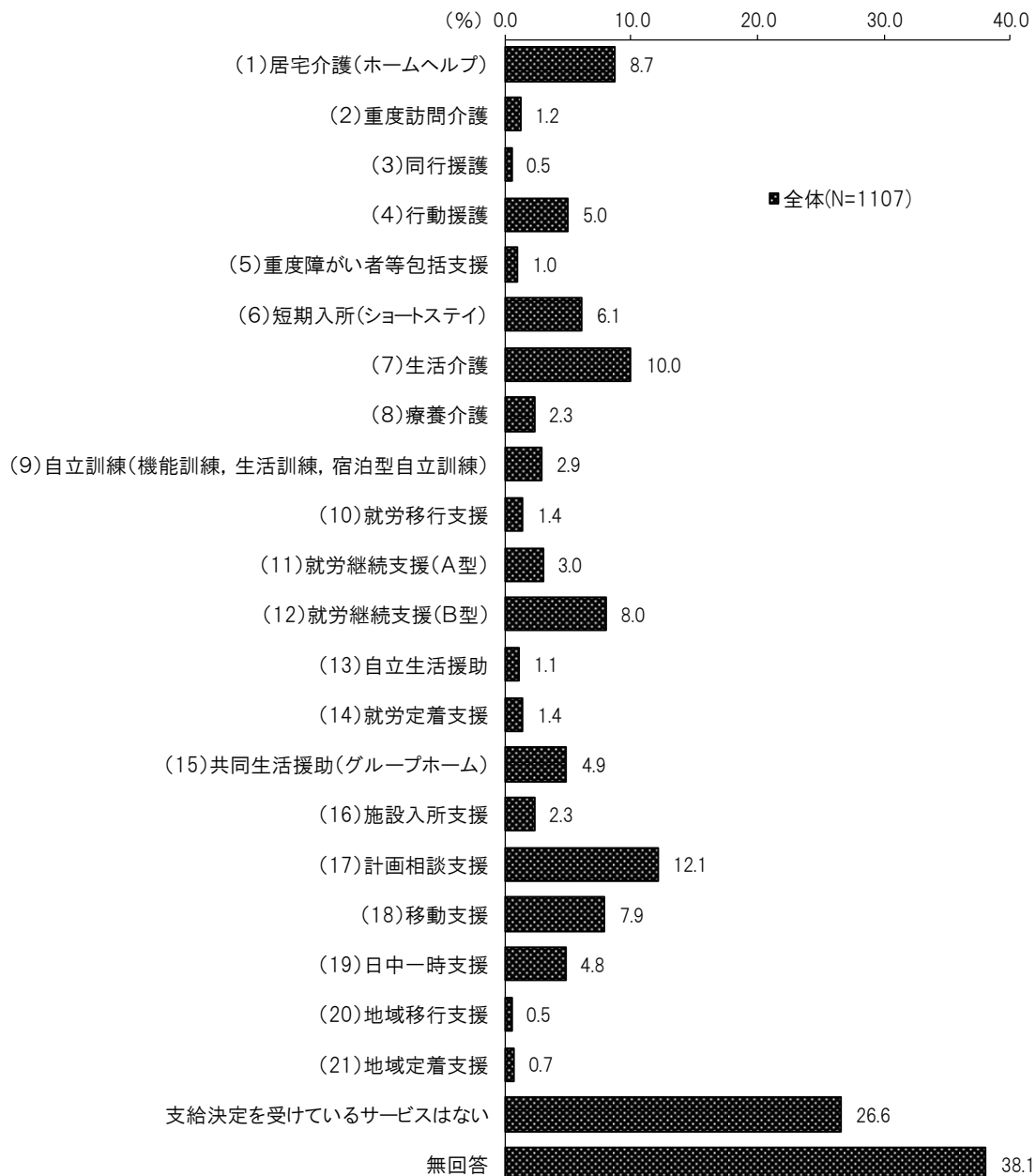
(1) 現在、支給決定を受けて利用しているサービスをすべてお答えください。

※ 受給者証の記載内容を参考にしてください。

(2) 今後、3年以内に利用したいサービスはありますか。(あてはまるものすべてに○印)

(1) 現在、利用しているサービス

現在、利用しているサービスについては、「(17) 計画相談支援」の割合が12.1%と最も高く、次いで「(7) 生活介護」(10.0%)、「(1) 居宅介護(ホームヘルプ)」(8.7%)、「(12) 就労継続支援(B型)」(8.0%)、「(18) 移動支援」(7.9%)の順となっている。



障がい種別では、知的障がい者で「(4) 行動援護」「(6) 短期入所 (ショートステイ)」「(7) 生活介護」「(12) 就労継続支援 (B型)」「(15) 共同生活援助 (グループホーム)」「(17) 計画相談支援」「(18) 移動支援」「(19) 日中一時支援」の割合がほかの障がいを大きく上回っている。

単位 (%)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)
	居宅介護 ホームヘルプ)	重度訪問介護	同行援護	行動援護	重度障がい者等包括支援	短期入所 (ショートステイ)	生活介護	療養介護	自立訓練 (宿泊型自立訓練) (機能訓練、生活訓練)	就労移行支援	就労継続支援 (A型)
全体(N=1107)	8.7	1.2	0.5	5.0	1.0	6.1	10.0	2.3	2.9	1.4	3.0
【障がい種別】											
身体障がい者(n=550)	10.0	1.6	0.9	3.6	1.3	5.1	10.5	3.6	2.7	0.7	1.3
知的障がい者(n=241)	13.7	1.2	0.4	18.3	1.7	20.7	29.0	2.9	4.1	1.2	9.1
精神障がい者(n=266)	9.0	0.8	0.4	2.6	0.8	1.5	3.8	1.1	3.4	3.8	3.0

単位 (%)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	(21)	
	就労継続支援 (B型)	自立生活援助	就労定着支援	共同生活援助 (グループホーム)	施設入所支援	計画相談支援	移動支援	日中一時支援	地域移行支援	地域定着支援	支給決定を受けていないサービス
全体(N=1107)	8.0	1.1	1.4	4.9	2.3	12.1	7.9	4.8	0.5	0.7	26.6
【障がい種別】											
身体障がい者(n=550)	1.6	0.5	0.4	1.3	2.5	7.5	6.9	3.5	0.4	0.5	30.2
知的障がい者(n=241)	19.9	2.1	2.9	16.6	5.0	36.9	21.6	17.4	0.4	0.8	4.6
精神障がい者(n=266)	12.8	1.9	2.6	4.1	0.8	11.7	5.3	2.3	1.5	1.9	26.7

注: 表中の「網掛け」は、各クロス集計(障がい種別など)において最も高い割合を示している。

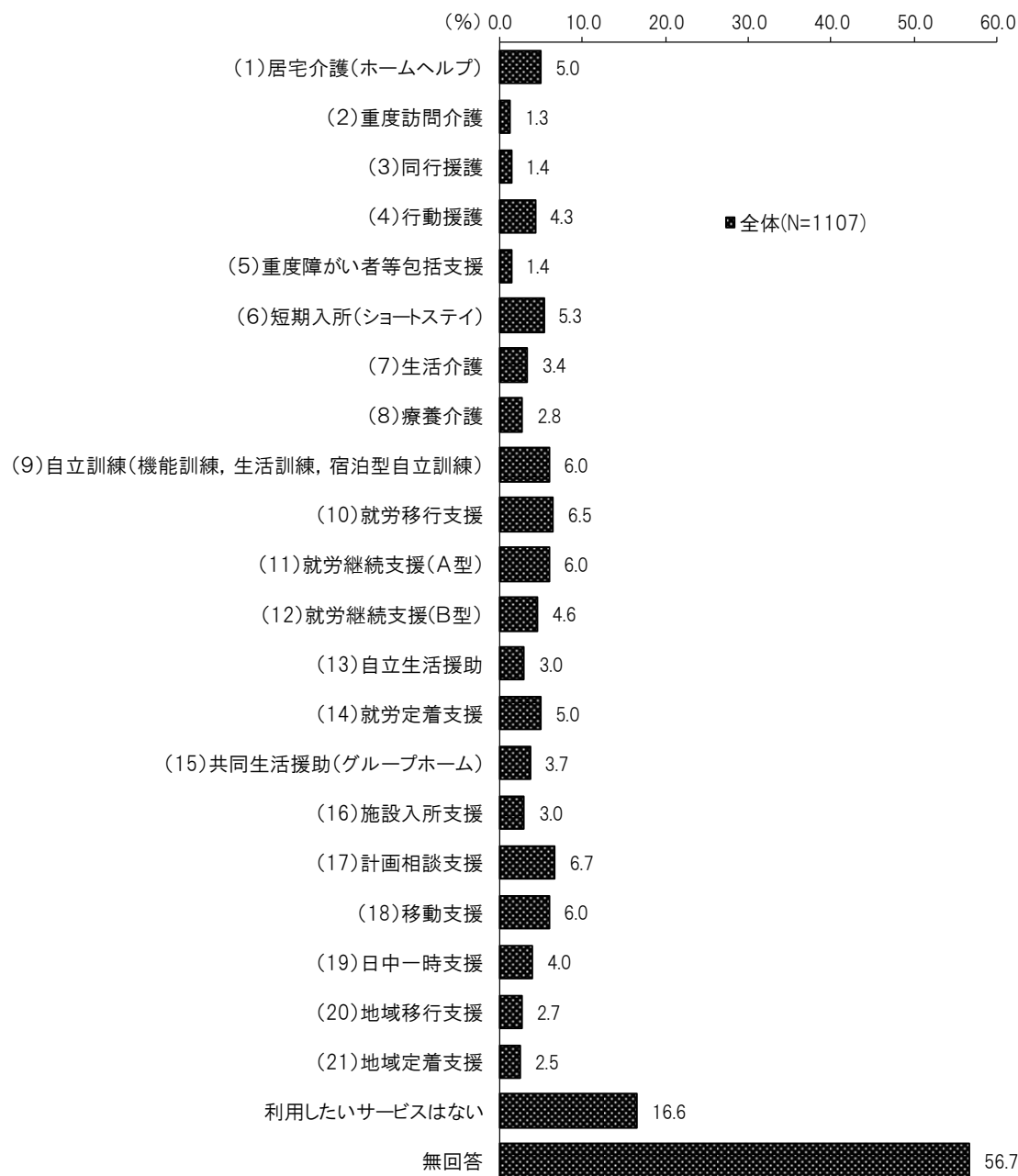
(例/障がい種別の場合、各障がいを比べて最も高い層に網掛け)

但し、回答割合が10%未満の項目、n数が10未満の項目及び「その他」については網掛けしていない。

また「無回答」は表記から省略している。(本報告書においては、以下同様)

(2) 今後、3年以内に利用したいサービス

今後、3年以内に利用したいサービスについては、「(17) 計画相談支援」の割合が6.7%と最も高く、次いで「(10) 就労移行支援」(6.5%)、「(9) 自立訓練(機能訓練, 生活訓練, 宿泊型自立訓練)」 「(11) 就労継続支援(A型)」 「(18) 移動支援」(各6.0%)、「(6) 短期入所(ショートステイ)」(5.3%)の順となっている。

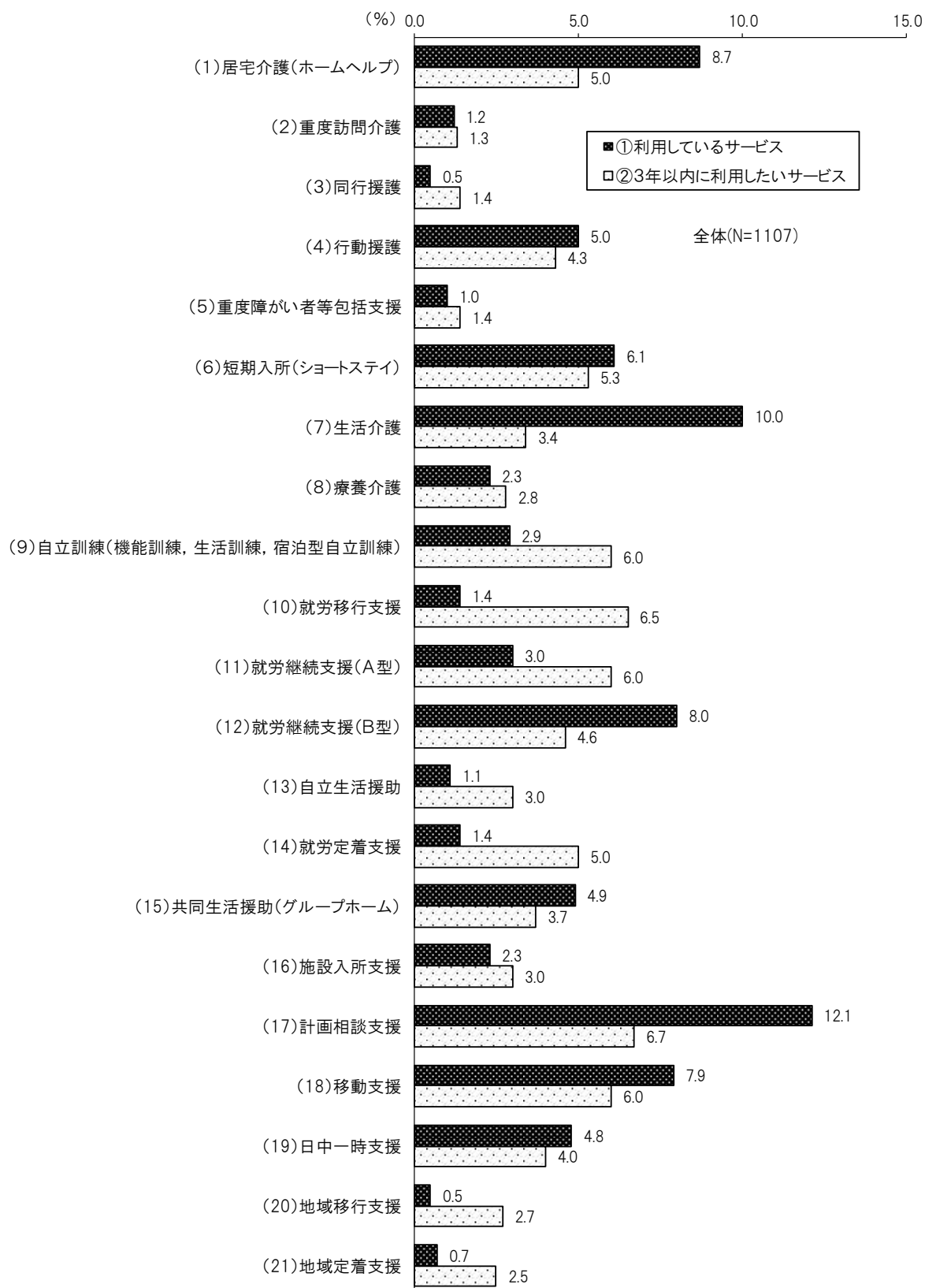


障がい種別では、知的障がい者で「(4) 行動援護」「(6) 短期入所 (ショートステイ)」「(15) 共同生活援助 (グループホーム)」「(18) 移動支援」、精神障がい者で「(10) 就労移行支援」「(11) 就労継続支援 (A型)」「(14) 就労定着支援」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。

単位 (%)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)
	居宅介護 (ホームヘルプ)	重度訪問介護	同行援護	行動援護	重度障がい者等包括支援	短期入所 (ショートステイ)	生活介護	療養介護	自立訓練 (宿泊型自立訓練) (機能訓練、生活訓練)	就労移行支援	就労継続支援 (A型)
全体(N=1107)	5.0	1.3	1.4	4.3	1.4	5.3	3.4	2.8	6.0	6.5	6.0
【障がい種別】											
身体障がい者(n=550)	5.6	1.3	1.8	2.5	2.0	6.1	4.4	3.6	4.1	3.9	2.5
知的障がい者(n=241)	6.2	2.1	2.5	10.8	2.5	11.4	5.7	3.3	7.4	3.9	4.8
精神障がい者(n=266)	6.0	1.9	1.9	6.0	1.5	3.5	3.5	3.4	9.3	12.1	13.2

単位 (%)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	(21)	
	就労継続支援 (B型)	自立生活援助	就労定着支援	共同生活援助 (グループホーム)	施設入所支援	計画相談支援	移動支援	日中一時支援	地域移行支援	地域定着支援	利用したいサービスはない
全体(N=1107)	4.6	3.0	5.0	3.7	3.0	6.7	6.0	4.0	2.7	2.5	16.6
【障がい種別】											
身体障がい者(n=550)	2.0	2.0	2.0	2.0	3.9	6.3	5.1	4.0	2.5	1.8	19.8
知的障がい者(n=241)	6.6	3.7	5.4	12.4	5.7	8.3	10.4	7.5	3.3	4.1	2.9
精神障がい者(n=266)	9.0	6.0	11.7	3.8	2.7	9.3	7.1	4.5	3.8	4.1	14.7

【再掲／「① 利用しているサービス」と「② 3年以内に利用したいサービス」の比較】

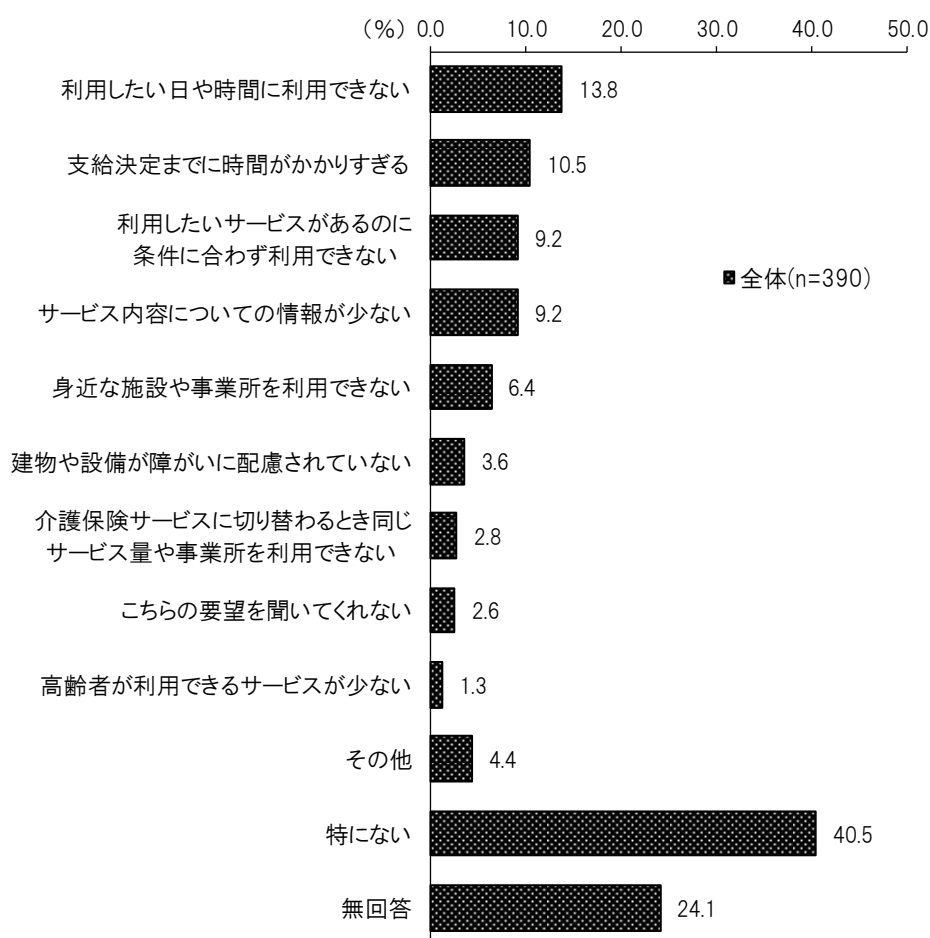


2 障がい福祉サービスに対して困ったこと

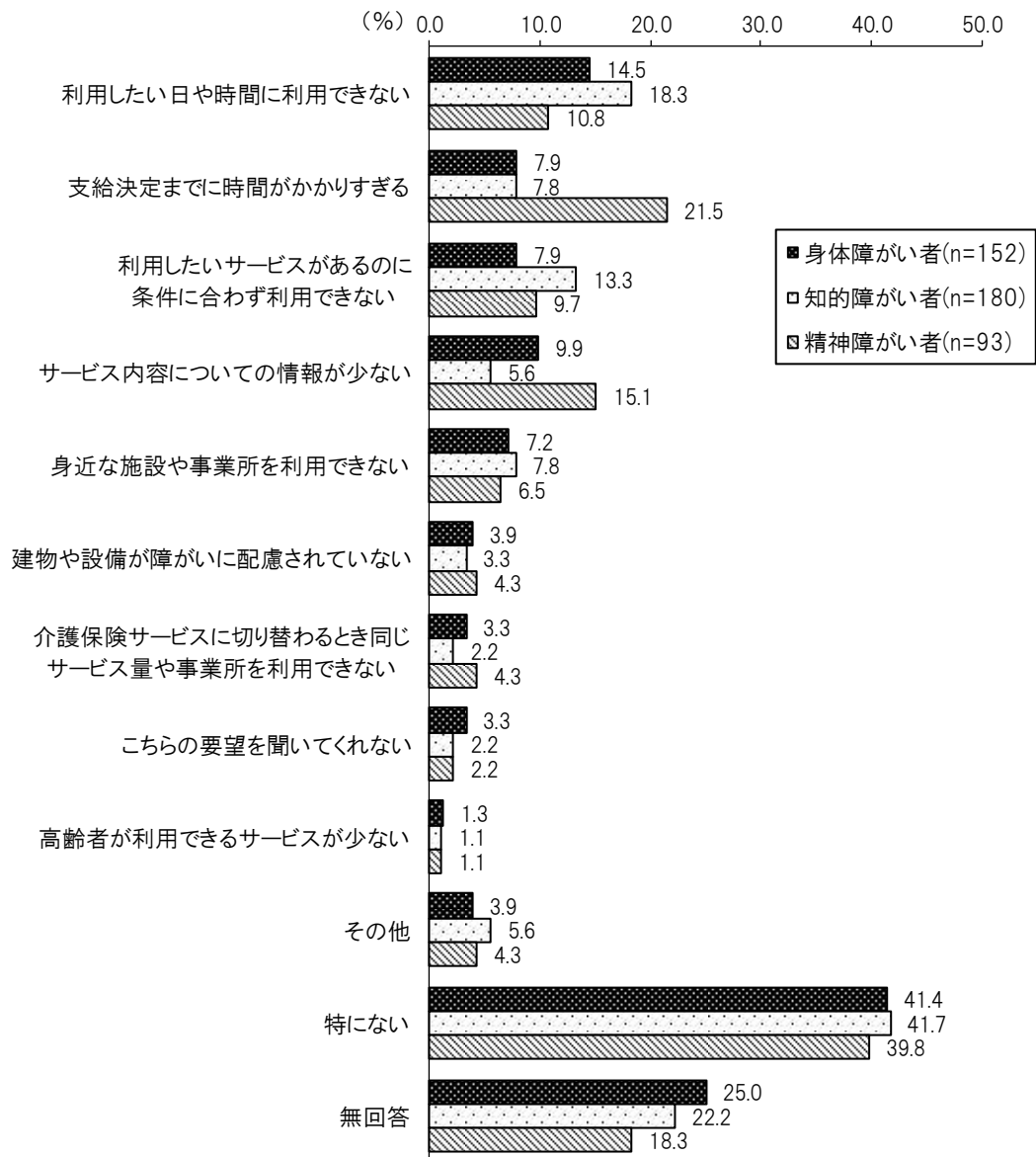
【問7(1)で「1～21（利用している）」のいずれかを選んだ方におたずねします。】

問8 あなたは、利用したことがある障がい福祉サービスに対して、困ったことがありますか。（あてはまるものすべてに○印）

障がい福祉サービスに対して困ったことについては、「利用したい日や時間に利用できない」の割合が13.8%と最も高く、次いで「支給決定までに時間がかかりすぎる」(10.5%)、「利用したいサービスがあるのに条件に合わず利用できない」「サービス内容についての情報が少ない」（各9.2%）の順となっている。一方、約4割（40.5%）は「特にない」と回答している。



障がい種別では、知的障がい者で「利用したい日や時間に利用できない」「利用したいサービスがあるのに条件に合わず利用できない」、精神障がい者で「支給決定までに時間がかかりすぎる」「サービス内容についての情報が少ない」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。



現在、利用しているサービス別（n=10未満のものを除く。）でみると、行動援護や短期入所（ショートステイ）、移動支援、日中一時支援で「利用したい日や時間に利用できない」の割合がほかのサービスに比べて高くなっている。居宅介護（ホームヘルプ）では「利用したい日や時間に利用できない」は19.8%となっている。

単位 (%)	利用したい日や時間に利用できない	支給決定までに時間がかかりすぎる	利用したいサービスがあるのに利用できない	サービス内容についての情報が少ない	身近な施設や事業所を利用できない	建物や設備が障がい配慮されていない	所を同じサービス量や事業量で利用できない	介護保険サービスに切り替えるとき同じサービス量や事業量で利用できない	こちらの要望を聞いてくれない	高齢者が利用できるサービスが少ない	その他	特になし
全体(n=390)	13.8	10.5	9.2	9.2	6.4	3.6	2.8	2.6	1.3	4.4	40.5	
【現在、利用しているサービス別】												
居宅介護(ホームヘルプ)(n=96)	19.8	13.5	14.6	12.5	8.3	5.2	4.2	5.2	2.1	5.2	31.3	
重度訪問介護(n=13)	23.1	7.7	0.0	0.0	15.4	15.4	15.4	7.7	0.0	15.4	15.4	
同行援護(n=6)	16.7	16.7	16.7	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0	50.0	
行動援護(n=55)	40.0	12.7	18.2	7.3	7.3	7.3	3.6	1.8	1.8	5.5	25.5	
重度障がい者等包括支援(n=11)	9.1	18.2	9.1	9.1	9.1	18.2	18.2	0.0	9.1	0.0	45.5	
短期入所(ショートステイ)(n=67)	35.8	7.5	22.4	6.0	13.4	6.0	1.5	6.0	0.0	4.5	22.4	
生活介護(n=111)	22.5	9.0	13.5	5.4	7.2	2.7	5.4	1.8	1.8	5.4	41.4	
療養介護(n=25)	4.0	12.0	8.0	8.0	12.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	36.0	
自立訓練(※)(n=32)	9.4	12.5	0.0	15.6	3.1	0.0	0.0	0.0	3.1	6.3	31.3	
就労移行支援(n=16)	6.3	18.8	6.3	6.3	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	43.8	
就労継続支援(A型)(n=33)	15.2	9.1	6.1	15.2	3.0	6.1	0.0	6.1	0.0	3.0	45.5	
就労継続支援(B型)(n=89)	13.5	15.7	7.9	7.9	5.6	4.5	0.0	1.1	1.1	1.1	39.3	
自立生活援助(n=12)	16.7	16.7	8.3	16.7	8.3	0.0	8.3	8.3	8.3	0.0	16.7	
就労定着支援(n=15)	13.3	20.0	13.3	13.3	6.7	0.0	0.0	6.7	0.0	6.7	40.0	
共同生活援助(グループホーム)(n=54)	7.4	11.1	1.9	5.6	7.4	1.9	5.6	5.6	3.7	5.6	44.4	
施設入所支援(n=26)	0.0	3.8	0.0	0.0	3.8	0.0	3.8	3.8	0.0	0.0	65.4	
計画相談支援(n=134)	18.7	9.7	14.2	11.9	8.2	3.7	4.5	1.5	1.5	5.2	41.8	
移動支援(n=87)	27.6	18.4	12.6	9.2	11.5	6.9	4.6	3.4	2.3	3.4	25.3	
日中一時支援(n=53)	37.7	7.5	24.5	7.5	18.9	9.4	3.8	9.4	1.9	1.9	20.8	
地域移行支援(n=6)	16.7	50.0	16.7	50.0	16.7	16.7	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	
地域定着支援(n=8)	12.5	37.5	12.5	37.5	12.5	12.5	12.5	12.5	0.0	0.0	37.5	

※自立訓練(機能訓練, 生活訓練, 宿泊型自立訓練)

注:現在、利用しているサービス別の件数(n)が10未満の項目については、参考値として参照

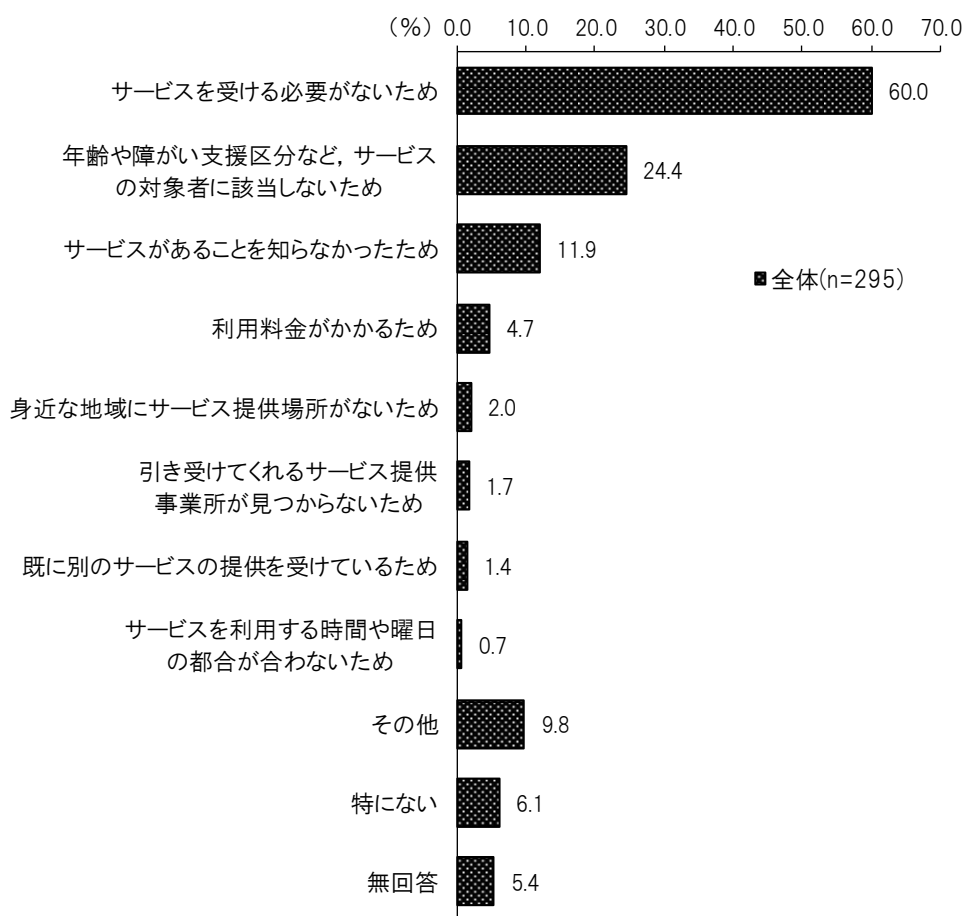
地域生活拠点ブロック別では、東部ブロックや中央ブロックで「利用したい日や時間に利用できない」、北部・新市ブロックで「サービス内容についての情報が少ない」、神辺ブロックで「特にない」の割合がそれぞれほかのブロックに比べて高くなっている。

単位 (%)	利用したい日や時間に利用できない	支給決定までに時間がかかりすぎる	利用したいサービスがあるのに利用しづらい	サービス内容についての情報が少ない	身近な施設や事業所を利用できない	建物や設備が障がい配慮されていない	所を同じサービス量や事業量で利用できない	介護保険サービスに切り替わるときにサービス量が減る	こちらの要望を聞いてくれない	高齢者が利用できるサービスが少ない	その他	特にない
全体(n=390)	13.8	10.5	9.2	9.2	6.4	3.6	2.8	2.6	1.3	4.4	40.5	
【地域生活拠点ブロック別】												
東部ブロック(n=84)	17.9	13.1	10.7	8.3	3.6	3.6	2.4	1.2	2.4	2.4	42.9	
中央ブロック(n=111)	17.1	8.1	11.7	9.9	10.8	2.7	2.7	4.5	1.8	4.5	35.1	
神辺ブロック(n=70)	11.4	5.7	4.3	4.3	5.7	4.3	1.4	0.0	0.0	4.3	54.3	
北部・新市ブロック(n=40)	12.5	22.5	12.5	17.5	7.5	5.0	5.0	5.0	2.5	5.0	40.0	
松永・沼隈ブロック(n=65)	7.7	9.2	7.7	10.8	4.6	4.6	4.6	0.0	0.0	6.2	36.9	

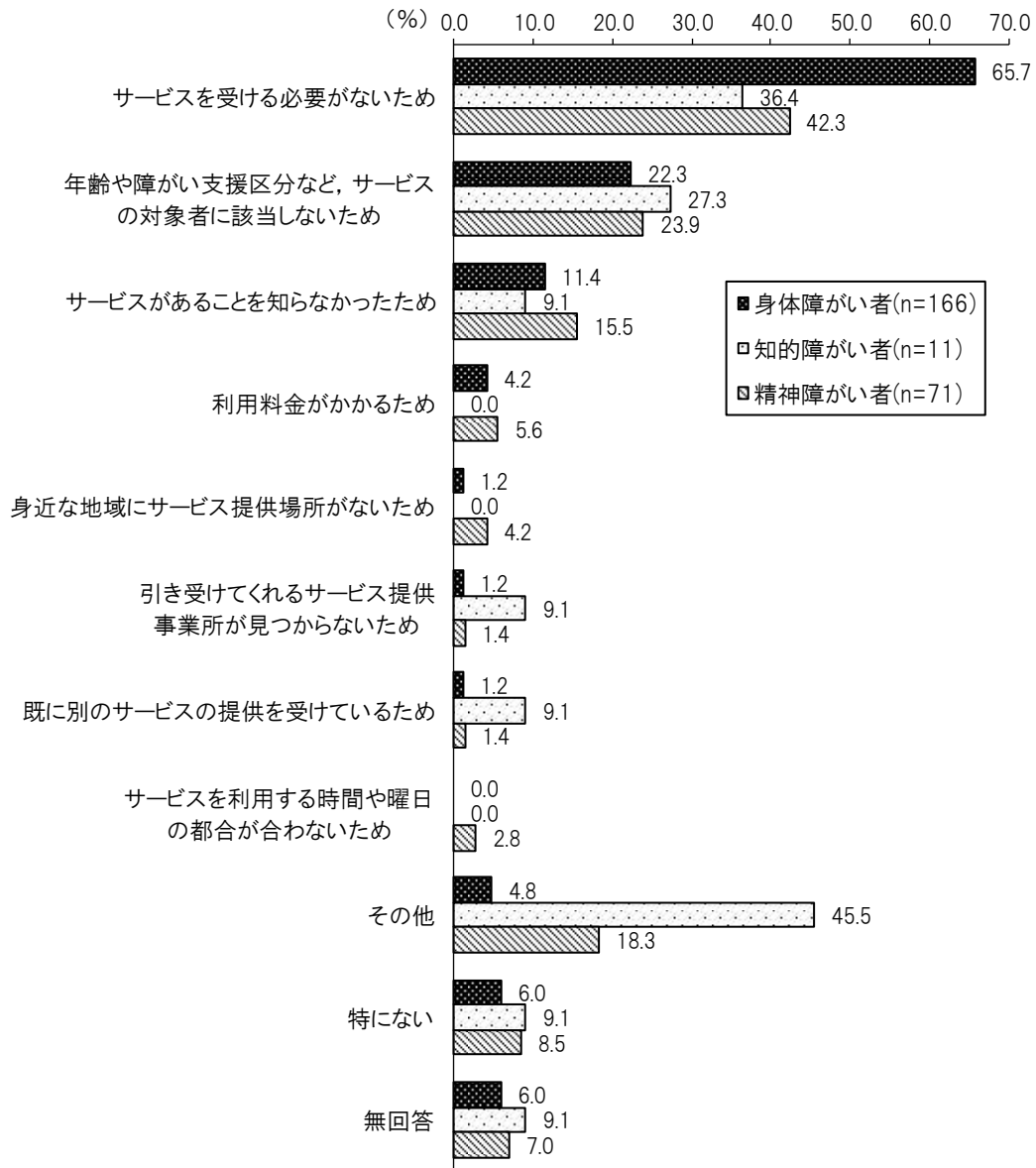
3 サービスを利用していない理由

【問7(1)で「22(支給決定を受けているサービスはない)」を選んだ方におたずねします。】
問9 あなたが障がい福祉サービスを利用していない理由は何ですか。
(あてはまるものすべてに○印)

サービスを利用していない理由については、「サービスを受ける必要がないため」の割合が60.0%と最も高く、次いで「年齢や障がい支援区分など、サービスの対象者に該当しないため」が24.4%で続いている。サービスを受ける必要がない人や対象者に該当しない人は合わせて8割を超えており、このほかの理由をあげる人はそれぞれ1割未満と少ない。



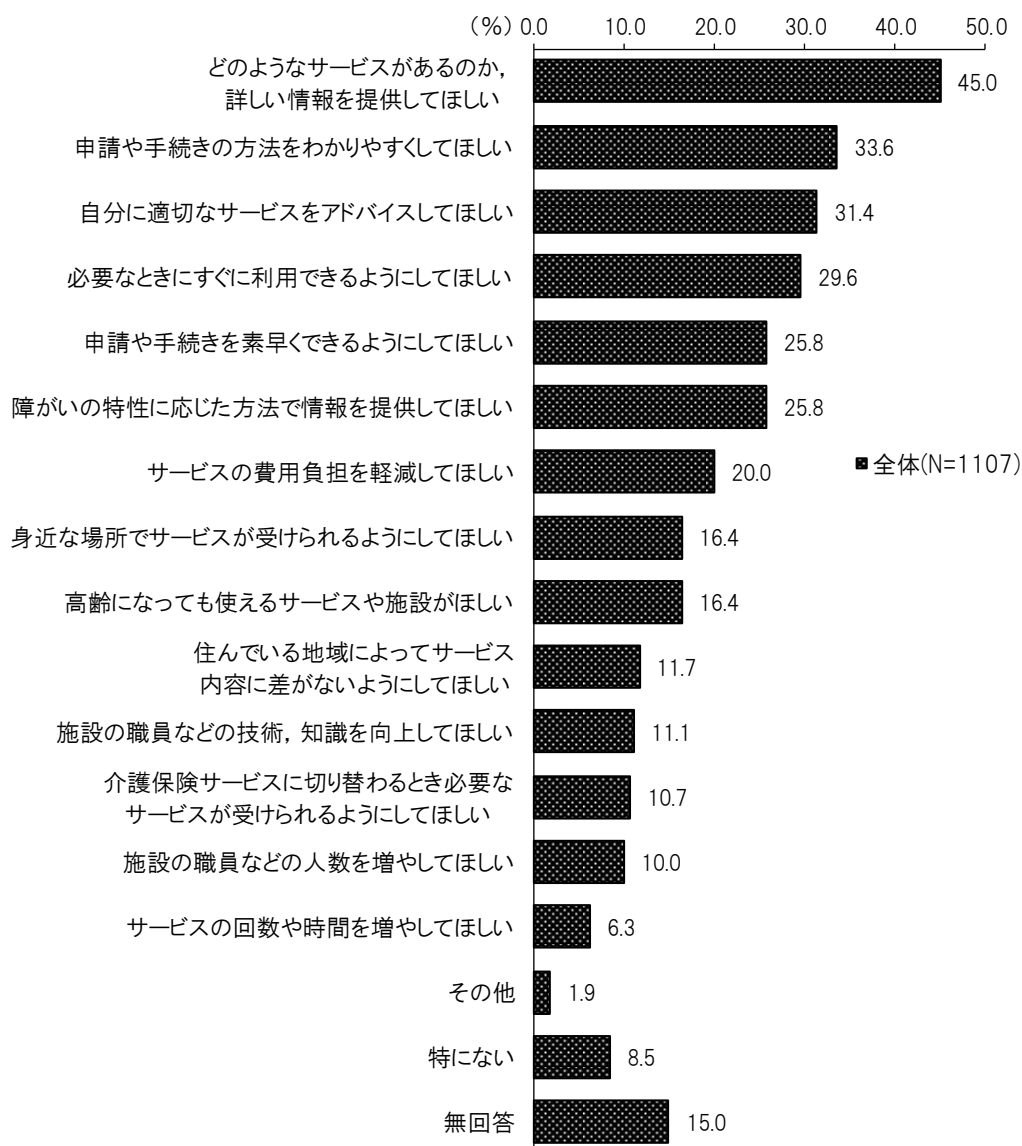
障がい種別では、身体障がい者で「サービスを受ける必要がないため」、知的障がい者で「引き受けてくれるサービス提供事業所が見つからないため」「既に別のサービスの提供を受けているため」、精神障がい者で「サービスがあることを知らなかったため」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。



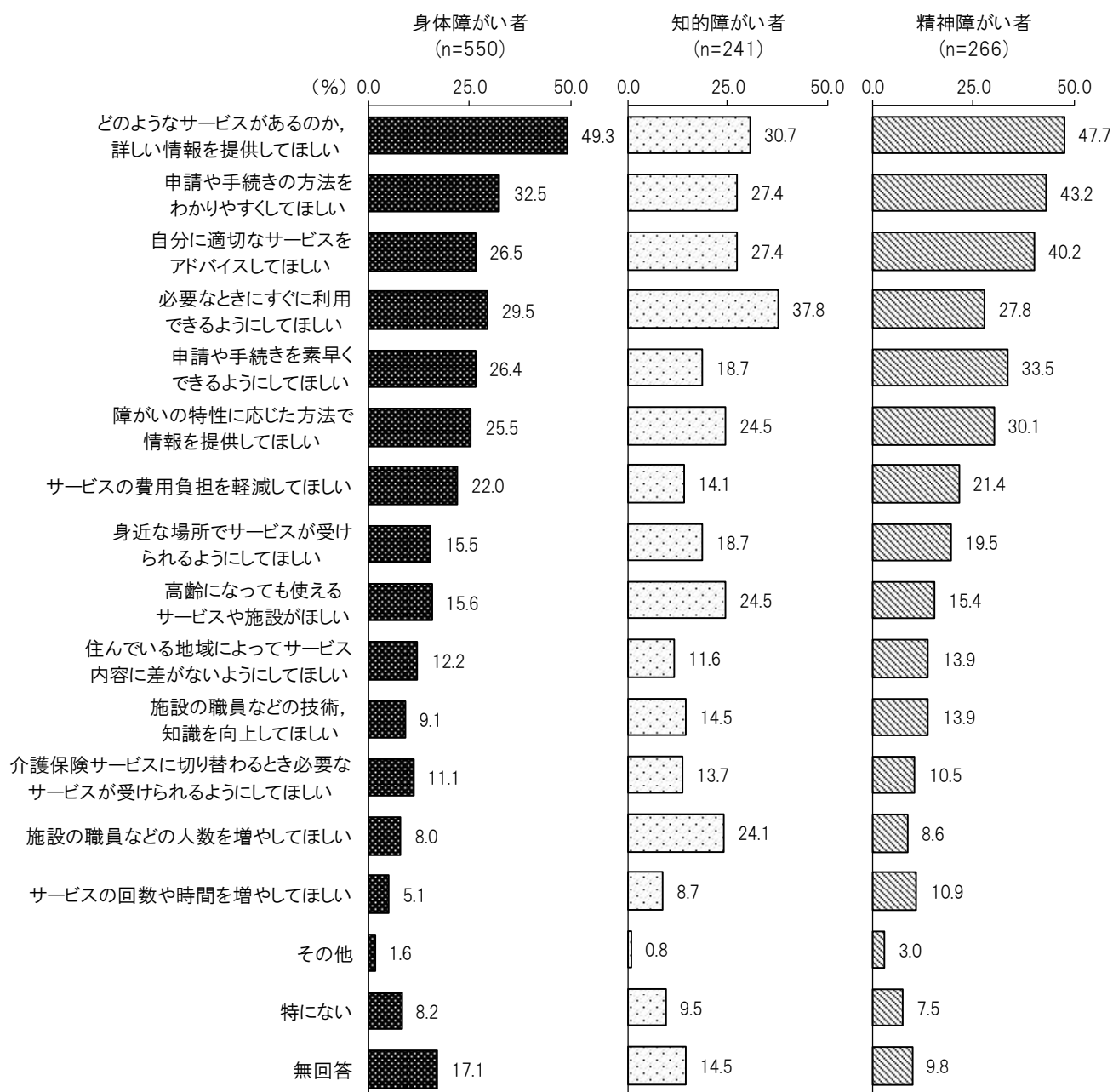
4 サービスを利用しやすくするために必要なこと

問 10 今後、障がい福祉サービスを利用しやすくするためには、どのようなことが必要だと思いますか。上位5つまで選んでください。（主なもの5つまでに○印）

サービスを利用しやすくするために必要なことについては、「どのようなサービスがあるのか、詳しい情報を提供してほしい」の割合が45.0%と最も高く、次いで「申請や手続きの方法をわかりやすくしてほしい」(33.6%)、「自分に適切なサービスをアドバイスしてほしい」(31.4%)、「必要なときにすぐに利用できるようにしてほしい」(29.6%)の順となっている。



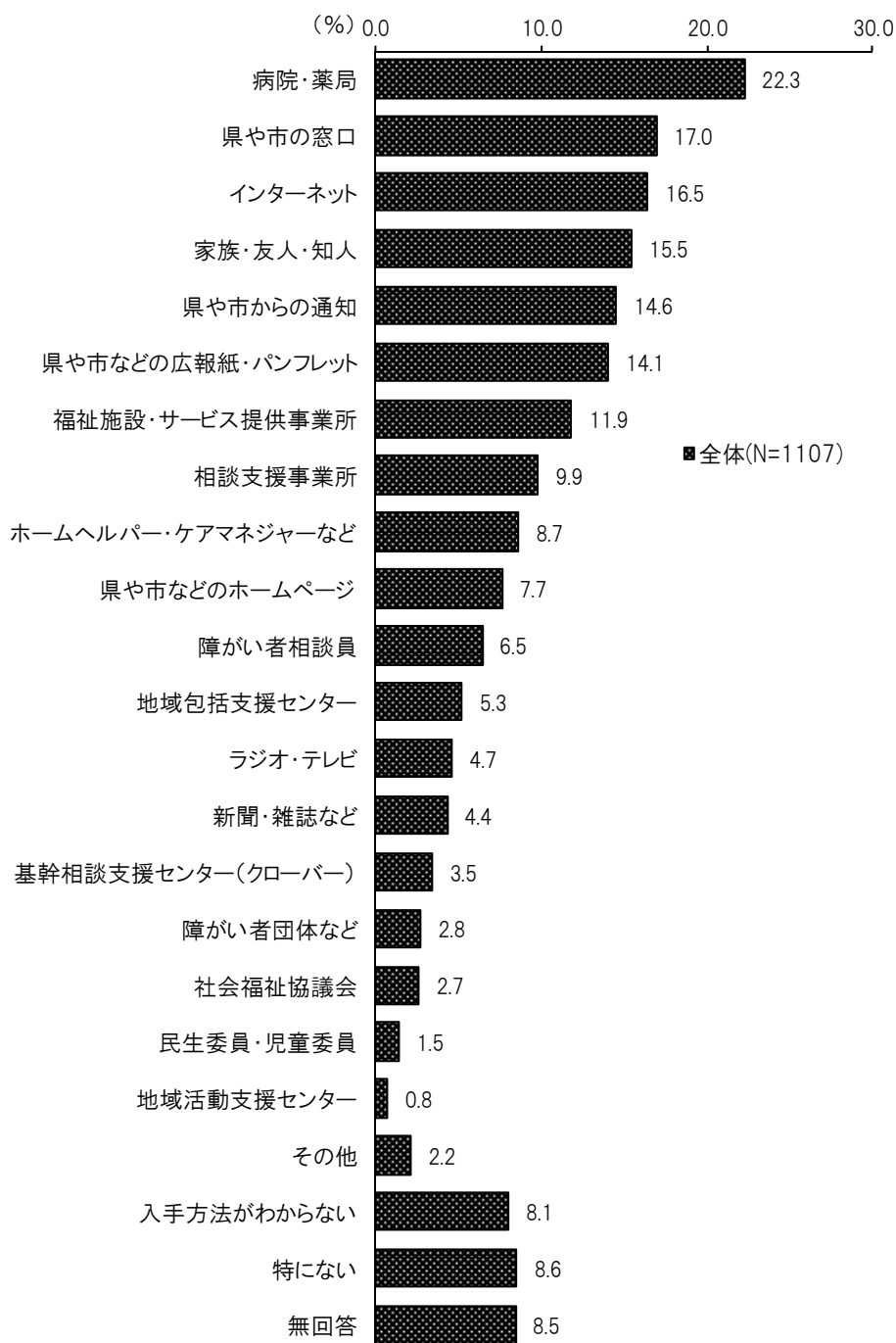
障がい種別では、知的障がい者で「必要なときにすぐに利用できるようにしてほしい」「高齢になっても使えるサービスや施設がほしい」「施設の職員などの人数を増やしてほしい」、精神障がい者で「申請や手続きの方法をわかりやすくしてほしい」「自分に適切なサービスをアドバイスしてほしい」などの割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。



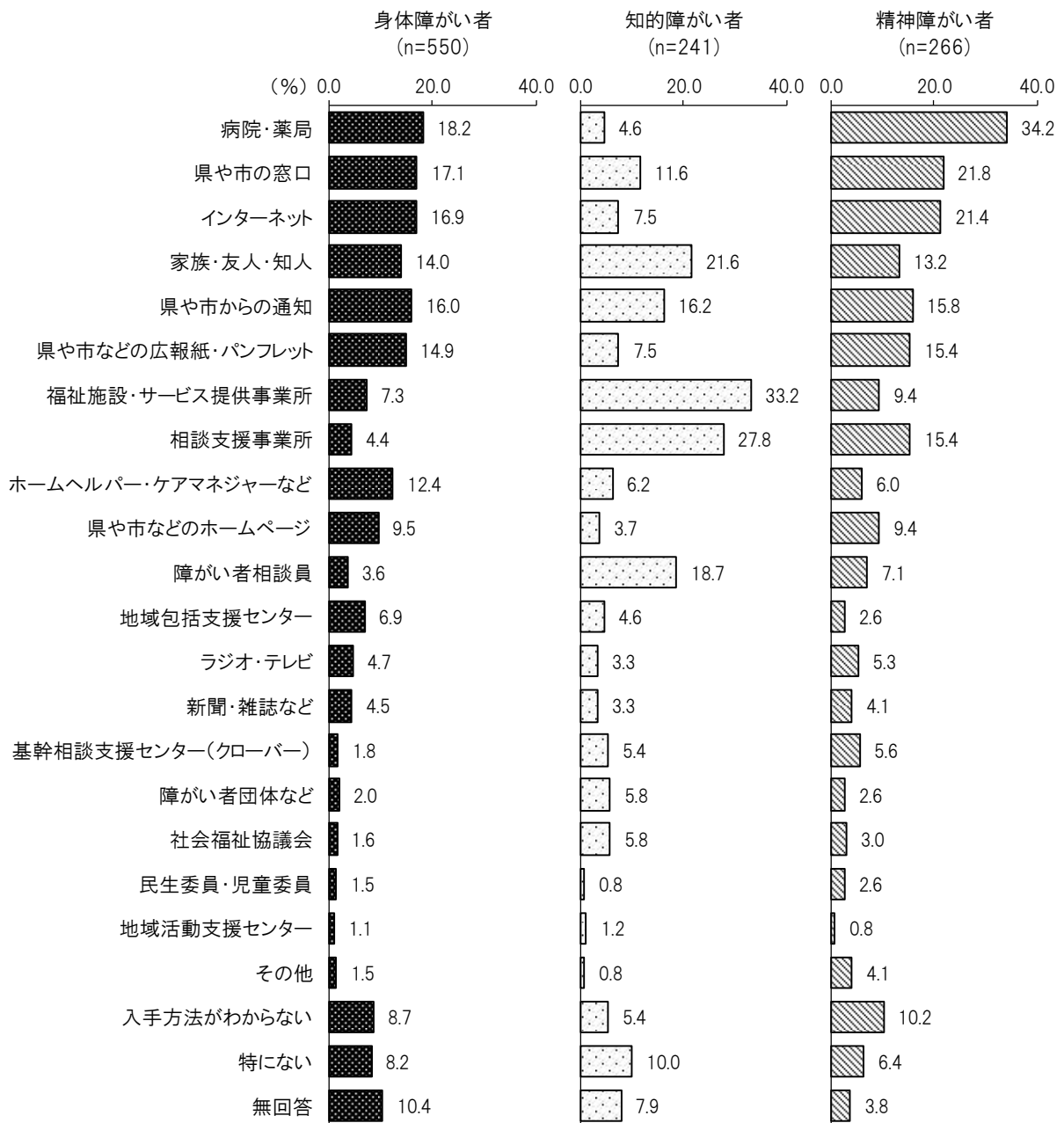
5 障がいや福祉サービスに関する情報の入手先

問 11 あなたは、障がいのことや福祉サービスに関する情報を、どこから知ることが多いですか。（あてはまるものすべてに○印）

障がいや福祉サービスに関する情報の入手先については、「病院・薬局」の割合が 22.3% と最も高く、次いで「県や市の窓口」（17.0%）、「インターネット」（16.5%）、「家族・友人・知人」（15.5%）、「県や市からの通知」（14.6%）の順となっている。



障がい種別では、身体障がい者で「ホームヘルパー・ケアマネジャーなど」、知的障がい者で「家族・友人・知人」「福祉施設・サービス提供事業所」「相談支援事業所」「障がい者相談員」、精神障がい者で「病院・薬局」「県や市の窓口」「インターネット」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。



年齢別では、身体障がい者の 65 歳以上で「病院・薬局」「県や市からの通知」「ホームヘルパー・ケアマネジャーなど」、知的障がい者の 18～64 歳で「福祉施設・サービス提供事業所」「相談支援事業所」「障がい者相談員」、精神障がい者の 18～64 歳で「病院・薬局」「インターネット」の割合がそれぞれ高くなっている。

単位 (%)	病院・薬局	県や市の窓口	インターネット	家族・友人・知人	県や市からの通知	県や市などの広報紙・パンフレット	福祉施設・サービス提供事業所	相談支援事業所	ホームヘルパー・ケアマネジャーなど	県や市などのホームページ	障がい者相談員
全体(N=1107)	22.3	17.0	16.5	15.5	14.6	14.1	11.9	9.9	8.7	7.7	6.5
【身体障がい者】											
29歳以下(n=24)	8.3	20.8	25.0	33.3	20.8	8.3	33.3	20.8	16.7	12.5	25.0
30～39歳(n=32)	15.6	15.6	31.3	15.6	18.8	12.5	21.9	6.3	12.5	12.5	3.1
40～49歳(n=67)	22.4	28.4	17.9	16.4	17.9	11.9	7.5	10.4	3.0	7.5	4.5
50～64歳(n=240)	20.0	20.0	23.3	13.3	12.5	15.8	3.3	3.8	9.6	12.9	3.8
65歳以上(n=186)	16.1	9.1	4.8	11.3	18.8	16.1	6.5	0.5	18.8	4.8	0.5
【知的障がい者】											
29歳以下(n=68)	7.4	11.8	16.2	32.4	14.7	8.8	32.4	42.6	8.8	8.8	19.1
30～39歳(n=49)	0.0	10.2	10.2	22.4	22.4	12.2	34.7	24.5	4.1	2.0	14.3
40～49歳(n=53)	5.7	13.2	0.0	13.2	11.3	3.8	35.8	24.5	3.8	1.9	17.0
50～64歳(n=59)	5.1	11.9	3.4	20.3	16.9	6.8	23.7	20.3	8.5	1.7	27.1
65歳以上(n=6)	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	83.3	0.0	0.0	0.0	0.0
【精神障がい者】											
29歳以下(n=42)	31.0	26.2	23.8	19.0	7.1	14.3	16.7	35.7	4.8	14.3	14.3
30～39歳(n=41)	43.9	24.4	41.5	14.6	4.9	9.8	14.6	12.2	4.9	9.8	4.9
40～49歳(n=59)	23.7	15.3	28.8	6.8	13.6	15.3	3.4	10.2	11.9	15.3	6.8
50～64歳(n=115)	37.4	22.6	11.3	13.9	21.7	16.5	7.8	11.3	4.3	5.2	6.1
65歳以上(n=7)	28.6	28.6	0.0	14.3	57.1	28.6	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0

→続く

注:知的障がい者及び精神障がい者の 65 歳以上については、件数(n=)が少ないため参考値として参照

→続き

単位 (%)	地域包括支援センター	ラジオ・テレビ	新聞・雑誌など	基幹相談支援センター (クローバー)	障がい者団体など	社会福祉協議会	民生委員・児童委員	地域活動支援センター	その他	入手方法がわからない	特にない
全体(N=1107)	5.3	4.7	4.4	3.5	2.8	2.7	1.5	0.8	2.2	8.1	8.6
【身体障がい者】											
29歳以下(n=24)	4.2	4.2	8.3	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	0.0	12.5	8.3
30～39歳(n=32)	0.0	6.3	6.3	3.1	6.3	3.1	0.0	0.0	0.0	3.1	15.6
40～49歳(n=67)	4.5	3.0	4.5	1.5	1.5	0.0	0.0	1.5	1.5	14.9	7.5
50～64歳(n=240)	3.3	3.3	3.8	2.5	2.1	2.5	0.8	0.4	2.1	8.3	7.9
65歳以上(n=186)	14.0	7.0	4.8	0.5	1.1	0.5	2.7	1.6	1.1	7.5	7.0
【知的障がい者】											
29歳以下(n=68)	7.4	1.5	4.4	5.9	7.4	7.4	1.5	1.5	0.0	5.9	5.9
30～39歳(n=49)	4.1	4.1	2.0	4.1	6.1	2.0	0.0	0.0	2.0	2.0	8.2
40～49歳(n=53)	1.9	0.0	1.9	5.7	5.7	5.7	0.0	1.9	1.9	5.7	15.1
50～64歳(n=59)	5.1	8.5	5.1	5.1	5.1	6.8	0.0	1.7	0.0	8.5	11.9
65歳以上(n=6)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0
【精神障がい者】											
29歳以下(n=42)	2.4	2.4	2.4	11.9	4.8	2.4	2.4	2.4	7.1	4.8	7.1
30～39歳(n=41)	0.0	4.9	0.0	12.2	4.9	2.4	0.0	0.0	4.9	9.8	2.4
40～49歳(n=59)	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	0.0	5.1	1.7	6.8	10.2	8.5
50～64歳(n=115)	1.7	6.1	6.1	1.7	0.0	4.3	2.6	0.0	1.7	12.2	7.0
65歳以上(n=7)	28.6	14.3	14.3	0.0	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0

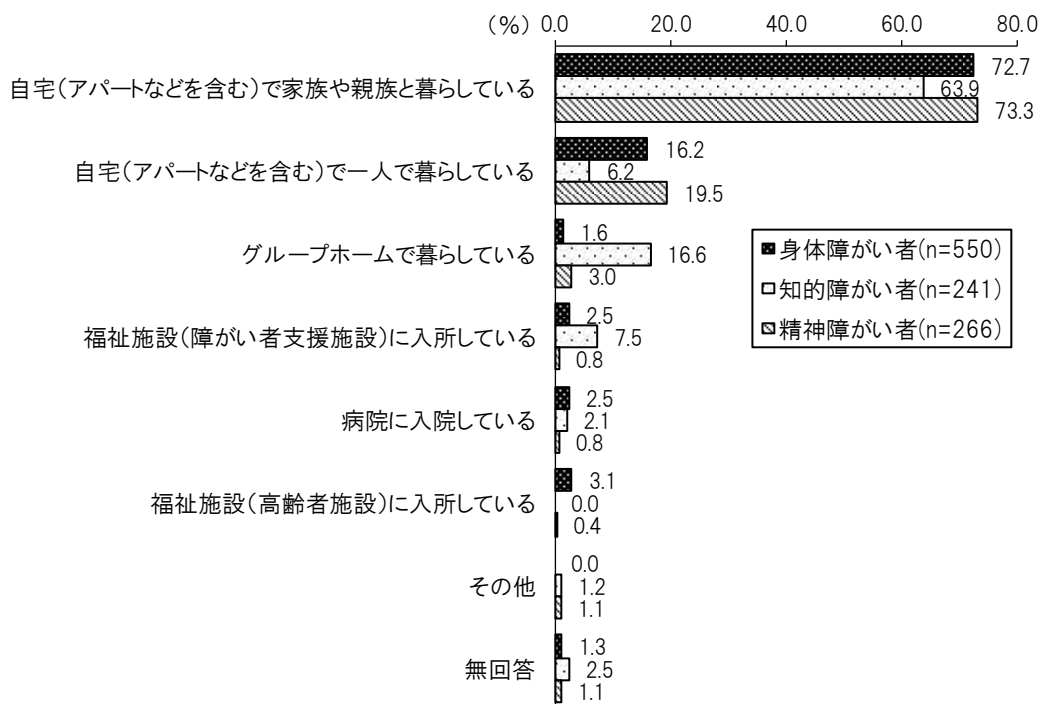
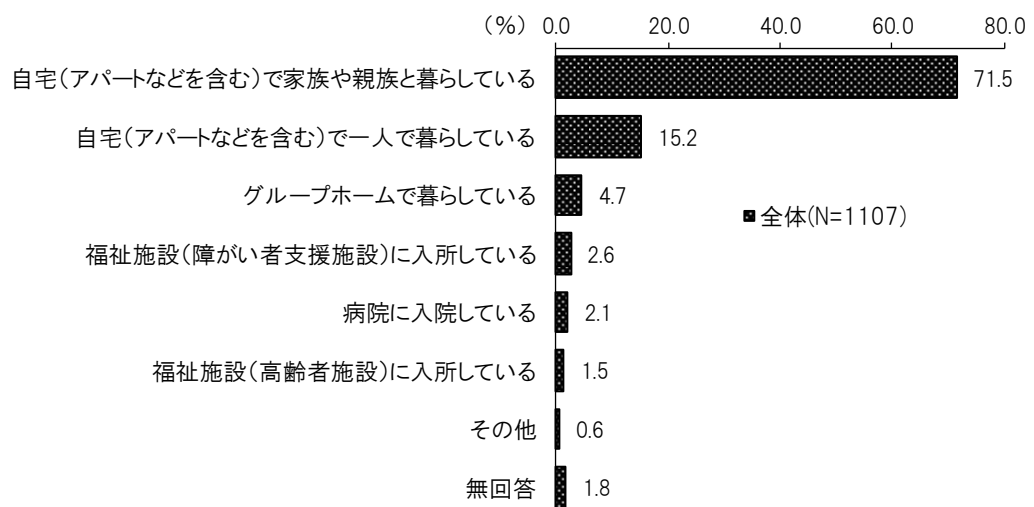
【3】住まいや暮らしについて

1 現在の生活の場

問 12 あなたは現在、どのように暮らしていますか。(○印は1つ)

現在の生活の場については、「自宅（アパートなどを含む）で家族や親族と暮らしている」の割合が71.5%と突出して最も高く、次いで「自宅（アパートなどを含む）で一人で暮らしている」（15.2%）、「グループホームで暮らしている」（4.7%）の順となっている。

障がい種別では、知的障がい者で「グループホームで暮らしている」の割合がほかの障がいを大きく上回っている。

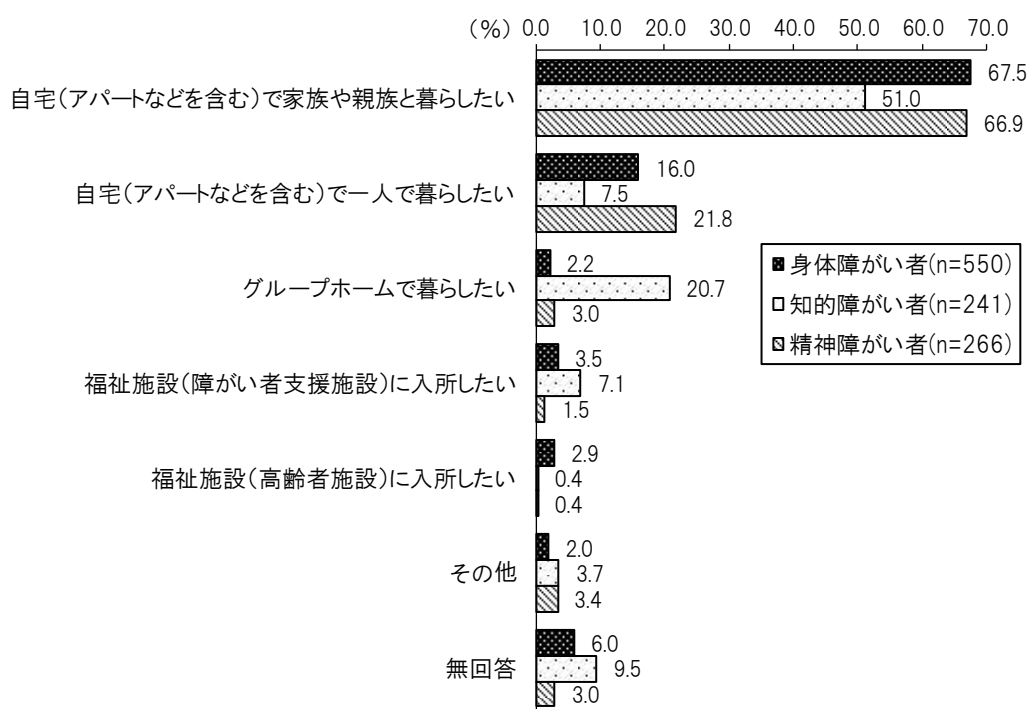
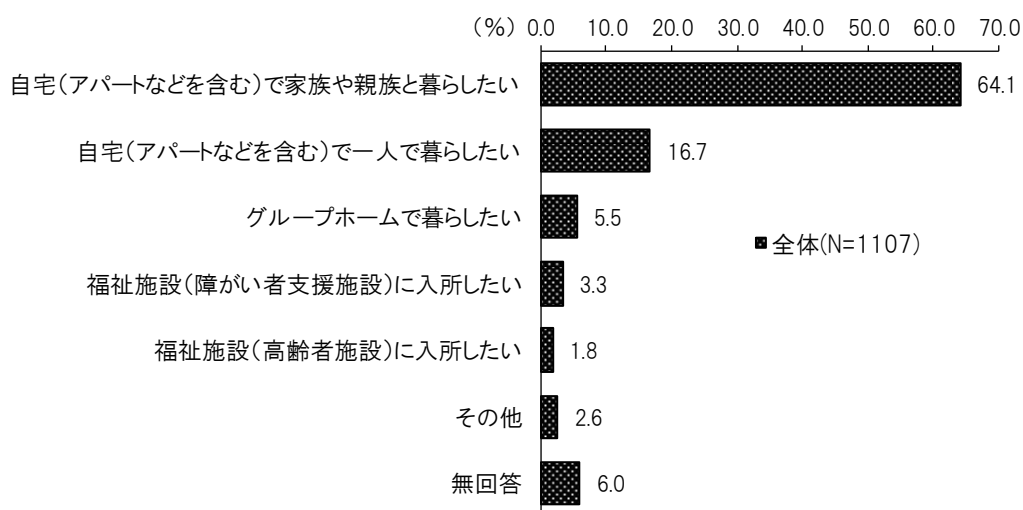


2 今後3年以内に希望する暮らし方

問 13 あなたは今後3年以内に、どのように暮らしたいと思いますか。(○印は1つ)

今後3年以内に希望する暮らし方については、「自宅（アパートなどを含む）で家族や親族と暮らしたい」の割合が64.1%と突出して最も高く、次いで「自宅（アパートなどを含む）で一人で暮らしたい」（16.7%）、「グループホームで暮らしたい」（5.5%）の順となっている。

障がい種別では、知的障がい者で「グループホームで暮らしたい」、精神障がい者で「自宅（アパートなどを含む）で一人で暮らしたい」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。



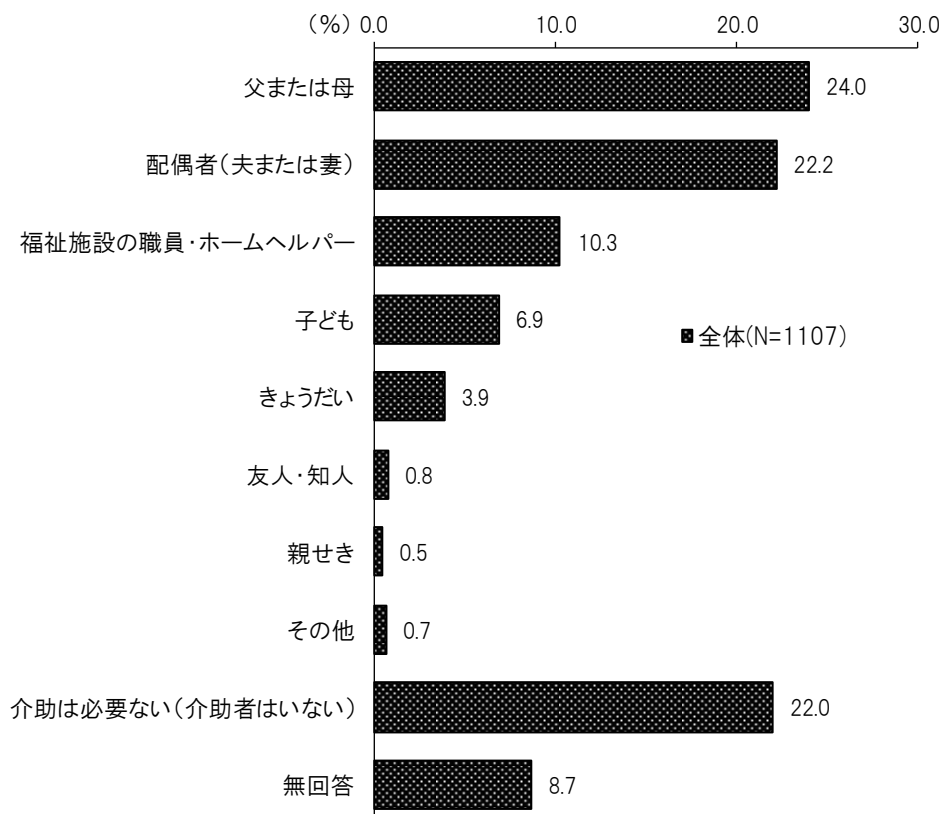
居住形態別（問 12）で見ると、障がい者支援施設や高齢者施設に入所している人の約 2 割が「自宅（アパートなどを含む）で家族や親族と暮らしたい」と回答しているものの、大半が現状維持を希望している。

凡例 (%)	む自宅 したい (アパート や親族と 暮らした いを含む)	む自宅 (アパート などで暮 らしたを 含む)	たい グループ ホーム で暮ら し	施設 福祉施 設)に入 所した い障が い者支 援	に福祉 施設 入所し たい (高 齢者 施設)	その他
全体(N=1107)	64.1	16.7	5.5	3.3	1.8	2.6
【居住形態別】						
自宅(家族と同居)(n=791)	84.5	5.9	2.1	1.6	0.6	1.6
自宅(一人暮らし)(n=168)	13.1	75.6	1.2	0.6	3.0	2.4
グループホーム(n=52)	5.8	13.5	75.0	1.9	0.0	0.0
障がい者支援施設入所(n=29)	17.2	3.4	3.4	51.7	3.4	3.4
高齢者施設入所(n=17)	17.6	0.0	0.0	0.0	47.1	17.6
入院中(n=23)	21.7	13.0	0.0	26.1	0.0	17.4

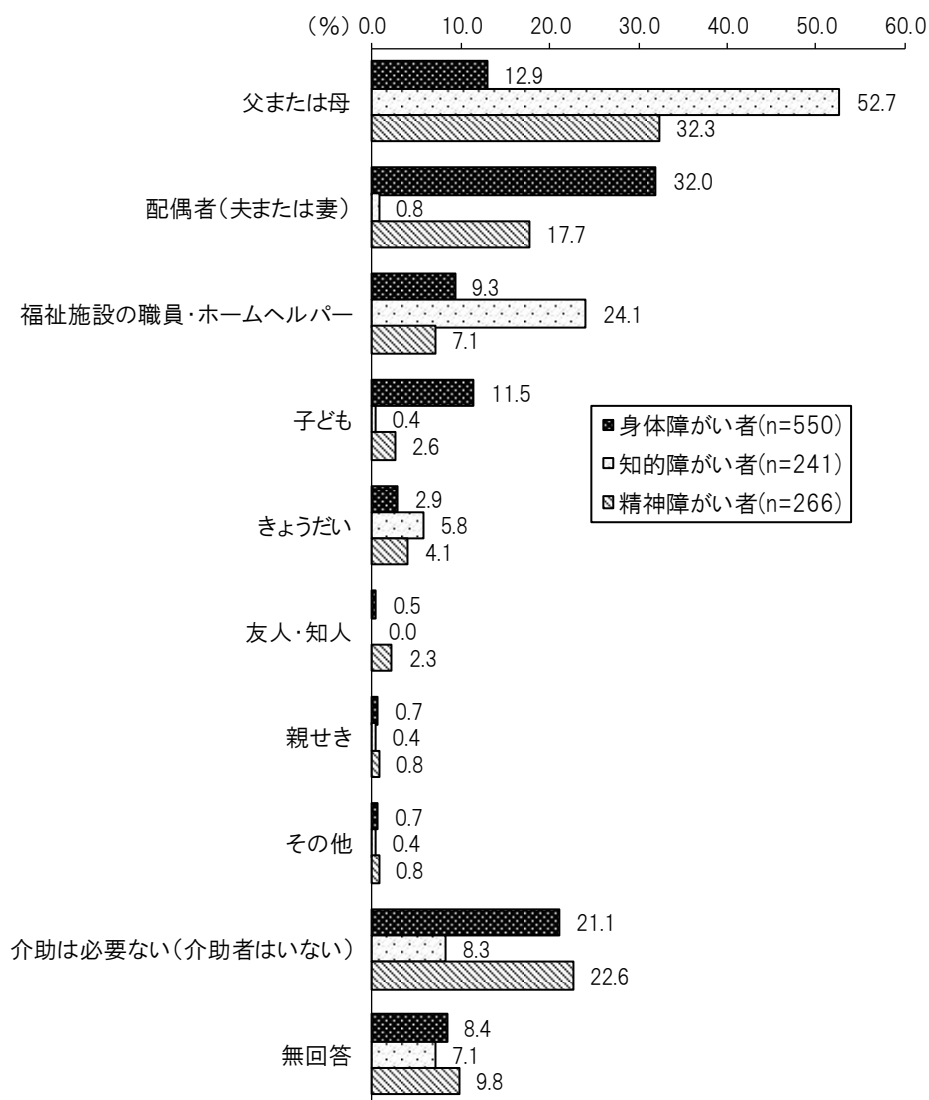
3 主な介助者

問 14 あなたを介助してくれる人は、主に誰ですか。(○印は1つ)

主な介助者については、「父または母」の割合が24.0%と最も高く、次いで「配偶者(夫または妻)」(22.2%)、「福祉施設の職員・ホームヘルパー」(10.3%)、「子ども」(6.9%)の順となっている。一方、約2割(22.0%)が「介助は必要ない(介助者はいない)」と回答している。



障がい種別では、身体障がい者で「配偶者（夫または妻）」「子ども」、知的障がい者で「父または母」「福祉施設の職員・ホームヘルパー」の割合がそれぞれほかの障がいを大きく上回っている。



4 介助者の年齢や健康状態

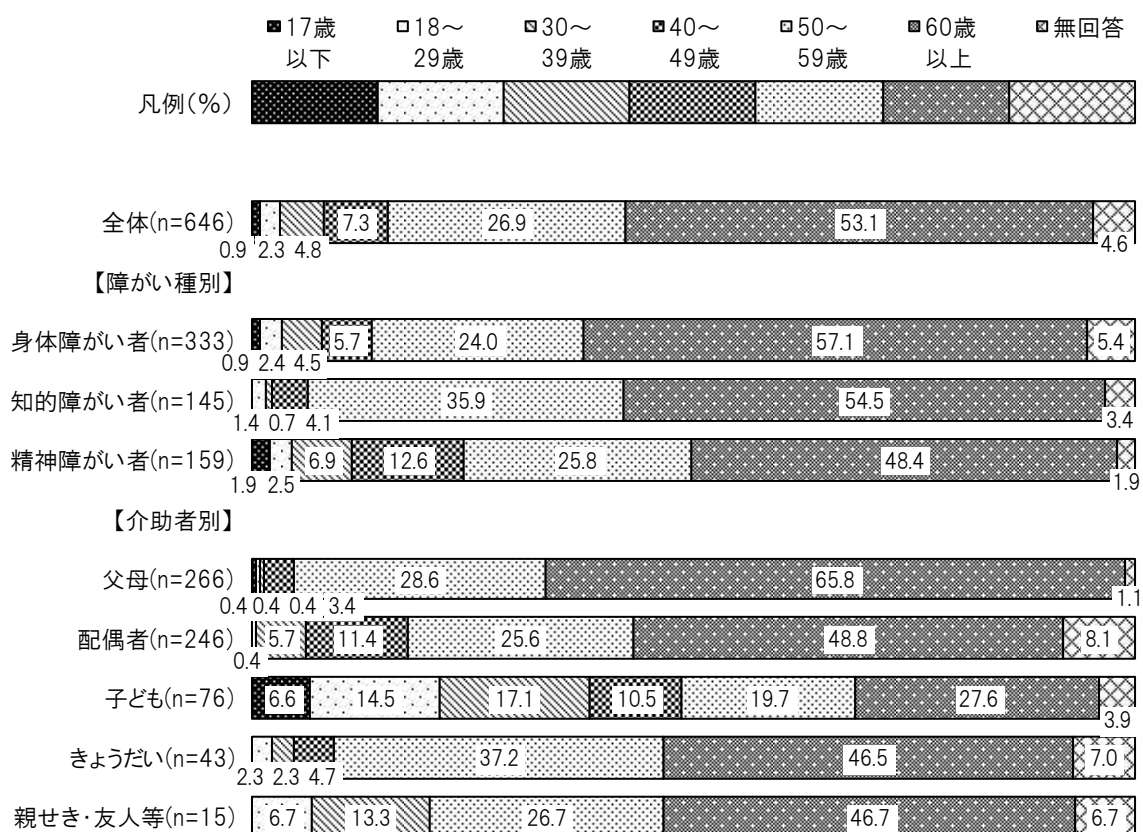
【問 14 で「1～6（家族や親せき，友人・知人）」を選んだ方におたずねします。】
 問 15 介助してくれる人の年齢，健康状態についてお答えください。（○印は1つずつ）

（1）介助者の年齢

介助者の年齢については、「60歳以上」が53.1%と最も高く，次いで「50～59歳」(26.9%)，「40～49歳」(7.3%)が続き，『50歳以上（合計）』で8割（80.0%）を占めている。また，「17歳以下」は0.9%みられた。

障がい種別では，知的障がい者で「50～59歳」の割合がほかの障がいを大きく上回っている。

介助者別でみると，父母で「60歳以上」，子どもで「17歳以下」「18～29歳」，きょうだいで「50～59歳」の割合がそれぞれほかの介助者を大きく上回っている。



介助者を障がい種別で見ると、身体障がい者の父母で「60歳以上」の割合がほかの介助者に比べて高くなっている。また、身体障がい者や精神障がい者の子どもで「17歳以下」が僅かにみられ、回答件数は少ないが精神障がい者の子どもでは約3割を占めている。

単位 (%)	17歳以下	18歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳以上
全体(n=646)	0.9	2.3	4.8	7.3	26.9	53.1
【身体障がい者】						
父母(n=71)	0.0	0.0	0.0	1.4	21.1	77.5
配偶者(n=176)	0.0	0.0	2.3	6.3	24.4	58.5
子ども(n=63)	4.8	12.7	14.3	11.1	20.6	31.7
きょうだい(n=16)	0.0	0.0	0.0	0.0	43.8	56.3
親せき・友人等(n=7)	0.0	0.0	28.6	0.0	28.6	42.9
【知的障がい者】						
父母(n=127)	0.0	0.0	0.8	3.1	34.6	59.8
配偶者(n=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0
子ども(n=1)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
きょうだい(n=14)	0.0	7.1	0.0	14.3	42.9	14.3
親せき・友人等(n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
【精神障がい者】						
父母(n=86)	1.2	1.2	0.0	5.8	26.7	64.0
配偶者(n=47)	0.0	2.1	17.0	27.7	29.8	21.3
子ども(n=7)	28.6	14.3	42.9	14.3	0.0	0.0
きょうだい(n=11)	0.0	0.0	0.0	9.1	27.3	63.6
親せき・友人等(n=8)	0.0	12.5	0.0	0.0	12.5	62.5

注:件数(n)が10未満の項目については、参考値として参照

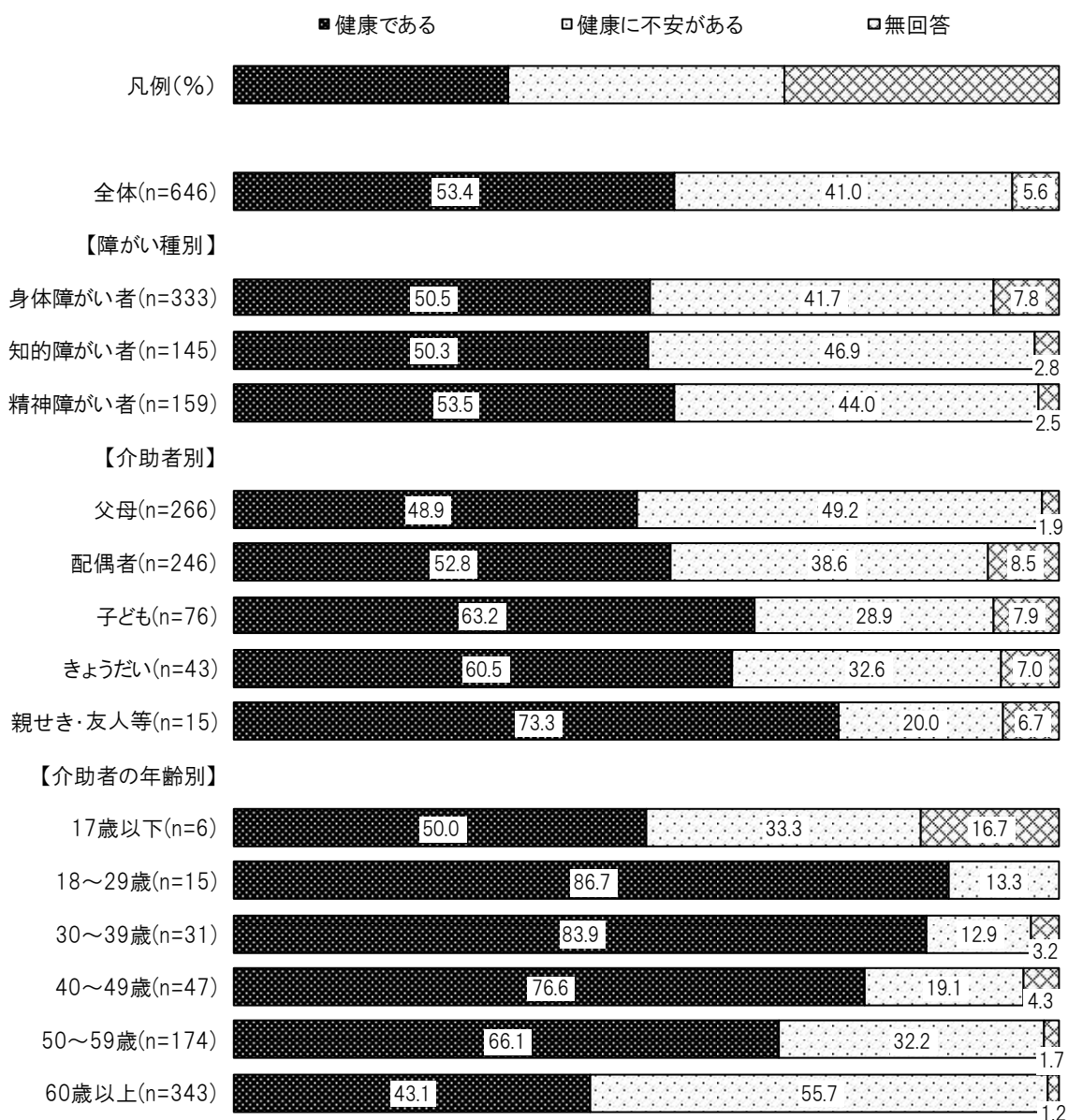
(2) 介助者の健康状態

介助者の健康状態については、「健康である」が 53.4%、「健康に不安がある」が 41.0% となっている。

障がい種別では、大きな差はみられない。

介助者別でみると、父母で「健康に不安がある」の割合がほかの介助者を大きく上回っている。

介助者の年齢別では、17 歳以下や 60 歳以上で「健康である」の割合が低く、特に 60 歳以上で「健康に不安がある」の割合がほかの年齢層を大きく上回っている。

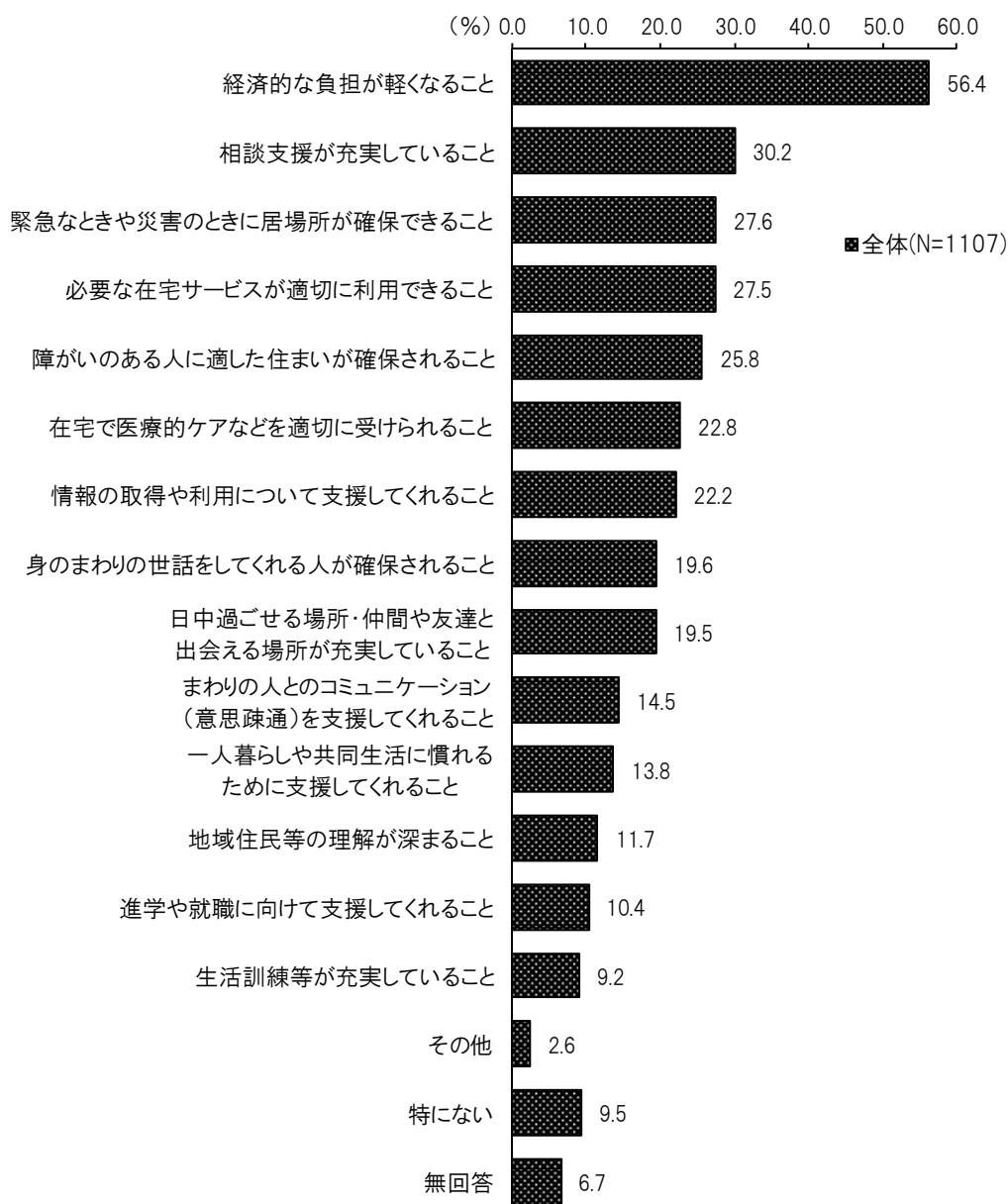


注: 介助者の 17 歳以下については、件数(n=)が少ないため参考値として参照

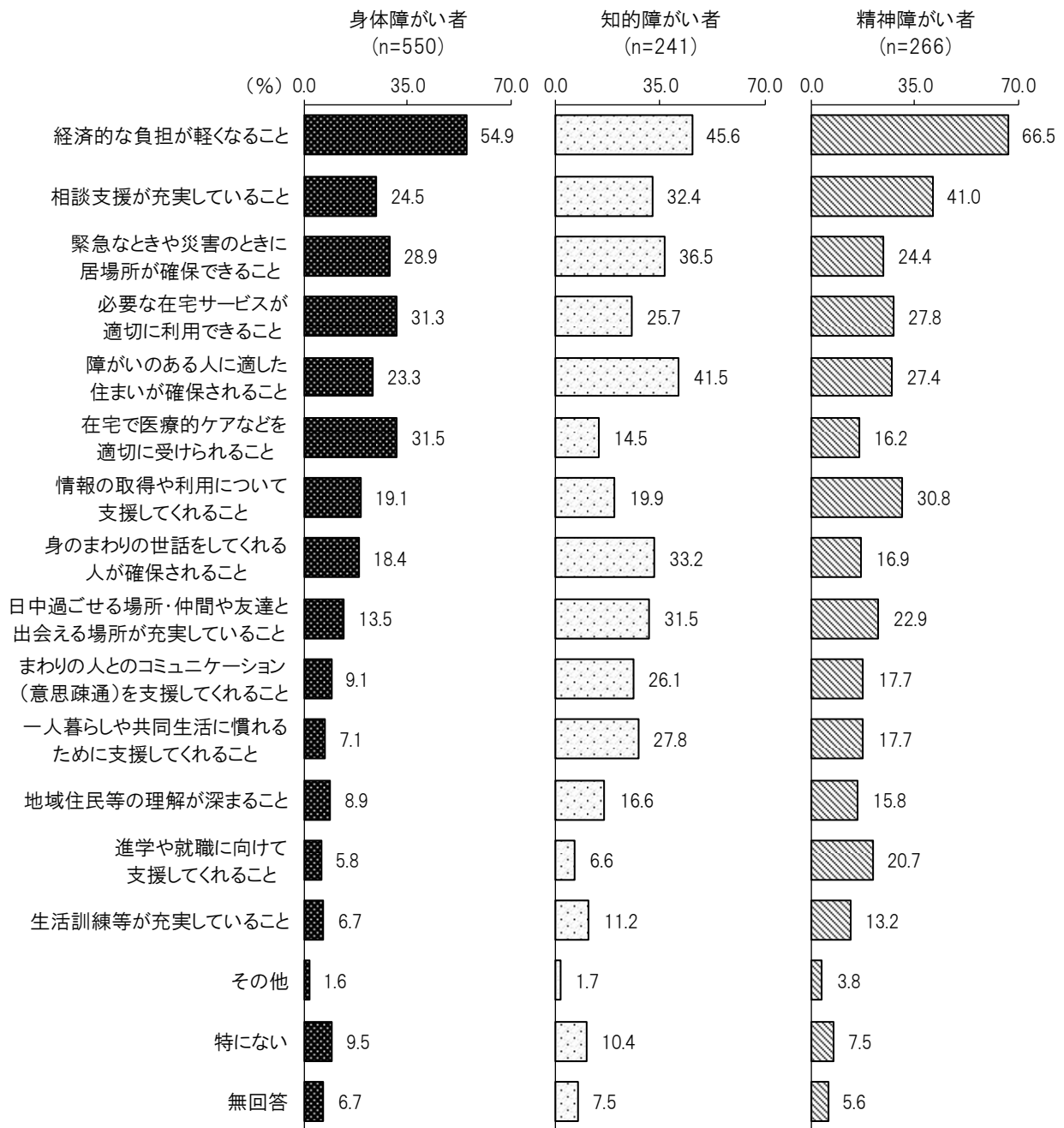
5 希望する暮らしを送るために必要な支援

問 16 これから先、あなたが希望する暮らしを送るためには、どのような支援が必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○印）

希望する暮らしを送るために必要な支援については、「経済的な負担が軽くなること」の割合が 56.4%と最も高く、次いで「相談支援が充実していること」(30.2%)、「緊急なときや災害のときに居場所が確保できること」(27.6%)、「必要な在宅サービスが適切に利用できること」(27.5%)、「障がいのある人に適した住まいが確保されること」(25.8%)の順となっている。



障がい種別では、身体障がい者で「在宅で医療的ケアなどを適切に受けられること」、知的障がい者で「障がいのある人に適した住まいが確保されること」「身のまわりの世話をしてくれる人が確保されること」「日中過ごせる場所・仲間や友達と出会える場所が充実していること」、精神障がい者で「経済的な負担が軽くなること」「相談支援が充実していること」などの割合がそれぞれほかの障がいを大きく上回っている。

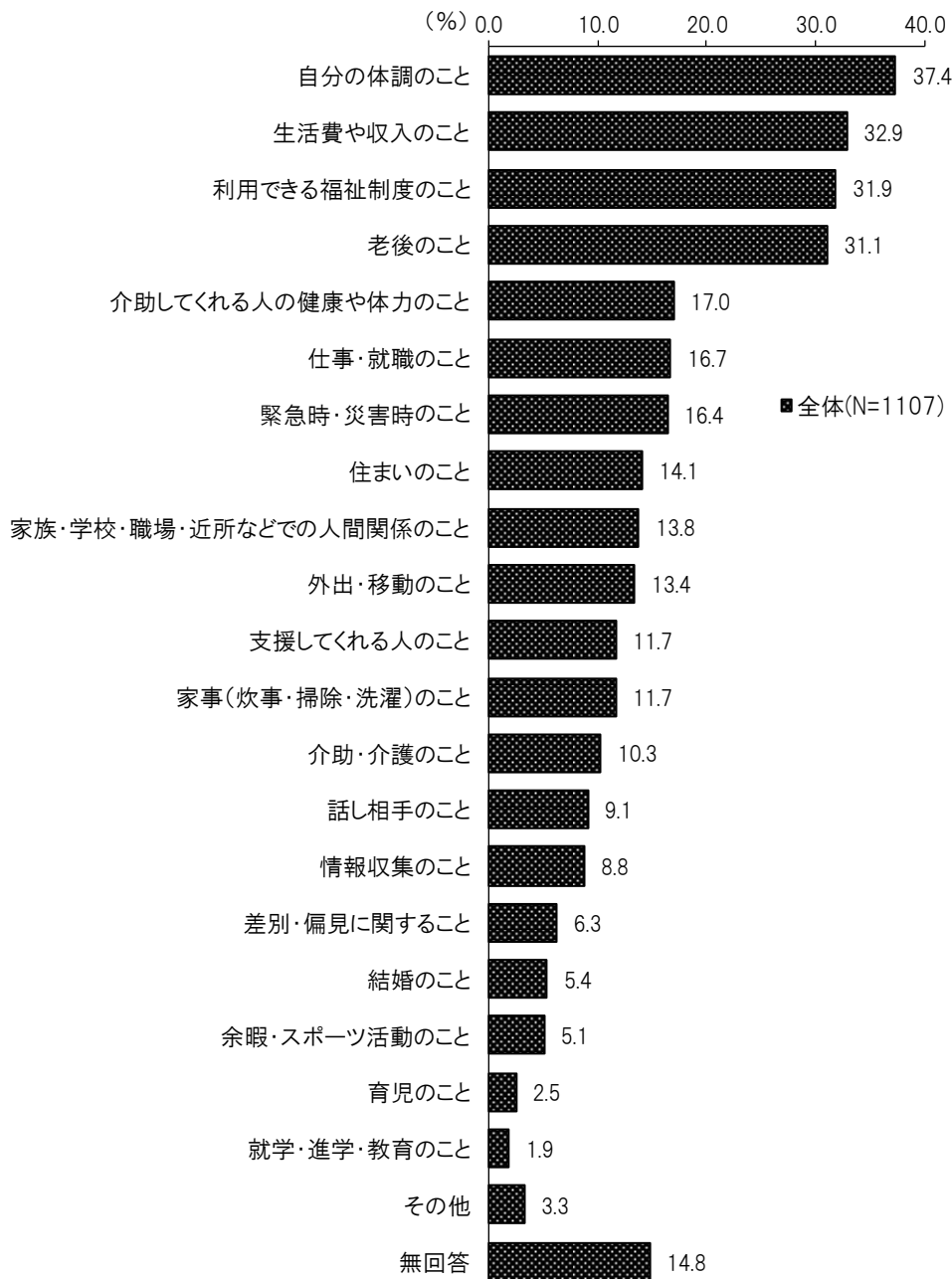


【4】相談について

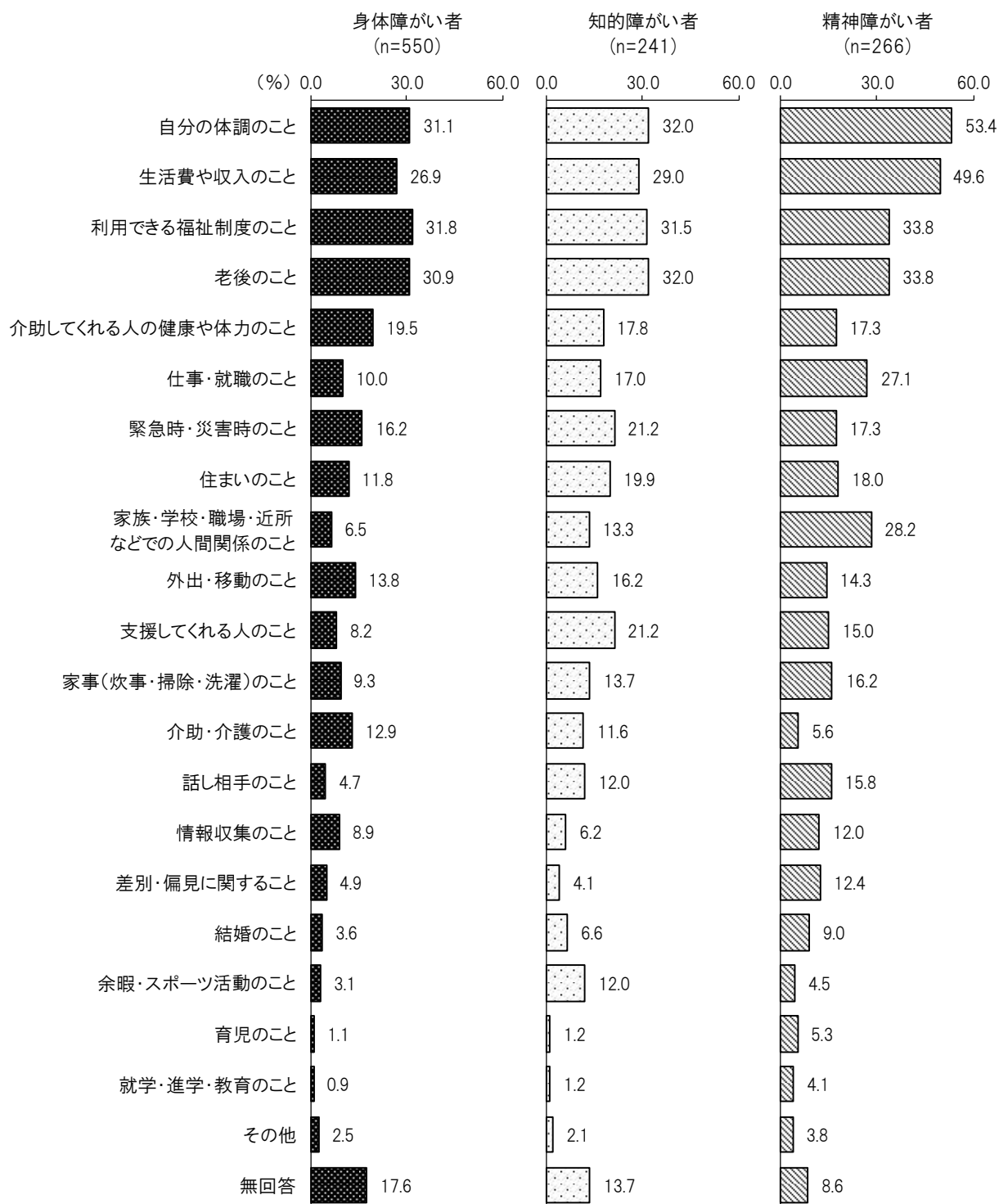
1 相談したいこと

問 17 あなたが相談したいことは、どのようなことですか。
(あてはまるものすべてに○印)

相談したいことについては、「自分の体調のこと」の割合が 37.4%と最も高く、次いで「生活費や収入のこと」(32.9%)、「利用できる福祉制度のこと」(31.9%)、「老後のこと」(31.1%)、「介助してくれる人の健康や体力のこと」(17.0%)の順となっている。



障がい種別では、知的障がい者で「支援してくれる人のこと」「余暇・スポーツ活動のこと」、精神障がい者で「自分の体調のこと」「生活費や収入のこと」「仕事・就職のこと」「家族・学校・職場・近所などでの人間関係のこと」などの割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。



年齢別では、精神障がい者の29歳以下で「生活費や収入のこと」「家族・学校・職場・近所などでの人間関係のこと」の割合がほかの年齢層を大きく上回っており、身体障がい者では若い年齢層ほど「緊急時・災害時のこと」、精神障がい者では若い年齢層ほど「仕事・就職のこと」の割合がそれぞれ高くなっている。

発達障がいの診断を受けている人は受けていない人に比べ、「生活費や収入のこと」「利用できる福祉制度のこと」「仕事・就職のこと」などの割合が高く、相談内容が多岐にわたっている。

要支援・要介護認定を受けている人は受けていない人に比べ、「利用できる福祉制度のこと」「介助してくれる人の健康や体力のこと」「介助・介護のこと」などの割合が高くなっている。

単位 (%)	自分の体調のこと	生活費や収入のこと	利用できる福祉制度のこと	老後のこと	健康や体力の人のこと	仕事・就職のこと	緊急時・災害時のこと	住まいのこと	近所などでの人間関係のこと	家族・学校・職場・外出・移動のこと	支えてくれる人のこと
全体(N=1107)	37.4	32.9	31.9	31.1	17.0	16.7	16.4	14.1	13.8	13.4	11.7
【身体障がい者】											
29歳以下(n=24)	12.5	41.7	33.3	29.2	16.7	37.5	33.3	33.3	12.5	16.7	12.5
30～39歳(n=32)	28.1	25.0	28.1	37.5	31.3	15.6	21.9	18.8	12.5	18.8	18.8
40～49歳(n=67)	34.3	31.3	34.3	34.3	11.9	22.4	17.9	16.4	9.0	13.4	6.0
50～64歳(n=240)	29.6	30.0	32.9	35.0	16.3	10.4	15.0	12.9	7.1	10.8	6.7
65歳以上(n=186)	34.4	19.9	29.6	23.7	24.7	0.5	14.0	4.8	3.2	16.1	8.6
【知的障がい者】											
29歳以下(n=68)	27.9	38.2	41.2	25.0	23.5	25.0	29.4	35.3	8.8	20.6	22.1
30～39歳(n=49)	24.5	22.4	34.7	36.7	24.5	12.2	18.4	14.3	16.3	12.2	24.5
40～49歳(n=53)	28.3	20.8	20.8	28.3	7.5	9.4	15.1	9.4	7.5	15.1	24.5
50～64歳(n=59)	45.8	30.5	28.8	44.1	16.9	15.3	22.0	18.6	23.7	16.9	15.3
65歳以上(n=6)	33.3	33.3	33.3	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7
【精神障がい者】											
29歳以下(n=42)	47.6	71.4	35.7	26.2	14.3	61.9	16.7	19.0	50.0	21.4	21.4
30～39歳(n=41)	53.7	43.9	39.0	22.0	22.0	41.5	22.0	19.5	31.7	12.2	17.1
40～49歳(n=59)	49.2	47.5	37.3	33.9	15.3	20.3	8.5	11.9	23.7	13.6	11.9
50～64歳(n=115)	57.4	46.1	29.6	40.9	18.3	13.0	19.1	19.1	23.5	12.2	12.2
65歳以上(n=7)	42.9	28.6	28.6	28.6	14.3	14.3	14.3	28.6	0.0	28.6	28.6
【発達障がい診断別】											
受けている(n=137)	30.7	42.3	42.3	35.0	16.1	31.4	23.4	19.0	25.5	16.8	23.4
受けていない(n=653)	38.9	31.9	31.5	31.2	14.7	15.3	15.9	13.3	12.3	12.7	9.3
【要支援・要介護認定別】											
受けている(n=107)	42.1	22.4	41.1	22.4	28.0	6.5	14.0	9.3	5.6	14.0	14.0
受けていない(n=677)	37.4	34.3	32.8	32.5	13.9	18.3	16.8	14.9	15.4	12.7	10.8

→続く

注:知的障がい者及び精神障がい者の65歳以上については、件数(n)が少ないため参考値として参照

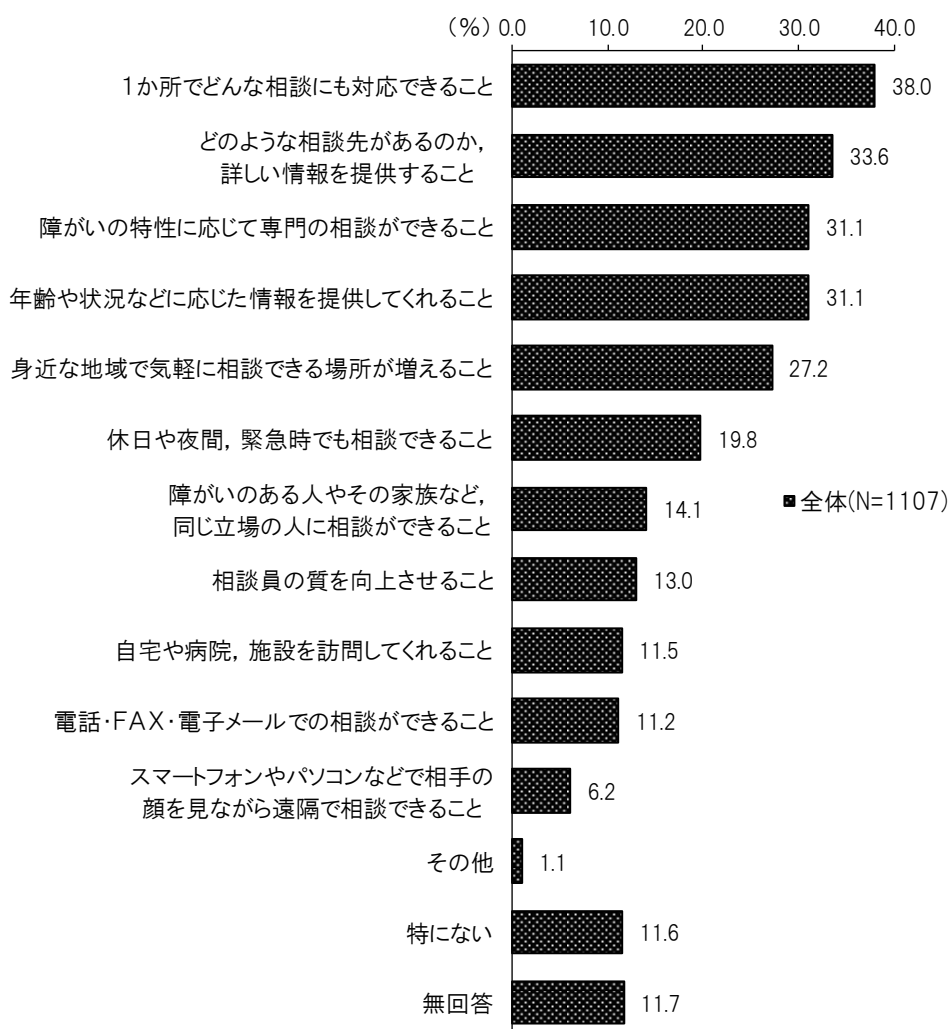
→続き

単位 (%)	家事(洗濯)の炊事・掃除・	介助・介護のこと	話し相手のこと	情報収集のこと	差別・偏見に関する	結婚のこと	余暇・スポーツ活動	育児のこと	就学・進学・教育の	その他
全体(N=1107)	11.7	10.3	9.1	8.8	6.3	5.4	5.1	2.5	1.9	3.3
【身体障がい者】										
29歳以下(n=24)	20.8	12.5	12.5	8.3	12.5	12.5	4.2	4.2	4.2	0.0
30～39歳(n=32)	3.1	18.8	3.1	9.4	3.1	12.5	6.3	6.3	0.0	0.0
40～49歳(n=67)	6.0	7.5	7.5	17.9	9.0	9.0	6.0	3.0	1.5	6.0
50～64歳(n=240)	9.2	10.4	5.0	9.6	5.8	2.9	1.7	0.0	0.8	2.1
65歳以上(n=186)	10.2	17.2	2.7	4.8	1.1	0.0	3.2	0.5	0.5	2.7
【知的障がい者】										
29歳以下(n=68)	20.6	8.8	16.2	5.9	7.4	11.8	14.7	2.9	1.5	1.5
30～39歳(n=49)	4.1	12.2	8.2	2.0	2.0	4.1	12.2	2.0	0.0	4.1
40～49歳(n=53)	11.3	7.5	3.8	5.7	1.9	3.8	9.4	0.0	0.0	3.8
50～64歳(n=59)	18.6	20.3	16.9	11.9	3.4	6.8	13.6	0.0	3.4	0.0
65歳以上(n=6)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
【精神障がい者】										
29歳以下(n=42)	21.4	4.8	19.0	14.3	16.7	19.0	11.9	7.1	9.5	0.0
30～39歳(n=41)	19.5	7.3	19.5	7.3	12.2	12.2	7.3	17.1	7.3	4.9
40～49歳(n=59)	15.3	1.7	11.9	11.9	10.2	5.1	0.0	6.8	5.1	8.5
50～64歳(n=115)	13.0	6.1	16.5	13.9	13.0	7.0	3.5	0.0	0.9	2.6
65歳以上(n=7)	28.6	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
【発達障がい診断別】										
受けている(n=137)	16.8	8.8	16.1	9.5	9.5	11.7	12.4	3.6	2.9	4.4
受けていない(n=653)	10.1	10.0	8.4	10.3	5.4	5.2	4.6	2.6	2.1	2.8
【要支援・要介護認定別】										
受けている(n=107)	12.1	25.2	9.3	7.5	4.7	2.8	1.9	2.8	2.8	4.7
受けていない(n=677)	11.4	8.3	9.6	10.8	6.2	6.6	6.5	2.8	2.1	2.8

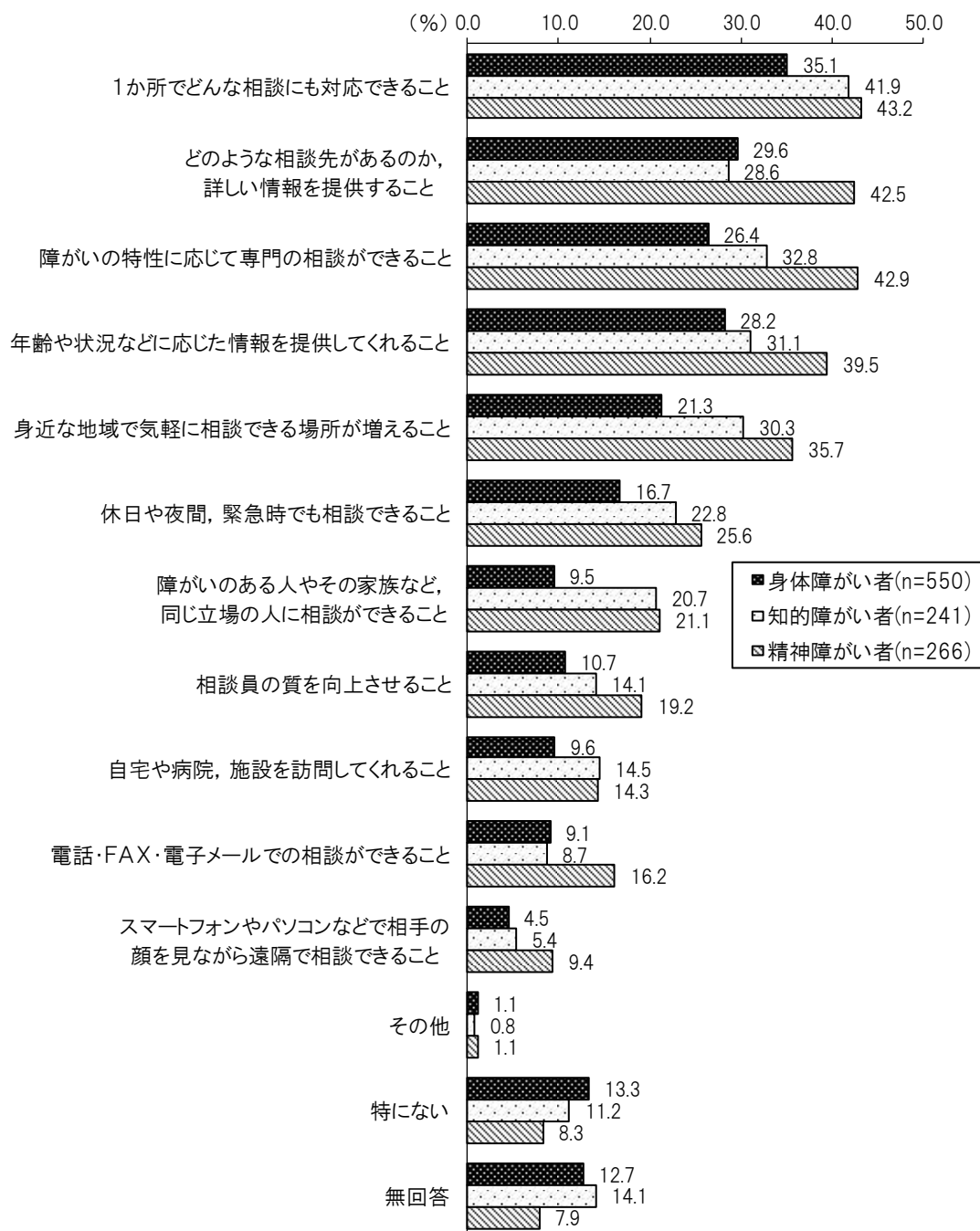
2 相談先に望むこと

問 18 あなたが相談先に望むことは何ですか。（あてはまるものすべてに○印）

相談先に望むことについては、「1か所でどんな相談にも対応できること」の割合が38.0%と最も高く、次いで「どのような相談先があるのか、詳しい情報を提供すること」（33.6%）、「障がいの特性に応じて専門の相談ができること」「年齢や状況などに応じた情報を提供してくれること」（各31.1%）、「身近な地域で気軽に相談できる場所が増えること」（27.2%）の順となっている。



障がい種別では、精神障がい者で「どのような相談先があるのか、詳しい情報を提供すること」「障がいの特性に応じて専門の相談ができること」「年齢や状況などに応じた情報を提供してくれること」「電話・FAX・電子メールでの相談ができること」などの割合がほかの障がいを大きく上回っている。



年齢別でみると、身体障がい者の29歳以下で「電話・FAX・電子メールでの相談ができること」、精神障がい者の29歳以下で「1か所でどんな相談にも対応できること」「障がいの特性に応じて専門の相談ができること」「身近な地域で気軽に相談できる場所が増えること」、いずれの障がいも29歳以下で「障がいのある人やその家族など、同じ立場の人に相談ができること」の割合がそれぞれほかの年齢層に比べて高くなっている。

発達障がいの診断を受けている人は受けていない人に比べ、「1か所でどんな相談にも対応できること」「障がいの特性に応じて専門の相談ができること」「年齢や状況などに応じた情報を提供してくれること」などの割合が高くなっている。

単位 (%)	1か所できると	か、詳しい情報提供	どのようない情報提供	障がいの特性に応じて専門	年齢や状況などに応じた情報	身近な地域で気軽に相談できること	休日や夜間、緊急時でも相談できること	が、同じ場所の人やその家族	障がいのある人やその家族	相談員の質を向上させること	自宅や病院と、施設を訪問し	電話・FAX・電子メール	遠隔で相談できること	スマートフォンやパソコン	その他	特にな
全体(N=1107)	38.0	33.6	31.1	31.1	27.2	19.8	14.1	13.0	11.5	11.2	6.2	1.1	11.6			
【身体障がい者】																
29歳以下(n=24)	45.8	29.2	45.8	45.8	33.3	29.2	37.5	25.0	16.7	29.2	16.7	0.0	0.0			
30～39歳(n=32)	37.5	31.3	40.6	37.5	21.9	15.6	9.4	21.9	3.1	9.4	3.1	0.0	21.9			
40～49歳(n=67)	32.8	43.3	37.3	31.3	28.4	17.9	14.9	13.4	10.4	17.9	4.5	4.5	13.4			
50～64歳(n=240)	36.3	30.4	29.2	29.2	15.8	14.6	7.5	9.6	7.5	7.9	5.4	1.3	12.9			
65歳以上(n=186)	32.8	23.1	14.0	21.5	24.2	17.7	6.5	7.5	12.4	4.8	2.2	0.0	14.0			
【知的障がい者】																
29歳以下(n=68)	52.9	33.8	45.6	47.1	45.6	27.9	29.4	13.2	20.6	14.7	10.3	0.0	4.4			
30～39歳(n=49)	44.9	30.6	30.6	26.5	16.3	20.4	14.3	16.3	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3			
40～49歳(n=53)	32.1	28.3	24.5	22.6	26.4	20.8	18.9	9.4	15.1	5.7	1.9	3.8	20.8			
50～64歳(n=59)	37.3	23.7	28.8	28.8	30.5	23.7	18.6	18.6	16.9	13.6	8.5	0.0	8.5			
65歳以上(n=6)	16.7	16.7	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7	33.3	0.0	0.0	0.0	16.7			
【精神障がい者】																
29歳以下(n=42)	66.7	47.6	57.1	54.8	57.1	35.7	38.1	23.8	23.8	19.0	14.3	0.0	2.4			
30～39歳(n=41)	34.1	51.2	41.5	56.1	43.9	24.4	24.4	17.1	9.8	19.5	19.5	2.4	7.3			
40～49歳(n=59)	44.1	33.9	40.7	39.0	25.4	27.1	13.6	16.9	11.9	18.6	10.2	1.7	16.9			
50～64歳(n=115)	39.1	41.7	40.0	29.6	31.3	21.7	18.3	20.0	13.9	13.0	4.3	0.9	6.1			
65歳以上(n=7)	14.3	28.6	28.6	28.6	28.6	0.0	14.3	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3			
【発達障がい診断別】																
受けている(n=137)	45.3	39.4	46.7	45.3	38.7	28.5	29.2	18.2	10.9	12.4	8.8	0.7	5.8			
受けていない(n=653)	36.1	35.8	31.5	31.7	23.3	17.9	13.5	13.8	10.4	12.9	6.0	1.4	14.5			

注：知的障がい者及び精神障がい者の65歳以上については、件数(n)が少ないため参考値として参照

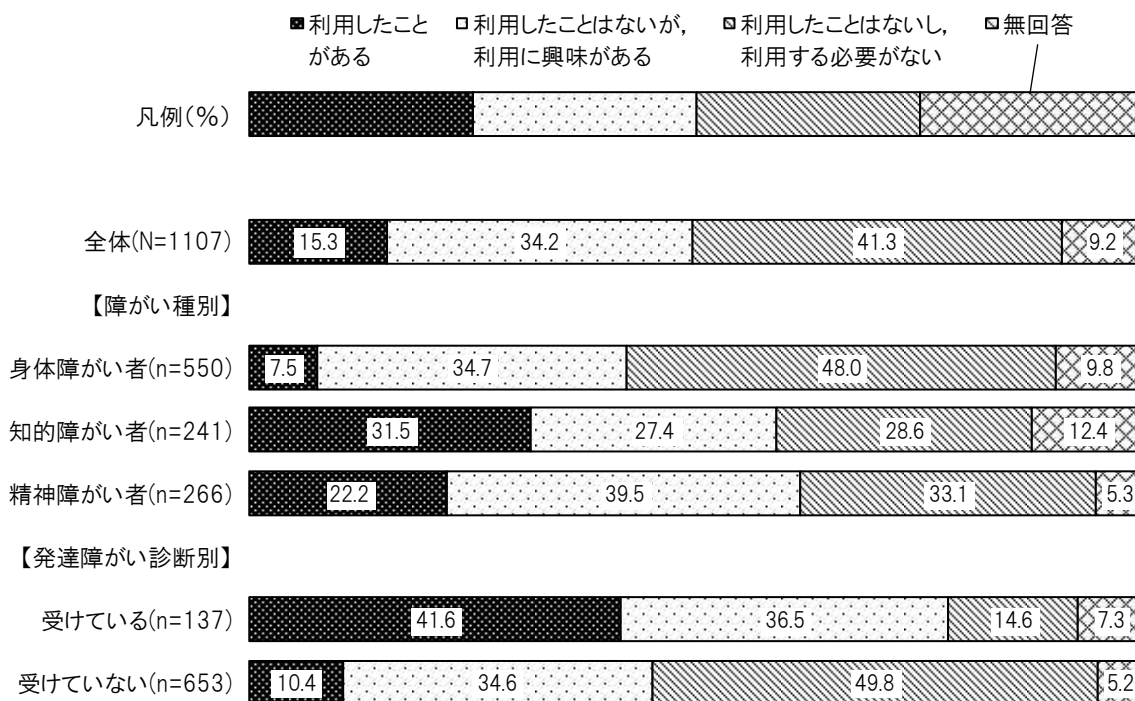
3 基幹相談支援センター（クローバー）の利用状況

問 19 あなたは、基幹相談支援センター（クローバー）を利用したことがありますか。
（○印は1つ）

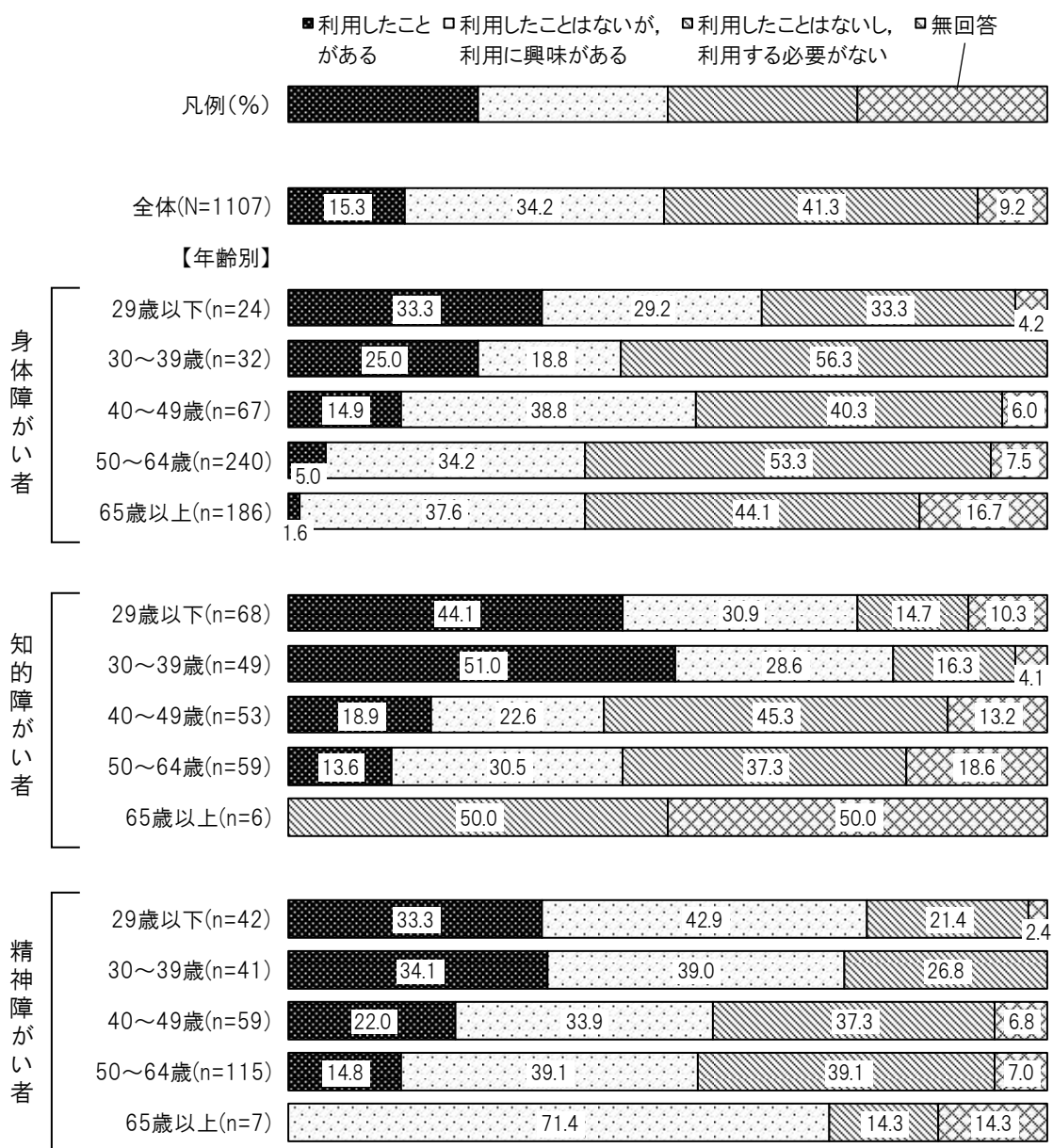
基幹相談支援センター（クローバー）の利用状況については、「利用したことがある」が2割未満（15.3%）、「利用したことはないが、利用に興味がある」が3割以上（34.2%）、「利用したことはないし、利用する必要がない」が約4割（41.3%）となっている。

障がい種別では、知的障がい者で「利用したことがある」、身体障がい者で「利用したことはないし、利用する必要がない」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。

発達障がいの診断を受けている人の約4割が「利用したことがある」と回答している。



年齢別では、いずれの障がいも、おおむね若い年齢層ほど「利用したことがある」の割合が高くなっている。



注: 知的障がい者及び精神障がい者の 65 歳以上については、件数(n)が少ないため参考値として参照

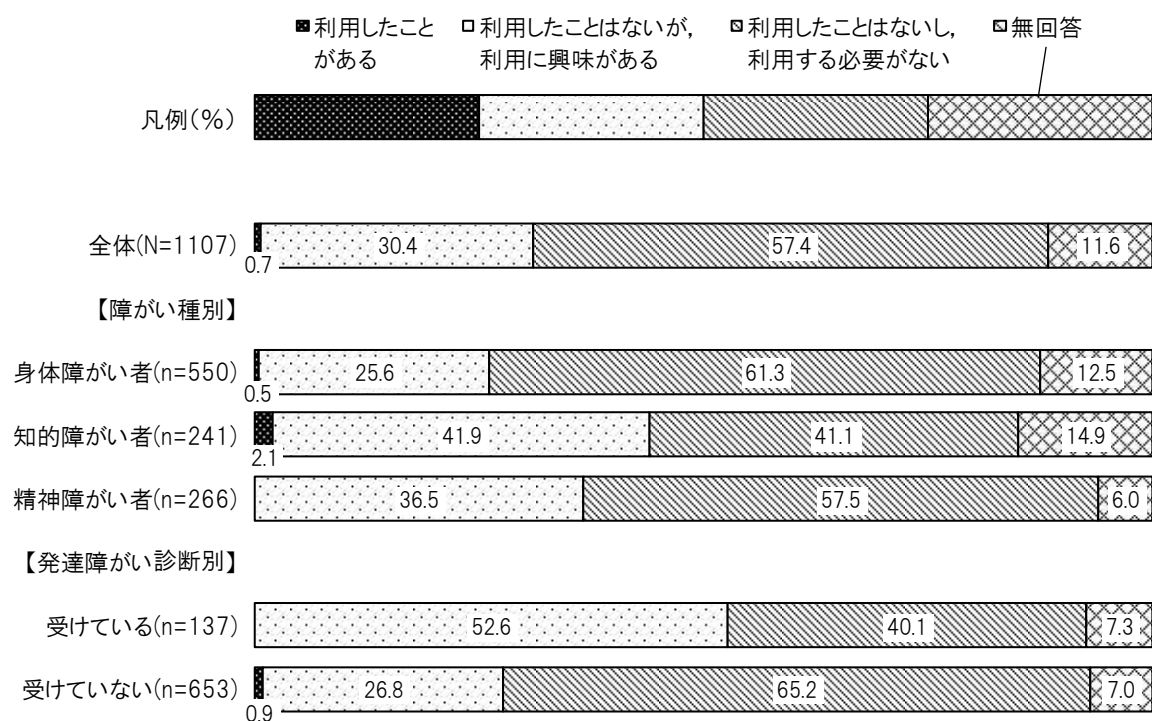
4 権利擁護支援センターの利用状況

問 20 あなたは、権利擁護支援センターを利用したことがありますか。(○印は1つ)

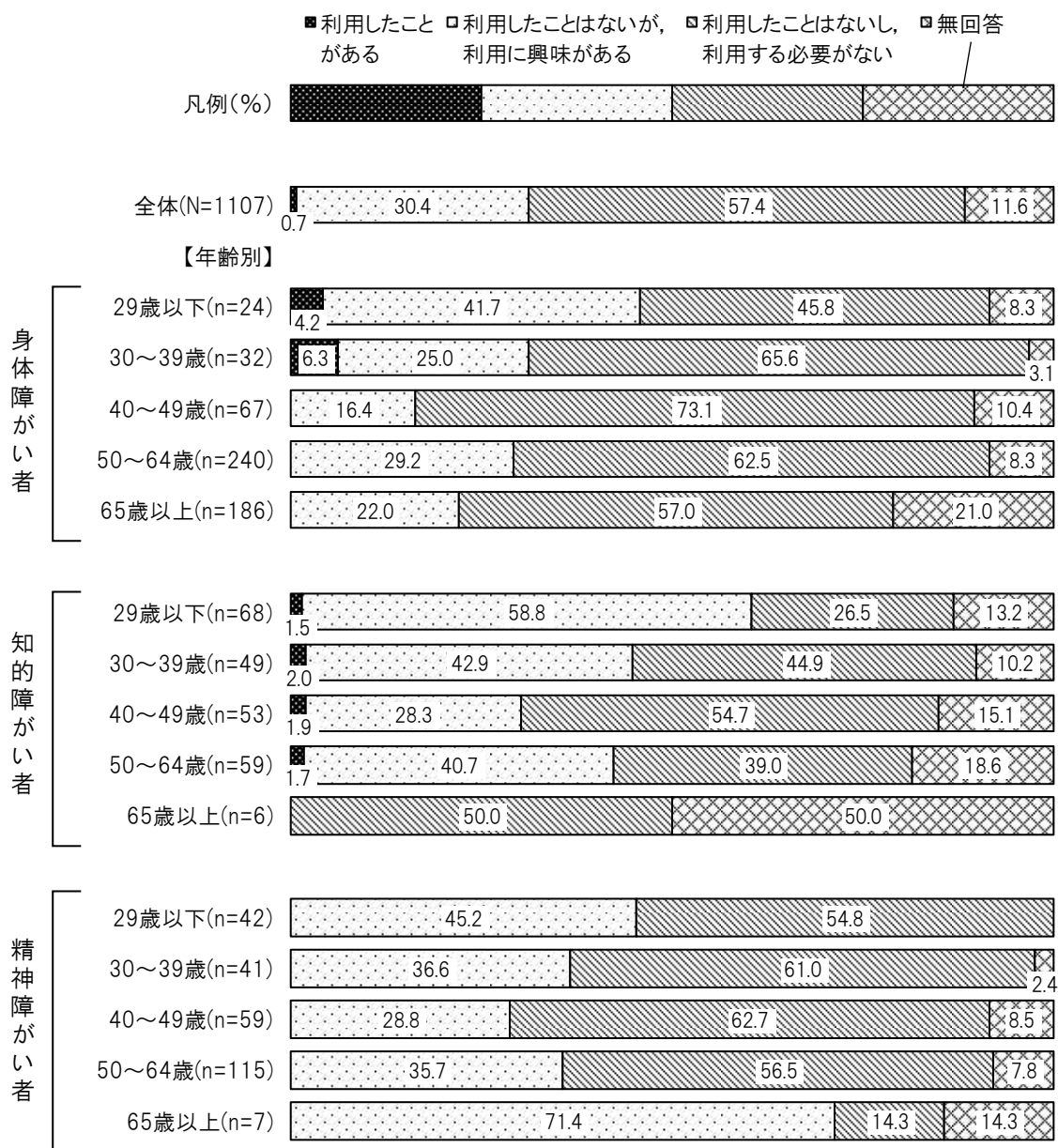
権利擁護支援センターの利用状況については、「利用したことがある」が 0.7%、「利用したことはないが、利用に興味がある」が約3割(30.4%)、「利用したことはないし、利用する必要がない」が約6割(57.4%)となっている。

障がい種別では、知的障がい者や精神障がい者で「利用したことはないが、利用に興味がある」、身体障がい者や精神障がい者で「利用したことはないし、利用する必要がない」の割合がそれぞれ高くなっている。

発達障がいの診断を受けている人は受けていない人に比べ、「利用したことはないが、利用に興味がある」の割合が高くなっている。



年齢別では、いずれの障がいも 29 歳以下で「利用したことはないが、利用に興味がある」の割合が高く、40～49 歳で「利用したことはないし、利用する必要がない」の割合がほかの年齢層に比べて高くなっている。



注:知的障がい者及び精神障がい者の 65 歳以上については、件数(n=)が少ないため参考値として参照

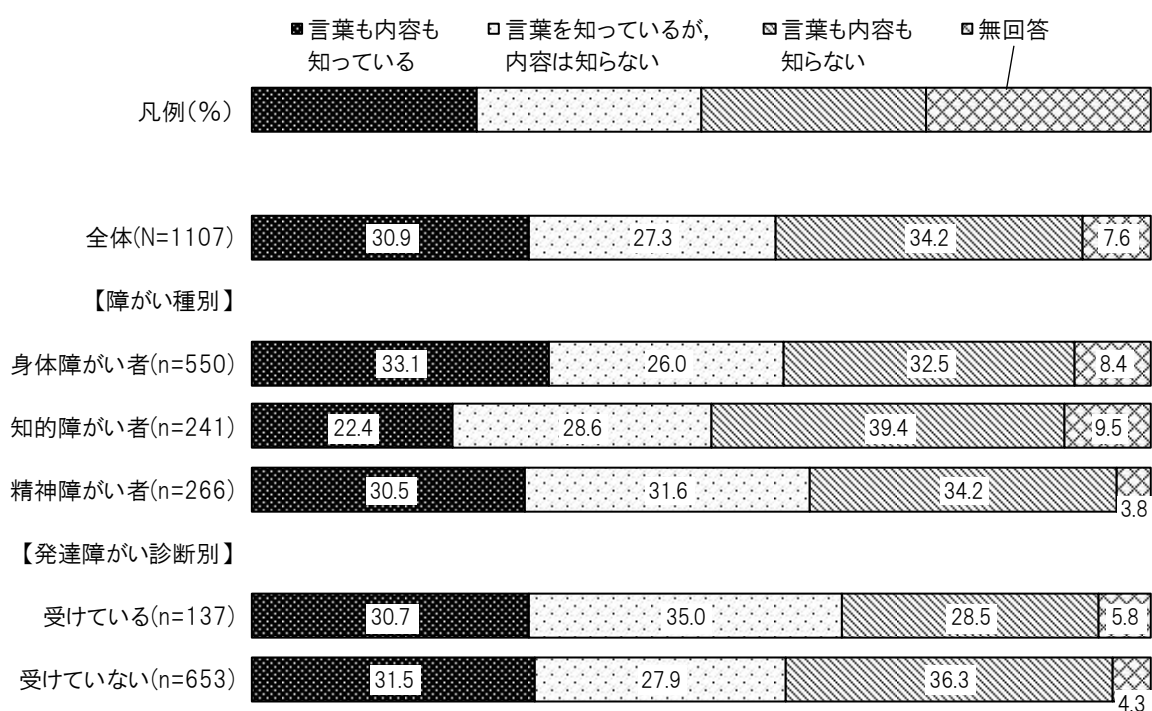
5 成年後見制度の認知状況

問 21 あなたは「成年後見制度」を知っていますか。(○印は1つ)

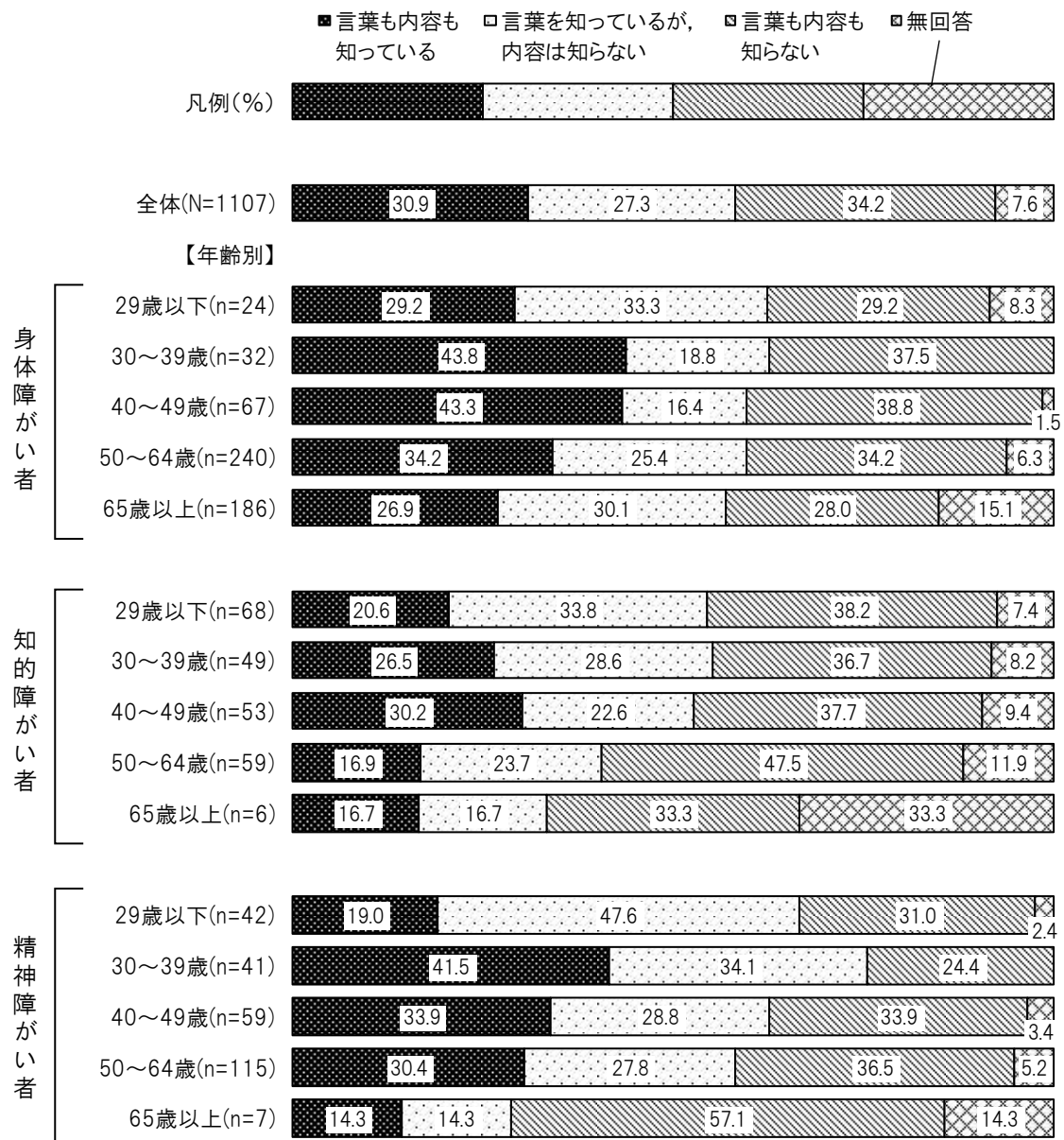
成年後見制度の認知状況については、「言葉も内容も知っている」が30.9%、「言葉を知っているが、内容は知らない」が27.3%、合計で58.2%となっている。一方、「言葉も内容も知らない」は34.2%となっている。

障がい種別では、知的障がい者で「言葉も内容も知らない」の割合がほかの障がいに比べて高くなっている。

発達障がいの診断を受けていない人は受けている人に比べ、「言葉も内容も知らない」の割合が高くなっている。



年齢別では、いずれの障がいも 29 歳以下で「言葉を知っているが、内容は知らない」、30～49 歳で「言葉も内容も知っている」の割合がそれぞれほかの年齢層に比べて高くなっている。



注：知的障がい者及び精神障がい者の 65 歳以上については、件数 (n) が少ないため参考値として参照

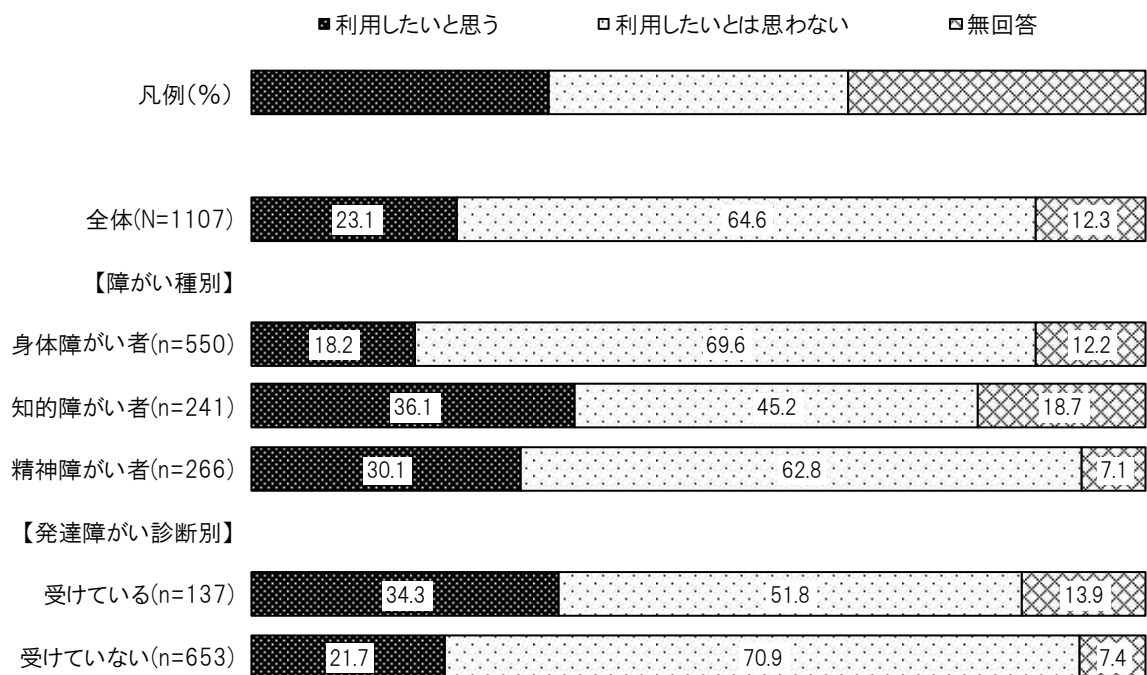
6 成年後見制度の利用意向

問 22 あなたは今後「成年後見制度」を利用したいと思いますか。(○印は1つ)

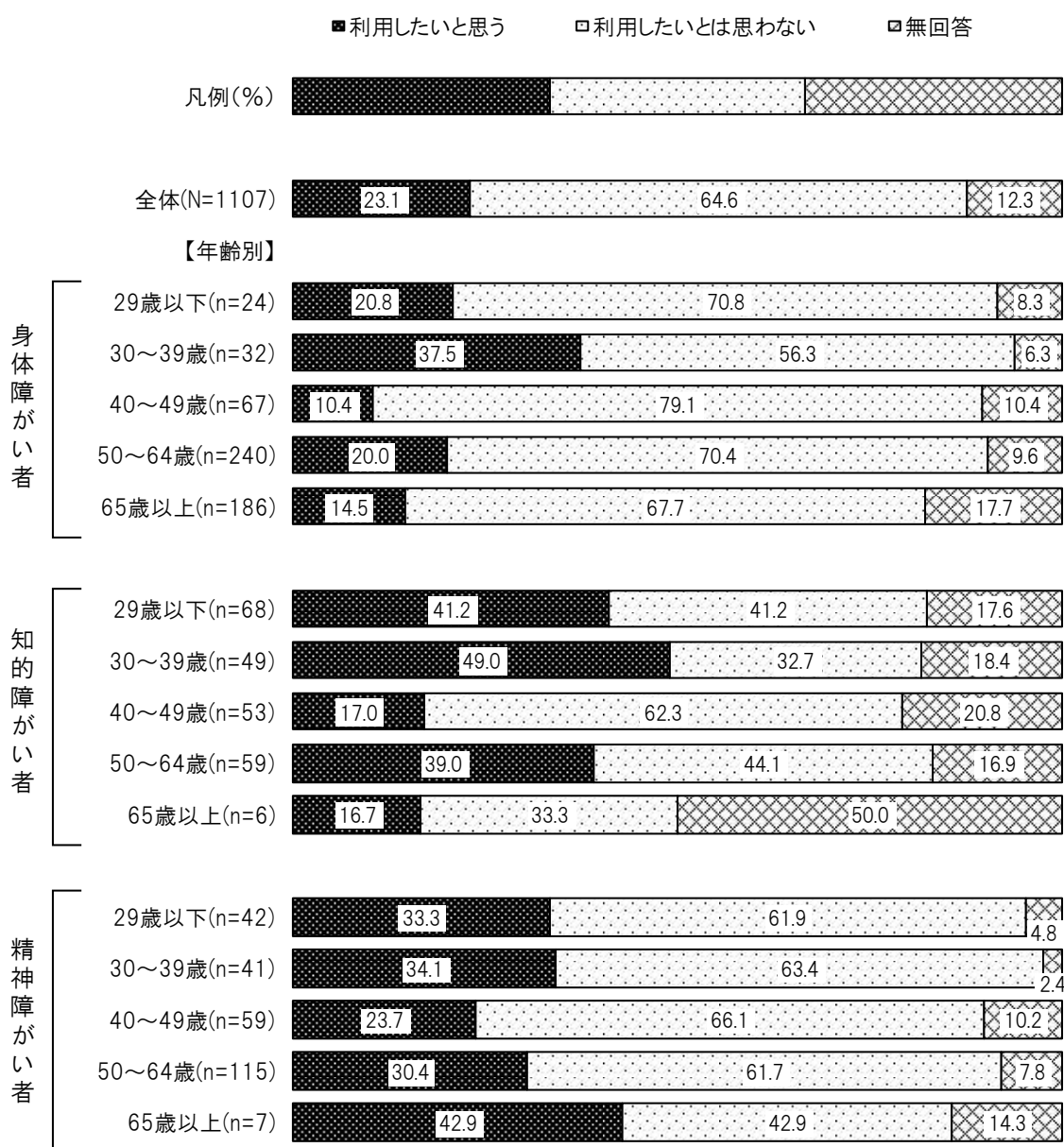
成年後見制度の利用意向については、「利用したいと思う」が2割程度(23.1%)、「利用したいとは思わない」が6割以上(64.6%)となっている。

障がい種別では、知的障がい者や精神障がい者で「利用したいと思う」の割合が3割以上となっているが、身体障がい者や精神障がい者で「利用したいとは思わない」の割合が6割以上と高くなっている。

発達障がいの診断を受けている人は受けていない人に比べ、「利用したいと思う」の割合が高くなっている。



年齢別では、身体障がい者や知的障がい者の 30～39 歳で「利用したいと思う」の割合がほかの年齢層に比べて高くなっている。



注:知的障がい者及び精神障がい者の 65 歳以上については、件数(n=)が少ないため参考値として参照

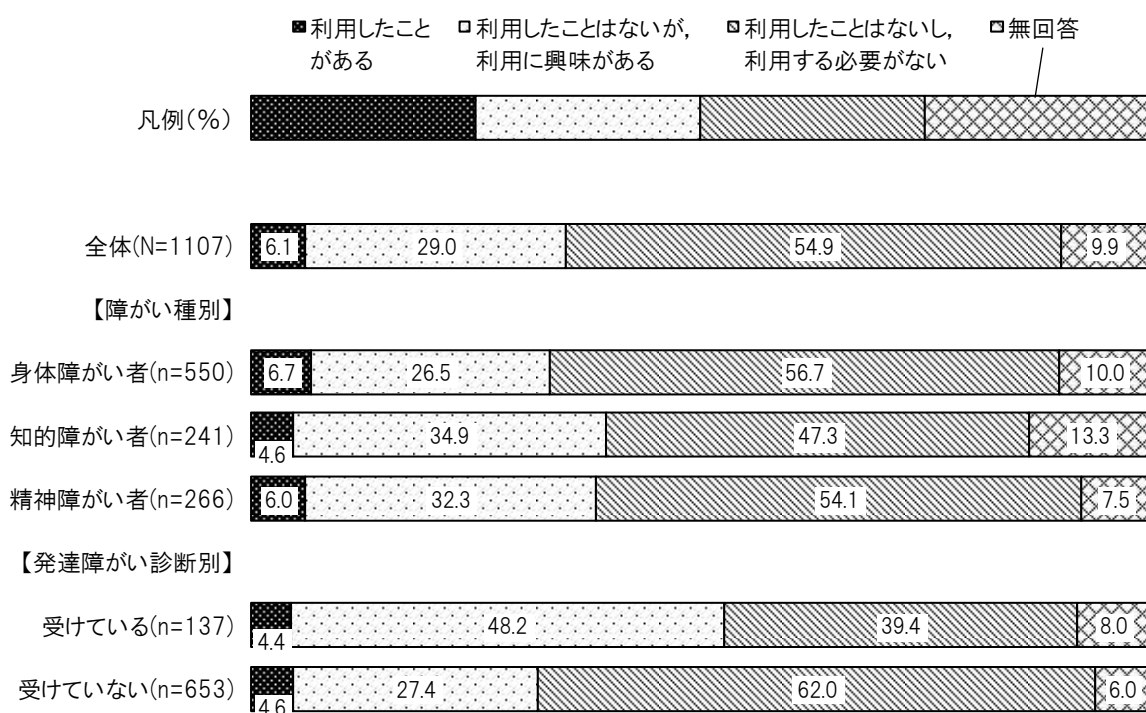
7 地域活動支援センターの利用状況

問 23 あなたは地域活動支援センターを利用したことがありますか。(○印は1つ)

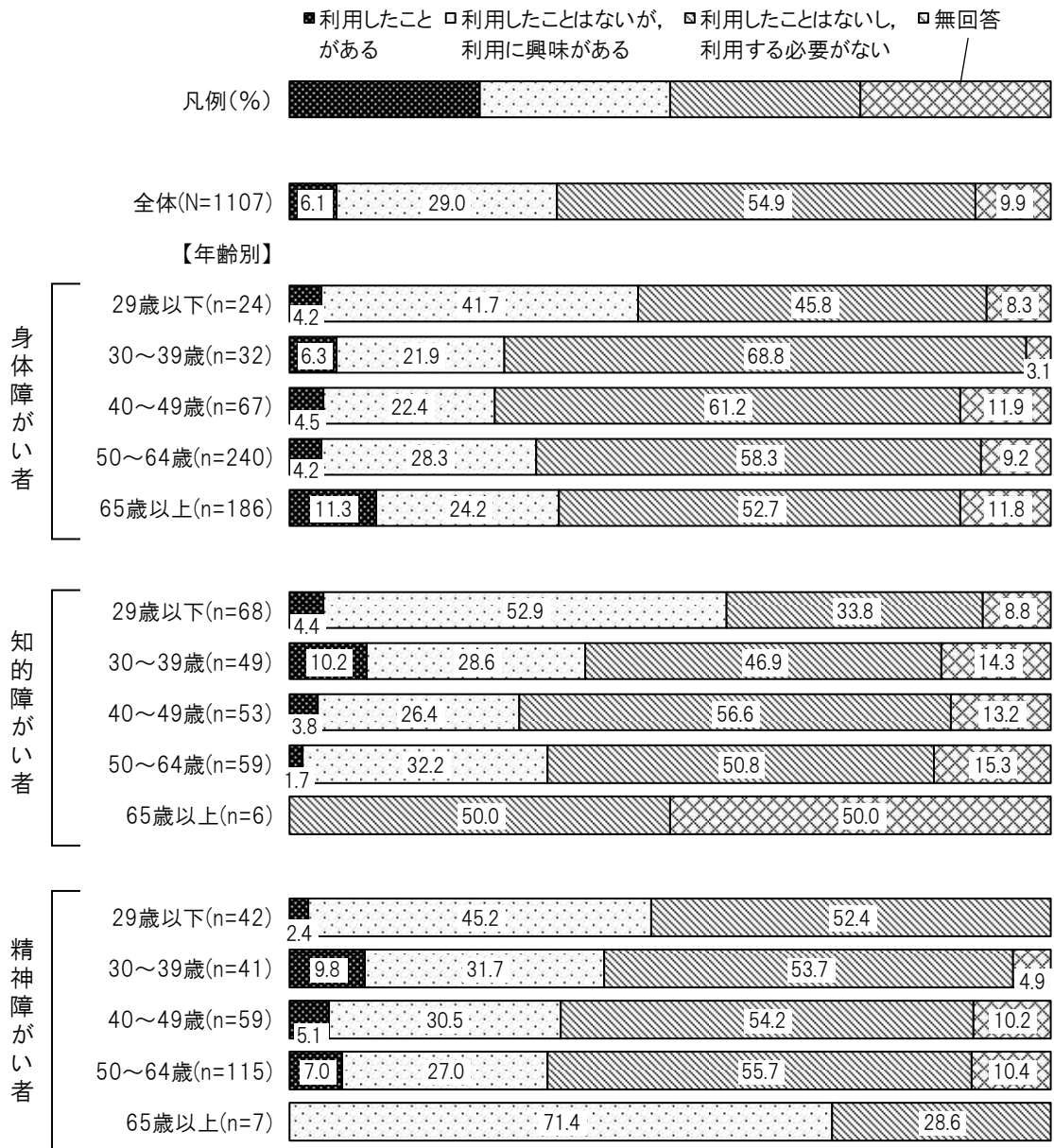
地域活動支援センターの利用状況については、「利用したことがある」が6.1%、「利用したことはないが、利用に興味がある」が約3割(29.0%)、「利用したことはないし、利用する必要がない」が5割以上(54.9%)となっている。

障がい種別では、知的障がい者や精神障がい者で「利用したことはないが、利用に興味がある」の割合が身体障がい者に比べて高くなっている。

発達障がいの診断を受けている人は受けていない人に比べ、「利用したことはないが、利用に興味がある」の割合が高くなっている。



年齢別では、いずれの障がいも 29 歳以下で「利用したことはないが、利用に興味がある」の割合がほかの年齢層を大きく上回っている。



注:知的障がい者及び精神障がい者の65歳以上については、件数(n=)が少ないため参考値として参照

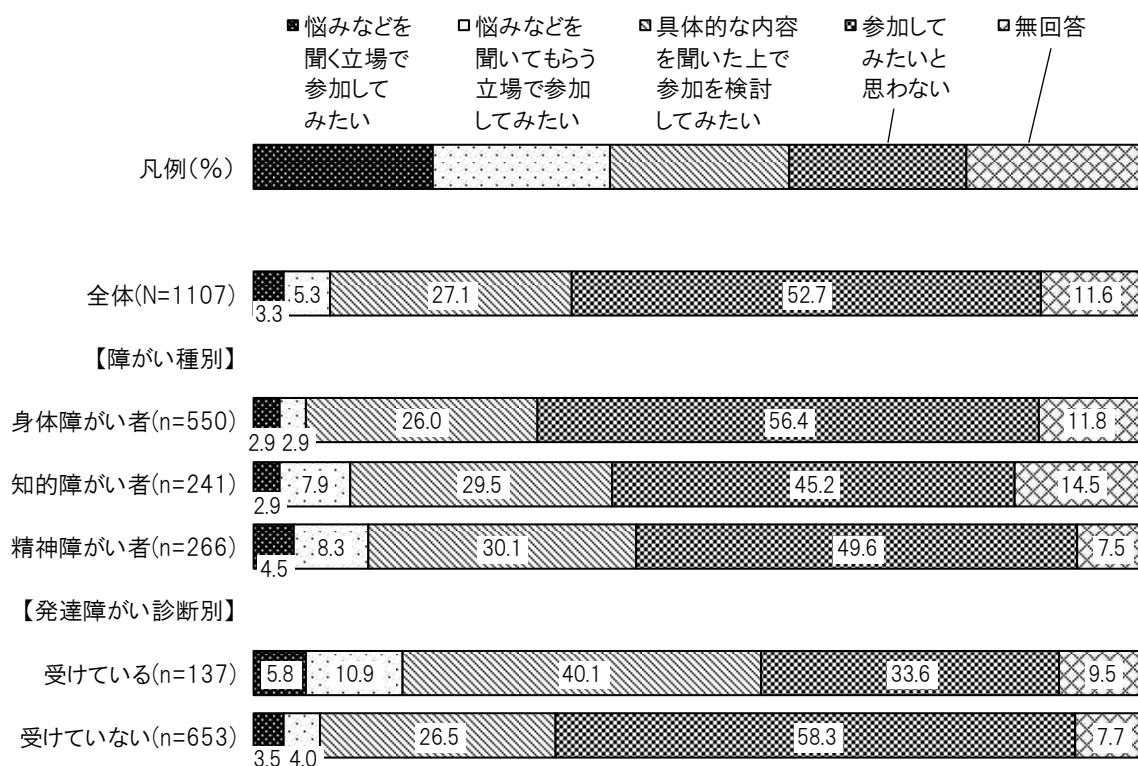
8 ピアサポート活動への参加意向

問 24 障がいのある人や障がいのある子どもを育てた親が、自らの体験に基づいて、同じ仲間であるほかの障がいのある人や親の悩みなどを聞くという取組を「ピアサポート活動」といいます。あなたは、この活動に参加してみたいと思いますか。
(○印は1つ)

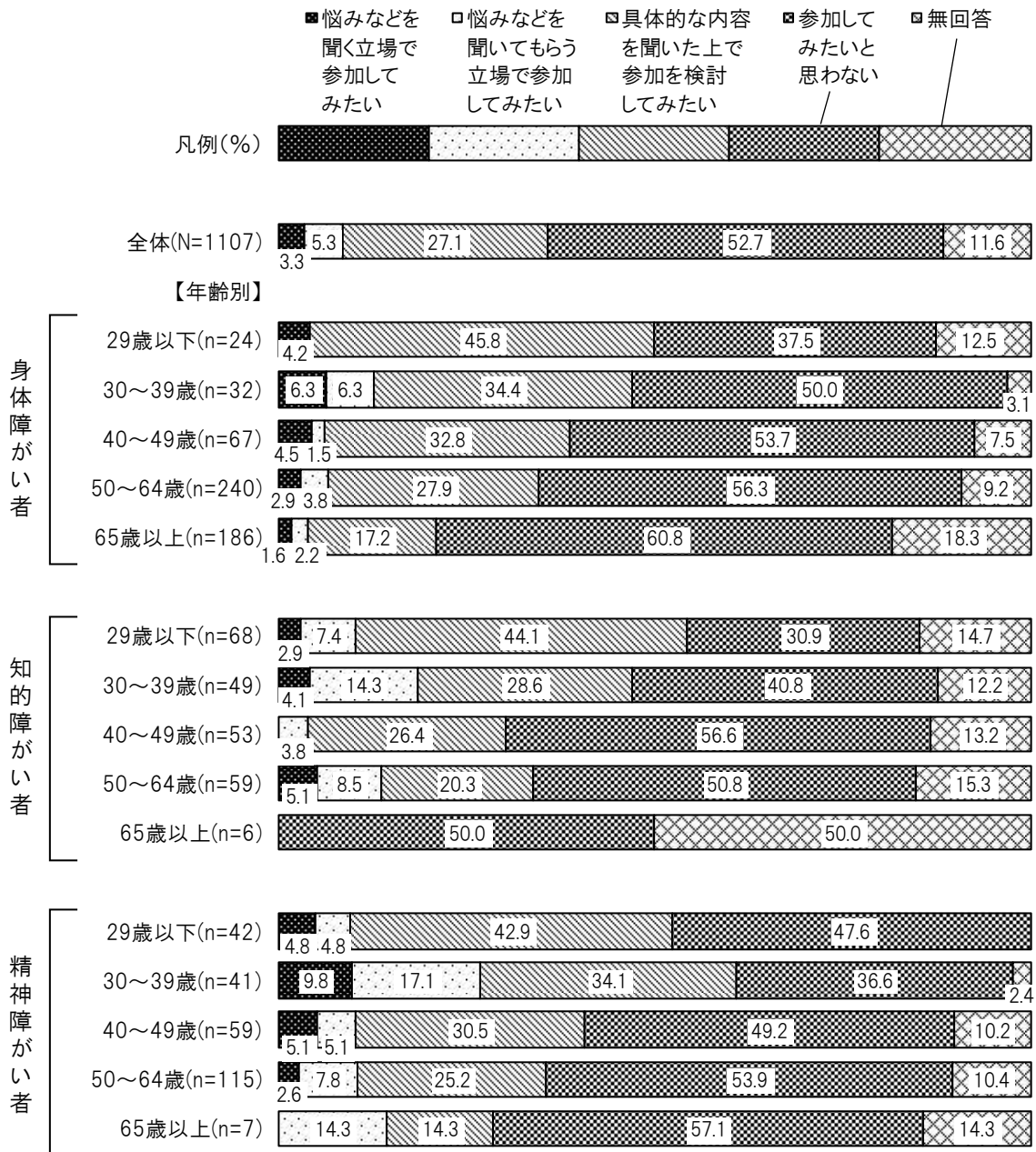
ピアサポート活動への参加意向については、「悩みなどを聞く立場で参加してみたい」の割合が 3.3%、「悩みなどを聞いてもらう立場で参加してみたい」が 5.3%、「具体的な内容を聞いた上で参加を検討してみたい」が 27.1%、合計で 35.7%となっている。一方、半数以上 (52.7%) が「参加してみたいと思わない」と回答している。

障がい種別では、知的障がい者や精神障がい者で「悩みなどを聞いてもらう立場で参加してみたい」、身体障がい者で「参加してみたいと思わない」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。

発達障がいの診断を受けている人は受けていない人に比べ、「具体的な内容を聞いた上で参加を検討してみたい」の割合が高くなっている。



年齢別では、知的障がい者や精神障がい者の 30～39 歳で「悩みなどを聞いてもらう立場で参加してみたい」の割合がほかの年齢層に比べて高く、いずれの障がいも若い年齢層ほど「具体的な内容を聞いた上で参加を検討してみたい」の割合が高くなっている。

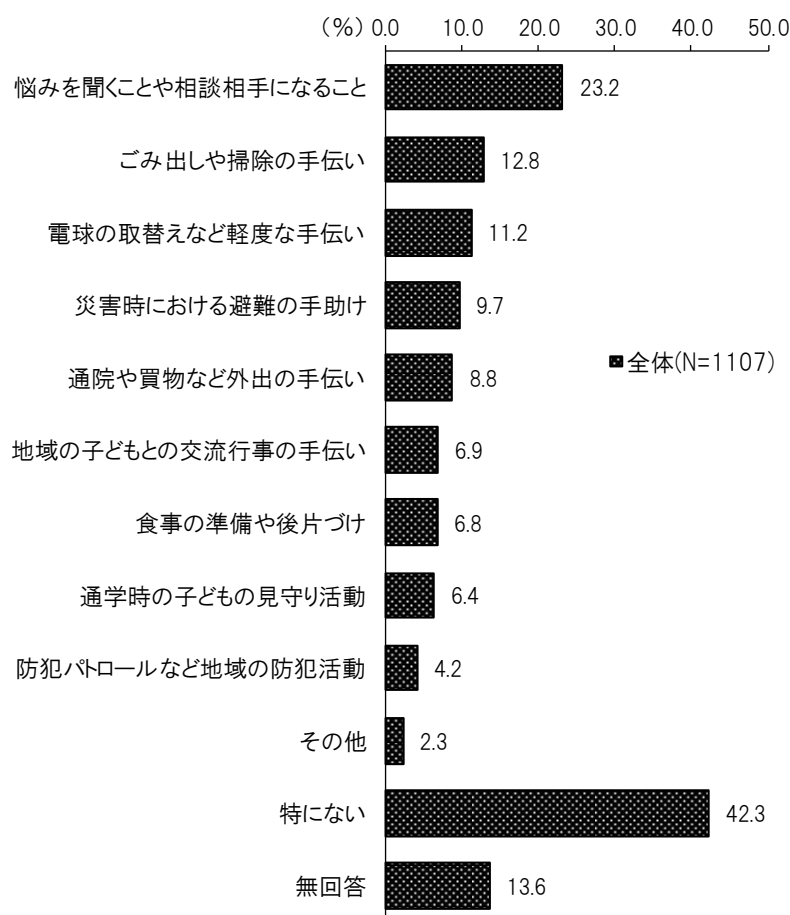


注:知的障がい者及び精神障がい者の 65 歳以上については、件数(n=)が少ないため参考値として参照

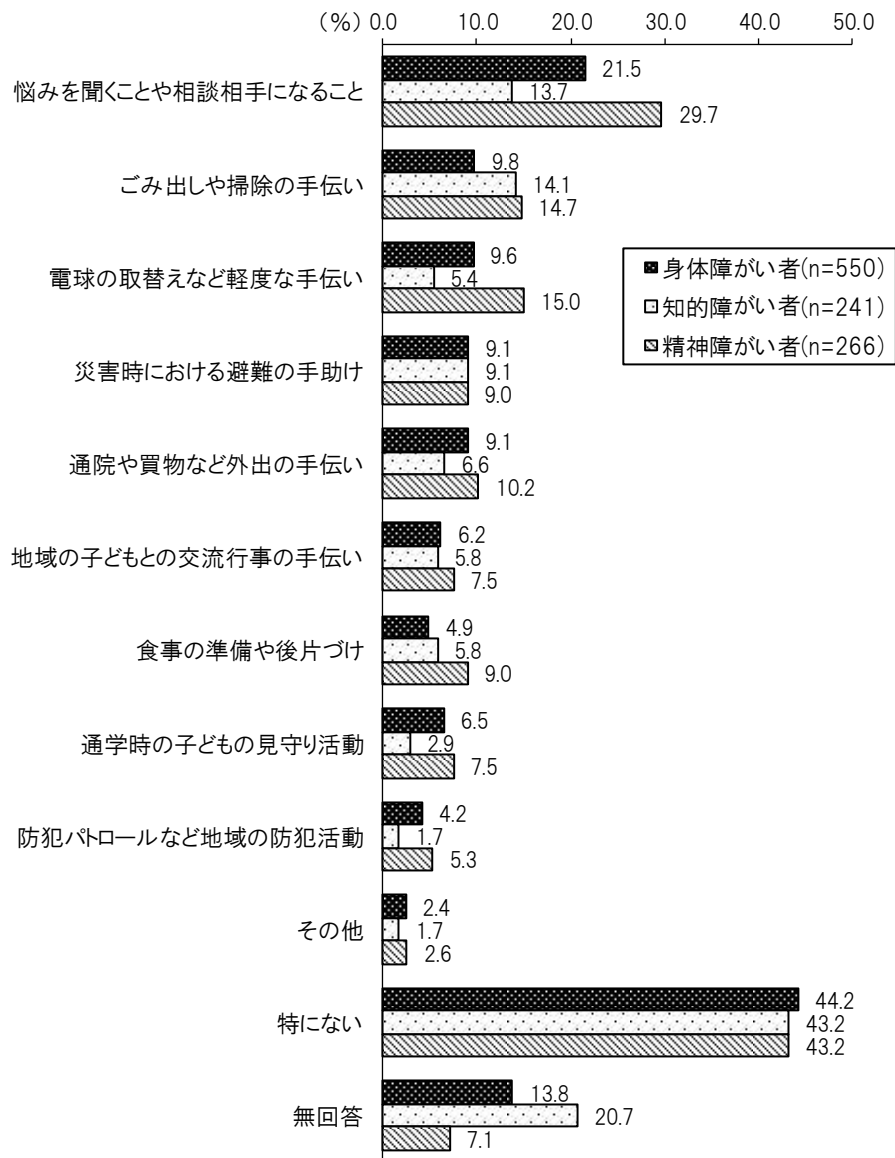
9 障がいのある人のために手助けできること

問 25 障がいのある人のために、あなたが手助けできそうな活動や協力できそうな活動はありますか。（あてはまるものすべてに○印）

障がいのある人のために手助けできることについては、「悩みを聞くことや相談相手になること」の割合が23.2%と最も高く、次いで「ごみ出しや掃除の手伝い」(12.8%)、「電球の取替えなど軽度な手伝い」(11.2%)、「災害時における避難の手助け」(9.7%)の順となっている。一方、約4割(42.3%)が「特にない」と回答している。



障がい種別では、精神障がい者で「悩みを聞くことや相談相手になること」「電球の取替えなど軽度な手伝い」の割合がほかの障がいに比べて高くなっている。



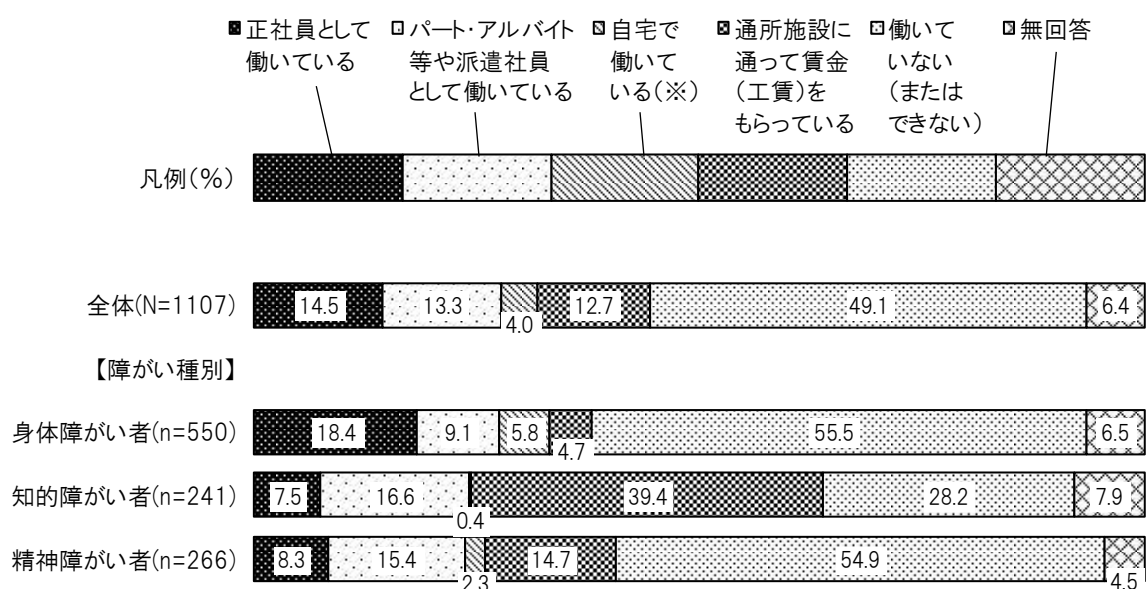
【5】就労について

1 就労状況

問 26 あなたは、現在、働いて収入を得ていますか。（○印は1つ）

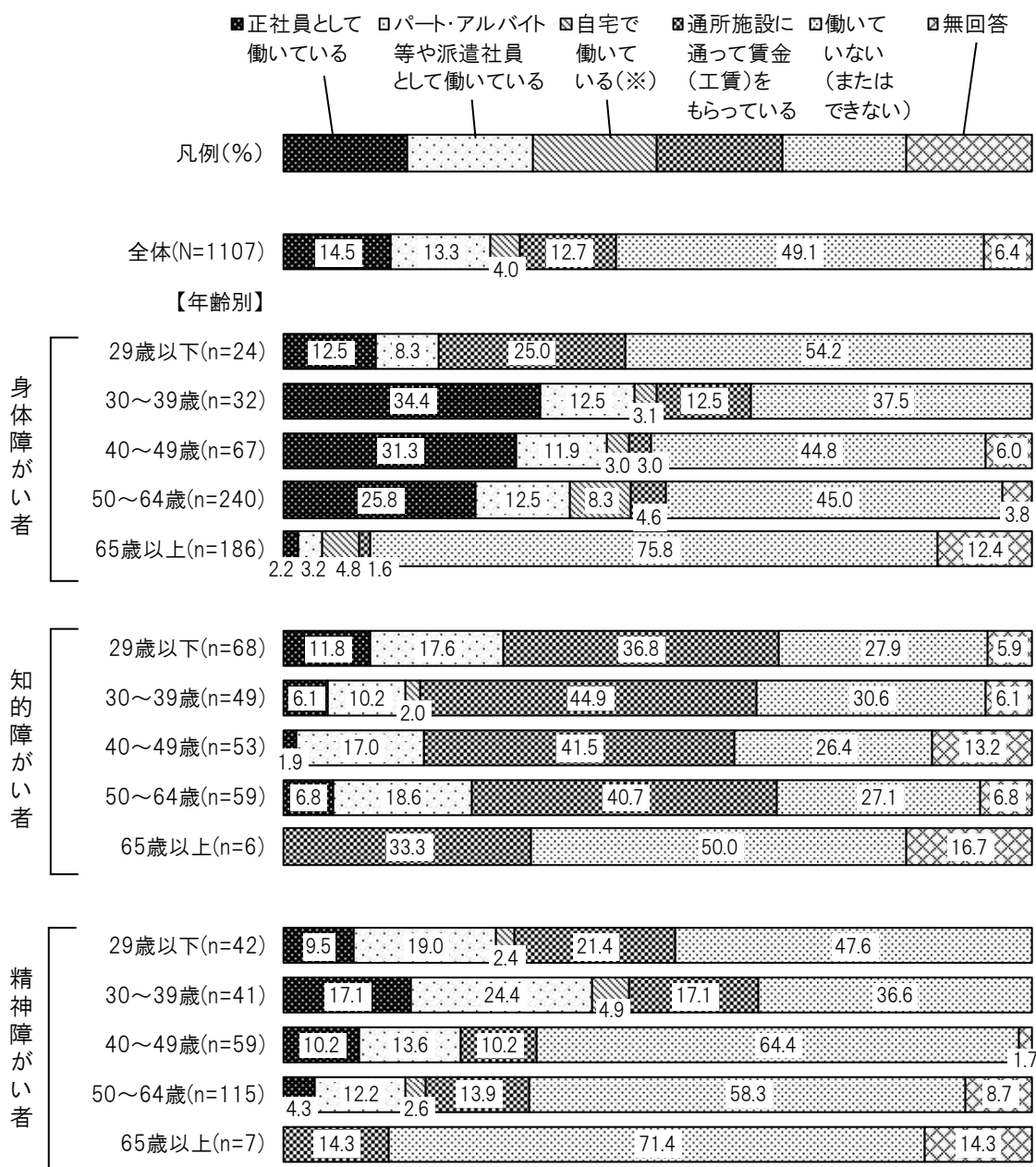
就労状況については、現在就労している人のうち「正社員として働いている」の割合が14.5%と最も高く、次いで「パート・アルバイト等や派遣社員として働いている」(13.3%)、「通所施設に通って賃金（工賃）をもらっている」(12.7%)、「自宅で働いている（自営業，創作活動などによる収入）」(4.0%)の順となっており、合計で44.5%となっている。一方、約半数（49.1%）は「働いていない（またはできない）」と回答している。

障がい種別では、身体障がい者で「正社員として働いている」、知的障がい者で「通所施設に通って賃金（工賃）をもらっている」の割合が高く、特徴としてあげられる。



※ 自宅で働いている(自営業，創作活動などによる収入)

年齢別でみると、身体障がい者では 29 歳以下で「通所施設に通って賃金（工賃）」をもらっている、50～64 歳で「自宅で働いている（自営業，創作活動などによる収入）」，精神障がい者では 30～39 歳で「正社員として働いている」「パート・アルバイト等や派遣社員として働いている」の割合がそれぞれほかの年齢層に比べて高くなっている。



※自宅で働いている(自営業，創作活動などによる収入)

注：知的障がい者及び精神障がい者の 65 歳以上については，件数(n=)が少ないため参考値として参照

2 一般就労への希望

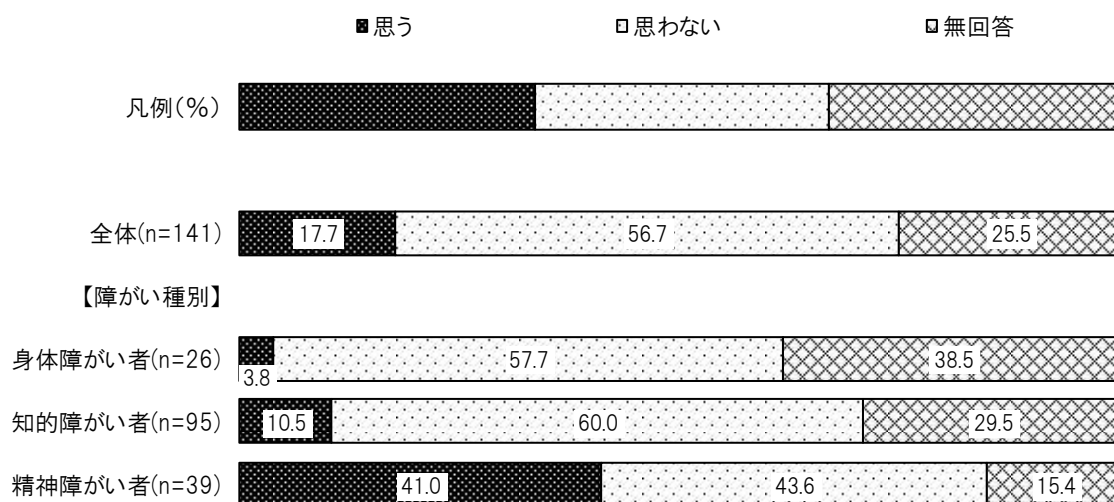
【問 26 で「4（通所施設に通っている）」を選んだ方におたずねします。】

問 27 あなたは今後、一般就労（一般企業などで働く）をしたいと思いますか。

（○印は1つ）

一般就労への希望については、一般就労をしたいと「思う」が 17.7%、「思わない」が 56.7%となっており、通所施設に通っている人の約6割は、一般ではなく現状のままの形態を望んでいる。

障がい種別では、精神障がい者の約4割が「思う」と回答している。



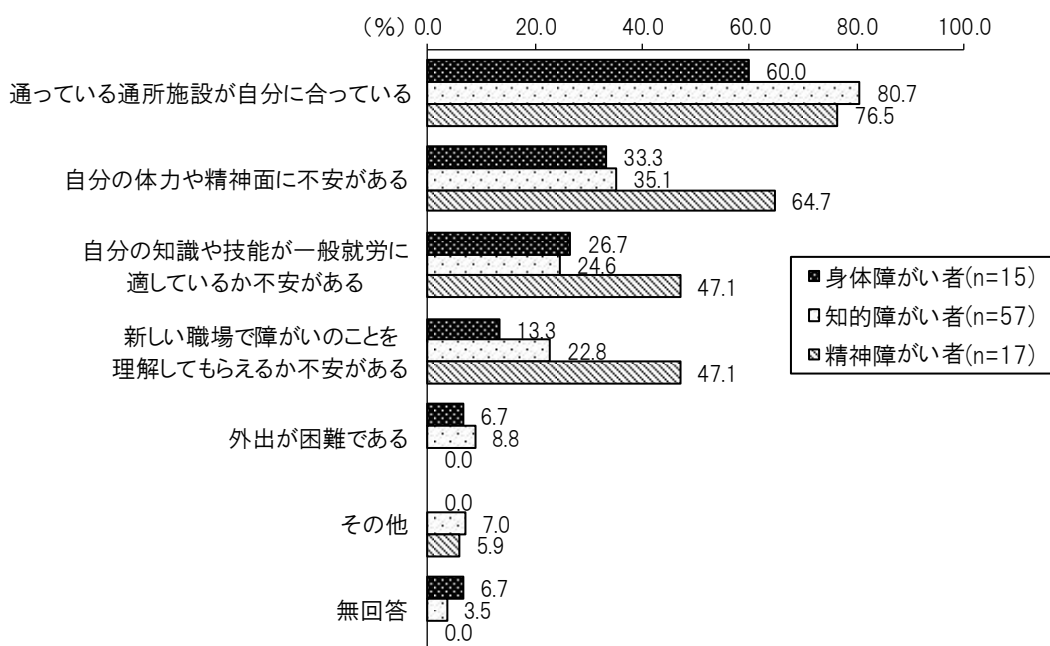
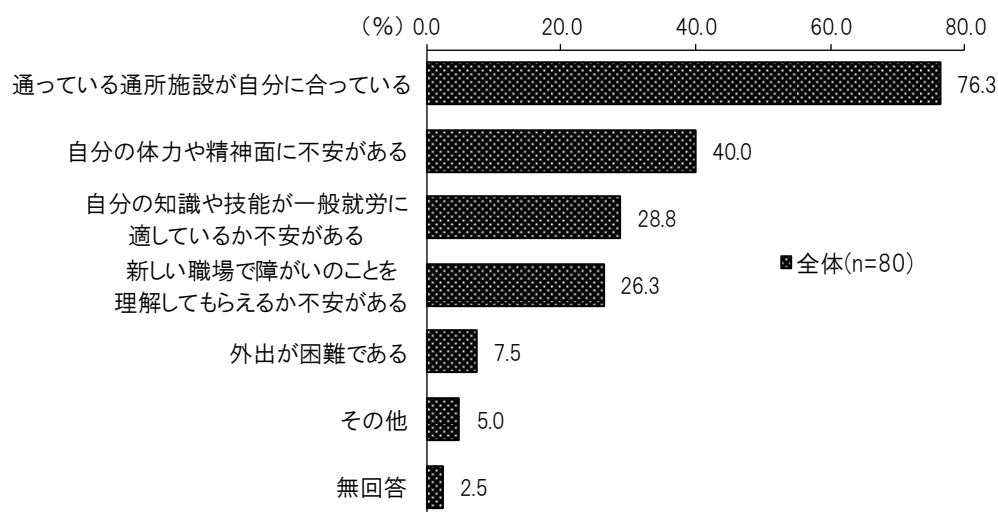
3 一般就労したいと思わない理由

【問 27 で「2（思わない）」を選んだ方におたずねします。】

問 28 あなたが一般就労（一般企業などで働く）をしたいと思わない理由は何ですか。
（あてはまるものすべてに○印）

一般就労したいと思わない理由については、「通っている通所施設が自分に合っている」の割合が 76.3%と最も高く、次いで「自分の体力や精神面に不安がある」（40.0%）、「自分の知識や技能が一般就労に適しているか不安がある」（28.8%）、「新しい職場で障がいのことを理解してもらえるか不安がある」（26.3%）の順となっている。

障がい種別では、精神障がい者で「自分の体力や精神面に不安がある」「自分の知識や技能が一般就労に適しているか不安がある」「新しい職場で障がいのことを理解してもらえるか不安がある」の割合がほかの障がいを大きく上回っている。



4 今後の就労継続意向

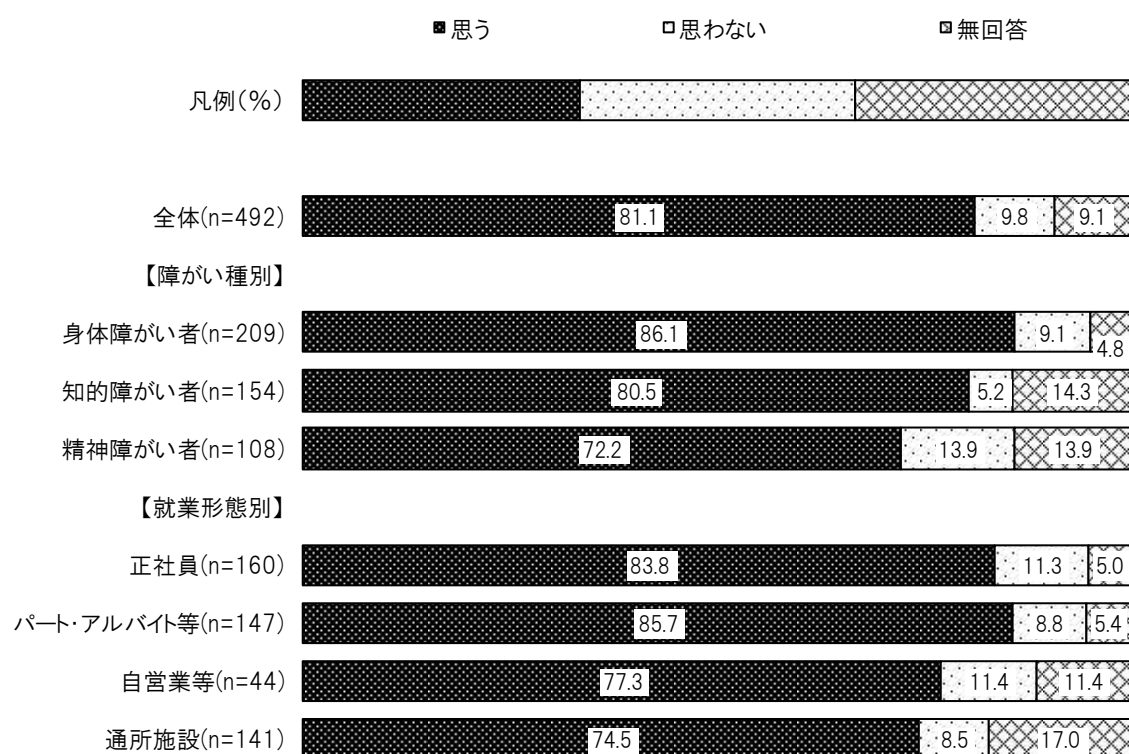
【問 26 で「1～4（働いている）」を選んだ方におたずねします。】

問 29 あなたは、今後も現在の仕事を続けたいと思いますか。（○印は1つ）

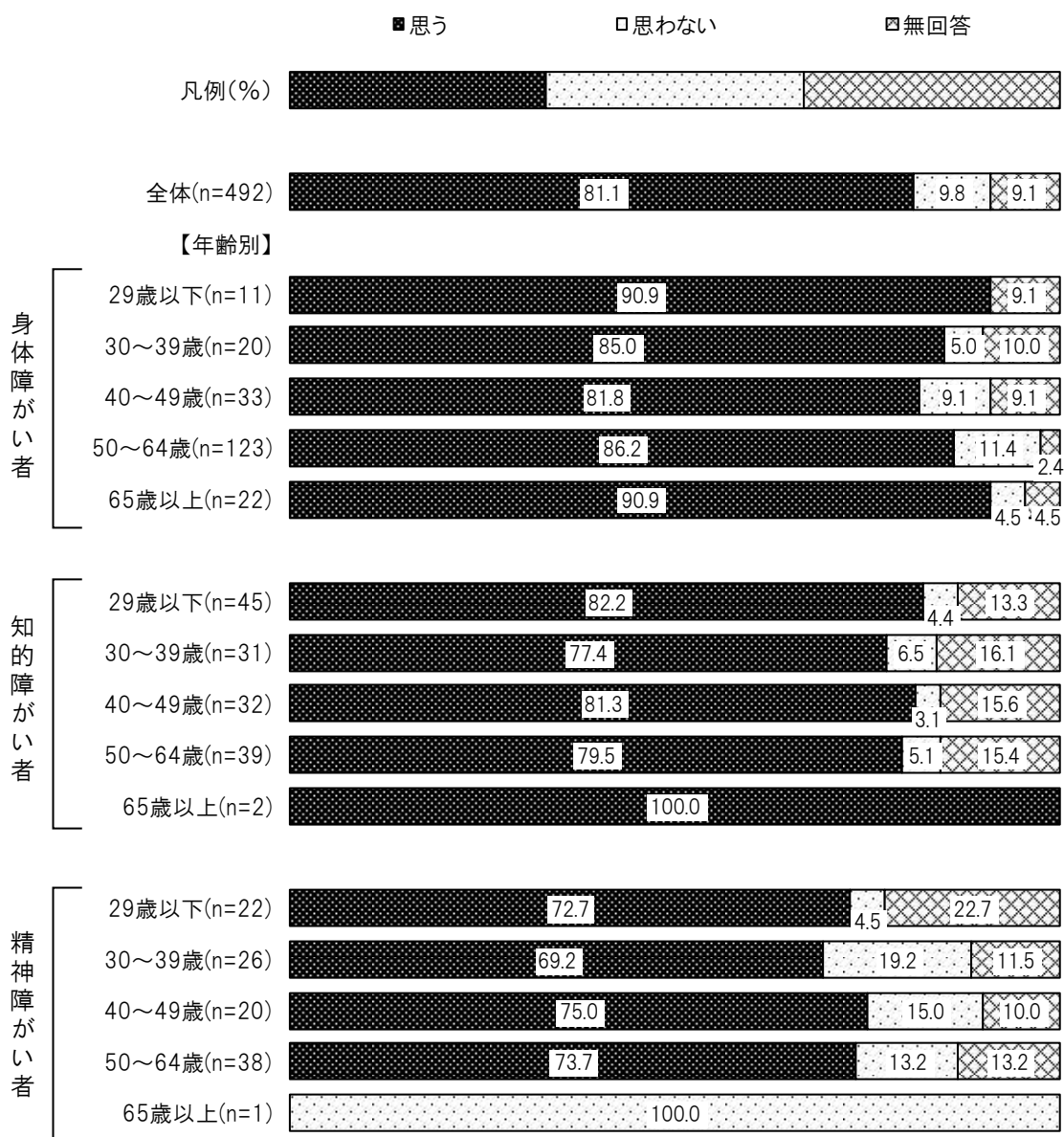
今後の就労継続意向については、現在の仕事を続けたいと「思わない」が約1割（9.8%）で、「思う」が約8割（81.1%）を占めている。

障がい種別では、身体障がい者で「思う」、精神障がい者で「思わない」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。

就業形態別（問 26）では、正社員やパート・アルバイト等で「思う」の割合がほかの就業形態に比べて高くなっている。



年齢別では、精神障がい者の 30～39 歳で「思わない」の割合がほかの年齢層に比べてやや高くなっている。



注：知的障がい者及び精神障がい者の 65 歳以上については、件数(n=)が少ないため参考値として参照

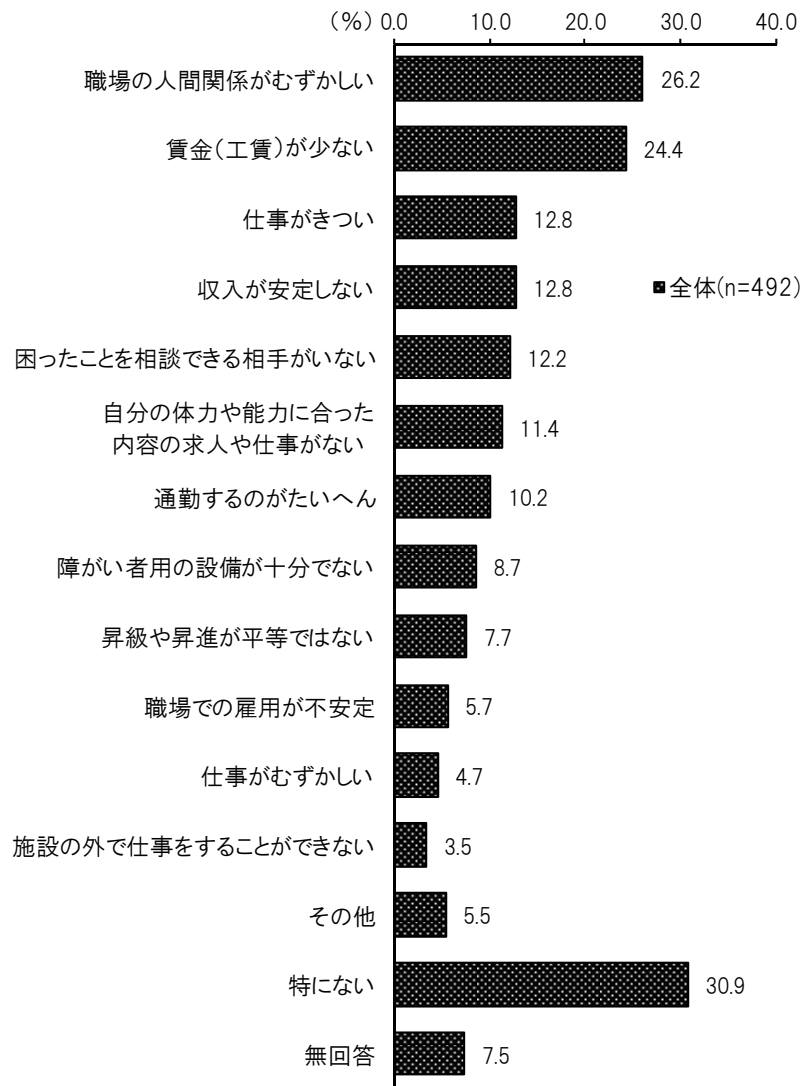
5 仕事をする上で困ったこと

【問 26 で「1～4（働いている）」を選んだ方におたずねします。】

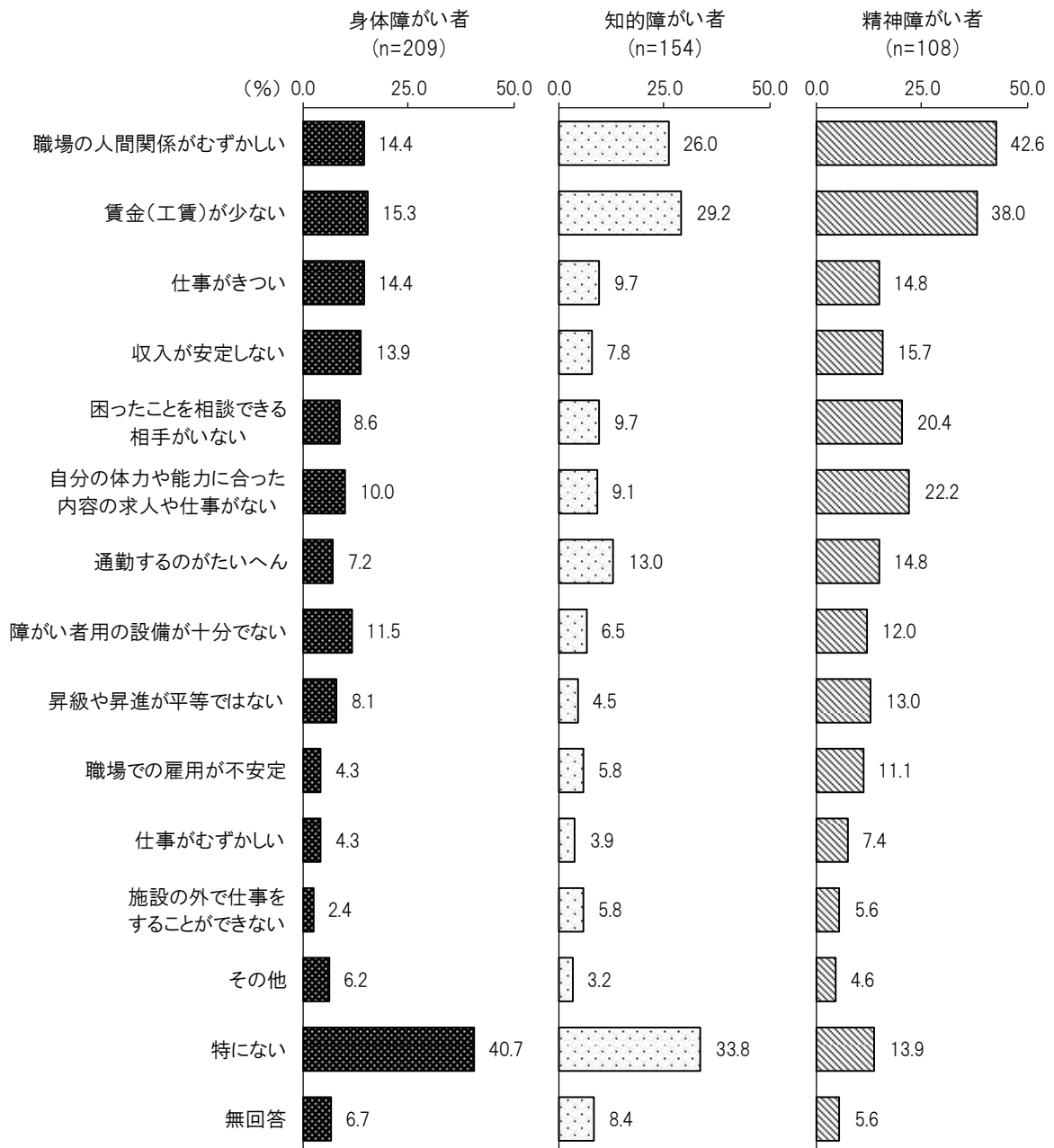
問 30 あなたが仕事をする上で、困ったことがありますか。

（あてはまるものすべてに○印）

仕事をする上で困ったことについては、「職場の人間関係がむずかしい」の割合が 26.2% と最も高く、次いで「賃金（工賃）が少ない」（24.4%）, 「仕事がつい」「収入が安定しない」（各 12.8%）, 「困ったことを相談できる相手がいない」（12.2%）の順となっている。一方、約 3 割（30.9%）は「特にない」と回答している。



障がい種別では、身体障がい者で「特にない」、精神障がい者で「職場の人間関係がむずかしい」「賃金（工賃）が少ない」「困ったことを相談できる相手がない」「自分の体力や能力に合った内容の求人や仕事がない」の割合がそれぞれほかの障がいを大きく上回っている。



年齢別では、身体障がい者では29歳以下で「仕事がきつい」「収入が安定しない」、30～39歳で「障がい者用の設備が十分でない」、精神障がい者では39歳以下で「職場の人間関係がむずかしい」、30～39歳で「困ったことを相談できる相手がいない」「自分の体力や能力に合った内容の求人や仕事がない」の割合がそれぞれほかの年齢層に比べて高くなっている。

単位 (%)	職場の人間関係がむずかしい	賃金(工賃)が少ない	仕事がきつい	収入が安定しない	困ったことを相談できる相手がいない	自分の体力や能力に合った内容の求人や仕事がない	通勤するのがたいへん	障がい者用の設備が十分でない	昇級や昇進が平等ではない	職場での雇用が不安定	仕事がむずかしい	施設の外で仕事をする事ができない	その他	特になし
全体(n=492)	26.2	24.4	12.8	12.8	12.2	11.4	10.2	8.7	7.7	5.7	4.7	3.5	5.5	30.9
【身体障がい者】														
29歳以下(n=11)	36.4	27.3	27.3	27.3	18.2	18.2	18.2	9.1	9.1	0.0	9.1	9.1	0.0	27.3
30～39歳(n=20)	15.0	20.0	20.0	5.0	15.0	5.0	15.0	25.0	10.0	0.0	0.0	0.0	10.0	35.0
40～49歳(n=33)	21.2	15.2	15.2	12.1	18.2	21.2	9.1	12.1	18.2	3.0	12.1	6.1	15.2	33.3
50～64歳(n=123)	11.4	16.3	13.0	13.0	4.9	8.9	4.9	11.4	6.5	6.5	3.3	1.6	4.9	43.1
65歳以上(n=22)	9.1	0.0	9.1	22.7	4.5	0.0	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
【知的障がい者】														
29歳以下(n=45)	26.7	37.8	20.0	8.9	15.6	13.3	22.2	8.9	4.4	2.2	11.1	6.7	4.4	26.7
30～39歳(n=31)	32.3	29.0	3.2	6.5	6.5	3.2	3.2	3.2	3.2	6.5	0.0	9.7	3.2	29.0
40～49歳(n=32)	18.8	18.8	9.4	3.1	6.3	12.5	6.3	9.4	0.0	3.1	0.0	6.3	0.0	46.9
50～64歳(n=39)	30.8	30.8	5.1	10.3	10.3	7.7	15.4	5.1	7.7	10.3	2.6	2.6	5.1	30.8
65歳以上(n=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
【精神障がい者】														
29歳以下(n=22)	50.0	45.5	13.6	13.6	22.7	22.7	22.7	13.6	18.2	4.5	13.6	18.2	4.5	13.6
30～39歳(n=26)	50.0	30.8	15.4	19.2	30.8	34.6	19.2	19.2	11.5	19.2	11.5	3.8	3.8	19.2
40～49歳(n=20)	25.0	45.0	10.0	15.0	20.0	15.0	5.0	0.0	10.0	5.0	5.0	5.0	5.0	10.0
50～64歳(n=38)	42.1	36.8	18.4	13.2	13.2	15.8	10.5	13.2	10.5	10.5	2.6	0.0	5.3	13.2
65歳以上(n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

注:知的障がい者及び精神障がい者の65歳以上については、件数(n)が少ないため参考値として参照

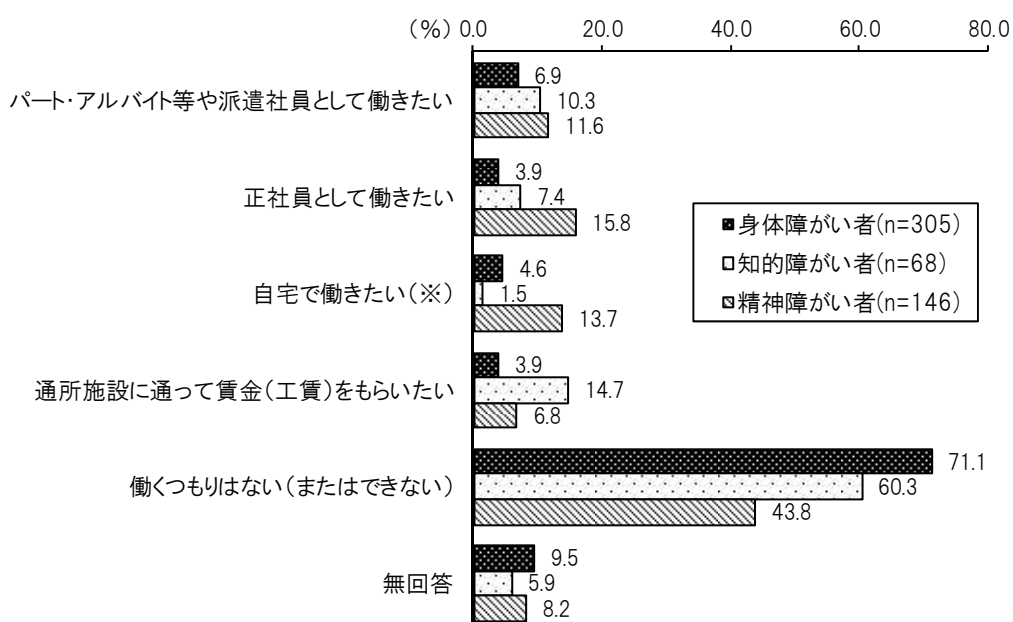
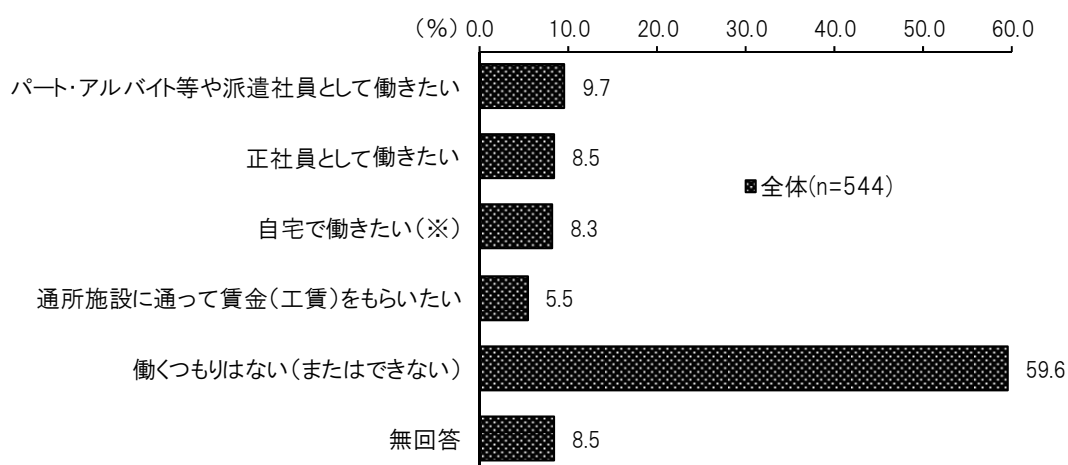
6 今後の就労意向

【問 26 で「5（働いていない）」を選んだ方におたずねします。】

問 31 あなたは、今後、働いて収入を得たいと思いますか。（○印は 1 つ）

今後の就労意向については、約 6 割 (59.6%) が「働くつもりはない（またはできない）」と回答しているが、「パート・アルバイト等や派遣社員として働きたい」が 9.7%、「正社員として働きたい」が 8.5%、「自宅で働きたい（自営業，創作活動などによる収入）」が 8.3%となっている。

障がい種別では、身体障がい者で「働くつもりはない（またはできない）」、知的障がい者で「通所施設に通って賃金（工賃）をもらいたい」、精神障がい者で「正社員として働きたい」「自宅で働きたい（自営業，創作活動などによる収入）」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。

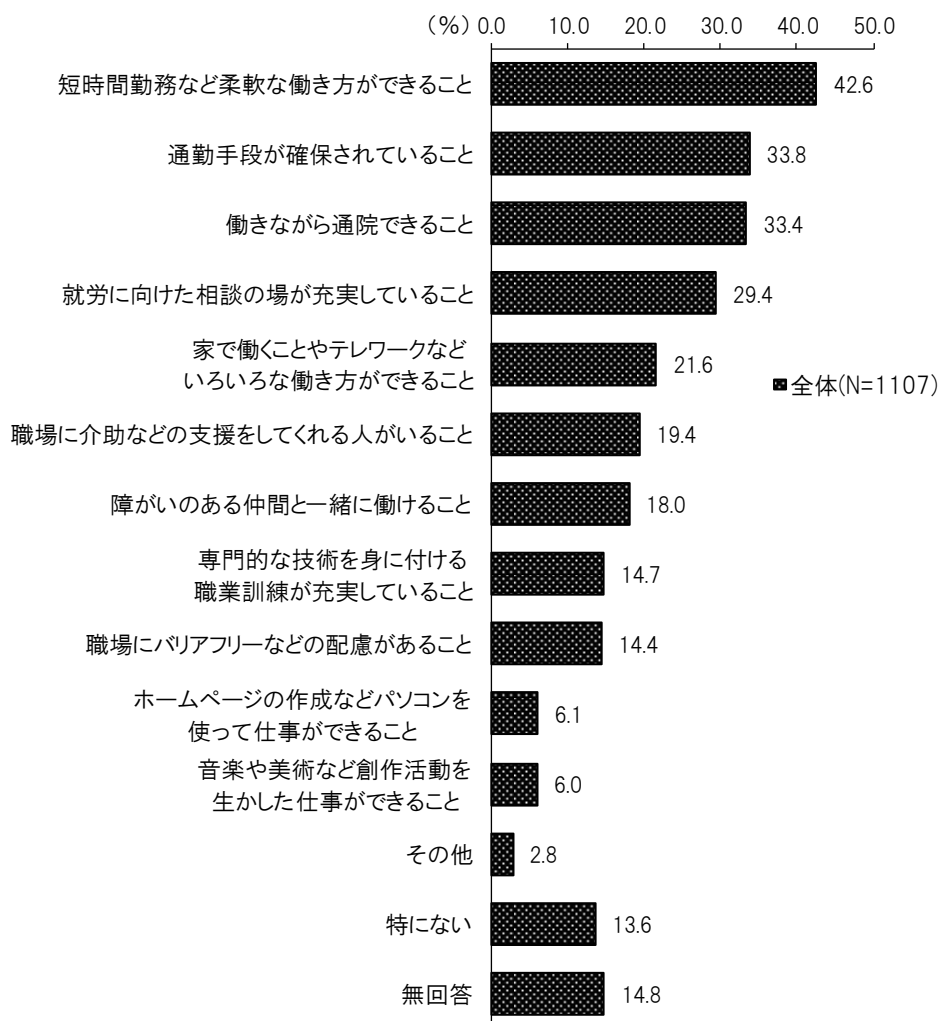


※ 自宅で働きたい(自営業，創作活動などによる収入)

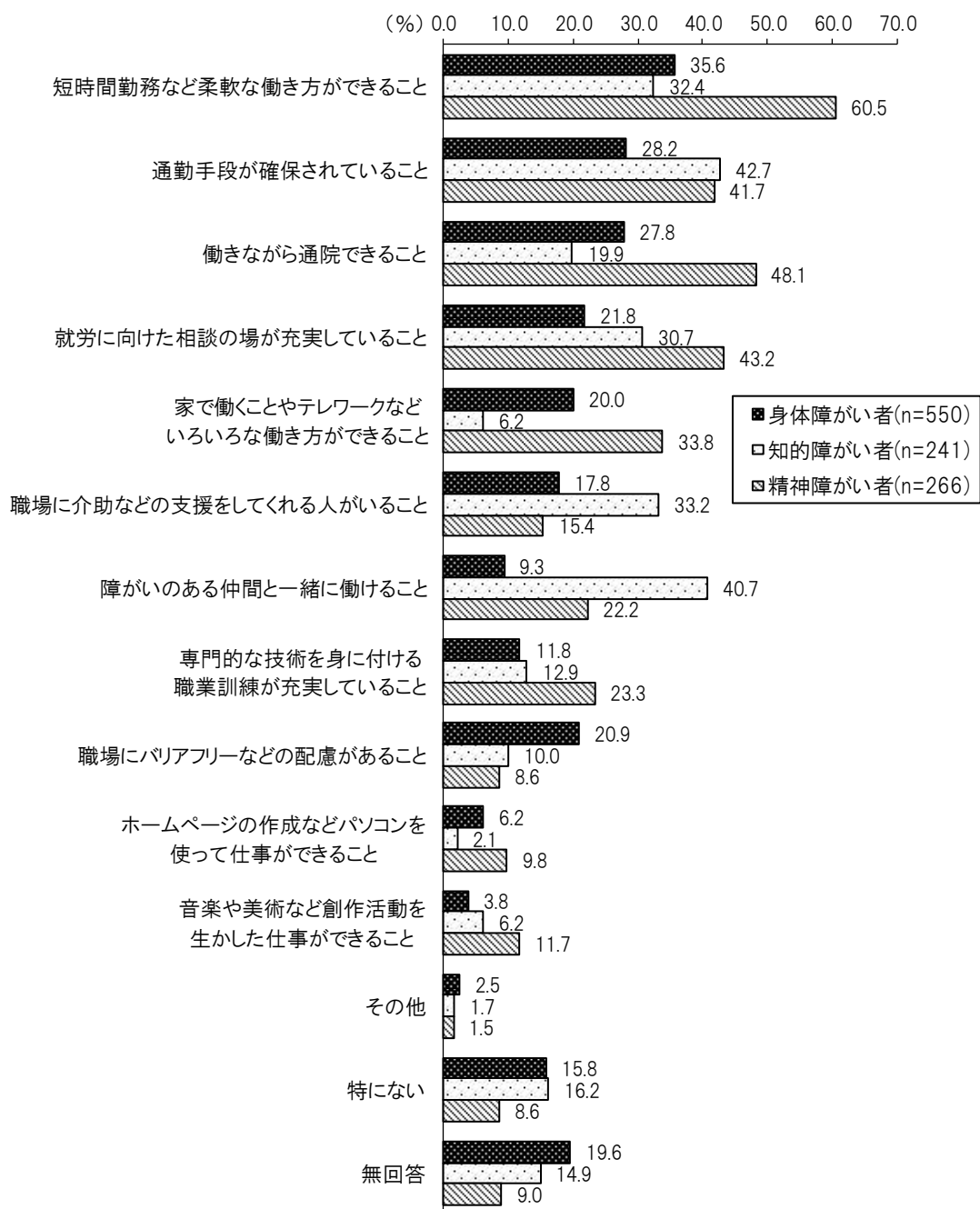
7 働きやすいと思うために必要なこと

問 32 障がいがあっても働きたい、働きやすいと思うためには、どのようなことが必要だと思いますか。（主なもの5つまでに○印）

働きやすいと思うために必要なことについては、「短時間勤務など柔軟な働き方ができること」の割合が42.6%と最も高く、次いで「通勤手段が確保されていること」(33.8%)、「働きながら通院できること」(33.4%)、「就労に向けた相談の場が充実していること」(29.4%)、「家で働くことやテレワークなどいろいろな働き方ができること」(21.6%)の順となっている。



障がい種別では、身体障がい者で「職場にバリアフリーなどの配慮があること」、知的障がい者で「職場に介助などの支援をしてくれる人がいること」「障がいのある仲間と一緒に働けること」、精神障がい者で「短時間勤務など柔軟な働き方ができること」「働きながら通院できること」「就労に向けた相談の場が充実していること」「家で働くことやテレワークなどいろいろな働き方ができること」などの割合がそれぞれほかの障がいを大きく上回っている。



【6】地域での暮らしについて

1 障がいのある人に対する地域の人の理解

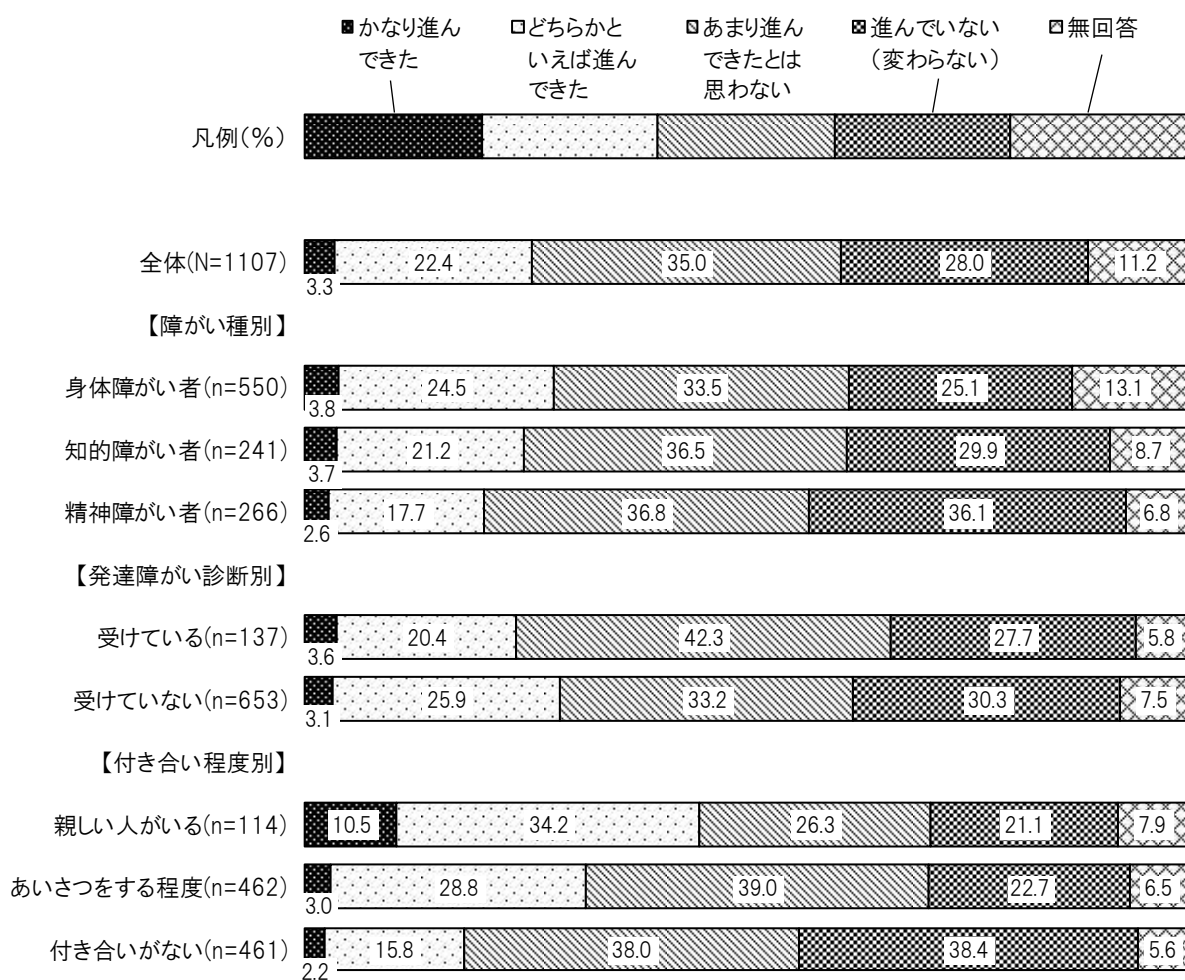
問 33 障がいのある人に対する、地域の人の理解は進んできたと思いますか。
(○印は1つ)

障がいのある人に対する地域の人の理解については、「かなり進んできた」が3.3%、「どちらかといえば進んできた」が22.4%、合計で25.7%が『進んできた』と回答している。一方、「あまり進んできたとは思わない」(35.0%)、「進んでいない(変わらない)」(28.0%)の合計は63.0%となっている。

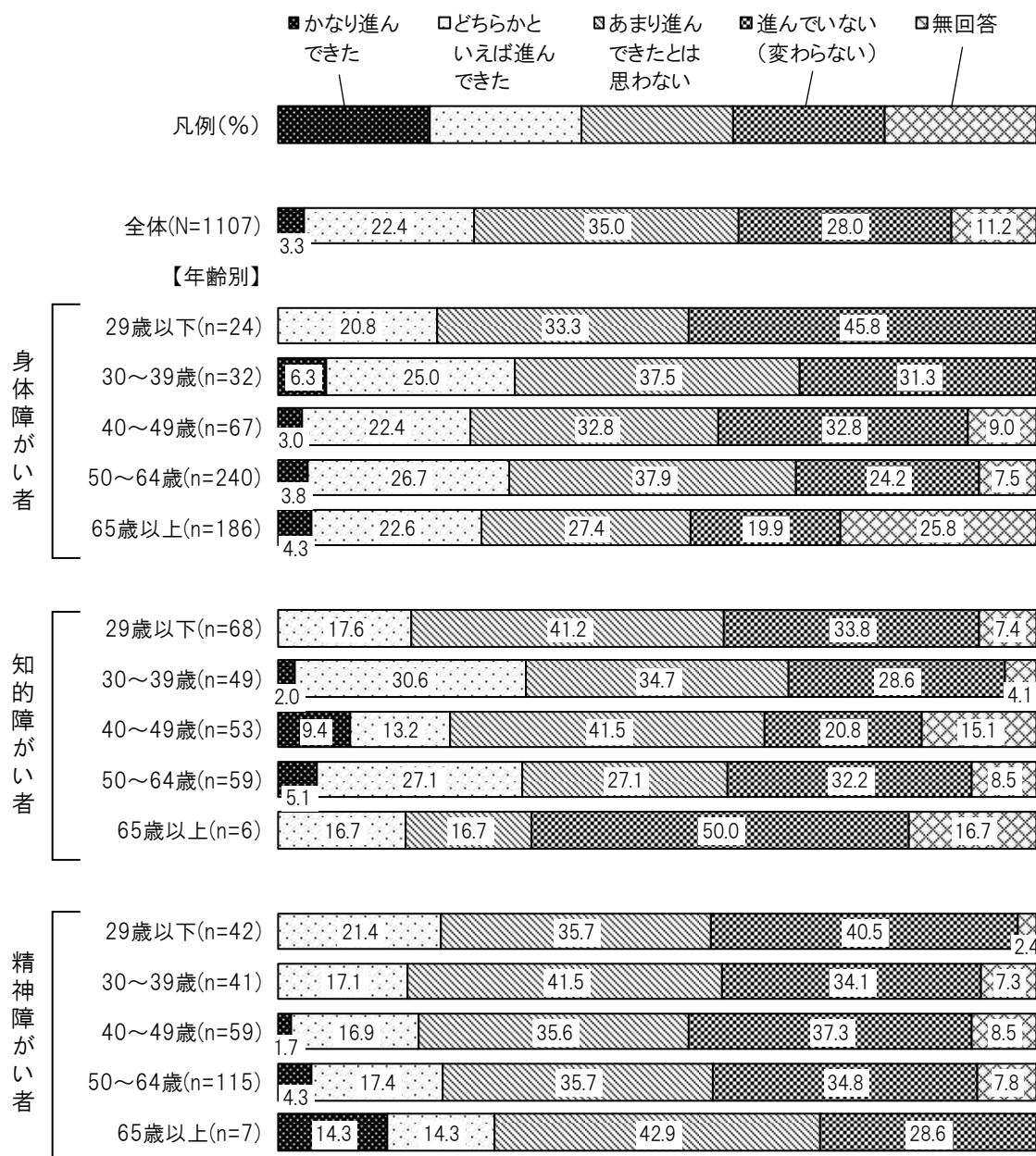
障がい種別では、精神障がい者で「進んでいない(変わらない)」の割合がほかの障がいに比べて高くなっている。

発達障がいの診断を受けている人は受けていない人に比べ、「あまり進んできたとは思わない」の割合が高くなっている。

付き合い程度別(問34)では、近所に親しい人がいる人ほど『進んできた(合計)』の割合が高くなっている。



年齢別では、身体障がい者の 29 歳以下で「進んでいない (変わらない)」, 身体障がい者や知的障がい者の 30~39 歳, 50~64 歳で『進んできた (合計)』の割合がそれぞれほかの年齢層に比べて高くなっている。



注: 知的障がい者及び精神障がい者の 65 歳以上については、件数(n=)が少ないため参考値として参照

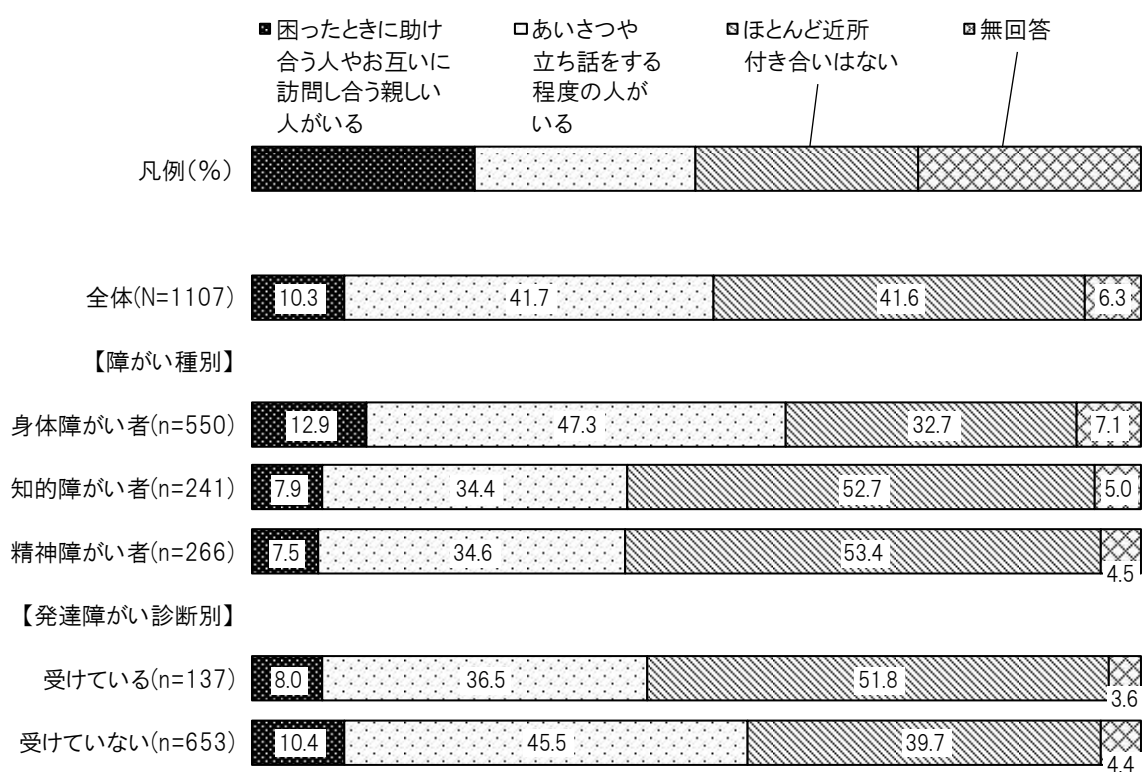
2 近所の人との付き合い程度

問 34 あなたとご近所の人との関係は、次のどれに最も近いですか。（○印は1つ）

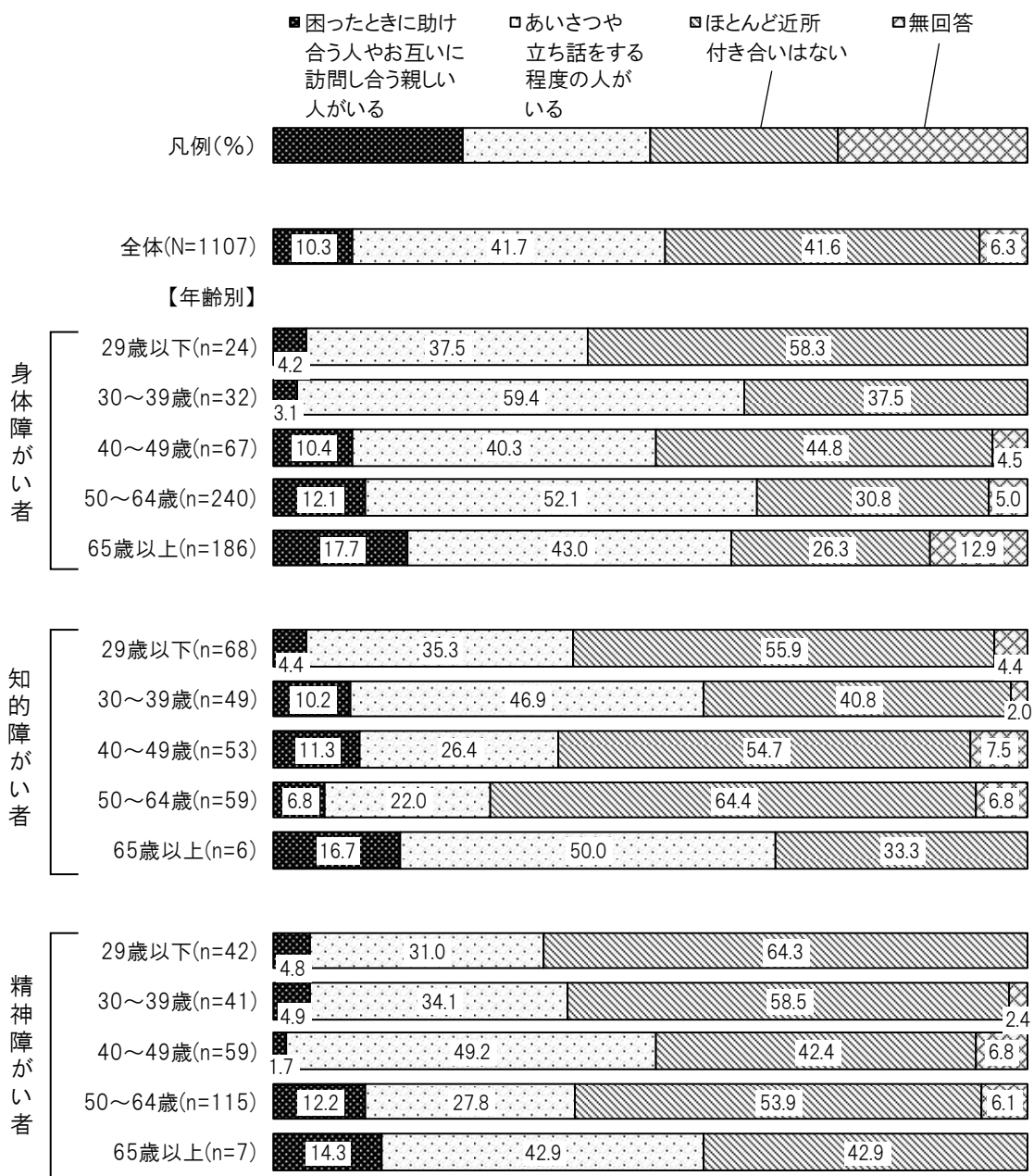
近所の人との付き合い程度については、「困ったときに助け合う人やお互いに訪問し合う親しい人がいる」が10.3%、「あいさつや立ち話をする程度の人がある」が41.7%、「ほとんど近所付き合いはない」が41.6%となっている。

障がい種別では、身体障がい者で「あいさつや立ち話をする程度の人がある」の割合がほかの障がいを大きく上回っている。

発達障がいの診断を受けている人は受けていない人に比べ、「ほとんど近所付き合いはない」の割合が高くなっている。



年齢別でみると、身体障がい者ではおおむね年齢が上がるほど「困ったときに助け合う人やお互いに訪問し合う親しい人がいる」の割合が高く、29歳以下で「ほとんど近所付き合いはない」の割合が高くなっている。また、知的障がい者では50～64歳で「ほとんど近所付き合いはない」の割合がほかの年齢層に比べて高くなっている。

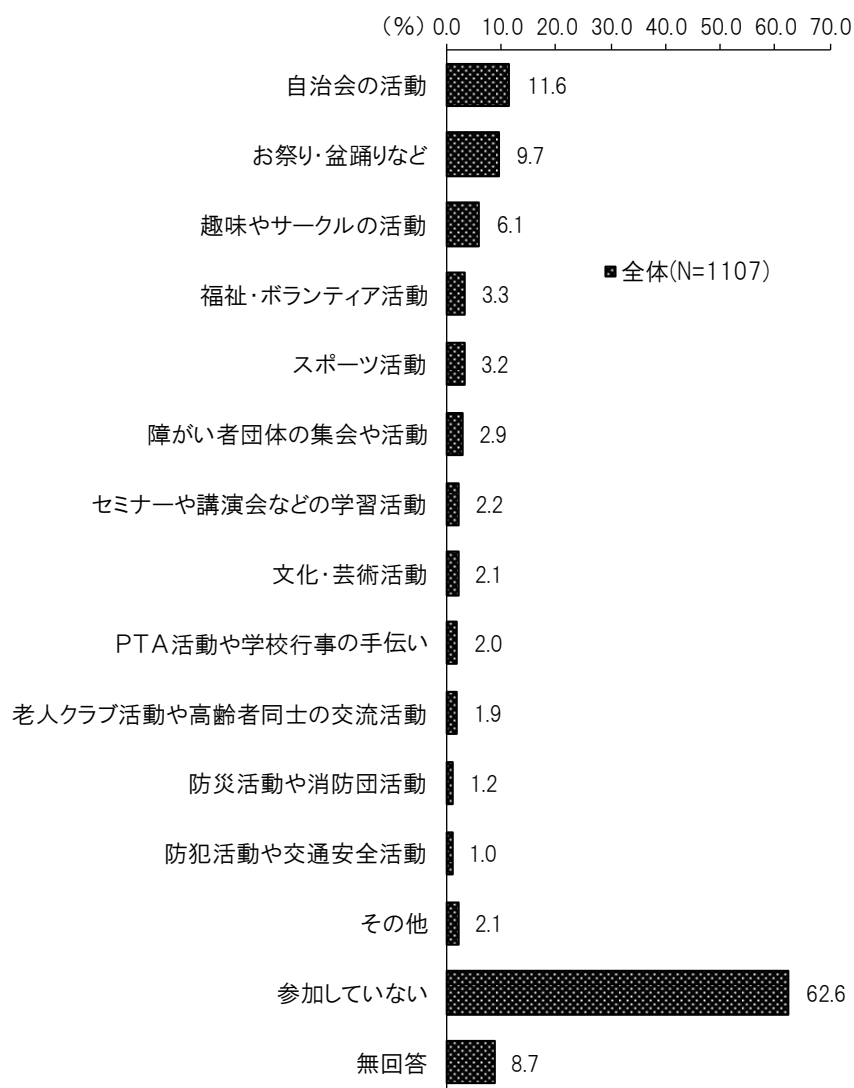


注:知的障がい者及び精神障がい者の65歳以上については、件数(n)が少ないため参考値として参照

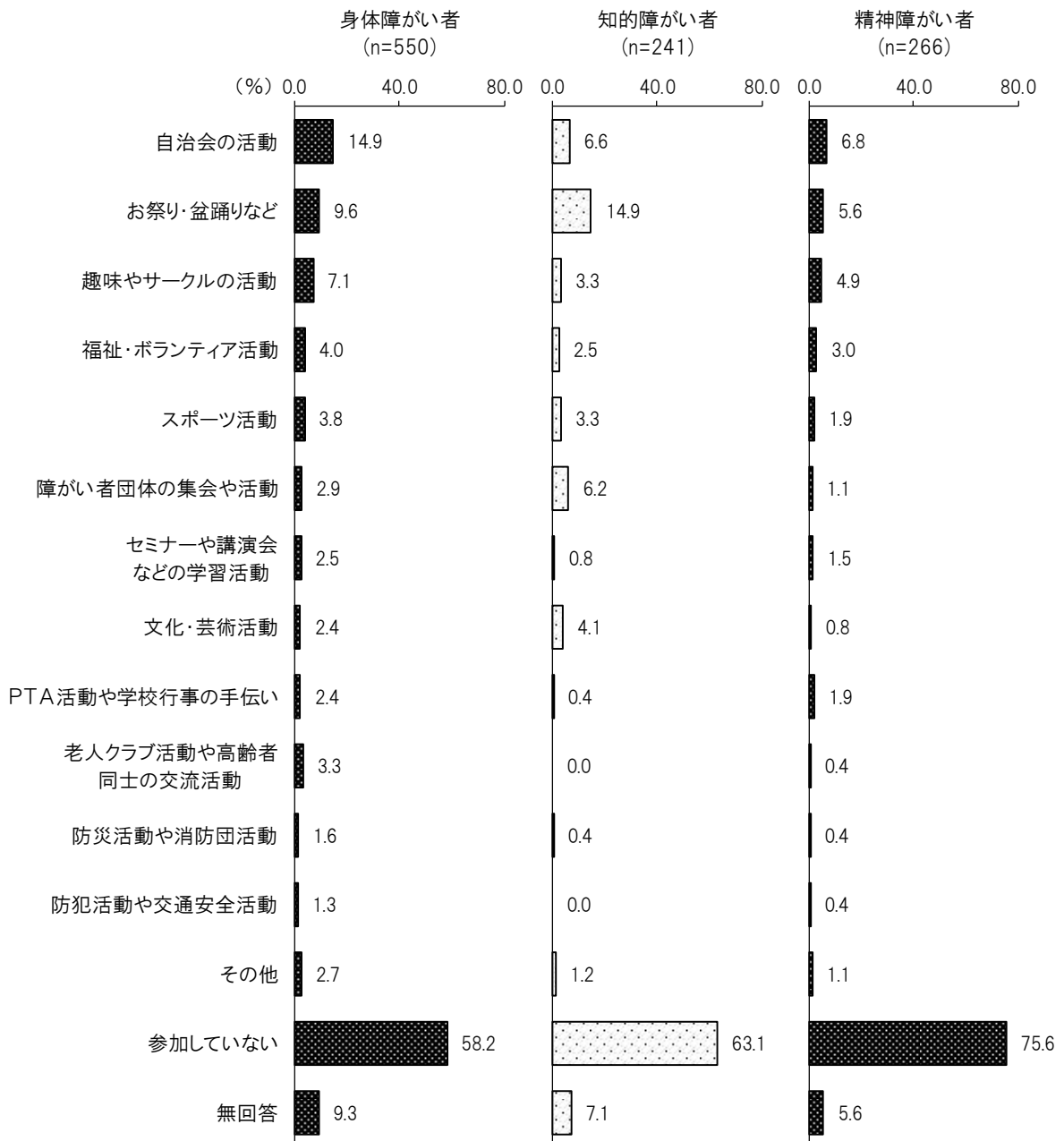
3 地域の行事や活動などへの参加状況

問 35 あなたは、現在、地域の行事や活動などに参加していますか。コロナ禍以前の活動も含めてお答えください。（あてはまるものすべてに○印）

地域の行事や活動などへの参加状況については、6割以上（62.6%）が「参加していない」と回答しているが、参加している活動では「自治会の活動」の割合が11.6%と最も高く、次いで「お祭り・盆踊りなど」（9.7%）、「趣味やサークルの活動」（6.1%）の順となっている。



障がい種別では、身体障がい者で「自治会の活動」、知的障がい者で「お祭り・盆踊りなど」、精神障がい者で「参加していない」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。



年齢別では、身体障がい者では50～64歳で「自治会の活動」、65歳以上で「趣味やサークルの活動」、知的障がい者では40～64歳で「お祭り・盆踊りなど」の割合がそれぞれほかの年齢層に比べて高くなっている。

凡例 (%)	自治会の活動	お祭り・盆踊りなど	趣味やサークルの活動	福祉・ボランティア活動	スポーツ活動	障がい者団体の集会や活動	セミナーや講演会などの学習活動	文化・芸術活動	PTA活動や学校行事の手伝い	老人クラブ活動や高齢者同士の交流活動	防災活動や消防団活動	防犯活動や交通安全活動	その他	参加していない
全体(N=1107)	11.6	9.7	6.1	3.3	3.2	2.9	2.2	2.1	2.0	1.9	1.2	1.0	2.1	62.6
【身体障がい者】														
29歳以下(n=24)	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	79.2
30～39歳(n=32)	0.0	9.4	3.1	3.1	0.0	6.3	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0	3.1	78.1
40～49歳(n=67)	7.5	19.4	3.0	0.0	1.5	0.0	0.0	1.5	6.0	0.0	3.0	0.0	7.5	61.2
50～64歳(n=240)	22.9	9.6	3.8	4.2	4.6	3.8	3.3	3.8	2.1	1.3	1.7	1.3	2.1	54.2
65歳以上(n=186)	11.3	7.0	14.0	5.4	4.3	1.6	3.2	1.6	1.1	8.1	1.6	2.2	2.2	56.5
【知的障がい者】														
29歳以下(n=68)	4.4	8.8	2.9	1.5	1.5	5.9	1.5	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	70.6
30～39歳(n=49)	8.2	8.2	4.1	2.0	0.0	10.2	0.0	4.1	2.0	0.0	0.0	0.0	2.0	69.4
40～49歳(n=53)	5.7	20.8	0.0	0.0	9.4	5.7	0.0	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	64.2
50～64歳(n=59)	8.5	23.7	5.1	3.4	3.4	3.4	1.7	6.8	0.0	0.0	1.7	0.0	3.4	52.5
65歳以上(n=6)	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
【精神障がい者】														
29歳以下(n=42)	4.8	9.5	9.5	0.0	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	78.6
30～39歳(n=41)	2.4	4.9	7.3	2.4	2.4	0.0	0.0	2.4	2.4	2.4	0.0	0.0	4.9	73.2
40～49歳(n=59)	6.8	1.7	3.4	5.1	1.7	3.4	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	81.4
50～64歳(n=115)	9.6	5.2	3.5	3.5	1.7	0.9	2.6	0.9	2.6	0.0	0.9	0.9	0.0	73.0
65歳以上(n=7)	0.0	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	57.1

注：知的障がい者及び精神障がい者の65歳以上については、件数(n)が少ないため参考値として参照

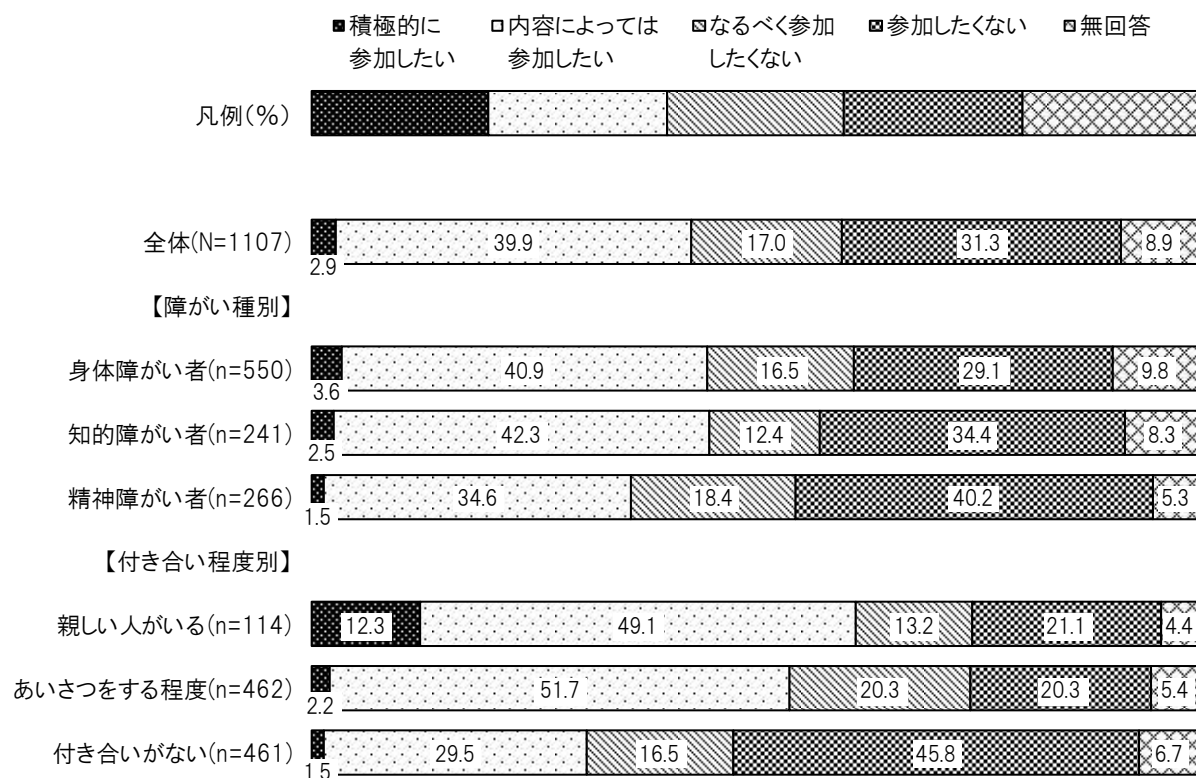
4 地域の活動への参加意向

問 36 あなたは今後、地域の活動に参加したいですか。(○印は1つ)

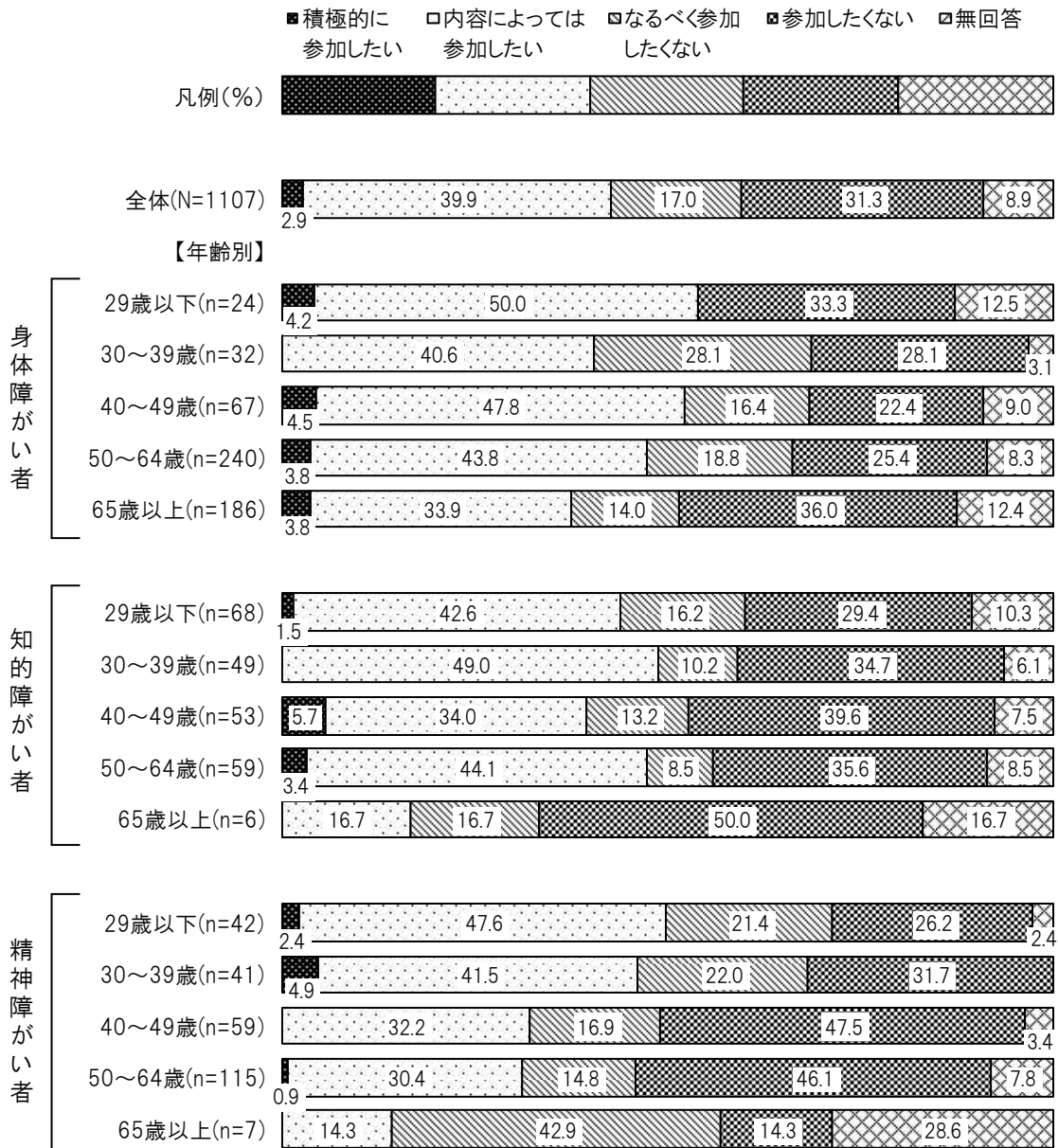
地域の活動への参加意向については、「積極的に参加したい」が2.9%、「内容によっては参加したい」が39.9%、合計で42.8%が『参加したい』と回答している。一方、「なるべく参加したくない」(17.0%)、「参加したくない」(31.3%)の合計は48.3%となっている。

障がい種別では、精神障がい者で『参加したくない(合計)』の割合がほかの障がいを大きく上回っている。

付き合い程度別では、近所に親しい人がいる人ほど『参加したい(合計)』の割合が高くなっている。



年齢別でみると、精神障がい者では39歳以下で『参加したい(合計)』, 40~64歳で「参加したくない」の割合がそれぞれほかの年齢層を大きく上回っている。



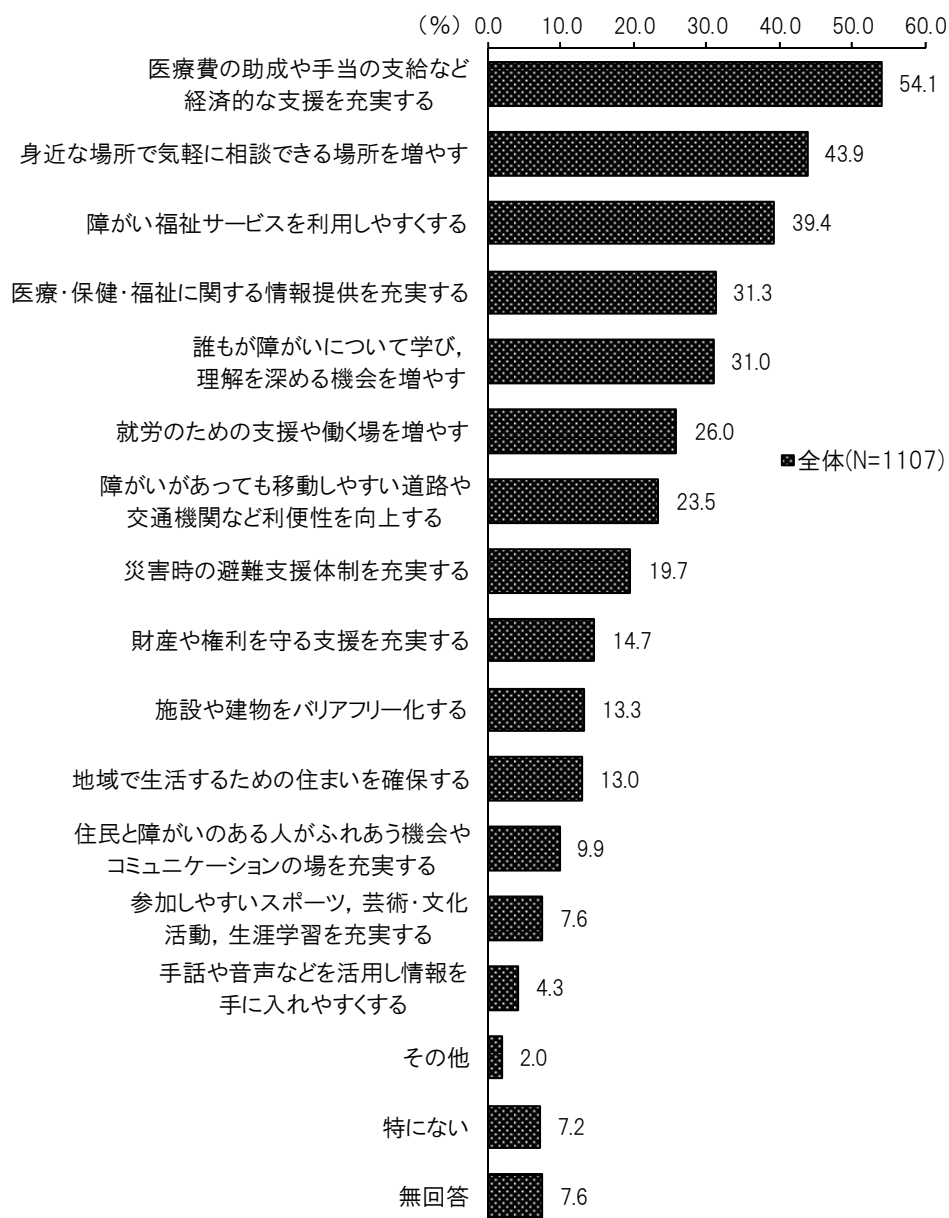
注: 知的障がい者及び精神障がい者の65歳以上については、件数(n)が少ないため参考値として参照

【7】行政の福祉施策について

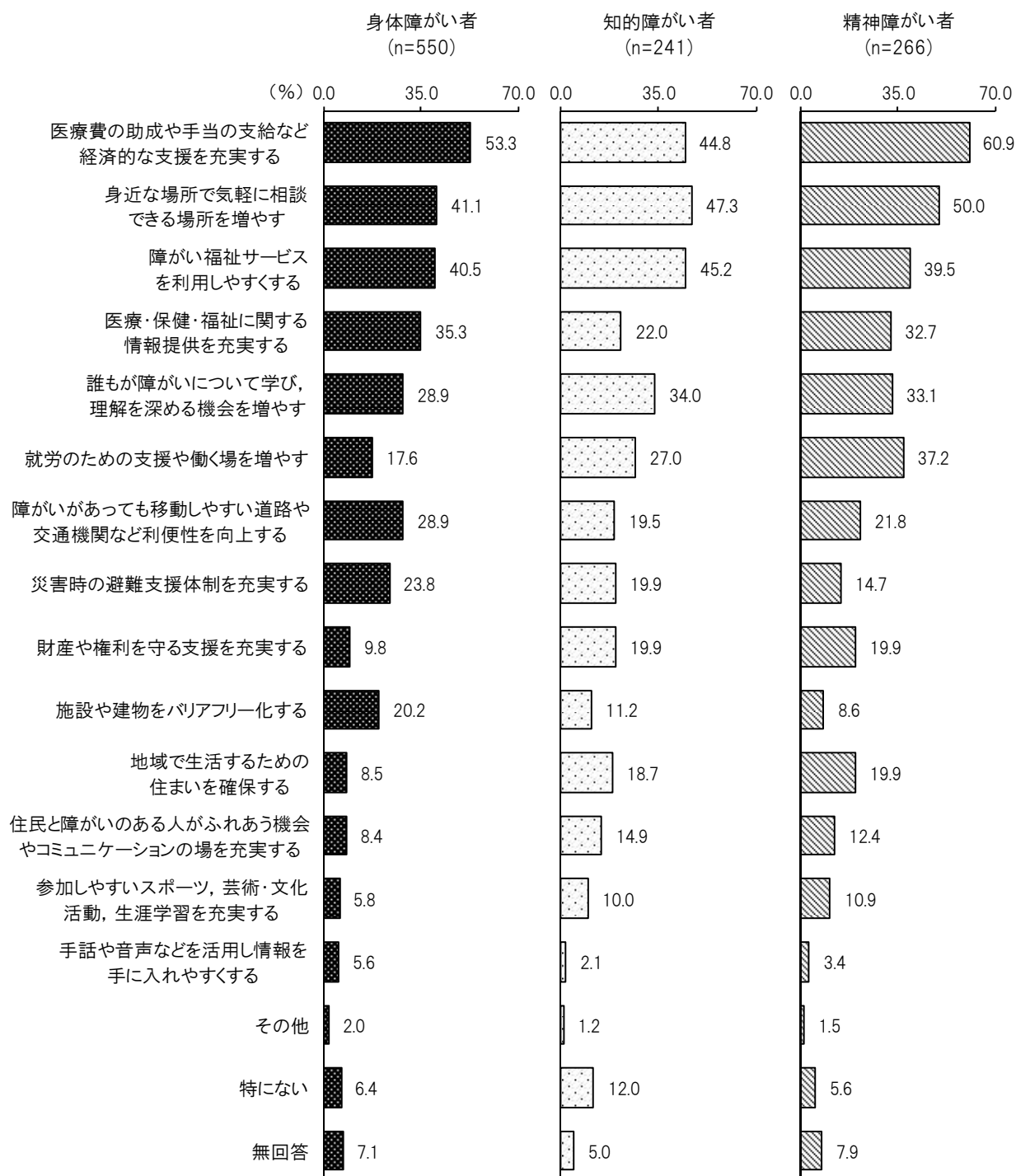
1 市が力を入れるべき取組

問 37 あなたは、障がいのある人にとって暮らしやすいまちをつくるためには、福山市はどのような取組に力を入れるべきだと思いますか。あなたが最も力を入れるべきだと思う項目を、上位5つまで選んでください。（主なもの5つまでに○印）

市が力を入れるべき取組については、「医療費の助成や手当の支給など経済的な支援を充実する」の割合が54.1%と最も高く、次いで「身近な場所で気軽に相談できる場所を増やす」（43.9%）、「障がい福祉サービスを利用しやすくする」（39.4%）、「医療・保健・福祉に関する情報提供を充実する」（31.3%）、「誰もが障がいについて学び、理解を深める機会を増やす」（31.0%）の順となっている。



障がい種別では、身体障がい者で「障がいがあっても移動しやすい道路や交通機関など利便性を向上する」「災害時の避難支援体制を充実する」「施設や建物をバリアフリー化する」、知的障がい者で「障がい福祉サービスを利用しやすくする」、精神障がい者で「医療費の助成や手当の支給など経済的な支援を充実する」「就労のための支援や働く場を増やす」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。



Ⅱ-3 資料 調査票

福山市 福祉に関するアンケート調査

【ご協力のお願い】

日頃より、本市の福祉行政にご理解とご協力をいただき厚く御礼申し上げます。
本市では、障がい福祉サービスの支給方針をとりまとめた「福山市障がい福祉計画」等の策定に取り組んでいます。

この調査は、計画の策定にあたって、市内にお住まいの障がい者手帳をお持ちの方を対象に、福祉サービスに対するご意見などをお伺いし、計画づくりに役立てる基礎資料とするものです。

このアンケート調査票は、身体障がい者手帳、療育手帳、精神障がい者保健福祉手帳のいずれかをお持ちの方（本年7月1日現在）から無作為に抽出した方にお送りし、回答をお願いしています。

調査は、無記名でご回答いただきますので、回答された方が特定されたり、個人の回答内容が明らかにされることはありません。

ご多用のところ誠にお手数をおかけしますが、調査の趣旨をご理解いただき、回答にご協力くださいますようお願い申し上げます。

2023年（令和5年）7月

福山市

【調査に関する問い合わせ先】

福山市 保健福祉局 福祉部 障がい福祉課

〒720-8501 福山市東桜町3番5号

TEL：(084)928-1208

FAX：(084)928-1730

この調査票は、8月14日（月曜日）までに、同封の返信用封筒に入れて、

無^む記^き名^{めい}で返^{へん}送^{そう}してください。(切^き手^ては不^ふ要^{よう}です。)

【 ご記入にあたってのお願い 】

- 1 このアンケートに直接お書きください。
 - 2 ご本人が直接お答えいただくことが難しい場合には、ご家族や介助者の方などが、可能な範囲でご本人のお考えをお聞きの上、または、ご意向を尊重してお答えください。
 - 3 市役所の職員が、直接聞き取りをさせていただくことも可能です。希望される方は、福山市障がい福祉課までご連絡ください。
 - 4 回答は、2023年（令和5年）7月1日現在の内容をお答えください。
 - 5 答えにくいことや答えたくない質問には、無理にお答えいただく必要はありません。
- ※ この調査票では、郵送された宛名の方を「あなた」と書いていますので、あなたの状況やご意見をお答えください。

はじめに、お答え^{こた}いただく方^{かた}についておたずねします。

問1 このアンケートにお答え^{こた}いただくのは、どなたですか。(○印^{じるし}は1つ)

- 1 宛名^{あてな}のご本人^{ほんにん}(この調査票^{ちようさひひょう}が郵送^{ゆうそう}された宛名^{あてな}の方^{かた})
- 2 ご本人^{ほんにん}の家族^{かぞく}
- 3 家族^{かぞく}以外の介助者^{かいじょしや}

あなた(宛名^{あてな}のご本人^{ほんにん})のことについておたずねします。

問2 あなたが住^すんでいる小学校区^{しょうがっこうく}をお答え^{こた}ください。(○印^{じるし}は1つ)

※ 小学校区^{しょうがっこうく}の名前^{なまえ}はあいうえお順^{じゆん}に並^{なら}んでいます。

- | | | | | |
|--------------------------|---------------------------|------------------------------|--------------------------|---------------------------|
| 1 赤坂 ^{あかさか} | 15 春日 ^{かすが} | 29 新涯 ^{しんがい} | 43 長浜 ^{ながはま} | 57 松永 ^{まつなが} |
| 2 曙 ^{あけぼの} | 16 霞 ^{かすみ} | 30 瀬戸 ^{せと} | 44 西 ^{にし} | 58 道上 ^{みちのうえ} |
| 3 旭 ^{あさひ} | 17 金江 ^{かなえ} | 31 千田 ^{せんた} | 45 西深津 ^{にしふかつ} | 59 緑丘 ^{みどりがおか} |
| 4 旭丘 ^{あさひがおか} | 18 神村 ^{かむら} | 32 想青学園 ^{そうせいがくえん} | 46 野々浜 ^{ののしま} | 60 南 ^{みなみ} |
| 5 網引 ^{あびき} | 19 加茂 ^{かもの} | 33 高島 ^{たかしま} | 47 東 ^{ひがし} | 61 御野 ^{みのの} |
| 6 有磨 ^{ありま} | 20 川口 ^{かわぐち} | 34 竹尋 ^{たけひろ} | 48 光 ^{ひかり} | 62 箕島 ^{みのしま} |
| 7 泉 ^{いずみ} | 21 川口東 ^{かわぐちひがし} | 35 多治米 ^{たじめ} | 49 引野 ^{ひきの} | 63 水呑 ^{みのみ} |
| 8 伊勢丘 ^{いせがおか} | 22 神辺 ^{かんなべ} | 36 中条 ^{ちゅうじょう} | 50 久松台 ^{ひさまつだい} | 64 御幸 ^{みゆき} |
| 9 遺芳丘 ^{いほうがおか} | 23 熊野 ^{くまの} | 37 常金丸 ^{つねかねまる} | 51 日吉台 ^{ひよしだい} | 65 明王台 ^{みょうおうだい} |
| 10 駅家 ^{えきや} | 24 蔵王 ^{ざおう} | 38 津之郷 ^{つのごう} | 52 深津 ^{ふかつ} | 66 宜山 ^{むべやま} |
| 11 駅家北 ^{えきやきた} | 25 桜丘 ^{さくらがおか} | 39 坪生 ^{つぼう} | 53 福相 ^{ふくそう} | 67 柳津 ^{やないづ} |
| 12 駅家西 ^{えきやし} | 26 山南 ^{さんなん} | 40 手城 ^{てしろ} | 54 藤江 ^{ふじえ} | 68 山手 ^{やまて} |
| 13 大谷台 ^{おおたにだい} | 27 樹徳 ^{じゅとく} | 41 戸手 ^{とて} | 55 本郷 ^{ほんごう} | 69 湯田 ^{ゆだ} |
| 14 大津野 ^{おおつの} | 28 新市 ^{しんいち} | 42 鞆の浦学園 ^{ともうらがくえん} | 56 幕山 ^{まくやま} | |

※ わからない場合は、町名^{ばあい}等^{ちようめいとう}をお書き^かください。

(福山市^{ふくやまし} _____ 町^{ちよう} _____ 丁目^{ちようめ})

問3 あなたの年齢をお答えください。(○印は1つ)

1	18～24歳	4	35～39歳	7	50～54歳	10	65～69歳
2	25～29歳	5	40～44歳	8	55～59歳	11	70歳以上
3	30～34歳	6	45～49歳	9	60～64歳		

問4 あなたは①次の手帳をお持ちですか。②身体障がい者手帳をお持ちの場合は、手帳に書かれている障がい名もお答えください。(あてはまるものすべてに○印)

① お持ちの手帳の種類	
<p>1 身体障がい者手帳1級</p> <p>2 身体障がい者手帳2級</p> <p>3 身体障がい者手帳3級</p> <p>4 身体障がい者手帳4級</p> <p>5 身体障がい者手帳5級</p> <p>6 身体障がい者手帳6級</p>	<p>7 療育手帳(A)</p> <p>8 療育手帳A</p> <p>9 療育手帳(B)</p> <p>10 療育手帳B</p> <p>11 精神障がい者保健福祉手帳1級</p> <p>12 精神障がい者保健福祉手帳2級</p> <p>13 精神障がい者保健福祉手帳3級</p>
<p>② (身体障がい者手帳をお持ちの場合のみ) 手帳に書かれている障がい名をお答えください。</p>	
<p>1 視覚障がい</p> <p>2 聴覚障がい</p> <p>3 平衡機能障がい</p> <p>4 音声・言語・そしゃく機能障がい</p>	<p>5 肢体不自由(上肢)</p> <p>6 肢体不自由(下肢)</p> <p>7 肢体不自由(体幹)</p> <p>8 内部障がい</p>

問5 あなたは、次^{つぎ}にあげる項目^{こうもく}について、医師^{いし}からの診断^{しんだん}や認定^{にんてい}などを受^うけていますか。

(○印^{じるし}は1つずつ)

(1) 難病 ^{なんびょう} ※1の診断 ^{しんだん}	1 受 ^う けている	2 受 ^う けていない
(2) 発達障 ^{はったつしょう} がい※2の診断 ^{しんだん}	1 受 ^う けている	2 受 ^う けていない
(3) 高次脳機能障 ^{こうじのうきのうしょう} がい※3の診断 ^{しんだん}	1 受 ^う けている	2 受 ^う けていない
(4) 自立支援医療 ^{じりつしえんいりょう} (精神通院 ^{せいしんつういん})の受給者証 ^{じゅきゅうしやしょう}	1 持 ^も っている	2 持 ^も っていない
(5) 介護保険制度 ^{かいごほけんせいど} の要支援 ^{ようしえん} ・要介護認定 ^{ようかいごにんてい}	1 受 ^う けている	2 受 ^う けていない
(6) 医療的ケア ^{いりょうてき} ※4	1 受 ^う けている	2 受 ^う けていない
(7) 重症心身障 ^{じゅうしょうしんしんしょう} がい※5の診断 ^{しんだん}	1 受 ^う けている	2 受 ^う けていない

※1 難病^{なんびょう}(特定疾患^{とくていしつかん})とは、パーキンソン病^{びょう}や筋ジストロフィー^{びょう}などの治療法^{ちりょうほう}が確立^{かくりつ}していない疾病^{しつぺい}その他の特殊^{とくしゅ}な疾病^{しつぺい}をいいます。

※2 発達障^{はったつしょう}がいとは、自閉スペクトラム症^{じへい}、注意欠如・多動症^{しやう}(ADHD^{ちゅういけつじよ たどうしやう})、学習障^{がくしゅうしょう}がい(LD^{がくしゅうしょう})、トゥレット症候群^{しやうこうぐん}、吃音^{きつおん}などをいいます。

※3 高次脳機能障^{こうじのうきのうしょう}がいとは、一般^{いっぱん}に、外傷性脳損傷^{がいしやうせいなんしんしやう}、脳血管障^{のうけつかんしやう}がい等^{とう}により脳^{のう}に損傷^{そんしやう}を受け、その後遺症^{こういしやう}等^{とう}として生^{しょう}じた記憶障^{きおくしやう}がい、注意障^{ちゅういしやう}がい、社会的行動障^{しゃかいてきこうどうしやう}がい、失語^{しつご}などの認知障^{にんちしやう}がい等を指^さすものとされており、具体的^{くたいてき}には「会話^{かいわ}がうまくかみ合わない」等^{とう}の症状^{しやうじやう}があります。

※4 医療的ケア^{いりょうてき}とは、人工呼吸器^{じんこうききゅうき}の使用^{しやう}、たんの吸引^{きゅういん}や経管栄養^{けいかんえいよう}などを行^{おこな}うことをいいます。

※5 重症心身障^{じゅうしょうしんしんしょう}がいとは、重度^{じゅうど}の肢体不自由^{したいふじゆう}と重度^{じゅうど}の知的障^{ちてきしやう}がい^{ちやうぶく}が重複^{じゅうたい}した状態^{じやうたい}のことをいいます。

問6 あなたは「強度行動障^{きやうどこうどうしやう}がい※6」があると言^いわれたことがありますか。(○印^{じるし}は1つ)

1 ある	2 ない
------	------

※6 強度行動障^{きやうどこうどうしやう}がいとは、自傷^{じしやう}、他傷^{たしやう}、こだわり^{こわ}、もの壊^{こわ}し、睡眠^{すいみん}の乱^{みだ}れ、異食^{いしょく}、多動^{たどう}など本人^{ほんにん}や周囲^{しゅうい}の人の暮らし^{ひとくらし}に影響^{えいきやう}を及^{およ}ぼす行動^{こうどう}が、著^{いちじる}しく高い頻度^{たかひんど}で起^おこるため、特別^{とくべつ}に配慮^{はいりよ}された支援^{しえん}がひつようになっている状態^{じやうたい}のことをいいます。障^{しやう}がい福祉サービス受給者証^{ふくしサービスじゅきゅうしやしょう}の支給量等^{しきやうりやうとう}の欄^{らん}に「加算強度重度^{かさんきやうどじゅうど}」や「加算重度^{かさんじゅうど}」と印字^{いんじ}されている場合^{ばあい}や外出支援^{がいしゅつしえん}で行動援護^{こうどうえんご}を利用^{りよう}している場合^{ばあい}、医師^{いし}や療育機関^{りやういくきかんとく}等^{とう}から指摘^{してき}されたことがある場合^{ばあいたう}等は「1」としてください。

障がい福祉サービス等の利用についておたずねします。

問7 あなたが、現在利用している障がい福祉サービスについておたずねします。

(1) 現在、支給決定を受けて利用しているサービスをすべてお答えください。

※ 受給者証の記載内容を参考にしてください。

(2) 今後、3年以内に利用したいサービスはありますか。(あてはまるものすべてに○印)

		回答欄	
		問7(1)	問7(2)
(あてはまるものすべてに○印)		現在、利用しているサービス番号に○印 →	い 今後、3年以内に利用したサービス番号に○印 →
1 居宅介護 (ホームヘルプ)	ホームヘルパーが自宅を訪問して、入浴や排せつ、食事、洗濯、掃除等の介助を行うサービスです。	1	1
2 重度訪問介護	重度の障がいがあり、常に介護が必要な人に、自宅で入浴や排せつ、食事などの介助や外出時の移動補助を行うサービスです。	2	2
3 同行援護	視覚障がいにより移動が著しく困難な人に、外出に必要な情報の提供や移動の援護などを行うサービスです。	3	3
4 行動援護	知的障がいや精神障がいにより行動が困難で常に介護が必要な人に、行動するときに必要な介助や外出時の移動補助などを行うサービスです。	4	4
5 重度障がい者 等包括支援	常に介護が必要な人で、介護の必要の程度が著しく高い人に、居宅介護(ホームヘルプ)などのサービスを包括的に提供するサービスです。	5	5



次のページへ続く

		問 7 (1)	問 7 (2)
		現在、 利用している サービス番号に○印 →	い 今後、 3年以内に利用した サービス番号に○印 ↑
(あてはまるものすべてに○印)			
6 短期入所 (ショートステイ)	介護する人が病気の時などに、障がいのある人が施設に短期間入所し、入浴や排せつ、食事の介護などを行うサービスです。	6	6
7 生活介護	常に介護が必要な人に、施設で入浴や排せつ、食事の介護や創作的活動などの機会を提供するサービスです。	7	7
8 療養介護	医療が必要で常に介護を必要とする人に、主に昼間に病院などで、機能訓練や療養上の管理、看護などを提供するサービスです。	8	8
9 自立訓練(機能訓練、生活訓練、宿泊型自立訓練)	自立した日常生活や社会生活ができるよう、一定期間、身体機能や生活能力の向上のために必要な訓練を行うサービスです。	9	9
10 就労移行支援	一般就労したい人に、一定の期間、就労に必要な知識や能力向上のための訓練を行うサービスです。	10	10
11 就労継続支援(A型)	働く場として事業所と雇用契約を結び、一般就労が困難な人に、就労の機会や生産活動などの機会を提供し、知識や能力の向上のための訓練を行うサービスです。	11	11
12 就労継続支援(B型)	事業所と雇用契約を結ばずに、一般就労が困難な人に、就労の機会や生産活動などの機会を提供し、知識や能力の向上のための訓練を行うサービスです。	12	12



つぎ
次のページへ続く

	(あてはまるものすべてに○印) じるし	問7(1)	問7(2)
		現在、利用しているサービス番号に○印→ げんざい、りよう ばんごうに○いん→	今後、3年以内に利用したサービス番号に○印→ こんご、ねんない、りよう ばんごうに○いん→
13 自立生活援助 じりつせいかつえんじょ	障がい者施設などを利用して一人暮らしを希望する人に、必要な情報の提供や助言、支援を行うサービスです。 しょうがいしゃしせつなどを利用してひとひとりぐらしをきぼうするひとに、ひつようじょうほうていきぎょうじよげん、しえんおこなうサービスです。	13	13
14 就労定着支援 しゅうろうていちゃくしえん	就労移行支援などを利用して一般就労した人に対して、日常生活や就労で困っていることについて、その問題の解決に必要な指導や助言などを行うサービスです。 しゅうろういこうしえんなどを利用していっぱんしゅうろうしたひとに対して、にちじょうせいかつしゅうろうこまについて、そのもんだいかいけつひつようしどうじよげんなどをおこなうサービスです。	14	14
15 共同生活援助 (グループホーム) きょうどうせいかつえんじょ (ぐるーぷほーむ)	夜間や休日に、共同生活を行う住居で、相談や日常生活上の援助などを行うサービスです。 やかんきゅうじつきょうどうせいかつおこなしゅうきょそうだんにちじょうせいかつじょうえんじょなどをおこなうサービスです。	15	15
16 施設入所支援 しせつにゅうしょしえん	主として夜間に、施設に入所する人に対し入浴や排せつ、食事の介護などの支援を行うサービスです。 しゅとしてやかんしせつにゅうしょするひとたいにゅうよくはいせつ、しょくじかいごなどのしえんおこなうサービスです。	16	16
17 計画相談支援 けいかくそうだんしえん	障がい福祉サービス等を利用するための、計画の作成や利用についての支援を行うサービスです。 しょうがいふくしサービスとうを利用してのけいかくのさくせいりようについてのしえんおこなうサービスです。	17	17



つぎのページへ続く

		問 7 (1)	問 7 (2)
		現在、利用しているサービス番号に○印 →	今後、3年以内に利用したサービス番号に○印 →
(あてはまるものすべてに○印) <small>（あてはまるものすべてに○^{じるし}印）</small>			
18 移動支援 <small>いどうしえん</small>	一人で移動することが困難な人に、自立した日常生活や社会参加のための外出の支援を行うサービスです。 <small>ひとり いどう することが こんなん ひと じりつ にちじょう せいかつ しゃかいさんか ための がいしゅつ しえん おこな</small>	18	18
19 日中一時支援 <small>にっちゅういちじしえん</small>	日中、介護者の休息や不在の時に、見守りと日中活動の場を提供するサービスです。 <small>にっちゅう かいごしゃ きゅうそく ふざい とき みまも にっちゅうかつどう ば ていきょう</small>	19	19
20 地域移行支援 <small>ちいきいきょうしえん</small>	施設や病院から退所、退院後の住まいの確保や地域での生活に移行するための相談や支援を行います。 <small>しせつ びょういん たいしょ たいいんご す かくほ ちいき せいかつ いこう そうだん しえん おこな</small>	20	20
21 地域定着支援 <small>ちいきていちゃくしえん</small>	施設や病院からの退所、退院や一人暮らしを始める障がいのある人に、常に連絡がとれる体制を確保し、緊急のときに必要な支援を行います。 <small>しせつ びょういん たいしょ たいいん ひとりぐ はじ しょう ひと つね れんらく たいせい かくほ きんきゅう のとき ひつよう しえん おこな</small>	21	21
22 支給決定を受けているサービスはない・利用したいサービスはない <small>しきゅうけつてい う サービスはない 利用したいサービスはない</small>		22	22



問 7 (1)で「1～21」のいずれかを選んだ方は、問 8 にお進みください。
「22」を選んだ方は、問 9 にお進みください。

【問7(1)で「1～21」のいずれかを選んだ方におたずねします。】

問8 あなたは、利用したことがある障がい福祉サービスに対して、困ったことがありましたか。

(あてはまるものすべてに○印)

- 1 利用したいサービスがあるのに条件に合わず利用できない
- 2 支給決定までに時間がかかりすぎる
- 3 身近な施設や事業所を利用できない
- 4 利用したい日や時間に利用できない
- 5 こちらの要望を聞いてくれない
- 6 高齢者が利用できるサービスが少ない
- 7 介護保険サービスに切り替わるとき同じサービス量や事業所を利用できない
- 8 建物や設備が障がいに配慮されていない
- 9 サービス内容についての情報が少ない
- 10 その他()
- 11 特にない



次は問10へお進みください。

【問7(1)で「22」を選んだ方におたずねします。】

問9 あなたが障がい福祉サービスを利用していない理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに○印)

- 1 サービスを受ける必要がないため
- 2 年齢や障がい支援区分など、サービスの対象者に該当しないため
- 3 既に別のサービスの提供を受けているため
- 4 サービスを利用する時間や曜日の都合が合わないため
- 5 身近な地域にサービス提供場所がないため
- 6 引き受けてくれるサービス提供事業所が見つからないため
- 7 利用料金がかかるため
- 8 サービスがあることを知らなかったため
- 9 その他()
- 10 特にない

問10 今後、障がい福祉サービスを利用しやすくするためには、どのようなことが必要だと思いか。上位5つまで選んでください。(主なもの5つまでに○印)

- 1 どのようなサービスがあるのか、詳しい情報を提供してほしい
- 2 申請や手続きの方法をわかりやすくしてほしい
- 3 申請や手続きを素早くできるようにしてほしい
- 4 障がいの特性に応じた方法で情報を提供してほしい
- 5 自分に適切なサービスをアドバイスしてほしい
- 6 必要なときにすぐ利用できるようにしてほしい
- 7 サービスの回数や時間を増やしてほしい
- 8 身近な場所でサービスが受けられるようにしてほしい
- 9 施設の職員などの技術、知識を向上してほしい
- 10 施設の職員などの人数を増やしてほしい
- 11 サービスの費用負担を軽減してほしい
- 12 高齢になっても使えるサービスや施設がほしい
- 13 介護保険サービスに切り替わるとき必要なサービスが受けられるようにしてほしい
- 14 住んでいる地域によってサービス内容に差がないようにしてほしい
- 15 その他()
- 16 特にない

問11 あなたは、障がいのことや福祉サービスに関する情報を、どこから知ることが多いですか。(あてはまるものすべてに○印)

- | | |
|----------------------|---------------|
| 1 県や市の窓口 | 12 民生委員・児童委員 |
| 2 県や市からの通知 | 13 地域包括支援センター |
| 3 県や市などの広報紙・パンフレット | 14 地域活動支援センター |
| 4 県や市などのホームページ | 15 障がい者団体など |
| 5 社会福祉協議会 | 16 家族・友人・知人 |
| 6 基幹相談支援センター(クローバー) | 17 ラジオ・テレビ |
| 7 相談支援事業所 | 18 新聞・雑誌など |
| 8 福祉施設・サービス提供事業所 | 19 インターネット |
| 9 病院・薬局 | 20 その他() |
| 10 ホームヘルパー・ケアマネジャーなど | 21 入手方法がわからない |
| 11 障がい者相談員 | 22 特にない |

住まいや暮らしについておたずねします。

問12 あなたは現在、どのように暮らしていますか。(○印は1つ)

- 1 自宅(アパートなどを含む)で一人で暮らしている
- 2 自宅(アパートなどを含む)で家族や親族と暮らしている
- 3 グループホームで暮らしている
- 4 福祉施設(障がい者支援施設)に入所している
- 5 福祉施設(高齢者施設)に入所している
- 6 病院に入院している
- 7 その他()

問13 あなたは今後3年以内に、どのように暮らしたいと思いますか。(○印は1つ)

- 1 自宅(アパートなどを含む)で一人で暮らしたい
- 2 自宅(アパートなどを含む)で家族や親族と暮らしたい
- 3 グループホームで暮らしたい
- 4 福祉施設(障がい者支援施設)に入所したい
- 5 福祉施設(高齢者施設)に入所したい
- 6 その他()

問14 あなたを介助してくれる人は、主に誰ですか。(○印は1つ)

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 父または母 2 配偶者(夫または妻) 3 子ども 4 きょうだい 5 親せき 6 友人・知人 | <ol style="list-style-type: none"> 7 福祉施設の職員・ホームヘルパー 8 その他() 9 介助は必要ない(介助者はいない) |
|---|---|
- ↓
- 【問16へ】

【問14で「1～6」を選んだ方におたずねします。】

問15 介助してくれる人の年齢、健康状態についてお答えください。(○印は1つずつ)

① 介助者の年齢	1 17歳以下	3 30～39歳	5 50～59歳
	2 18～29歳	4 40～49歳	6 60歳以上
② 介助者の健康状態	1 健康である	2 健康に不安がある	

問16 これから先、あなたが希望する暮らしを送るためには、どのような支援が必要だと思えますか。
(あてはまるものすべてに○印)

- 1 在宅で医療的ケアなどを適切に受けられること
- 2 障がいのある人に適した住まいが確保されること
- 3 必要な在宅サービスが適切に利用できること
- 4 生活訓練等が充実していること
- 5 経済的な負担が軽くなること
- 6 相談支援が充実していること
- 7 地域住民等の理解が深まること
- 8 情報の取得や利用について支援してくれること
- 9 まわりの人とのコミュニケーション(意思疎通)を支援してくれること
- 10 身のまわりの世話をしてくれる人が確保されること
- 11 一人暮らしや共同生活に慣れるために支援してくれること
- 12 緊急なときや災害のときに居場所が確保できること
- 13 日中過ごせる場所・仲間や友達と出会える場所が充実していること
- 14 進学や就職に向けて支援してくれること
- 15 その他()
- 16 特にない

相談についておたずねします。

問17 あなたが相談したいことは、どのようなことですか。(あてはまるものすべてに○印)

- | | |
|--------------------------|-----------------|
| 1 自分の体調のこと | 11 住まいのこと |
| 2 家族・学校・職場・近所などでの人間関係のこと | 12 外出・移動のこと |
| 3 介助してくれる人の健康や体力のこと | 13 就学・進学・教育のこと |
| 4 支援してくれる人のこと | 14 仕事・就職のこと |
| 5 利用できる福祉制度のこと | 15 差別・偏見に関すること |
| 6 生活費や収入のこと | 16 余暇・スポーツ活動のこと |
| 7 介助・介護のこと | 17 緊急時・災害時のこと |
| 8 老後のこと | 18 話し相手のこと |
| 9 家事(炊事・掃除・洗濯)のこと | 19 結婚のこと |
| 10 育児のこと | 20 情報収集のこと |
| | 21 その他() |

問18 あなたが相談先に望むことは何ですか。(あてはまるものすべてに○印)

- 1 どのような相談先があるのか、詳しい情報を提供すること
- 2 1か所でどんな相談にも対応できること
- 3 身近な地域で気軽に相談できる場所が増えること
- 4 障がいの特性に応じて専門の相談ができること
- 5 障がいのある人やその家族など、同じ立場の人に相談ができること
- 6 休日や夜間、緊急時でも相談できること
- 7 電話・FAX・電子メールでの相談ができること
- 8 スマートフォンやパソコンなどで相手の顔を見ながら遠隔で相談できること
- 9 自宅や病院、施設を訪問してくれること
- 10 年齢や状況などに応じた情報を提供してくれること
- 11 相談員の質を向上させること
- 12 その他()
- 13 特にない

問19 あなたは、^{きかんそうだんしえん}基幹相談支援センター（クローバー）^{※1}を利用したことがありますか。
（○印は1つ）

- 1 利用したことがある
- 2 利用したことはないが、利用に興味がある
- 3 利用したことはないし、利用する必要がない

※1 ^{きかんそうだんしえん}基幹相談支援センター（クローバー）では、^{しょうがい}障がいの種別などを問わず、^{しょうがいのある人}障がいのある人の日常生活や社会生活を支援し、^{ちいき}地域で安心して生活できるよう総合相談や専門の相談員による相談を行っています。

問20 あなたは、^{けんりようごしえん}権利擁護支援センター^{※2}を利用したことがありますか。（○印は1つ）

- 1 利用したことがある
- 2 利用したことはないが、利用に興味がある
- 3 利用したことはないし、利用する必要がない

※2 ^{けんりようごしえん}権利擁護支援センターでは、^{せいねんこうけんせいど}成年後見制度の相談や普及啓発などを行っています。また、^{ひとり}一人で物事を決めることが不安な人に、^{ふくしせいど}福祉制度の利用手続きやお金の管理のお手伝いなども行っています。

問21 あなたは「^{せいねんこうけんせいど}成年後見制度^{※3}」を知っていますか。（○印は1つ）

- 1 言葉も内容も知っている
- 2 言葉を知っているが、内容は知らない
- 3 言葉も内容も知らない

※3 「^{せいねんこうけんせいど}成年後見制度」とは、^{じんちしょう}認知症、^{ちてきしょう}知的障がい、^{せいしんしょう}精神障がいなどで判断能力の不十分な方が、自立して生活できるように、^{えんじょ}援助してくれる人（^{こうけんじん}後見人など）を^{かていさいばんしょ}家庭裁判所に選んでもらう制度です。これにより、^{じぶんひとり}自分一人では困難な^{ふどうさん}不動産や^{よちきん}預貯金などの財産の管理や^{かくしゅけいやく}各種契約が安全に行えるようになります。

問22 あなたは今後「^{せいねんこうけんせいど}成年後見制度」を利用したいと思いますか。（○印は1つ）

- 1 利用したいと思う
- 2 利用したいとは思わない

問23 あなたは地域活動支援センター※を利用したことがありますか。(○印は1つ)

- 1 利用したことがある
- 2 利用したことはないが、利用に興味がある
- 3 利用したことはないし、利用する必要がない

※ 地域活動支援センターでは、創作的活動や生産活動の機会の提供をはじめ、社会との交流の促進に関する事業、生活の質の向上のための訓練や講座など、障がいの種別を問わず、生活を支援する活動を行っています。(市内には、ひだまり、とまり木、福山市視覚障害者地域活動支援センター、福山市聴覚障害者地域活動支援センター、地域活動支援センターHARUKURUの5か所があります。)

問24 障がいのある人や障がいのある子どもを育てた親が、自らの体験に基づいて、同じ仲間であるほかの障がいのある人や親の悩みなどを聞くという取組を「ピアサポート活動」といいます。あなたは、この活動に参加してみたいと思いますか。(○印は1つ)

- 1 悩みなどを聞く立場で参加してみたい
- 2 悩みなどを聞いてもらう立場で参加してみたい
- 3 具体的な内容を聞いた上で参加を検討してみたい
- 4 参加してみたいと思わない

問25 障がいのある人のために、あなたが手助けできそうな活動や協力できそうな活動はありますか。(あてはまるものすべてに○印)

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1 悩みを聞くことや相談相手になること | 7 地域の子どもの交流行事の手伝い |
| 2 災害時における避難の手助け | 8 通学時の子どもの見守り活動 |
| 3 通院や買物など外出の手伝い | 9 防犯パトロールなど地域の防犯活動 |
| 4 ごみ出しや掃除の手伝い | 10 その他() |
| 5 電球の取替えなど軽度な手伝い | 11 特にない |
| 6 食事の準備や後片づけ | |

就労についておたずねします。

問26 あなたは、現在、働いて収入を得ていますか。(○印は1つ)

- 1 正社員として働いている
- 2 パート・アルバイト等や派遣社員として働いている → 【次は問29～30へ】
- 3 自宅で働いている(自営業、創作活動などによる収入)
- 4 通所施設に通って賃金(工賃)をもらっている → 【次は問27～30へ】
- 5 働いていない(またはできない) → 【次は問31へ】

【問26で「4」を選んだ方におたずねします。】

問27 あなたは今後、一般就労(一般企業などで働く)をしたいと思いませんか。(○印は1つ)

- 1 思う → 【次は問29へ】
- 2 思わない

【問27で「2」を選んだ方におたずねします。】

問28 あなたが一般就労(一般企業などで働く)をしたいと思わない理由は何ですか。
(あてはまるものすべてに○印)

- 1 通っている通所施設が自分に合っている
- 2 自分の知識や技能が一般就労に適しているか不安がある
- 3 自分の体力や精神面に不安がある
- 4 新しい職場で障がいのことを理解してもらえるか不安がある
- 5 外出が困難である
- 6 その他()

【問26で「1～4」を選んだ方におたずねします。】

問29 あなたは、今後も現在の仕事を続けたいと思いませんか。(○印は1つ)

- 1 思う
- 2 思わない

【問26で「1～4」を選んだ方におたずねします。】

問30 あなたが仕事をする上で、困ったことがありますか。(あてはまるものすべてに○印)

- | | |
|---------------------------|---------------------|
| 1 障がい者用の設備が十分でない | 8 仕事がむずかしい |
| 2 通勤するのがたいへん | 9 仕事がきつい |
| 3 自分の体力や能力に合った内容の求人や仕事がない | 10 施設の外で仕事をするができない |
| 4 職場の人間関係がむずかしい | 11 収入が安定しない |
| 5 昇級や昇進が平等ではない | 12 困ったことを相談できる相手がない |
| () | 13 その他 |
| 6 賃金(工賃)が少ない | 14 特にない |
| 7 職場での雇用が不安定 | |



次は問32へお進みください。

【問26で「5」を選んだ方におたずねします。】

問31 あなたは、今後、働いて収入を得たいと思いますか。(○印は1つ)

- | |
|-----------------------------|
| 1 正社員として働きたい |
| 2 パート・アルバイト等や派遣社員として働きたい |
| 3 自宅で働きたい(自営業, 創作活動などによる収入) |
| 4 通所施設に通って賃金(工賃)をもらいたい |
| 5 働くつもりはない(またはできない) |

問32 障がいがあっても働きたい、働きやすいと思うためには、どのようなことが必要だと思いますか。(主なものを5つまでに○印)

- 1 通勤手段が確保されていること
- 2 就労に向けた相談の場が充実していること
- 3 専門的な技術を身に付ける職業訓練が充実していること
- 4 短時間勤務など柔軟な働き方ができること
- 5 働きながら通院できること
- 6 家で働くことやテレワークなどいろいろな働き方ができること
- 7 ホームページの作成などパソコンを使って仕事ができること
- 8 音楽や美術など創作活動を生かした仕事ができること
- 9 職場にバリアフリーなどの配慮があること
- 10 職場に介助などの支援をしてくれる人がいること
- 11 障がいのある仲間と一緒に働けること
- 12 その他()
- 13 特にない

ちいき
地域での暮らしについておたずねします。

問33 障がいのある人に対する、地域の人の理解は進んできたと思いますか。(○印は1つ)

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1 かなり進んできた | 3 あまり進んできたとは思わない |
| 2 どちらかといえば進んできた | 4 進んでいない(変わらない) |

問34 あなたとご近所の人との関係は、次のどれに最も近いですか。(○印は1つ)

- 1 困ったときに助け合う人やお互いに訪問し合う親しい人がいる
- 2 あいさつや立ち話をする程度の人がいる
- 3 ほとんど近所付き合いはない

問35 あなたは、現在、地域の行事や活動などに参加していますか。コロナ禍以前の活動も含めてお答えください。(あてはまるものすべてに○印)

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 1 自治会の活動 | 8 文化・芸術活動 |
| 2 趣味やサークルの活動 | 9 防災活動や消防団活動 |
| 3 セミナーや講演会などの学習活動 | 10 防犯活動や交通安全活動 |
| 4 障がい者団体の集会や活動 | 11 老人クラブ活動や高齢者同士の交流活動 |
| 5 福祉・ボランティア活動 | 12 P T A 活動や学校行事の手伝い |
| 6 スポーツ活動 | 13 その他() |
| 7 お祭り・盆踊りなど | 14 参加していない |

問36 あなたは今後、地域の活動に参加したいですか。(○印は1つ)

- | | |
|----------------|---------------|
| 1 積極的に参加したい | 3 なるべく参加したくない |
| 2 内容によっては参加したい | 4 参加したくない |

ぎょうせい ふくししさく
行政の福祉施策についておたずねします。

問37 あなたは、障がいのある人にとって暮らしやすいまちをつくるためには、福山市はどのような取組に力を入れるべきだと思いますか。あなたが最も力を入れるべきだと思う項目を、上位5つまで選んでください。(主なもの5つまでに○印)

- 1 誰もが障がいについて学び、理解を深める機会を増やす
- 2 身近な場所で気軽に相談できる場所を増やす
- 3 財産や権利を守る支援を充実する
- 4 障がい福祉サービスを利用しやすくする
- 5 医療費の助成や手当の支給など経済的な支援を充実する
- 6 災害時の避難支援体制を充実する
- 7 地域で生活するための住まいを確保する
- 8 医療・保健・福祉に関する情報提供を充実する
- 9 就労のための支援や働く場を増やす
- 10 参加しやすいスポーツ、芸術・文化活動、生涯学習を充実する
- 11 障がいがあっても移動しやすい道路や交通機関など利便性を向上する
- 12 施設や建物をバリアフリー化する
- 13 手話や音声などを活用し情報を手に入れやすくする
- 14 住民と障がいのある人がふれあう機会やコミュニケーションの場を充実する
- 15 その他()
- 16 特にない

問38 福山市の障がい福祉の取組について、何かご意見がありましたら、自由にご記入ください。

～ ご協力ありがとうございました ～

同封の返信用封筒に入れて、8月14日(月曜日)までに無記名で返送してください。

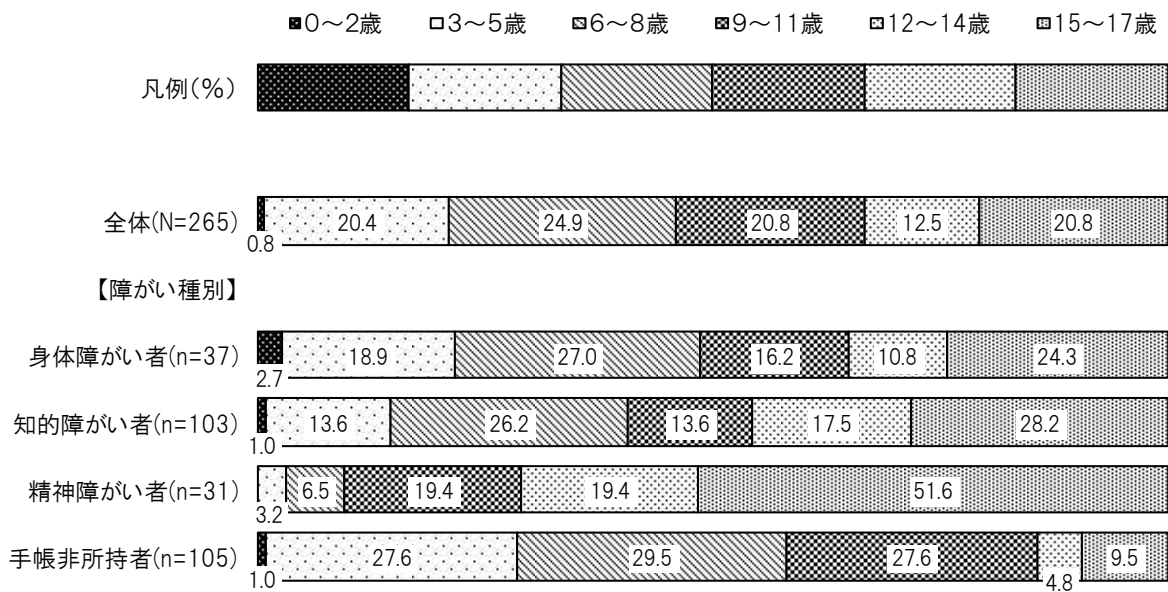
Ⅲ 調査結果（18歳未満）

Ⅲ-1 回答者の属性

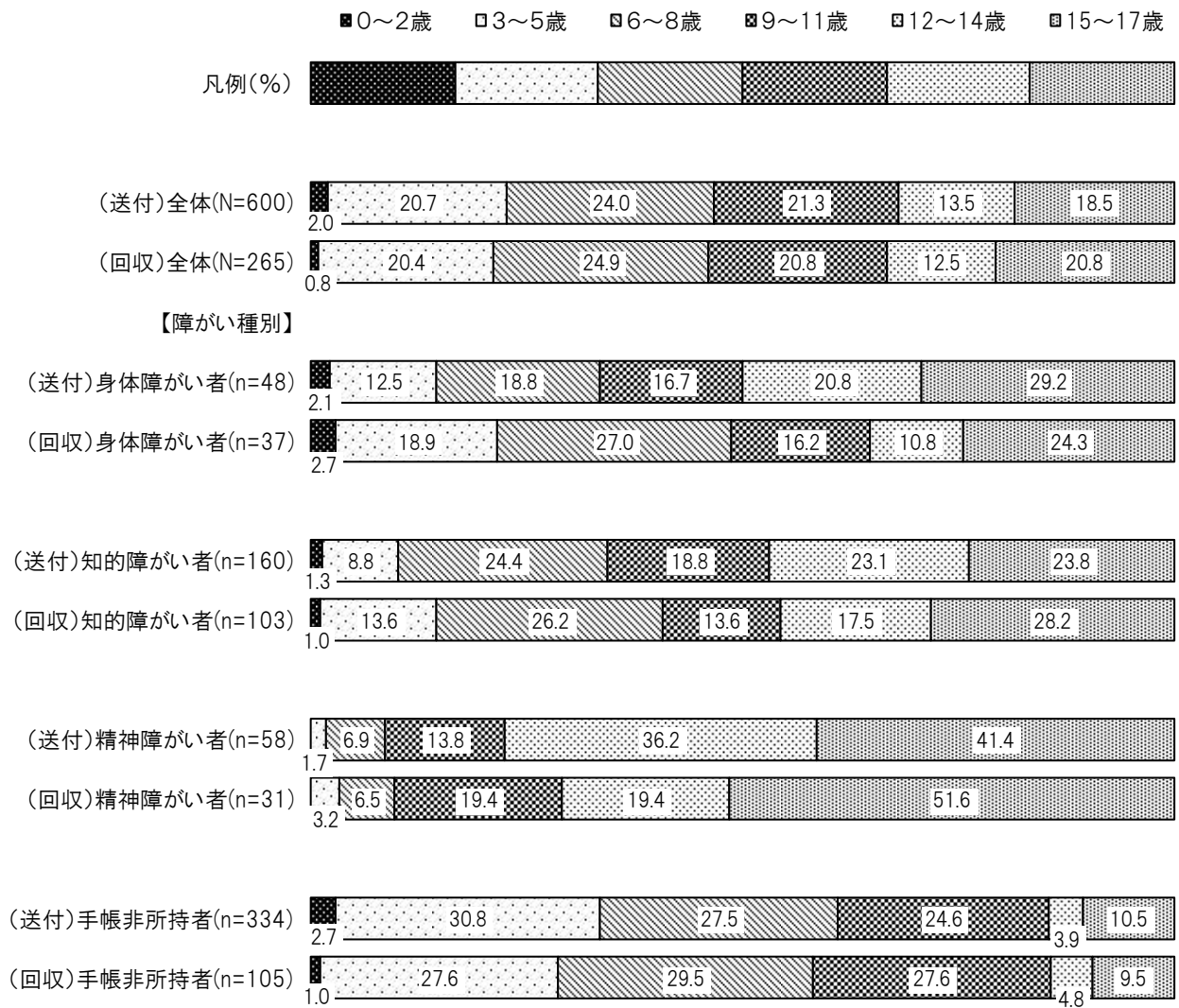
1 年齢別構成

年齢別構成では、「6～8歳」が24.9%と最も高く、次いで「9～11歳」「15～17歳」が20.8%で続いている。

障がい種別では、精神障がい者で「15～17歳」、手帳非所持者で「3～5歳」「6～8歳」「9～11歳」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。



【参考／アンケート送付対象者の年齢区分との比較】



Ⅲ-2 調査結果

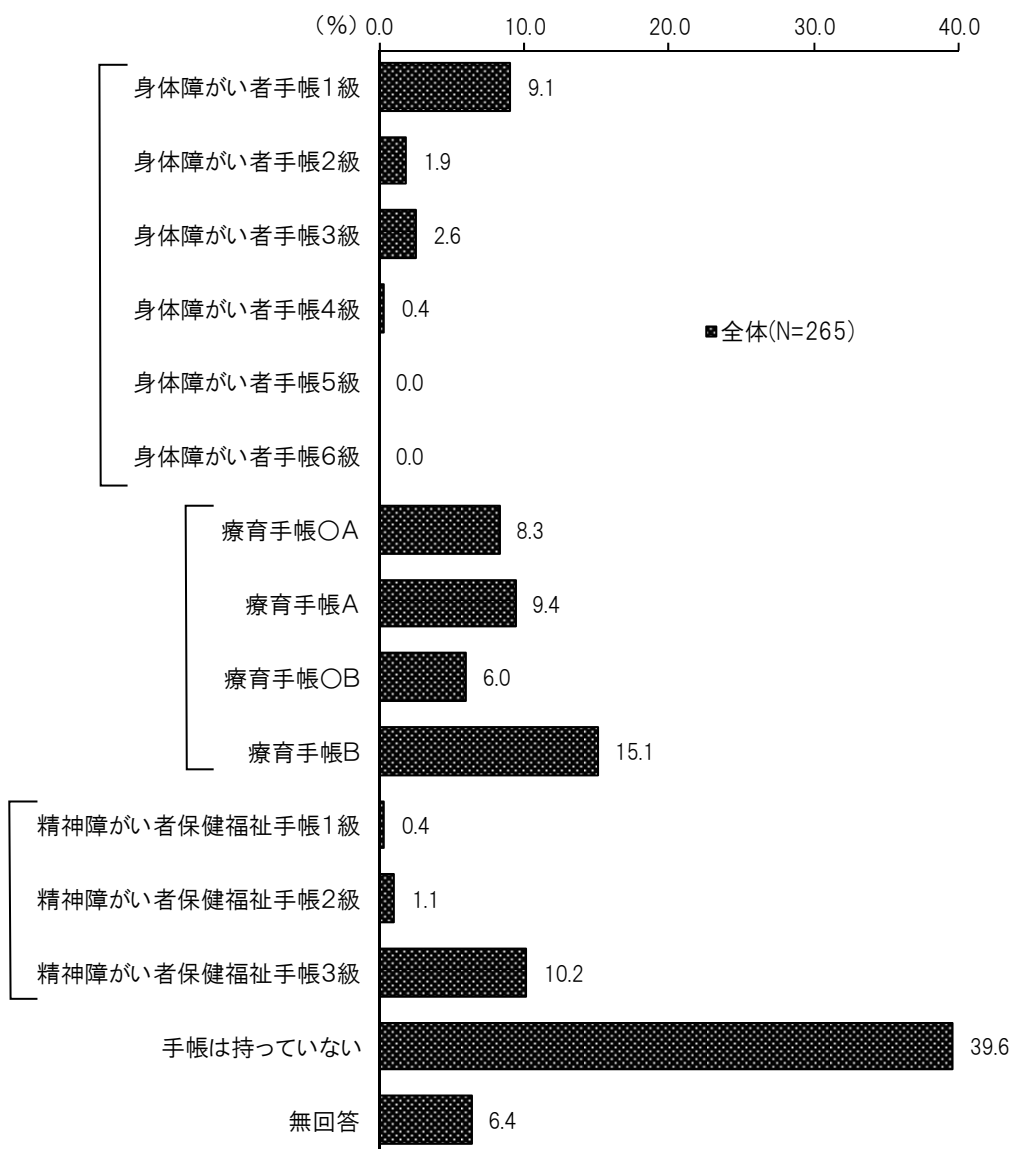
【1】障がいの状況について

1 所持手帳の種類

問4 お子さんは①次の手帳をお持ちですか。②身体障がい者手帳をお持ちの場合は、手帳に書かれている障がい名もお答えください。（あてはまるものすべてに○印）

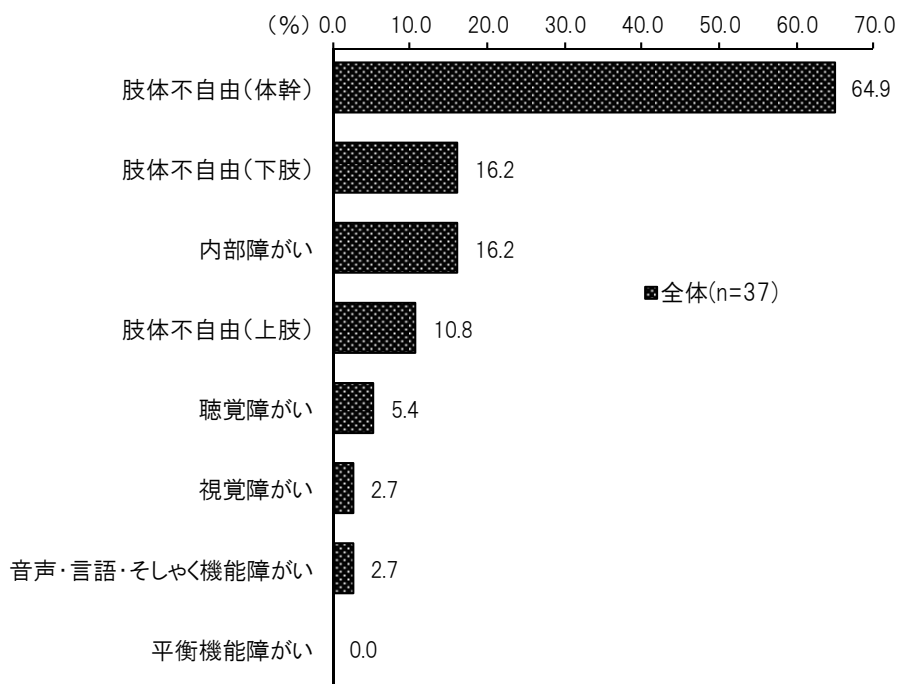
（1）所持手帳の種類

所持手帳を種類別で見ると、身体障がい者手帳は「1級」の割合が9.1%と最も高く、次いで「3級」(2.6%)が続いている。また、療育手帳では「B」(15.1%)、精神障がい者保健福祉手帳では「3級」(10.2%)の割合が高くなっている。一方、約4割(39.6%)は「手帳は持っていない」と回答している。



(2) 障がいの種類（身体障がい者）

身体障がい者においては、「肢体不自由（体幹）」の割合が 64.9%と最も高く、次いで「肢体不自由（下肢）」「内部障がい」（各 16.2%）, 「肢体不自由（上肢）」（10.8%）の順となっている。



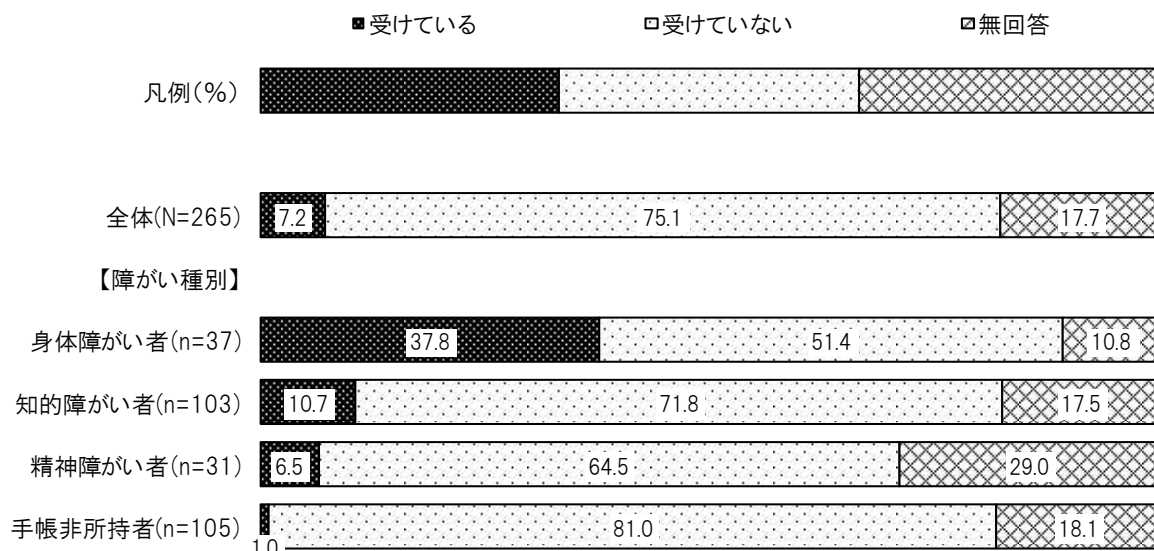
2 各種診断や認定の状況

問5 お子さんは、次にあげる項目について、医師からの診断や認定を受けていますか。（○印は1つずつ）

(1) 難病の診断

難病の診断については、「受けている」が7.2%となっている。

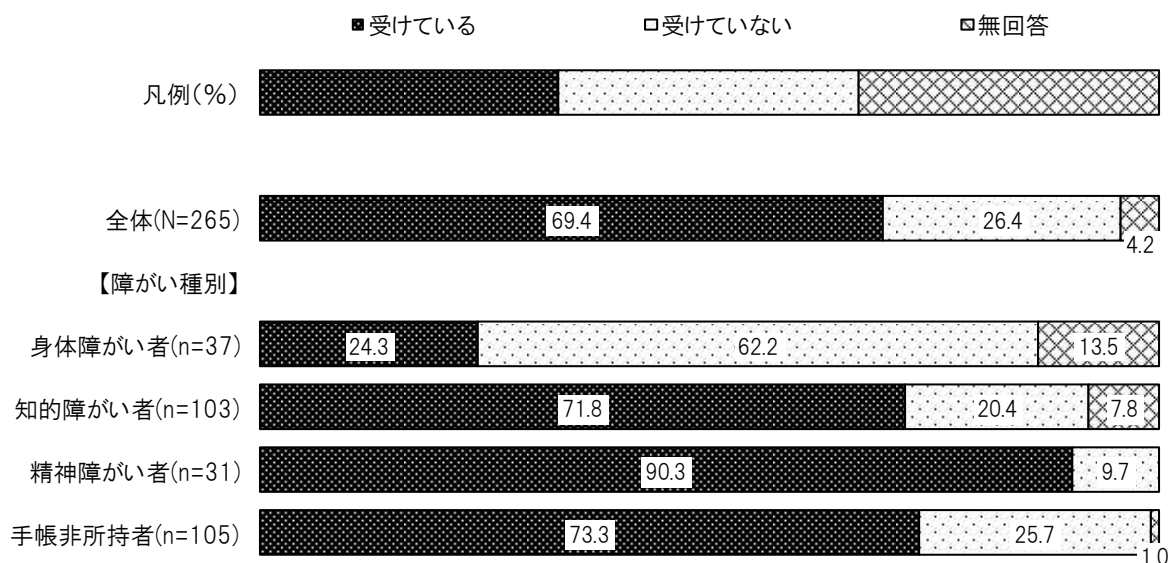
障がい種別では、身体障がい者の4割近くが「受けている」と回答している。



(2) 発達障がいの診断

発達障がいの診断については、約7割（69.4%）が「受けている」と回答している。

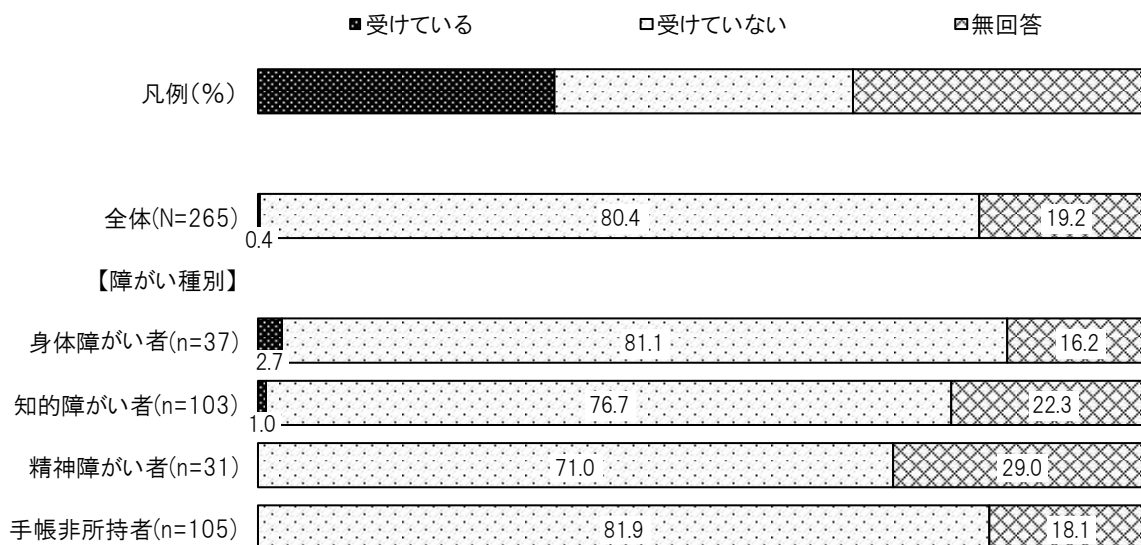
障がい種別では、精神障がい者の約9割が発達障がいの診断を受けている。



(3) 高次脳機能障がいの診断

高次脳機能障がいの診断については、「受けている」が0.4%となっている。

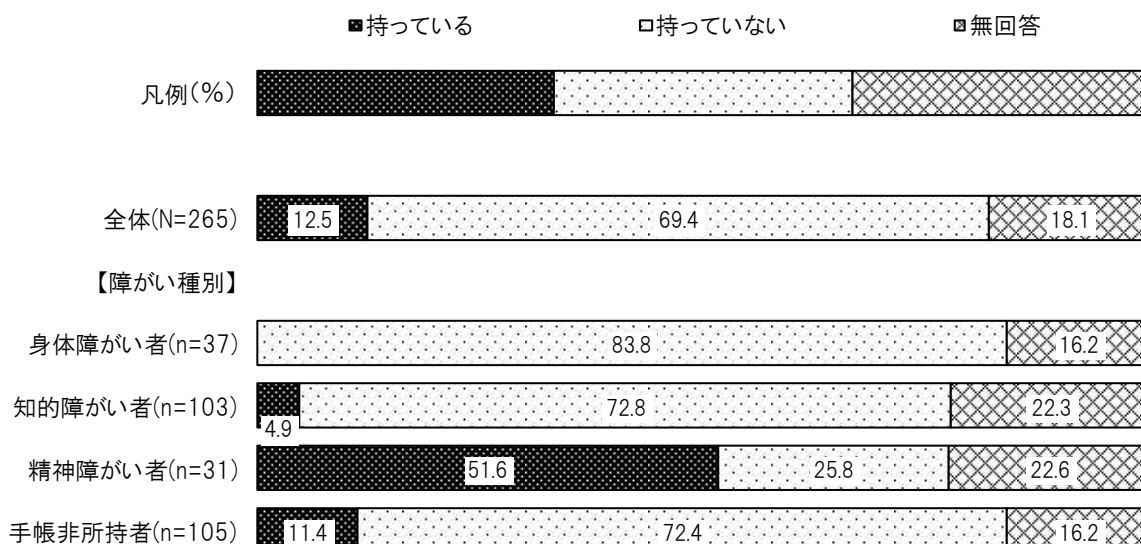
障がい種別では、身体障がい者で「受けている」の割合がほかの障がいに比べてやや高くなっている。



(4) 自立支援医療（精神通院）の受給者証

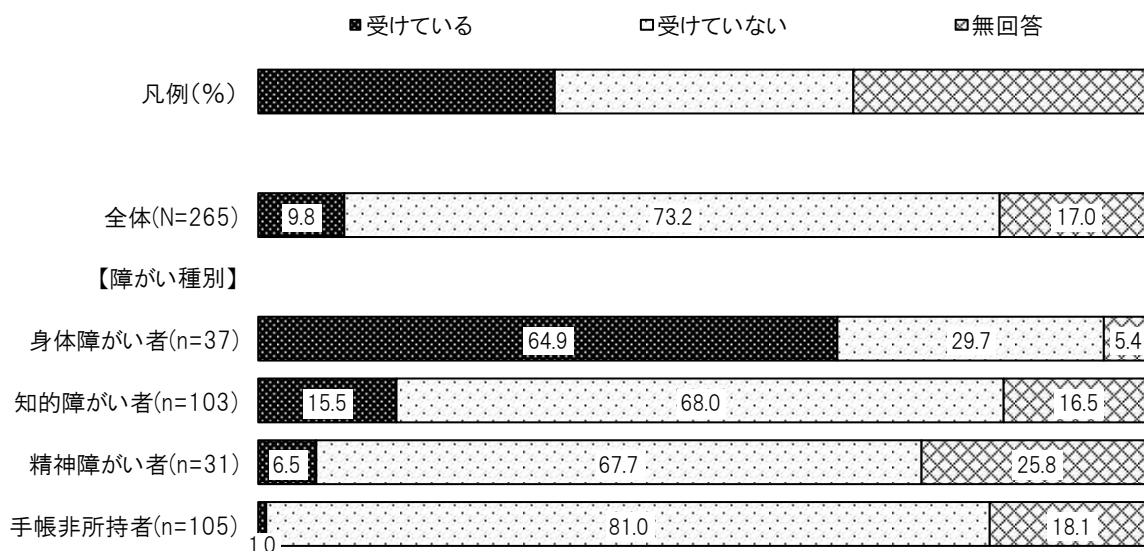
自立支援医療（精神通院）の受給者証については、「持っている」が12.5%となっている。

障がい種別では、精神障がい者の約半数が「持っている」と回答している。



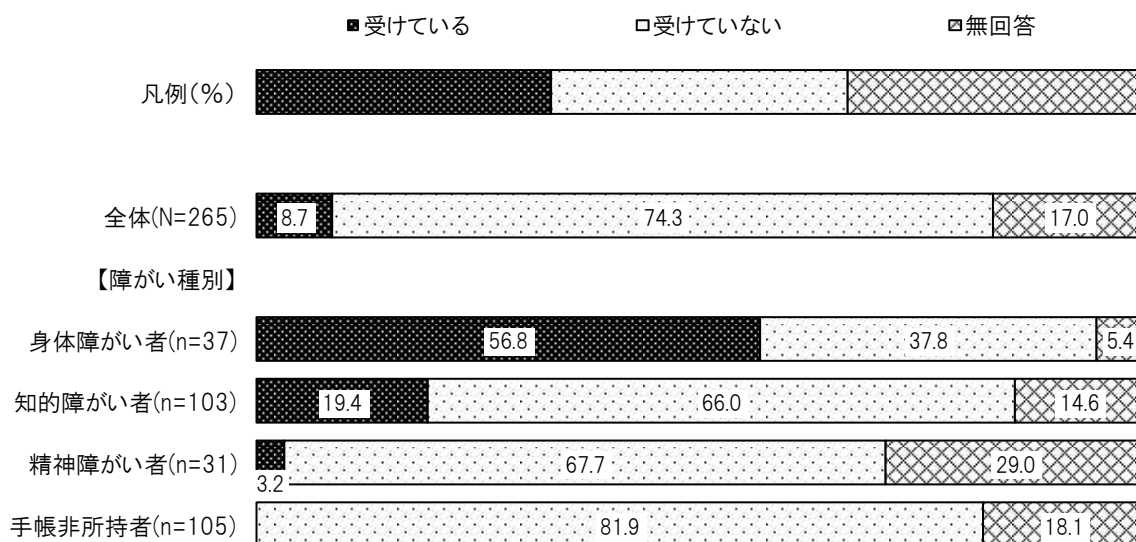
(5) 医療的ケア

医療的ケアについては、約1割(9.8%)が「受けている」と回答している。
障がい種別では、身体障がい者の6割以上が医療的ケアを受けている。



(6) 重症心身障がいの診断

重症心身障がいの診断については、約1割(8.7%)が「受けている」と回答している。
重症心身障がいとは、重度の肢体不自由と重度の知的障がいが重複した状態のことをいうが、身体障がい者の半数以上が重症心身障がいの診断を受けている。

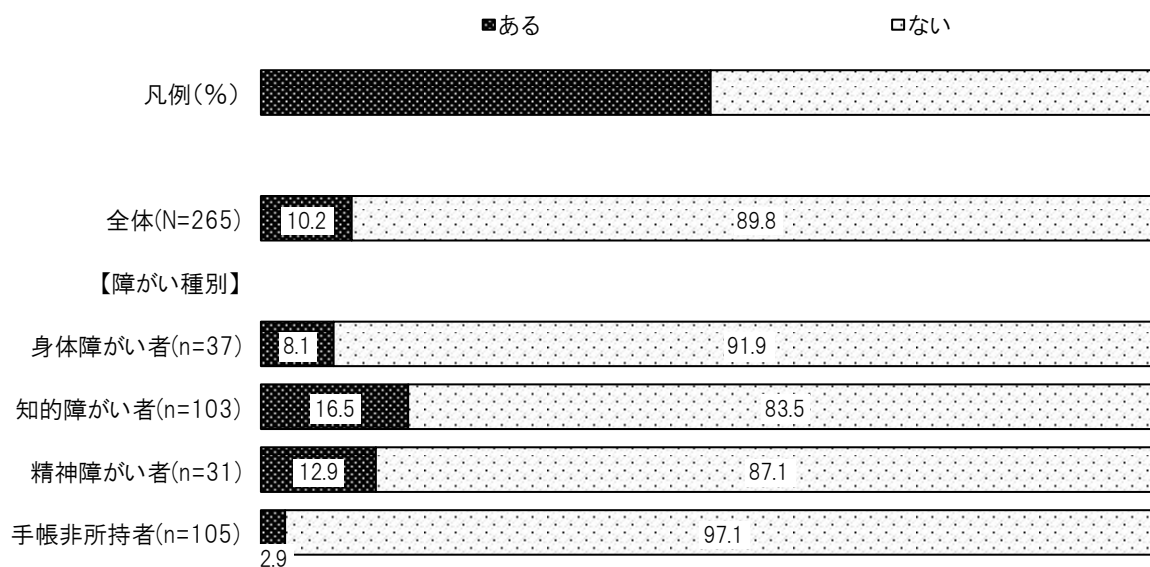


3 強度行動障がいの状況

問6 お子さんは「強度行動障がい」があるとされたことがありますか。(○印は1つ)

強度行動障がいについては、約1割(10.2%)が「ある」と回答している。

障がい種別では、知的障がい者や精神障がい者で「ある」の割合が身体障がい者に比べて高くなっている。



【2】障がい福祉サービス等の利用について

1 障がい福祉サービスの利用状況・利用意向

問7 お子さんが、現在利用している障がい福祉サービスについておたずねします。

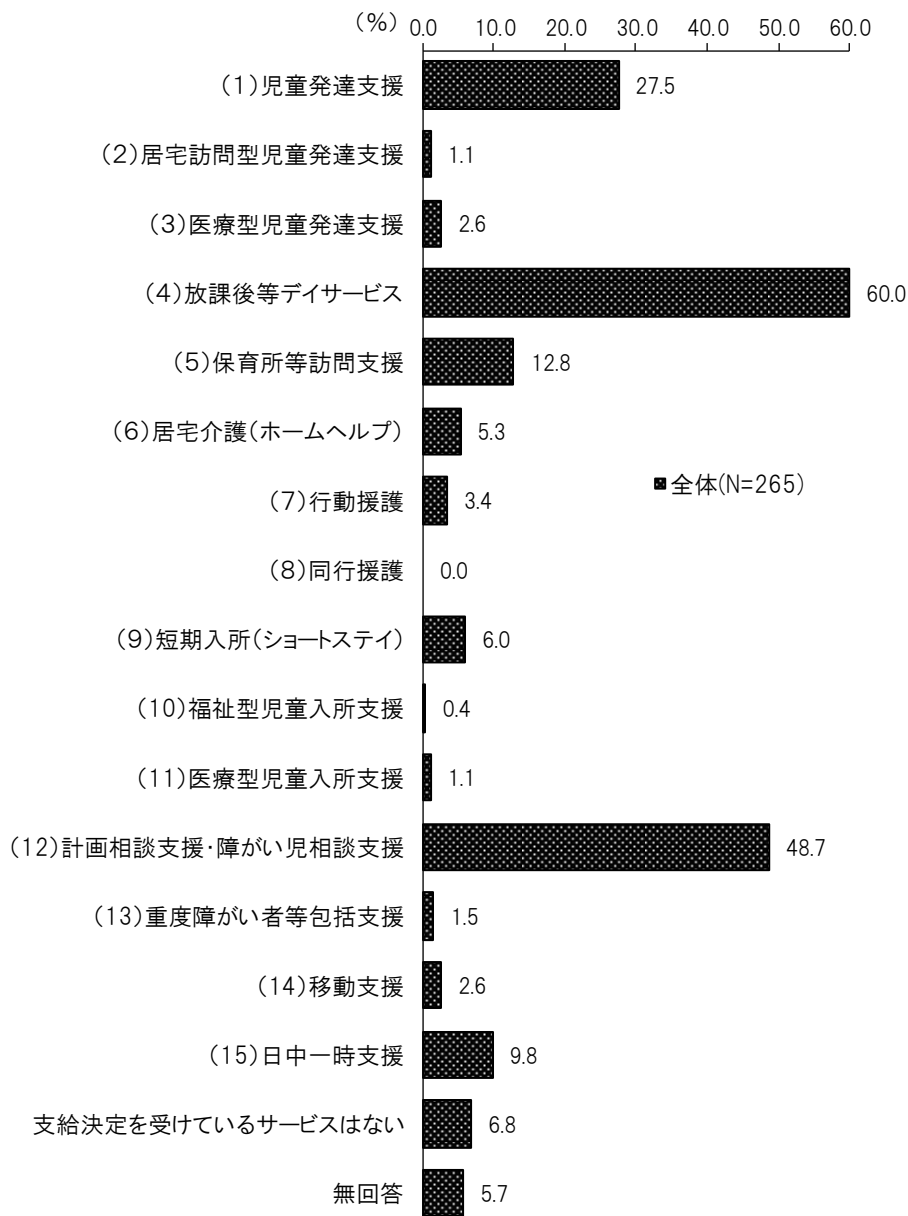
(1) 現在、支給決定を受けて利用しているサービスをすべてお答えください。

※ 受給者証の記載内容を参考にしてください。

(2) 今後、3年以内に利用したいサービスはありますか。(あてはまるものすべてに○印)

(1) 現在、利用しているサービス

現在、利用しているサービスについては、「(4) 放課後等デイサービス」の割合が60.0%と最も高く、次いで「(12) 計画相談支援・障がい児相談支援」(48.7%)、「(1) 児童発達支援」(27.5%)、「(5) 保育所等訪問支援」(12.8%)、「(15) 日中一時支援」(9.8%)の順となっている。



障がい種別では、身体障がい者で「(6)居宅介護(ホームヘルプ)」「(9)短期入所(ショートステイ)」「(12)計画相談支援・障がい児相談支援」、知的障がい者で「(4)放課後等デイサービス」「(12)計画相談支援・障がい児相談支援」、身体障がい者や手帳非所持者で「(1)児童発達支援」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。

発達障がいの診断を受けている人では「(4)放課後等デイサービス」「(12)計画相談支援・障がい児相談支援」の割合が、診断を受けていない人を大きく上回っている。

子どもの年齢別では、6歳以上、特に9～11歳で「(4)放課後等デイサービス」「(12)計画相談支援・障がい児相談支援」の割合がほかの年齢層に比べて高くなっている。

単位 (%)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	
	児童発達支援	居宅訪問型児童発達支援	医療型児童発達支援	放課後等デイサービス	保育所等訪問支援	居宅介護(ホームヘルプ)	行動援護	同行援護	短期入所(ショートステイ)	福祉型児童入所支援	医療型児童入所支援	支援 計画相談支援・障がい児相談	重度障がい者等包括支援	移動支援	日中一時支援	支給決定を受けていないサービス
全体(N=265)	27.5	1.1	2.6	60.0	12.8	5.3	3.4	0.0	6.0	0.4	1.1	48.7	1.5	2.6	9.8	6.8
【障がい種別】																
身体障がい者(n=37)	32.4	8.1	16.2	54.1	18.9	37.8	5.4	0.0	29.7	0.0	8.1	62.2	10.8	10.8	21.6	8.1
知的障がい者(n=103)	21.4	1.9	6.8	70.9	9.7	10.7	8.7	0.0	12.6	1.0	2.9	66.0	2.9	4.9	23.3	2.9
精神障がい者(n=31)	3.2	0.0	3.2	61.3	12.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	38.7	0.0	0.0	3.2	12.9
手帳非所持者(n=105)	34.3	0.0	0.0	58.1	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	45.7	0.0	0.0	0.0	6.7
【発達障がい診断別】																
受けている(n=184)	16.3	0.0	1.1	72.3	13.0	1.1	3.3	0.0	3.3	0.5	0.0	54.9	0.0	2.7	9.8	6.5
受けていない(n=70)	55.7	2.9	4.3	31.4	12.9	14.3	2.9	0.0	11.4	0.0	0.0	32.9	4.3	1.4	7.1	7.1
【子どもの年齢別】																
0～2歳(n=2)	100.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3～5歳(n=54)	100.0	0.0	3.7	0.0	3.7	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	27.8	0.0	1.9	7.4	0.0
6～8歳(n=66)	18.2	1.5	4.5	78.8	19.7	6.1	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	60.6	1.5	1.5	9.1	3.0
9～11歳(n=55)	3.6	1.8	0.0	96.4	20.0	5.5	1.8	0.0	5.5	0.0	1.8	65.5	1.8	1.8	7.3	3.6
12～14歳(n=33)	6.1	0.0	0.0	63.6	12.1	3.0	9.1	0.0	12.1	3.0	0.0	54.5	3.0	6.1	12.1	15.2
15～17歳(n=55)	1.8	1.8	1.8	60.0	7.3	5.5	7.3	0.0	14.5	0.0	3.6	34.5	1.8	3.6	14.5	16.4

注：子どもの年齢別の「0～2歳」については、件数(n)が少ないため参考値として参照

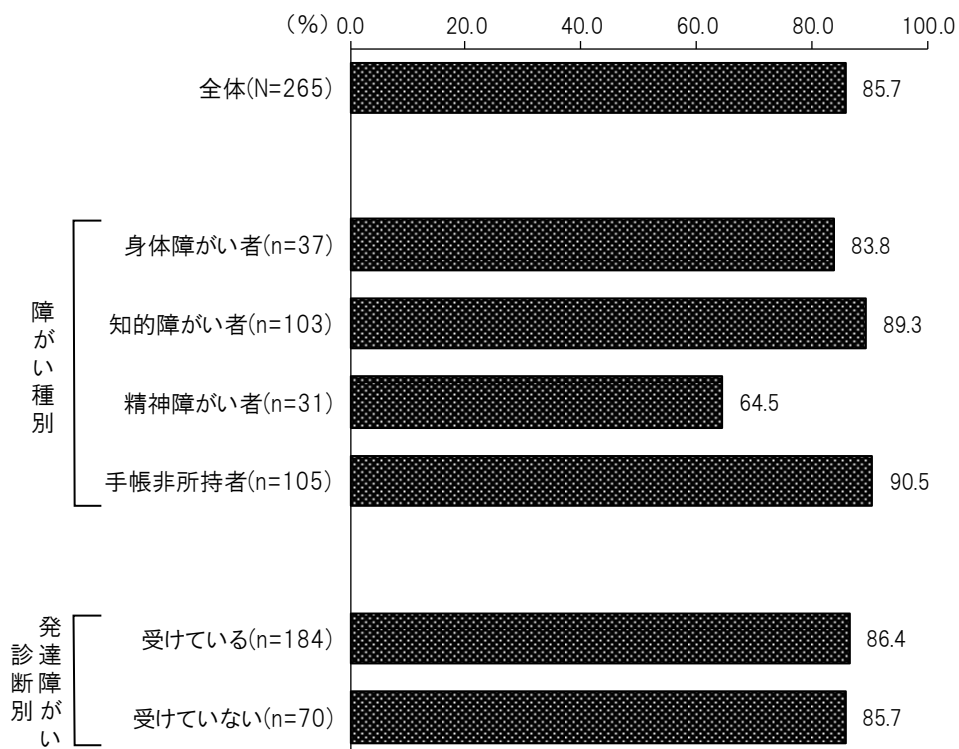
通所・通学先別（問 29）でみると、特別支援学校で「(7) 行動援護」「(9) 短期入所（ショートステイ）」「(15) 日中一時支援」、特別支援学校や特別支援学級・通級指導教室、放課後等デイサービス事業所で「(12) 計画相談支援・障がい児相談支援」の割合がそれぞれほかの層を大きく上回っている。

単位 (%)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	
	児童発達支援	居宅訪問型児童発達支援	医療型児童発達支援	放課後等デイサービス	保育所等訪問支援	居宅介護（ホームヘルプ）	行動援護	同行援護	短期入所（ショートステイ）	福祉型児童入所支援	医療型児童入所支援	計画相談支援・障がい児相談支援	重度障がい者等包括支援	移動支援	日中一時支援	支給決定を受けているサービスはない
全体(N=265)	27.5	1.1	2.6	60.0	12.8	5.3	3.4	0.0	6.0	0.4	1.1	48.7	1.5	2.6	9.8	6.8
【通所・通学先別】																
保育所・幼稚園・認定こども園(n=43)	100.0	0.0	2.3	0.0	9.3	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.9	0.0	2.3	2.3	0.0
小学校・中学校・高校(n=123)	4.1	0.8	0.0	79.7	16.3	3.3	0.0	0.0	2.4	0.0	0.0	48.0	0.8	1.6	1.6	9.8
特別支援学校(n=51)	3.9	3.9	5.9	86.3	9.8	11.8	17.6	0.0	21.6	2.0	3.9	70.6	5.9	7.8	33.3	7.8
特別支援学級・通級指導教室(n=51)	5.9	2.0	0.0	88.2	19.6	3.9	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	60.8	2.0	0.0	2.0	5.9
児童発達支援センター・児童発達支援事業所(n=56)	91.1	1.8	5.4	12.5	8.9	7.1	1.8	0.0	5.4	0.0	0.0	44.6	1.8	3.6	10.7	0.0
放課後等デイサービス事業所(n=119)	5.0	2.5	2.5	98.3	16.8	5.9	5.9	0.0	10.1	0.0	1.7	69.7	3.4	3.4	12.6	0.0

「(1) 児童発達支援」「(2) 居宅訪問型児童発達支援」「(3) 医療型児童発達支援」「(4) 放課後等デイサービス」「(5) 保育所等訪問支援」を1つ以上利用している児童は85.7%となっており、大半が利用している。

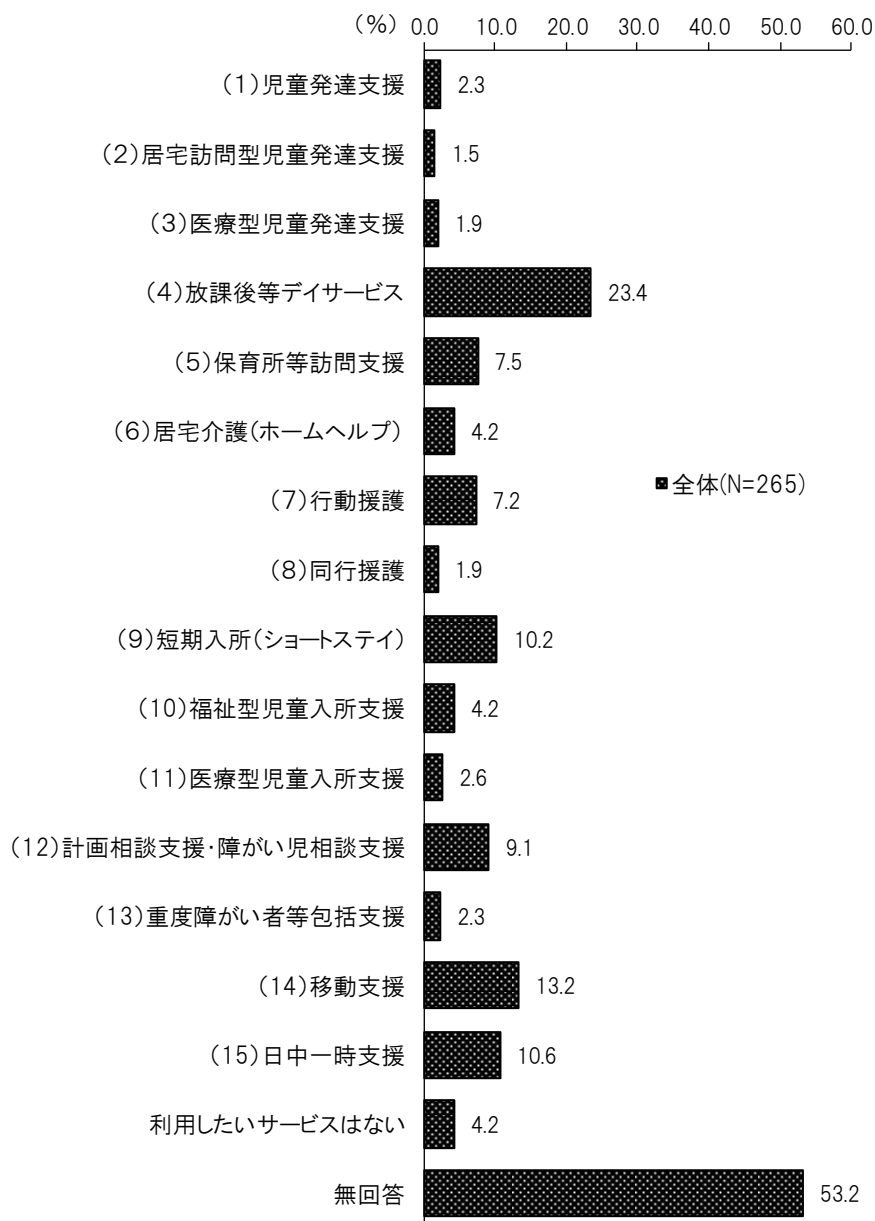
障がい種別では、精神障がい者で利用割合がやや低くなっている。

発達障がい診断別では、いずれも高い割合となっており、大きな差はみられない。



(2) 今後、3年以内に利用したいサービス

今後、3年以内に利用したいサービスについては、「(4) 放課後等デイサービス」の割合が23.4%と最も高く、次いで「(14) 移動支援」(13.2%)、「(15) 日中一時支援」(10.6%)、「(9) 短期入所(ショートステイ)」(10.2%)、「(12) 計画相談支援・障がい児相談支援」(9.1%)の順となっている。



障がい種別では、身体障がい者で「(6) 居宅介護 (ホームヘルプ)」、知的障がい者で「(7) 行動援護」、身体障がい者や知的障がい者で「(9) 短期入所 (ショートステイ)」「(14) 移動支援」「(15) 日中一時支援」、手帳非所持者で「(4) 放課後等デイサービス」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。

発達障がいの診断を受けている人は受けていない人に比べ、「(12) 計画相談支援・障がい児相談支援」「(14) 移動支援」の割合がやや高くなっている。

子どもの年齢別では、3～5歳で「(4) 放課後等デイサービス」、12～14歳で「(9) 短期入所 (ショートステイ)」「(14) 移動支援」などの割合がそれぞれほかの年齢層に比べて高くなっている。

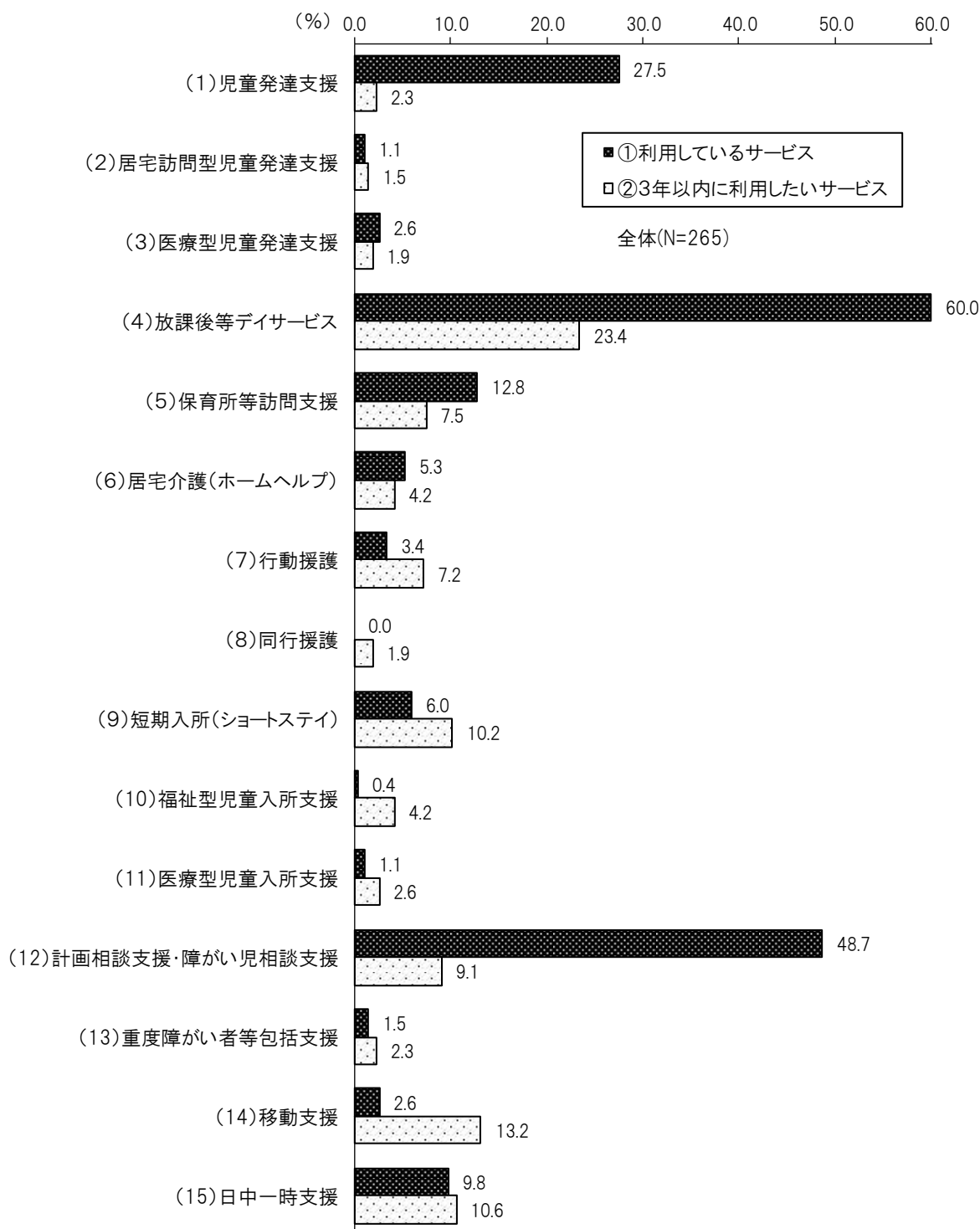
単位 (%)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	
	児童発達支援	居宅訪問型児童発達支援	医療型児童発達支援	放課後等デイサービス	保育所等訪問支援	居宅介護 (ホームヘルプ)	行動援護	同行援護	短期入所 (ショートステイ)	福祉型児童入所支援	医療型児童入所支援	支援 計画相談支援・障がい児相談	重度障がい者等包括支援	移動支援	日中一時支援	利用したいサービスはない
全体(N=265)	2.3	1.5	1.9	23.4	7.5	4.2	7.2	1.9	10.2	4.2	2.6	9.1	2.3	13.2	10.6	4.2
【障がい種別】																
身体障がい者(n=37)	2.7	0.0	0.0	18.9	5.4	16.2	8.1	5.4	21.6	5.4	8.1	2.7	8.1	27.0	21.6	5.4
知的障がい者(n=103)	2.9	1.0	1.0	18.4	4.9	7.8	16.5	2.9	24.3	8.7	4.9	11.7	3.9	27.2	19.4	3.9
精神障がい者(n=31)	3.2	3.2	3.2	12.9	6.5	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	9.7	3.2	16.1	3.2	9.7
手帳非所持者(n=105)	1.9	1.9	2.9	28.6	9.5	1.9	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	7.6	1.0	1.9	4.8	1.9
【発達障がい診断別】																
受けている(n=184)	2.2	2.2	2.7	21.2	8.7	3.3	7.1	1.6	9.2	4.9	2.2	11.4	1.6	13.6	10.3	3.3
受けていない(n=70)	1.4	0.0	0.0	28.6	5.7	2.9	5.7	1.4	10.0	2.9	4.3	4.3	0.0	10.0	8.6	5.7
【子どもの年齢別】																
0～2歳(n=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3～5歳(n=54)	3.7	1.9	3.7	53.7	14.8	1.9	7.4	0.0	5.6	0.0	0.0	1.9	1.9	5.6	3.7	0.0
6～8歳(n=66)	1.5	1.5	1.5	27.3	13.6	6.1	4.5	3.0	9.1	3.0	4.5	12.1	1.5	13.6	12.1	1.5
9～11歳(n=55)	1.8	1.8	1.8	20.0	1.8	3.6	3.6	1.8	1.8	1.8	1.8	16.4	3.6	10.9	14.5	0.0
12～14歳(n=33)	3.0	3.0	3.0	6.1	6.1	6.1	9.1	3.0	24.2	15.2	9.1	12.1	3.0	27.3	15.2	12.1
15～17歳(n=55)	1.8	0.0	0.0	3.6	0.0	3.6	12.7	1.8	16.4	5.5	0.0	3.6	1.8	14.5	9.1	10.9

注:子どもの年齢別の「0～2歳」については、件数(n)が少ないため参考値として参照

通所・通学先別でみると、保育所・幼稚園・認定こども園や児童発達支援センター・児童発達支援事業所で「(4)放課後等デイサービス」、特別支援学校で「(9)短期入所(ショートステイ)」「(14)移動支援」の割合がそれぞれほかの層を大きく上回っている。

単位 (%)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	
	児童発達支援	居宅訪問型児童発達支援	医療型児童発達支援	放課後等デイサービス	保育所等訪問支援	居宅介護(ホームヘルプ)	行動援護	同行援護	短期入所(ショートステイ)	福祉型児童入所支援	医療型児童入所支援	支援計画相談支援・障がい児相談	重度障がい者等包括支援	移動支援	日中一時支援	利用したいサービスはない
全体(N=265)	2.3	1.5	1.9	23.4	7.5	4.2	7.2	1.9	10.2	4.2	2.6	9.1	2.3	13.2	10.6	4.2
【通所・通学先別】																
保育所・幼稚園・認定こども園(n=43)	4.7	2.3	4.7	51.2	16.3	0.0	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	4.7	0.0	2.3	0.0	0.0
小学校・中学校・高校(n=123)	1.6	1.6	1.6	16.3	7.3	2.4	2.4	1.6	2.4	2.4	2.4	11.4	1.6	8.1	6.5	4.9
特別支援学校(n=51)	2.0	0.0	0.0	3.9	2.0	5.9	19.6	3.9	37.3	13.7	5.9	9.8	2.0	31.4	23.5	5.9
特別支援学級・通級指導教室(n=51)	0.0	0.0	0.0	25.5	11.8	2.0	0.0	0.0	2.0	0.0	2.0	17.6	0.0	15.7	9.8	2.0
児童発達支援センター・児童発達支援事業所(n=56)	5.4	1.8	3.6	57.1	17.9	3.6	8.9	0.0	5.4	0.0	0.0	10.7	1.8	10.7	10.7	0.0
放課後等デイサービス事業所(n=119)	0.8	0.0	0.0	15.1	6.7	1.7	7.6	1.7	12.6	5.9	3.4	12.6	0.8	16.8	11.8	0.0

【再掲／「① 利用しているサービス」と「② 3年以内に利用したいサービス」の比較】

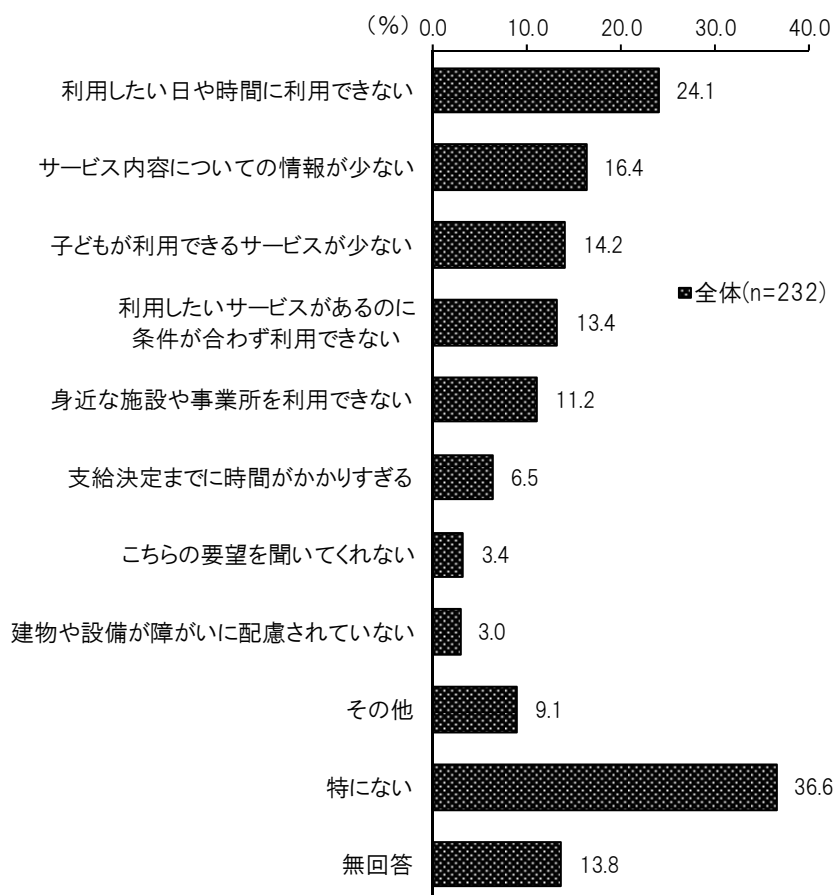


2 障がい福祉サービスに対して困ったこと

【問7(1)で「1～15（利用している）」のいずれかを選んだ方におたずねします。】

問8 お子さんが利用したことのある障がい福祉サービスに対して、困ったことがありましたか。（あてはまるものすべてに○印）

障がい福祉サービスに対して困ったことについては、「利用したい日や時間に利用できない」の割合が24.1%と最も高く、次いで「サービス内容についての情報が少ない」（16.4%）、「子どもが利用できるサービスが少ない」（14.2%）、「利用したいサービスがあるのに条件が合わず利用できない」（13.4%）の順となっている。一方、3割以上（36.6%）は「特にない」と回答している。（児童発達支援や放課後等デイサービスについては、問13にも類似質問がある。）



障がい種別では、身体障がい者で「子どもが利用できるサービスが少ない」、手帳非所持者で「特にない」の割合がそれぞれほかの障がいを大きく上回っている。

現在、利用しているサービス別（n=10未満のものを除く。）でみると、居宅介護（ホームヘルプ）、短期入所（ショートステイ）、日中一時支援で「利用したい日や時間に利用できない」の割合が高くなっている。

単位 (%)	で利用 しない 日や 時間 に 利用	報 が 少 ない	サ ー ビ ス 内 容 に つ い て の 情	ス 子 ど も が 利 用 で き る サ ー ビ ス	な の に 条 件 が 合 わ ず 利 用 で き る	利 用 し た い サ ー ビ ス が あ る で き な い	身 近 な 施 設 や 事 業 所 を 利 用	支 給 決 定 ま で に 時 間 が か か り す ぎ る	な い こ ち ら の 要 望 を 聞 い て く れ	さ れ て い な い 建 物 や 設 備 が 障 が い に 配 慮	そ の 他	特 に な い
全体(n=232)	24.1	16.4	14.2	13.4	11.2	6.5	3.4	3.0	9.1	36.6		
【障がい種別】												
身体障がい者(n=34)	35.3	17.6	41.2	20.6	20.6	14.7	8.8	8.8	14.7	17.6		
知的障がい者(n=94)	30.9	18.1	22.3	20.2	16.0	10.6	4.3	3.2	10.6	24.5		
精神障がい者(n=21)	23.8	19.0	19.0	14.3	9.5	4.8	14.3	9.5	9.5	23.8		
手帳非所持者(n=95)	17.9	12.6	6.3	6.3	8.4	2.1	1.1	2.1	6.3	50.5		
【現在、利用しているサービス別】												
児童発達支援(n=73)	20.5	16.4	11.0	12.3	9.6	11.0	2.7	1.4	4.1	46.6		
居宅訪問型児童発達支援(n=3)	66.7	0.0	33.3	33.3	66.7	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0		
医療型児童発達支援(n=7)	28.6	14.3	28.6	42.9	28.6	42.9	28.6	28.6	0.0	14.3		
放課後等デイサービス(n=159)	27.0	17.0	17.0	14.5	12.6	5.7	4.4	3.8	11.3	32.1		
保育所等訪問支援(n=34)	32.4	20.6	23.5	20.6	14.7	8.8	2.9	5.9	5.9	38.2		
居宅介護（ホームヘルプ）(n=14)	57.1	14.3	57.1	21.4	35.7	21.4	21.4	7.1	21.4	14.3		
行動援護(n=9)	55.6	11.1	22.2	55.6	22.2	22.2	0.0	0.0	33.3	11.1		
同行援護(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
短期入所（ショートステイ）(n=16)	50.0	12.5	31.3	37.5	25.0	6.3	6.3	0.0	18.8	18.8		
福祉型児童入所支援(n=1)	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
医療型児童入所支援(n=3)	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0		
計画相談支援・障がい児相談支援(n=129)	31.8	22.5	20.9	17.8	14.7	10.1	4.7	5.4	10.1	28.7		
重度障がい者等包括支援(n=4)	75.0	0.0	50.0	50.0	75.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0		
移動支援(n=7)	71.4	14.3	42.9	57.1	42.9	42.9	14.3	14.3	42.9	0.0		
日中一時支援(n=26)	61.5	34.6	34.6	42.3	19.2	23.1	7.7	11.5	19.2	7.7		

注：現在、利用しているサービス別の件数(n=)が10未満の項目については、参考値として参照

医療的ケアの診断を受けている人は診断を受けていない人に比べ、サービスへの困りごとが多い傾向にある。

地域生活拠点ブロック別では、中央ブロックや神辺ブロックで「利用したい日や時間に利用できない」の割合がほかのブロックに比べて低くなっている。

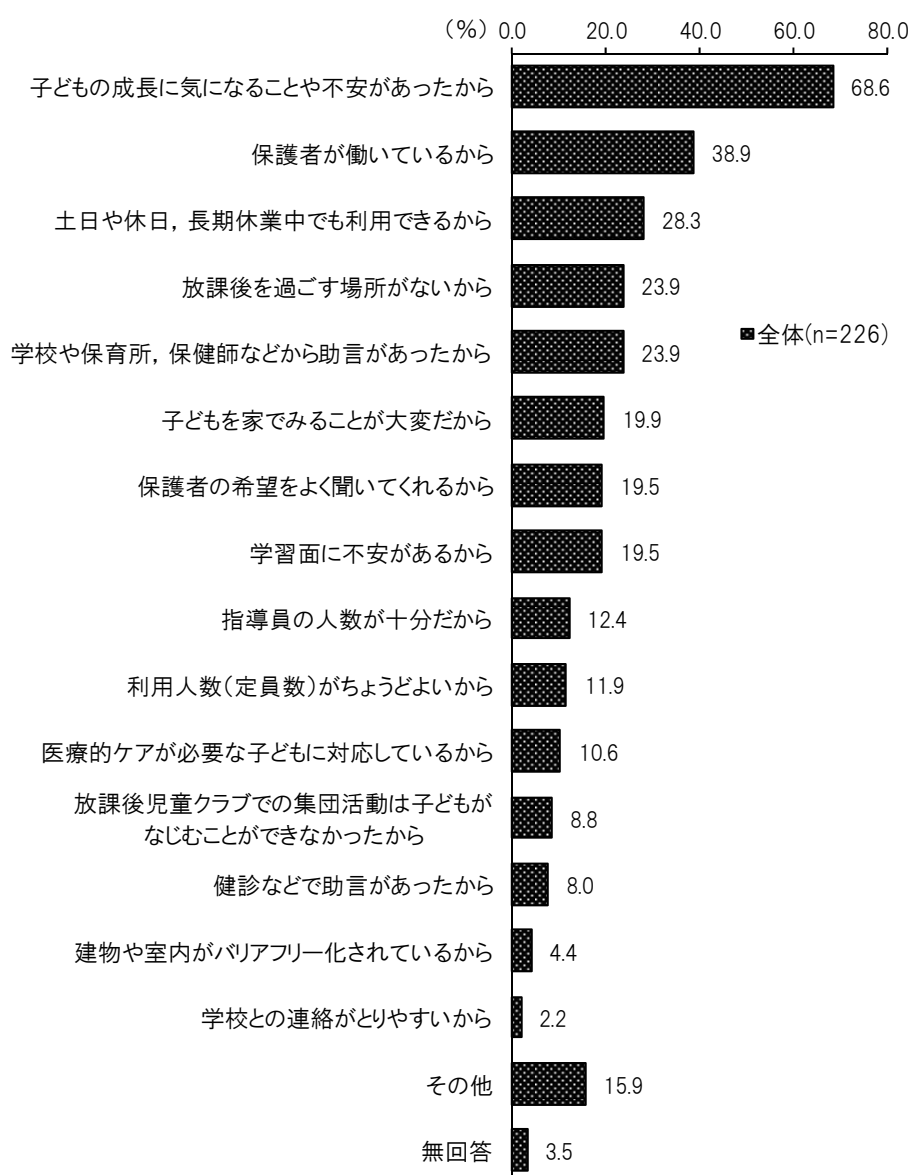
単位 (%)	で利用したい日や時間に利用できない	報サービス内容についての情報が少ない	子どもが利用できるサービスが少ない	利用したいサービスが利用できない	身近な施設や事業所を利用できない	支給決定までに時間がかかりすぎる	こちらの要望を聞いてくれない	建物や設備が障がい配慮されていない	その他	特になし
全体(n=232)	24.1	16.4	14.2	13.4	11.2	6.5	3.4	3.0	9.1	36.6
【医療的ケアの診断別】										
受けている(n=24)	33.3	20.8	41.7	16.7	20.8	8.3	12.5	12.5	16.7	12.5
受けていない(n=170)	22.9	17.1	10.0	12.9	9.4	5.9	2.4	1.8	6.5	41.2
【地域生活拠点ブロック別】										
東部ブロック(n=54)	27.8	16.7	14.8	11.1	16.7	5.6	5.6	7.4	5.6	29.6
中央ブロック(n=70)	21.4	17.1	10.0	10.0	10.0	5.7	1.4	1.4	8.6	42.9
神辺ブロック(n=35)	17.1	11.4	22.9	17.1	5.7	5.7	0.0	2.9	11.4	34.3
北部・新市ブロック(n=32)	28.1	18.8	15.6	21.9	9.4	3.1	6.3	3.1	12.5	31.3
松永・沼隈ブロック(n=37)	29.7	18.9	10.8	13.5	13.5	10.8	5.4	0.0	8.1	40.5

3 児童発達支援や放課後等デイサービスを利用している理由

【問7(1)で「1 児童発達支援」や「4 放課後等デイサービス」を現在利用している方におたずねします。】

問9 お子さんが現在「児童発達支援」や「放課後等デイサービス」を利用している主な理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○印）

児童発達支援や放課後等デイサービスを利用している理由については、「子どもの成長に気になることや不安があったから」の割合が68.6%と最も高く、次いで「保護者が働いているから」(38.9%)、「土日や休日、長期休業中でも利用できるから」(28.3%)、「放課後を過ごす場所がないから」「学校や保育所、保健師などから助言があったから」(各23.9%)の順となっている。



障がい種別では、身体障がい者で「保護者の希望をよく聞いてくれるから」「医療的ケアが必要な子どもに対応しているから」、知的障がい者で「保護者が働いているから」、精神障がい者で「放課後児童クラブでの集団活動は子どもがなじむことができなかつたから」、手帳非所持者で「子どもの成長に気になることや不安があつたから」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。

発達障がいの診断を受けている人では「子どもの成長に気になることや不安があつたから」「保護者が働いているから」「土日や休日、長期休業中でも利用できるから」などの割合が、診断を受けていない人を大きく上回っている。

単位 (%)	子どもの成長に気になることや不安があつたから	保護者が働いているから	土日や休日、長期休業中でも利用できるから	放課後を過ごす場所がないから	学校や保育所、保健師などから助言があつたから	子どもを家でみるのが大変だから	保護者の希望をよく聞いてくれるから	学習面に不安があるから	指導員の人数が十分だから	利用人数（定員数）がちょうどよいから	医療的ケアが必要な子どもに対応しているから	放課後児童クラブでの集団活動は子どもがなじむことができなかつたから	健診などで助言があつたから	建物や室内がバリアフリー化されているから	学校との連絡がとりやすいから
全体(n=226)	68.6	38.9	28.3	23.9	23.9	19.9	19.5	19.5	12.4	11.9	10.6	8.8	8.0	4.4	2.2
【障がい種別】															
身体障がい者(n=30)	26.7	46.7	43.3	40.0	16.7	33.3	30.0	13.3	13.3	13.3	60.0	6.7	0.0	16.7	0.0
知的障がい者(n=92)	56.5	58.7	43.5	46.7	17.4	39.1	20.7	9.8	14.1	12.0	16.3	7.6	7.6	8.7	3.3
精神障がい者(n=20)	55.0	25.0	40.0	10.0	25.0	10.0	20.0	30.0	5.0	15.0	15.0	25.0	10.0	5.0	5.0
手帳非所持者(n=95)	82.1	26.3	17.9	9.5	27.4	8.4	20.0	25.3	13.7	13.7	3.2	10.5	8.4	2.1	1.1
【発達障がい診断別】															
受けている(n=159)	73.6	44.0	32.7	27.0	21.4	23.3	19.5	22.6	11.9	11.9	7.5	12.6	8.2	4.4	3.1
受けていない(n=59)	59.3	22.0	16.9	13.6	30.5	10.2	16.9	11.9	10.2	11.9	15.3	0.0	6.8	3.4	0.0

注:「その他」は表記から省略している。

4 児童発達支援や放課後等デイサービスの利用日数の増減について

【問7(1)で「1 児童発達支援」や「4 放課後等デイサービス」を現在利用している方におたずねします。】

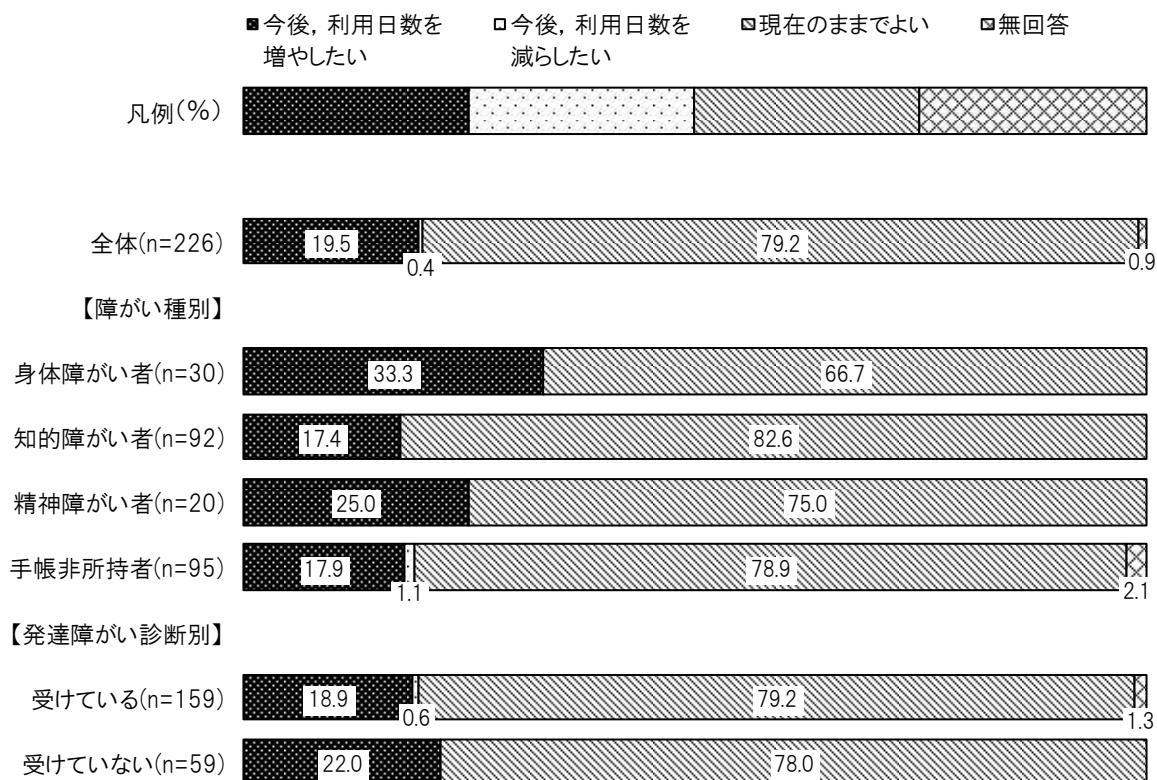
問10 お子さんが現在利用している「児童発達支援」や「放課後等デイサービス」について、今後、利用日数を増やしたい、または減らしたいと思いませんか。

(○印は1つ)

児童発達支援や放課後等デイサービスの利用日数の増減については、「現在のままでよい」の割合が79.2%と最も高く、次いで「今後、利用日数を増やしたい」が19.5%、「今後、利用日数を減らしたい」が0.4%となっている。

障がい種別では、身体障がい者で「今後、利用日数を増やしたい」の割合がほかの障がいに比べて高くなっている。

発達障がい診断別では、大きな差はみられない。



5 児童発達支援や放課後等デイサービスの療育への影響について

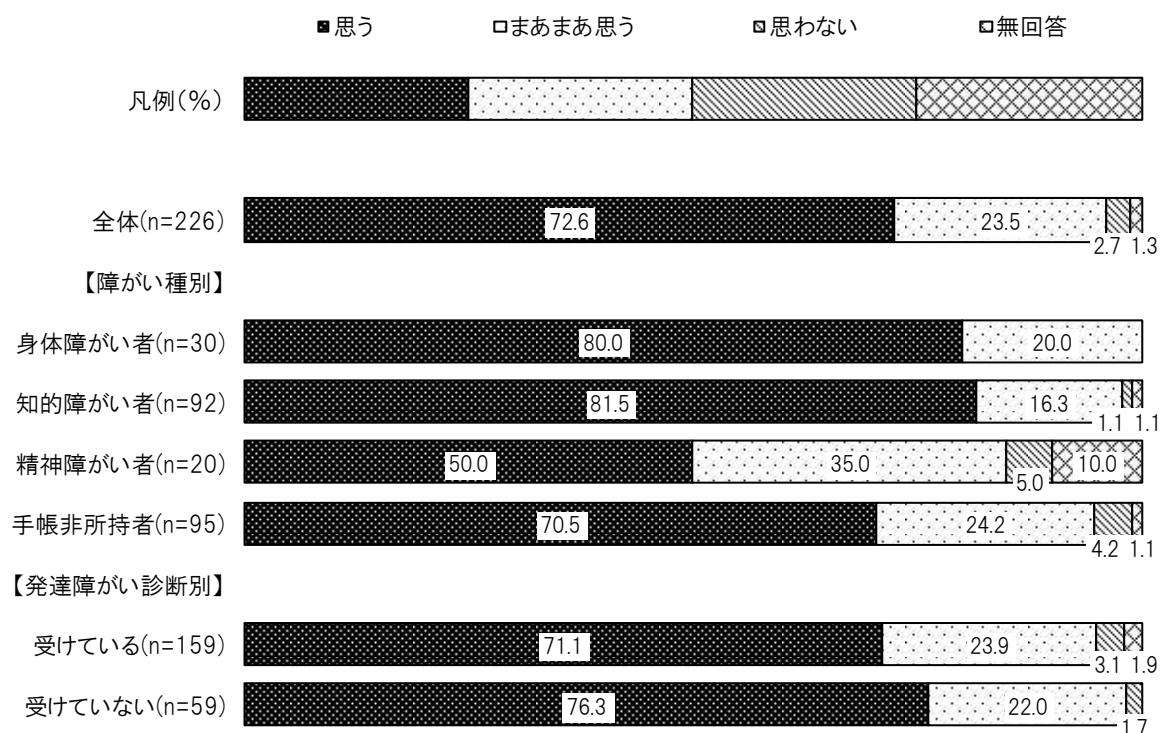
【問7(1)で「1 児童発達支援」や「4 放課後等デイサービス」を現在利用している方におたずねします。】

問11 お子さんが現在利用している「児童発達支援」や「放課後等デイサービス」について、お子さんの療育に良い影響があると思いますか。（○印は1つ）

児童発達支援や放課後等デイサービスの療育への影響については、良い影響があると思うが72.6%、「まあまあ思う」が23.5%、合計で96.1%が『思う』と回答している。一方、「思わない」は2.7%となっている。

障がい種別では、精神障がい者で「思う」の割合がほかの障がいに比べて低くなっている。

発達障がいの診断を受けていない人は受けている人に比べ、「思う」の割合が高くなっている。



6 療育に良い影響があると思わない理由

【問11で「3（療育に良い影響があると思わない）」を選んだ方におたずねします。】

問12 お子さんの療育に良い影響があると思わない理由は何ですか。

（あてはまるものすべてに○印）

療育に良い影響があると思わない理由については、回答者6名のうち「子どもの現在の発達状況について、どの程度改善しているのか把握しにくい」が4名、「事業所のサービスが子どもに適しているかわからない」が3名、「子どもの生活面や学習面に改善がみられない」が2名となっている。

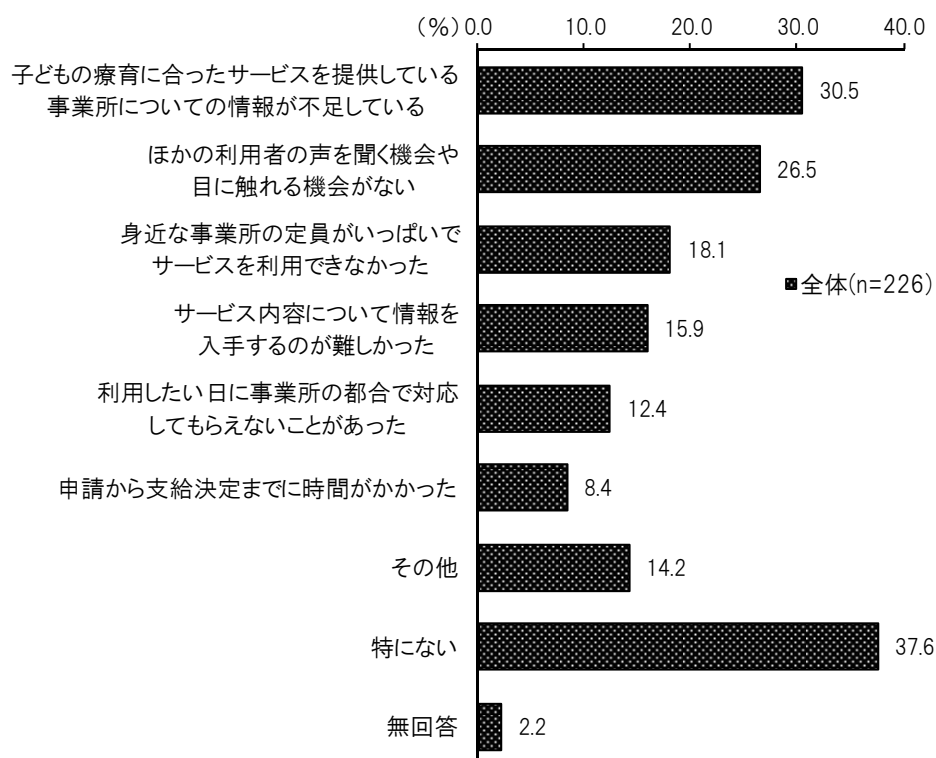
7 児童発達支援や放課後等デイサービスで困ったこと

【問7(1)で「1 児童発達支援」や「4 放課後等デイサービス」を現在利用している方におたずねします。】

問13 お子さんが現在利用している、または利用したことがある「児童発達支援」や「放課後等デイサービス」について困ったことがありましたか。

(あてはまるものすべてに○印)

児童発達支援や放課後等デイサービスで困ったことについては、「子どもの療育に合ったサービスを提供している事業所についての情報が不足している」の割合が30.5%と最も高く、次いで「ほかの利用者の声を聞く機会や目に触れる機会がない」(26.5%)、「身近な事業所の定員がいっぱいでサービスを利用できなかった」(18.1%)、「サービス内容について情報を入手するのが難しかった」(15.9%)の順となっている。また「その他」では、「送迎サービスがない」「職員不足で利用できない日がある」などの回答がみられた。(問8にも類似質問がある。)



障がい種別では、身体障がい者で「ほかの利用者の声を聞く機会や目に触れる機会がない」「身近な事業所の定員がいっぱいサービスを利用できなかった」、知的障がい者で「子どもの療育に合ったサービスを提供している事業所についての情報が不足している」、手帳非所持者で「特にない」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。

発達障がいの診断を受けている人は受けていない人に比べ、「サービス内容について情報を入手するのが難しかった」「利用したい日に事業所の都合で対応してもらえないことがあった」の割合が高くなっている。

地域生活拠点ブロック別では、東部ブロックや松永・沼隈ブロックで「子どもの療育に合ったサービスを提供している事業所についての情報が不足している」「ほかの利用者の声を聞く機会や目に触れる機会がない」、東部ブロックで「身近な事業所の定員がいっぱいサービスを利用できなかった」の割合がそれぞれほかのブロックに比べて高くなっている。また、神辺ブロックで「利用したい日に事業所の都合で対応してもらえないことがあった」の割合がほかのブロックに比べて低くなっている。

単位 (%)	報告が不足している事業所にサービスの内容を	子どもの療育に合ったサービスの内容を	ほかの利用者の声を聞く機会や目に触れる機会がない	身近な事業所の定員がいっぱいで	サービスの内容について情報を入手	利用してもらえない事業所の都合で対	申請から支給決定までに時間がか	その他	特にない
全体(n=226)	30.5	26.5	18.1	15.9	12.4	8.4	14.2	37.6	
【障がい種別】									
身体障がい者(n=30)	26.7	33.3	26.7	16.7	23.3	3.3	30.0	20.0	
知的障がい者(n=92)	33.7	28.3	19.6	14.1	20.7	12.0	17.4	32.6	
精神障がい者(n=20)	25.0	20.0	10.0	10.0	10.0	10.0	35.0	35.0	
手帳非所持者(n=95)	27.4	27.4	20.0	17.9	6.3	6.3	5.3	43.2	
【発達障がい診断別】									
受けている(n=159)	31.4	25.8	17.0	17.6	14.5	8.8	16.4	37.1	
受けていない(n=59)	28.8	30.5	18.6	13.6	6.8	8.5	8.5	39.0	
【地域生活拠点ブロック別】									
東部ブロック(n=51)	37.3	37.3	27.5	21.6	21.6	11.8	9.8	25.5	
中央ブロック(n=69)	29.0	21.7	11.6	18.8	10.1	5.8	15.9	40.6	
神辺ブロック(n=35)	14.3	14.3	20.0	11.4	5.7	11.4	17.1	40.0	
北部・新市ブロック(n=31)	29.0	25.8	22.6	9.7	12.9	6.5	12.9	38.7	
松永・沼隈ブロック(n=36)	41.7	36.1	13.9	11.1	11.1	8.3	16.7	41.7	

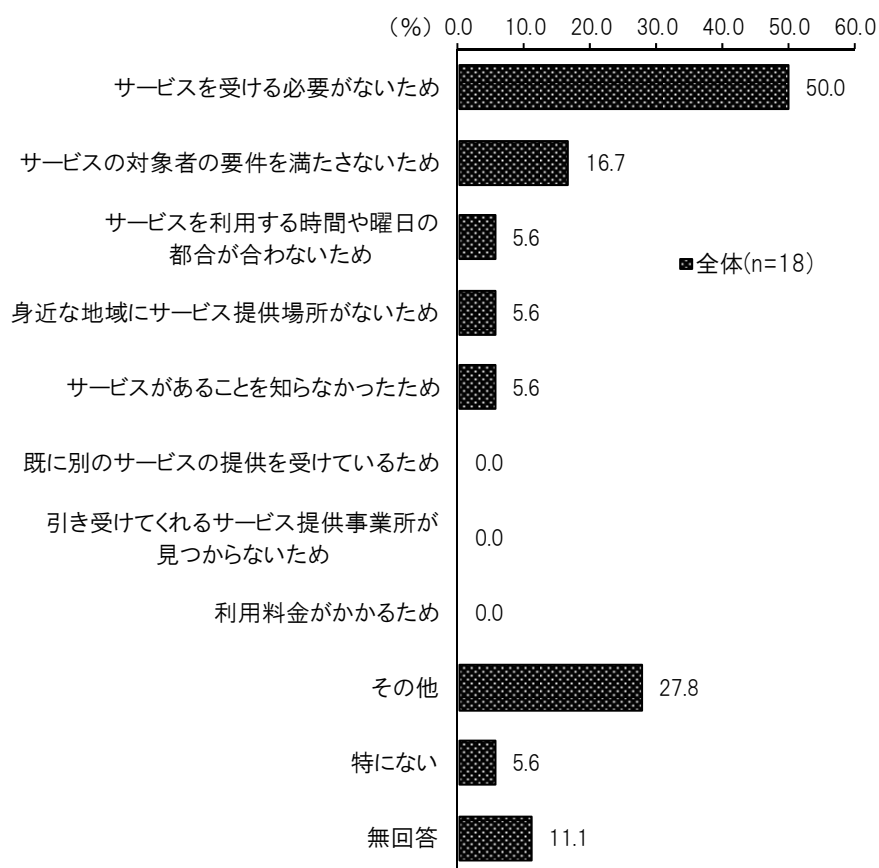
8 サービスを利用していない理由

【問7(1)で「16(支給決定を受けているサービスはない)」を選んだ方におたずねします。】

問14 お子さんが障がい福祉サービスを利用していない理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに○印)

サービスを利用していない理由については、「サービスを受ける必要がないため」の割合が50.0%と最も高く、次いで「サービスの対象者の要件を満たさないため」(16.7%)が続いている。また「その他」では、「子どもが利用したがらない」「利用したいサービスがない」などの回答がみられた。



障がい種別では、身体障がい者や精神障がい者、手帳非所持者で「サービスを受ける必要がないため」の割合が高くなっている。

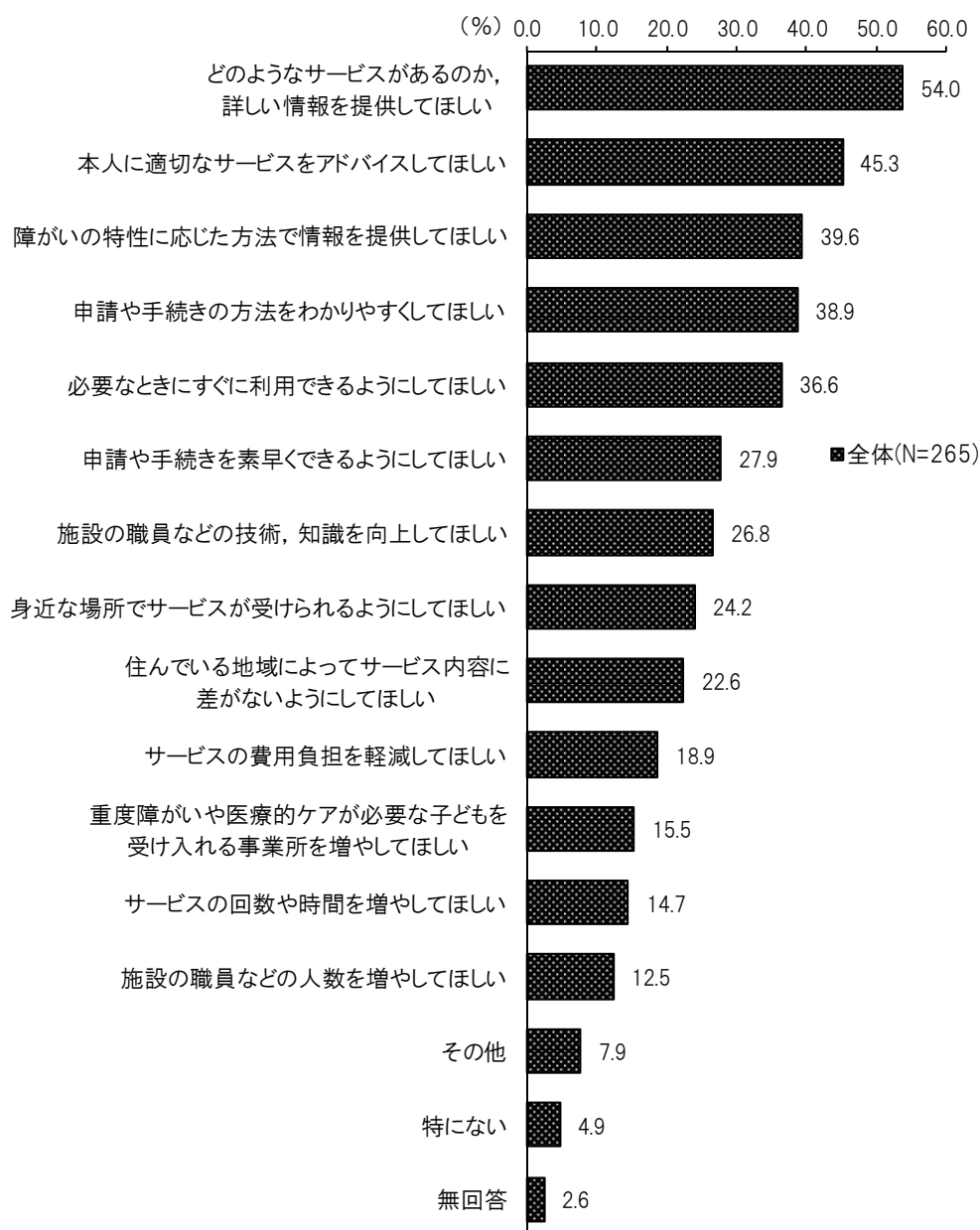
単位 (%)	サービスを受ける必要がないため	サービスの対象者の要件を満たさないため	サービスの都合が合わないため	身近な地域にサービス提供場所がないため	サービスがあることを知らないため	既に別のサービスの提供を受けているため	供事業所が見つからないため	引き受けてくれるサービス提供	利用料金がかかるため	その他	特にな
全体(n=18)	50.0	16.7	5.6	5.6	5.6	0.0	0.0	0.0	27.8	5.6	
【障がい種別】											
身体障がい者(n=3)	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	
知的障がい者(n=3)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3	
精神障がい者(n=4)	50.0	0.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	
手帳非所持者(n=7)	71.4	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0	

注：上記割合は、該当件数(n)が少ないため参考値として参照

9 サービスを利用しやすくするために必要なこと

問 15 今後、障がい福祉サービスを利用しやすくするためには、どのようなことが必要だと思いますか。上位5つまで選んでください。（主なもの5つまでに○印）

サービスを利用しやすくするために必要なことについては、「どのようなサービスがあるのか、詳しい情報を提供してほしい」の割合が54.0%と最も高く、次いで「本人に適切なサービスをアドバイスしてほしい」(45.3%)、「障がいの特性に応じた方法で情報を提供してほしい」(39.6%)、「申請や手続きの方法をわかりやすくしてほしい」(38.9%)の順となっている。



障がい種別では、身体障がい者で「必要なときにすぐに利用できるようにしてほしい」「身近な場所でサービスが受けられるようにしてほしい」「重度障がいや医療的ケアが必要な子どもを受け入れる事業所を増やしてほしい」、知的障がい者で「障がいの特性に応じた方法で情報を提供してほしい」「施設の職員などの人数を増やしてほしい」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。

発達障がいの診断を受けている人では「本人に適切なサービスをアドバイスしてほしい」「施設の職員などの技術、知識を向上してほしい」の割合が、診断を受けていない人を大きく上回っている。

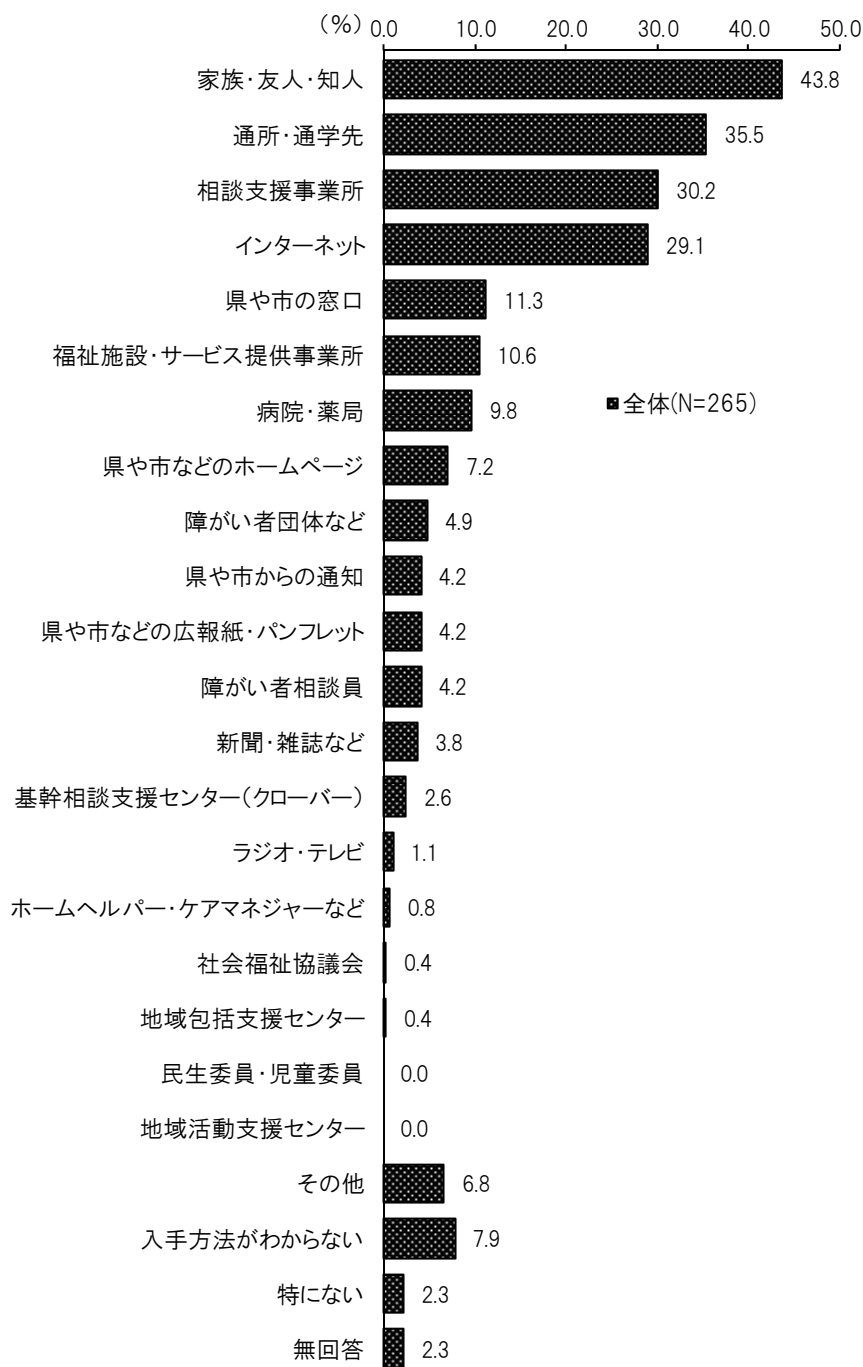
単位 (%)	どのよう なサービ スがあれ るか、詳 しい情報 を提供し てほしい	本人に 適切な サービ スをア ドバイ スして ほしい	障がい の特性 に応じ た方法 で情報 を提 供して ほしい	申請や 手続き の方法 をわか りやす くして ほしい	必要と するに すぐに 利用で きるよ うにす べてほ しい	申請や 手続き を素早 くでき るよう にす べてほ しい	施設の 職員な どの技 術、知 識を上 向させ てほし い	身近な 場所 でサー ビスが 受けら れるよ うにす べてほ しい	住んで いる地 域によ ってサ ービス 内容に 差がな いよう にして ほしい	サービ スの費 用負担 を軽減 してほ しい	重度障 がいや 医療的 ケアが 必要な 子ども を受け 入れる 事業所 を増や してほ しい	サービ スの回 数や時 間を増 やして ほしい	施設の 職員な どの人 数を増 やして ほしい	特にな い
全体(N=265)	54.0	45.3	39.6	38.9	36.6	27.9	26.8	24.2	22.6	18.9	15.5	14.7	12.5	4.9
【障がい種別】														
身体障がい者(n=37)	62.2	37.8	40.5	21.6	51.4	35.1	24.3	48.6	32.4	21.6	67.6	21.6	10.8	0.0
知的障がい者(n=103)	59.2	42.7	46.6	38.8	40.8	31.1	29.1	29.1	23.3	26.2	31.1	17.5	19.4	4.9
精神障がい者(n=31)	48.4	51.6	35.5	38.7	32.3	22.6	32.3	19.4	22.6	19.4	6.5	6.5	12.9	0.0
手帳非所持者(n=105)	51.4	49.5	34.3	42.9	33.3	28.6	24.8	20.0	22.9	16.2	2.9	16.2	6.7	4.8
【発達障がい診断別】														
受けている(n=184)	53.8	51.1	40.2	40.2	37.5	28.8	31.0	20.1	23.9	20.1	10.3	14.1	14.7	3.8
受けていない(n=70)	58.6	34.3	41.4	40.0	34.3	25.7	17.1	34.3	17.1	14.3	25.7	15.7	7.1	5.7

注:「その他」は表記から省略している。

10 障がいや福祉サービスに関する情報の入手先

問 16 お子さんの障がいのことや福祉サービスに関する情報を、どこから知ることが多いですか。（あてはまるものすべてに○印）

障がいや福祉サービスに関する情報の入手先については、「家族・友人・知人」の割合が 43.8%と最も高く、次いで「通所・通学先」(35.5%)、「相談支援事業所」(30.2%)、「インターネット」(29.1%)、「県や市の窓口」(11.3%)の順となっている。



障がい種別では、身体障がい者や知的障がい者で「家族・友人・知人」、身体障がい者で「福祉施設・サービス提供事業所」「障がい者団体など」、知的障がい者で「相談支援事業所」、精神障がい者で「病院・薬局」「入手方法がわからない」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。

単位 (%)	家族・友人・知人	通所・通学先	相談支援事業所	インターネット	県や市の窓口	福祉施設・サービス提供事業所	病院・薬局	県や市などのホームページ	障がい者団体など	県や市からの通知	県や市などの広報紙・パンフレット	障がい者相談員
全体(N=265)	43.8	35.5	30.2	29.1	11.3	10.6	9.8	7.2	4.9	4.2	4.2	4.2
【障がい種別】												
身体障がい者(n=37)	54.1	29.7	29.7	24.3	10.8	21.6	8.1	2.7	16.2	8.1	5.4	10.8
知的障がい者(n=103)	55.3	39.8	44.7	28.2	15.5	16.5	7.8	4.9	6.8	3.9	1.0	6.8
精神障がい者(n=31)	32.3	16.1	19.4	29.0	16.1	6.5	22.6	6.5	9.7	9.7	6.5	0.0
手帳非所持者(n=105)	40.0	38.1	24.8	31.4	6.7	7.6	8.6	7.6	1.9	2.9	5.7	2.9

単位 (%)	新聞・雑誌など	基幹相談支援センター(バー)	ラジオ・テレビ	ホームヘルパー・ケアマネジャーなど	社会福祉協議会	地域包括支援センター	民生委員・児童委員	地域活動支援センター	その他	入手方法がわからない	特になし
全体(N=265)	3.8	2.6	1.1	0.8	0.4	0.4	0.0	0.0	6.8	7.9	2.3
【障がい種別】											
身体障がい者(n=37)	2.7	0.0	2.7	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	10.8	5.4	2.7
知的障がい者(n=103)	4.9	1.9	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.8	4.9	1.0
精神障がい者(n=31)	6.5	3.2	3.2	0.0	3.2	0.0	0.0	0.0	12.9	16.1	0.0
手帳非所持者(n=105)	1.9	2.9	0.0	1.0	0.0	1.0	0.0	0.0	4.8	6.7	1.9

【3】ふだんの暮らしについて

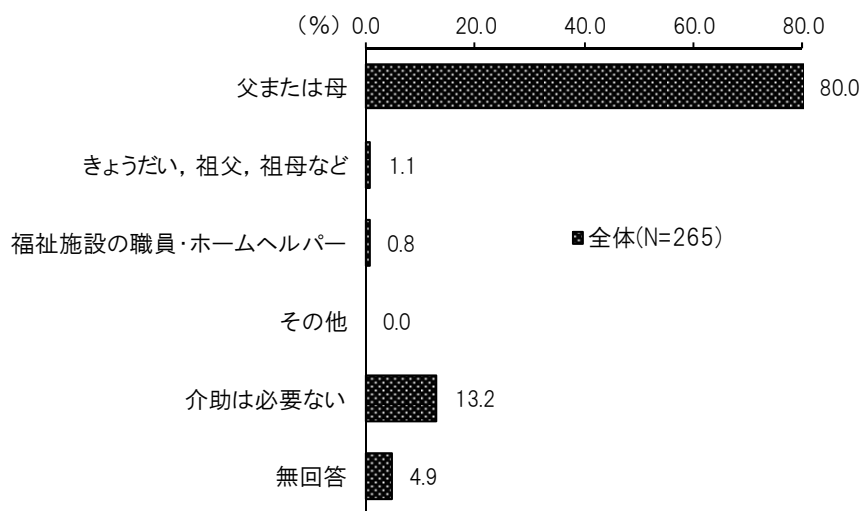
1 主な介助者

問 17 お子さんの主な介助者についてお答えください。（○印は1つずつ）

（1）主な介助者

主な介助者については、「父または母」が8割（80.0%）を占めており、「介助は必要ない」は13.2%となっている。

障がい種別では、身体障がい者や知的障がい者で「父または母」、手帳非所持者で「介助は必要ない」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。



単位 (%)	父または母	きょうだい, 祖父, 祖母など	福祉施設の職員・ホームヘルパー	その他	介助は必要ない
全体(N=265)	80.0	1.1	0.8	0.0	13.2
【障がい種別】					
身体障がい者(n=37)	89.2	0.0	0.0	0.0	0.0
知的障がい者(n=103)	84.5	1.0	1.0	0.0	3.9
精神障がい者(n=31)	74.2	0.0	3.2	0.0	16.1
手帳非所持者(n=105)	76.2	0.0	0.0	0.0	23.8

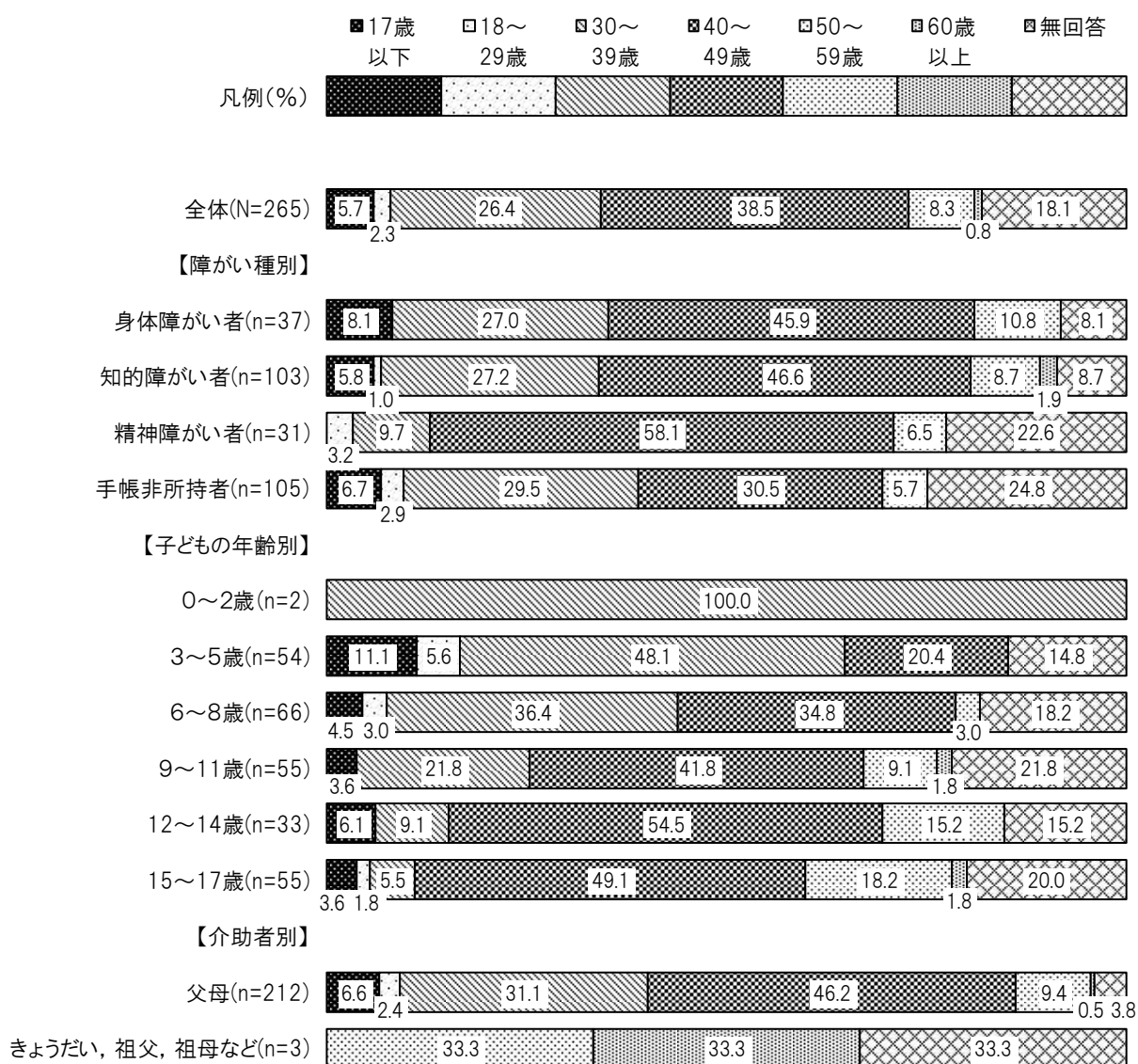
(2) 主な介助者の年齢

主な介助者の年齢は、「40～49歳」が38.5%と最も高く、次いで「30～39歳」(26.4%)、「50～59歳」(8.3%)が続き、49歳以下で全体の7割以上(72.9%)を占めている。また、「17歳以下」は5.7%みられた。

障がい種別では、精神障がい者で「40～49歳」の割合がほかの障がいを大きく上回っている。

子どもの年齢別では、3～5歳で「17歳以下」「30～39歳」の割合がほかの年齢層に比べて高くなっている。

介助者別でみると、父母で「30～39歳」「40～49歳」の割合が高くなっている。



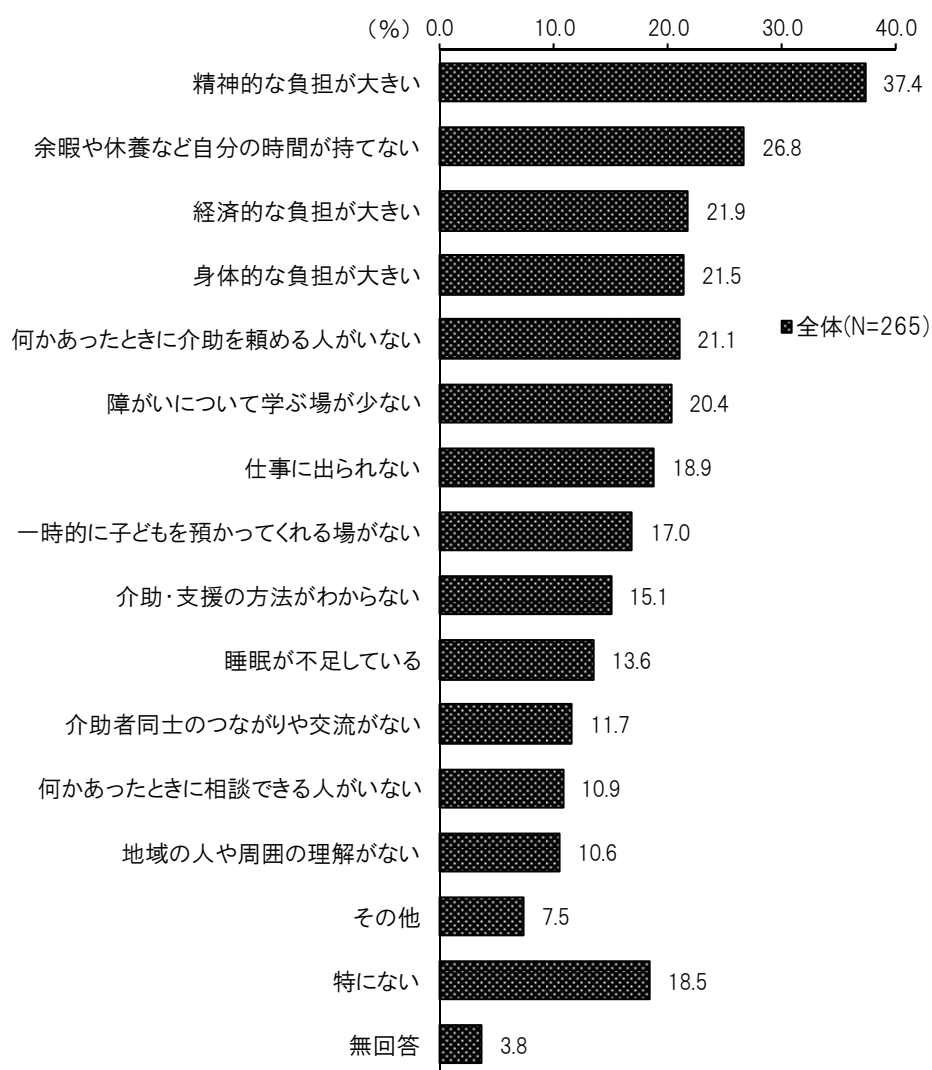
注1: 件数(n=)が10未満の項目については、参考値として参照

注2: 上記の回答において「17歳以下」が5.7%となっているが、本来の介助者は父母であるものの、実際はきょうだいが介助を担っている場合や記入間違い等が考えられる。

2 介助や支援にあたっての不安や悩み

問 18 お子さんの介助や支援にあたって、どのような不安や悩みがありますか。
(あてはまるものすべてに○印)

介助や支援にあたっての不安や悩みについては、「精神的な負担が大きい」の割合が37.4%と最も高く、次いで「余暇や休養など自分の時間が持てない」(26.8%)、「経済的な負担が大きい」(21.9%)、「身体的な負担が大きい」(21.5%)、「何かあったときに介助を頼める人がいない」(21.1%)の順となっている。



障がい種別では、身体障がい者で「経済的な負担が大きい」「身体的な負担が大きい」「何かあったときに介助を頼める人がいない」「仕事に出られない」「一時的に子どもを預かってくれる場がない」などの割合がほかの障がいを大きく上回っている。

発達障がいの診断を受けている人は受けていない人に比べ、「精神的な負担が大きい」「身体的な負担が大きい」「障がいについて学ぶ場が少ない」などの割合が高くなっている。

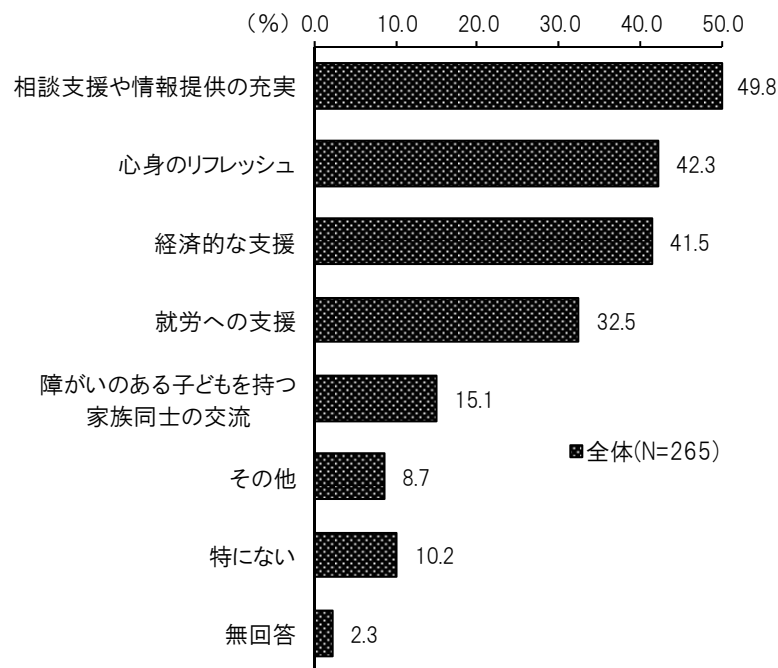
単位 (%)	精神的な負担が大きい	余暇や休養など自分の時間が持てない	経済的な負担が大きい	身体的な負担が大きい	何かあったときに介助を頼める人がいない	障がいについて学ぶ場が少ない	仕事に出られない	一時的に子どもを預かってくれる場がない	介助・支援の方法がわからない	睡眠が不足している	介助者同士のつながりや交流がない	何かあったときに相談できる人がいない	地域の人や周囲の理解がない	特にない
全体(N=265)	37.4	26.8	21.9	21.5	21.1	20.4	18.9	17.0	15.1	13.6	11.7	10.9	10.6	18.5
【障がい種別】														
身体障がい者(n=37)	37.8	43.2	43.2	48.6	45.9	18.9	45.9	43.2	13.5	29.7	27.0	10.8	16.2	2.7
知的障がい者(n=103)	38.8	38.8	32.0	35.0	34.0	24.3	32.0	26.2	17.5	22.3	15.5	12.6	12.6	8.7
精神障がい者(n=31)	38.7	19.4	22.6	16.1	16.1	12.9	19.4	12.9	9.7	16.1	6.5	9.7	6.5	19.4
手帳非所持者(n=105)	35.2	19.0	11.4	11.4	10.5	16.2	8.6	8.6	15.2	4.8	3.8	8.6	11.4	28.6
【発達障がい診断別】														
受けている(n=184)	44.0	26.6	22.3	22.8	21.2	22.3	17.4	15.2	16.3	14.1	10.9	12.0	10.9	18.5
受けていない(n=70)	20.0	24.3	20.0	15.7	20.0	15.7	21.4	20.0	11.4	11.4	12.9	10.0	8.6	17.1

注:「その他」は表記から省略している。

3 主な介助者が必要としている支援

問 19 お子さんの主な介助者が、必要としている支援は何ですか。
(あてはまるものすべてに○印)

主な介助者が必要としている支援については、「相談支援や情報提供の充実」の割合が49.8%と最も高く、次いで「心身のリフレッシュ」(42.3%)、「経済的な支援」(41.5%)、「就労への支援」(32.5%)、「障がいのある子どもを持つ家族同士の交流」(15.1%)の順となっている。



障がい種別では、身体障がい者で「経済的な支援」「障がいのある子どもを持つ家族同士の交流」の割合がほかの障がいを大きく上回っている。

発達障がいの診断を受けている人は受けていない人に比べ、「心身のリフレッシュ」「就労への支援」の割合がやや高くなっている。

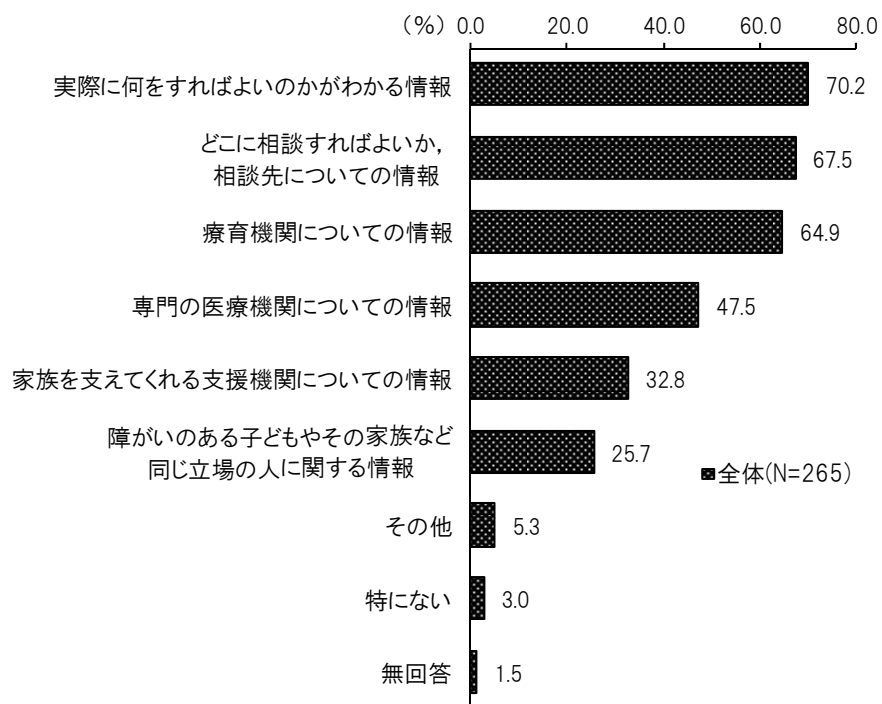
単位 (%)	相談支援や情報提供の充実	心身のリフレッシュ	経済的な支援	就労への支援	障がいのある子どもを持つ家族同士の交流	その他	特にない
全体(N=265)	49.8	42.3	41.5	32.5	15.1	8.7	10.2
【障がい種別】							
身体障がい者(n=37)	56.8	54.1	62.2	37.8	29.7	10.8	0.0
知的障がい者(n=103)	57.3	55.3	50.5	42.7	18.4	7.8	2.9
精神障がい者(n=31)	45.2	29.0	48.4	48.4	6.5	6.5	12.9
手帳非所持者(n=105)	50.5	36.2	29.5	20.0	14.3	8.6	17.1
【発達障がい診断別】							
受けている(n=184)	48.4	43.5	41.3	33.7	14.1	10.9	9.8
受けていない(n=70)	52.9	40.0	40.0	30.0	17.1	4.3	10.0

【4】相談について

1 発達の遅れや障がいに気付いたときにほしい情報

問 20 お子さんの発達の遅れや障がいに気付いたとき、どんな情報がほしいと思いましたか。（あてはまるものすべてに○印）

発達の遅れや障がいに気付いたときにほしい情報については、「実際に何をすればよいのかがわかる情報」の割合が70.2%と最も高く、次いで「どこに相談すればよいか、相談先についての情報」（67.5%）、「療育機関についての情報」（64.9%）、「専門の医療機関についての情報」（47.5%）の順となっている。



障がい種別では、身体障がい者で「障がいのある子どもやその家族など同じ立場の人に関する情報」、知的障がい者で「実際に何をすればよいかのわかる情報」「療育機関についての情報」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。

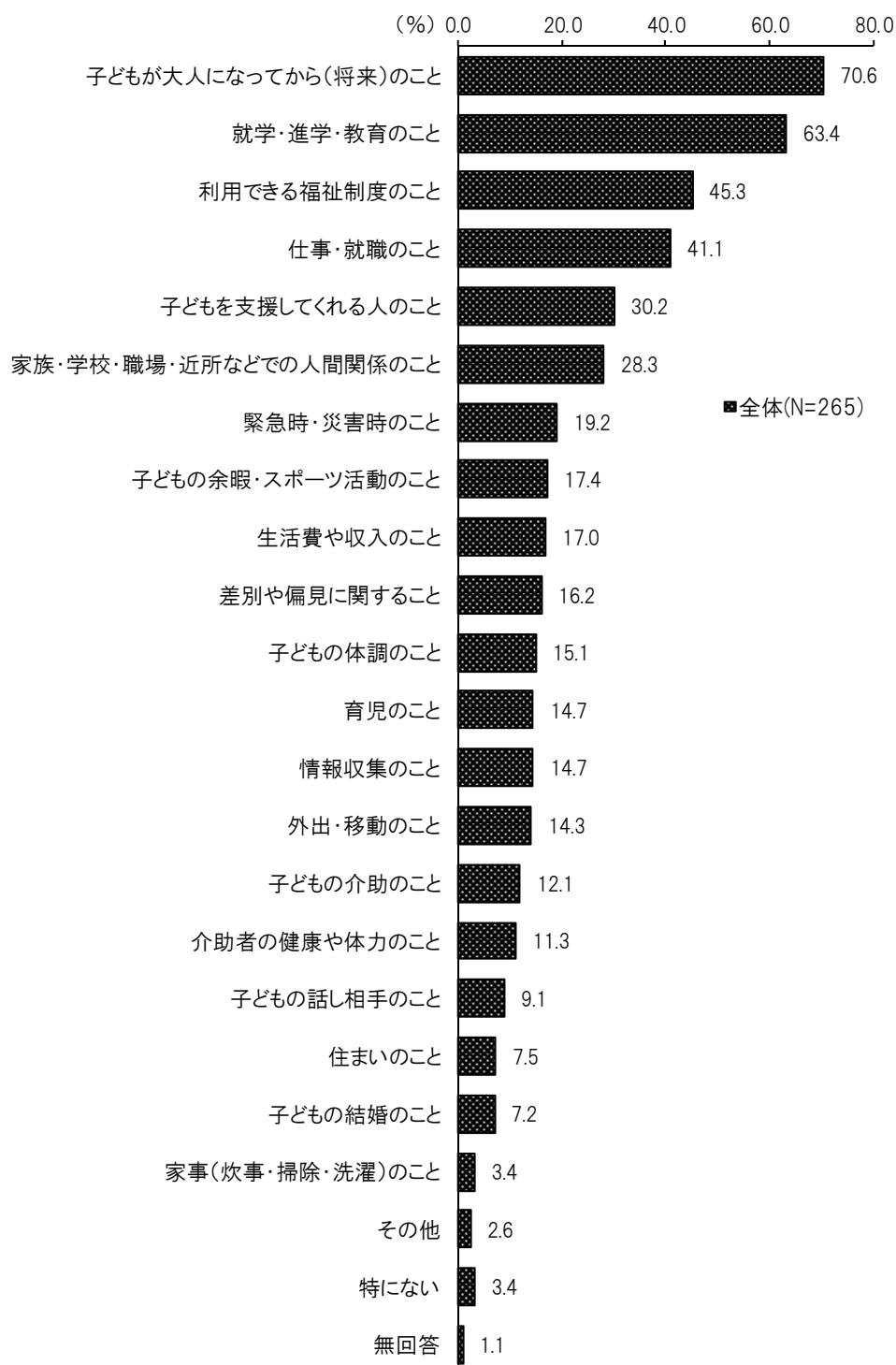
発達障がいの診断を受けている人では「どこに相談すればよいか、相談先についての情報」「専門の医療機関についての情報」の割合が、診断を受けていない人を大きく上回っている。

単位 (%)	実際に何をすればよいかのわかる情報	どこに相談すればよいか、相談先	療育機関についての情報	専門の医療機関についての情報	家族を支えてくれる支援機関についての情報	障がいの立場のある子どもやその家族など同じ立場の人に関する情報	その他	特になし
全体(N=265)	70.2	67.5	64.9	47.5	32.8	25.7	5.3	3.0
【障がい種別】								
身体障がい者(n=37)	70.3	67.6	59.5	59.5	45.9	48.6	8.1	0.0
知的障がい者(n=103)	76.7	73.8	69.9	55.3	42.7	34.0	7.8	1.0
精神障がい者(n=31)	58.1	74.2	54.8	48.4	32.3	19.4	6.5	6.5
手帳非所持者(n=105)	71.4	61.9	64.8	40.0	25.7	19.0	3.8	2.9
【発達障がい診断別】								
受けている(n=184)	70.7	72.3	65.8	50.0	33.2	24.5	4.9	2.7
受けていない(n=70)	70.0	57.1	62.9	41.4	28.6	27.1	7.1	2.9

2 相談したいこと

問 21 お子さんのことで、相談したいのは、どのようなことですか。
 (あてはまるものすべてに○印)

相談したいことについては、「子どもが大人になってから(将来)のこと」の割合が70.6%と最も高く、次いで「就学・進学・教育のこと」(63.4%)、「利用できる福祉制度のこと」(45.3%)、「仕事・就職のこと」(41.1%)、「子どもを支援してくれる人のこと」(30.2%)の順となっている。



障がい種別では、身体障がい者や知的障がい者で「緊急時・災害時のこと」、身体障がい者で「外出・移動のこと」、知的障がい者で「子どもが大人になってから（将来）のこと」「利用できる福祉制度のこと」「子どもの余暇・スポーツ活動のこと」、精神障がい者で「仕事・就職のこと」、手帳非所持者で「家族・学校・職場・近所などでの人間関係のこと」「育児のこと」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。

発達障がいの診断を受けている人では「子どもが大人になってから（将来）のこと」「仕事・就職のこと」などの割合が、診断を受けていない人を大きく上回っている。

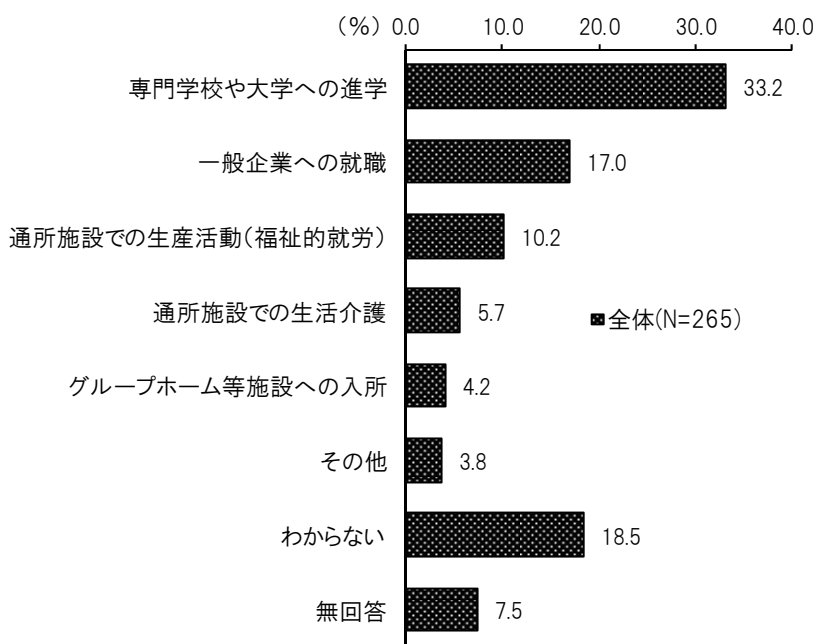
単位 (%)	子どもが大人になったこと	就学・進学・教育のこと	利用できる福祉制度のこと	仕事・就職のこと	子どもを支援してくれる人	近所などでの人間関係のこと	家族・学校・職場・近所などでの人間関係のこと	緊急時・災害時のこと	子どもの余暇・スポーツ活動のこと	生活費や収入のこと	差別や偏見に関すること	子どもの体調のこと
全体(N=265)	70.6	63.4	45.3	41.1	30.2	28.3	19.2	17.4	17.0	16.2	15.1	
【障がい種別】												
身体障がい者(n=37)	73.0	51.4	51.4	27.0	35.1	8.1	35.1	18.9	24.3	10.8	24.3	
知的障がい者(n=103)	85.4	56.3	60.2	53.4	40.8	17.5	34.0	27.2	31.1	17.5	21.4	
精神障がい者(n=31)	77.4	67.7	48.4	71.0	29.0	29.0	16.1	16.1	16.1	12.9	12.9	
手帳非所持者(n=105)	57.1	69.5	32.4	25.7	24.8	37.1	7.6	10.5	5.7	17.1	10.5	
【発達障がい診断別】												
受けている(n=184)	78.8	67.9	46.7	50.0	31.0	32.1	19.6	19.6	17.9	17.9	15.8	
受けていない(n=70)	48.6	55.7	38.6	20.0	30.0	20.0	18.6	12.9	14.3	12.9	14.3	

単位 (%)	育児のこと	情報収集のこと	外出・移動のこと	子どもの介助のこと	介助者の健康や体力のこと	子どもの話し相手のこと	住まいのこと	子どもの結婚のこと	洗濯)の家事・炊事・掃除	その他	特にな
全体(N=265)	14.7	14.7	14.3	12.1	11.3	9.1	7.5	7.2	3.4	2.6	3.4
【障がい種別】											
身体障がい者(n=37)	10.8	13.5	29.7	18.9	16.2	8.1	16.2	8.1	2.7	8.1	2.7
知的障がい者(n=103)	9.7	18.4	24.3	23.3	21.4	10.7	13.6	8.7	5.8	2.9	0.0
精神障がい者(n=31)	6.5	16.1	12.9	12.9	6.5	3.2	9.7	9.7	0.0	0.0	3.2
手帳非所持者(n=105)	20.0	12.4	4.8	1.9	5.7	10.5	1.0	4.8	1.9	1.9	5.7
【発達障がい診断別】											
受けている(n=184)	14.1	17.4	15.8	13.6	13.6	10.3	9.2	9.2	4.9	2.7	2.2
受けていない(n=70)	17.1	10.0	7.1	8.6	5.7	7.1	4.3	2.9	0.0	2.9	7.1

3 子どもが成年期を迎えた後に希望する暮らし方

問 22 お子さんが 18 歳以上の成年期を迎えた後について、どのような暮らし方を希望しますか。(○印は 1 つ)

子どもが成年期を迎えた後に希望する暮らし方については、「専門学校や大学への進学」の割合が 33.2%と最も高く、次いで「一般企業への就職」(17.0%)、「通所施設での生産活動(福祉的就労)」(10.2%)、「通所施設での生活介護」(5.7%)の順となっており、約 2 割(18.5%)は「わからない」と回答している。



障がい種別では、身体障がい者で「通所施設での生活介護」、知的障がい者で「通所施設での生産活動（福祉的就労）」、精神障がい者で「一般企業への就職」、手帳非所持者で「専門学校や大学への進学」の割合がそれぞれほかの障がいを大きく上回っている。

発達障がいの診断を受けている人は受けていない人に比べ、「一般企業への就職」の割合がやや高くなっている。

通所・通学先別では、特別支援学校で「通所施設での生産活動（福祉的就労）」「通所施設での生活介護」「グループホーム等施設への入所」の割合がほかの層を大きく上回っている。

単位 (%)	専門学校や大学への進学	一般企業への就職	通所施設での生産活動（福祉的就労）	通所施設での生活介護	グループホーム等施設への入所	その他	わからない
全体(N=265)	33.2	17.0	10.2	5.7	4.2	3.8	18.5
【障がい種別】							
身体障がい者(n=37)	18.9	8.1	10.8	27.0	5.4	0.0	18.9
知的障がい者(n=103)	5.8	8.7	25.2	14.6	9.7	3.9	23.3
精神障がい者(n=31)	29.0	35.5	6.5	0.0	3.2	6.5	9.7
手帳非所持者(n=105)	57.1	18.1	1.0	0.0	0.0	2.9	15.2
【発達障がい診断別】							
受けている(n=184)	33.2	19.0	9.8	2.7	4.9	4.3	17.9
受けていない(n=70)	35.7	14.3	10.0	8.6	2.9	2.9	20.0
【通所・通学先別】							
保育所・幼稚園・認定こども園(n=43)	44.2	18.6	4.7	0.0	0.0	2.3	27.9
小学校・中学校・高校(n=123)	47.2	22.0	2.4	0.8	0.8	3.3	16.3
特別支援学校(n=51)	2.0	5.9	29.4	21.6	19.6	3.9	9.8
特別支援学級・通級指導教室(n=51)	31.4	23.5	5.9	2.0	0.0	7.8	19.6
児童発達支援センター・児童発達支援事業所(n=56)	26.8	10.7	14.3	1.8	0.0	5.4	35.7
放課後等デイサービス事業所(n=119)	33.6	15.1	10.1	8.4	7.6	2.5	13.4

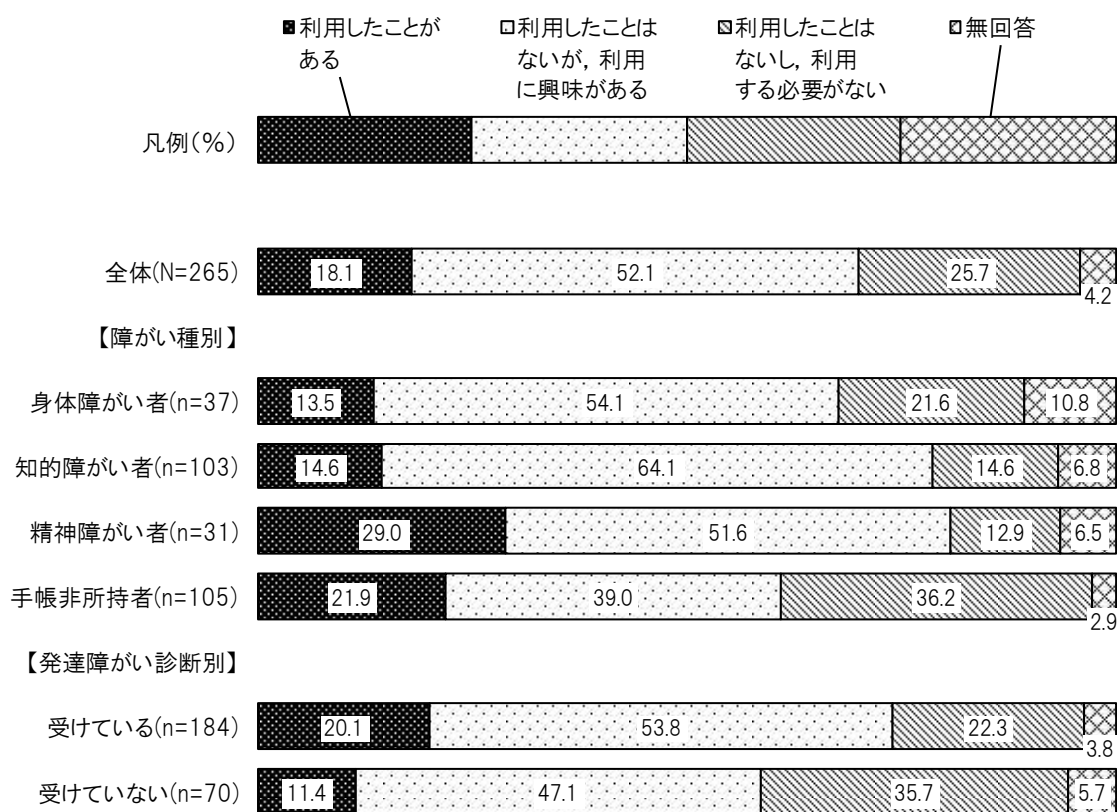
4 基幹相談支援センター（クローバー）の利用状況

問 23 お子さんは、基幹相談支援センター（クローバー）を利用したことがありますか。
（○印は1つ）

基幹相談支援センター（クローバー）の利用状況については、約2割（18.1%）が「利用したことがある」と回答しており、「利用したことはないが、利用に興味がある」が52.1%、「利用したことはないし、利用する必要がない」が25.7%となっている。

障がい種別では、精神障がい者で「利用したことがある」、知的障がい者で「利用したことはないが、利用に興味がある」、手帳非所持者で「利用したことはないし、利用する必要がない」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。

発達障がいの診断を受けている人は受けていない人に比べ、「利用したことがある」「利用したことはないが、利用に興味がある」の割合が高くなっている。



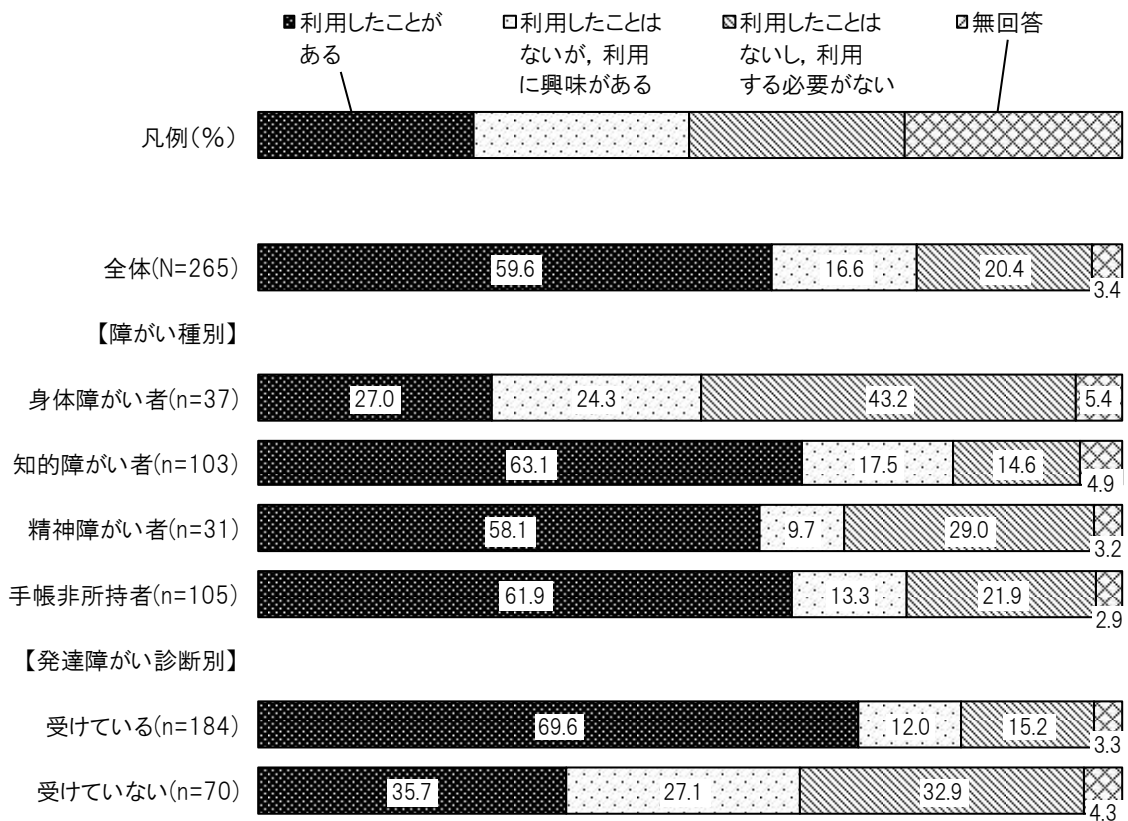
5 こども発達支援センターの利用状況

問 24 お子さんは、こども発達支援センターを利用したことがありますか。
(○印は1つ)

こども発達支援センターの利用状況については、約6割(59.6%)が「利用したことがある」と回答しており、「利用したことはないが、利用に興味がある」が16.6%、「利用したことはないし、利用する必要がない」が20.4%となっている。

障がい種別では、身体障がい者で「利用したことはないし、利用する必要がない」の割合がほかの障がいを大きく上回っている。

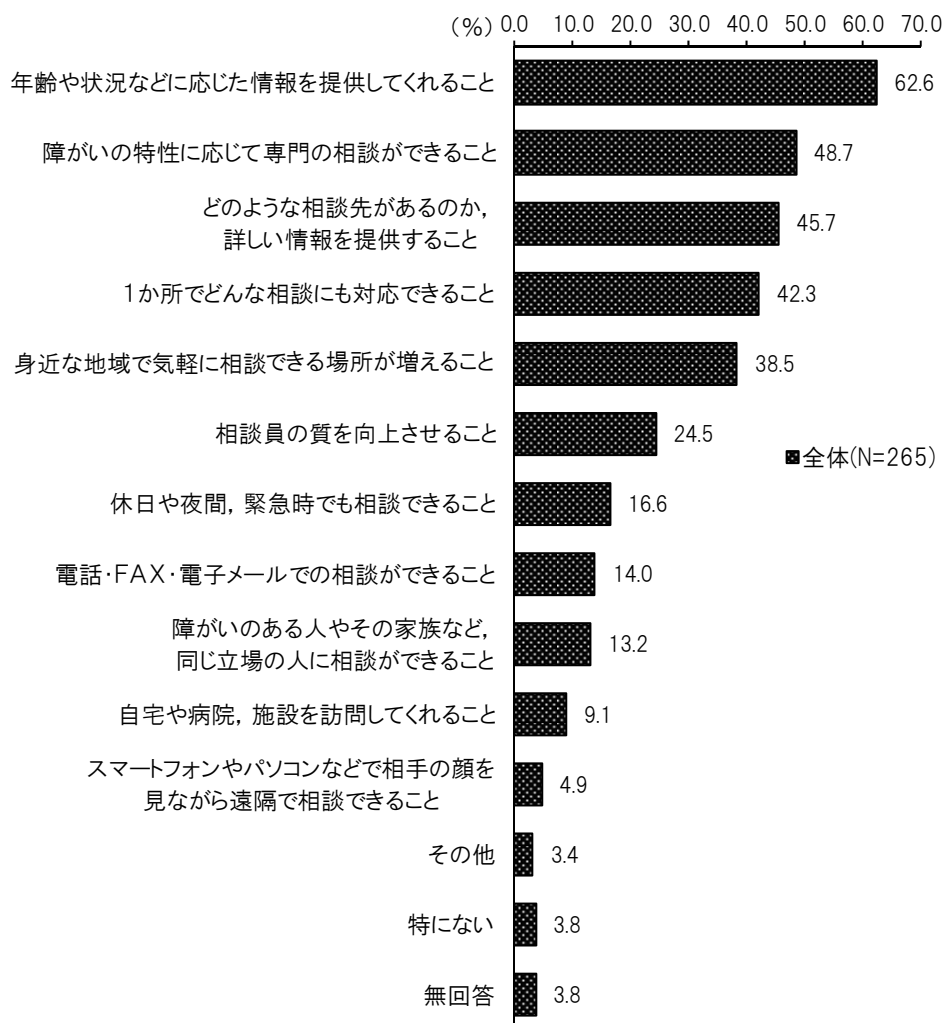
発達障がいの診断を受けている人では「利用したことがある」の割合が、診断を受けていない人を大きく上回っている。



6 相談先に望むこと

問 25 お子さんのことで相談先に望むことは何ですか。(あてはまるものすべてに○印)

相談先に望むことについては、「年齢や状況などに応じた情報を提供してくれること」の割合が 62.6%と最も高く、次いで「障がいの特性に応じて専門の相談ができること」(48.7%)、「どのような相談先があるのか、詳しい情報を提供すること」(45.7%)、「1か所でどんな相談にも対応できること」(42.3%)、「身近な地域で気軽に相談できる場所が増えること」(38.5%)の順となっている。



障がい種別では、身体障がい者や知的障がい者で「休日や夜間、緊急時でも相談できること」、身体障がい者で「自宅や病院、施設を訪問してくれること」、知的障がい者で「どのような相談先があるのか、詳しい情報を提供すること」「身近な地域で気軽に相談できる場所が増えること」の割合がそれぞれほかの障がいを大きく上回っている。

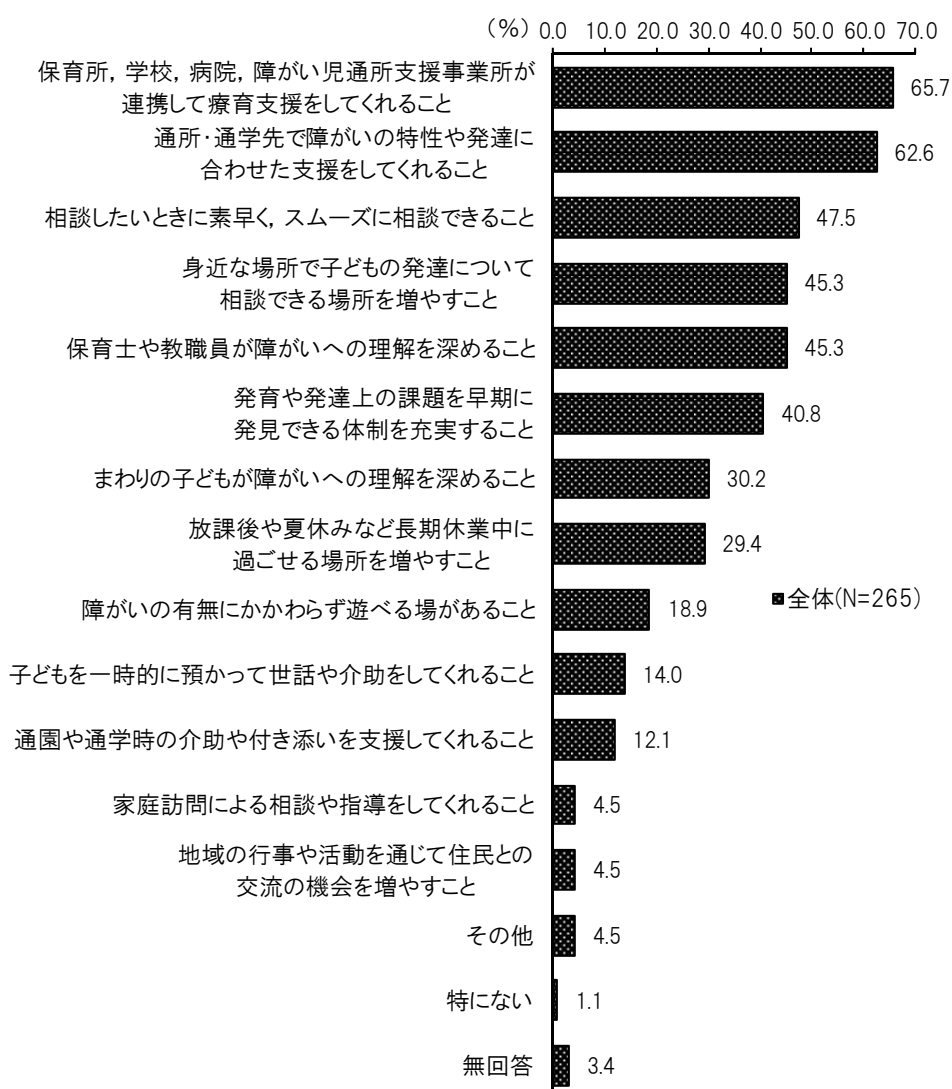
発達障がいの診断を受けている人では「障がいの特性に応じて専門の相談ができること」の割合が、診断を受けていない人を大きく上回っている。

単位 (%)	年齢や状況などに 応じた情報を提供 していること	障がいの特性に 応じて専門の相談 ができること	どのような相談先 があるのか、詳しい 情報を提供すること	1か所でもどんな 相談にも対応でき ること	身近な地域で気 軽に相談できる場 所が増えること	相談員の質を向 上させること	休日や夜間、緊 急時でも相談でき ること	電話・FAX・電 子メールでの相談 ができること	障がいのある人 やその家族など、 同じ立場の人に 相談ができるこ と	自宅や病院、施 設を訪問してく れること	スマートフォン やパソコンなど で相手を見なが ら遠隔で相談で きること	その他	特 に な い
全体(N=265)	62.6	48.7	45.7	42.3	38.5	24.5	16.6	14.0	13.2	9.1	4.9	3.4	3.8
【障がい種別】													
身体障がい者(n=37)	62.2	37.8	37.8	45.9	32.4	32.4	29.7	13.5	18.9	27.0	2.7	5.4	0.0
知的障がい者(n=103)	68.9	54.4	54.4	48.5	48.5	29.1	26.2	18.4	17.5	14.6	4.9	4.9	1.0
精神障がい者(n=31)	64.5	48.4	38.7	41.9	35.5	25.8	9.7	6.5	3.2	0.0	3.2	0.0	3.2
手帳非所持者(n=105)	59.0	46.7	42.9	37.1	32.4	20.0	9.5	11.4	12.4	4.8	3.8	2.9	4.8
【発達障がい診断別】													
受けている(n=184)	66.3	56.5	46.7	47.3	42.4	25.0	16.3	16.3	13.0	8.2	5.4	3.3	2.2
受けていない(n=70)	52.9	27.1	44.3	31.4	31.4	21.4	14.3	7.1	12.9	7.1	4.3	4.3	5.7

7 発育・発達上の支援が必要な子どものために必要なこと

問 26 発育・発達上の支援が必要な子どものために、どのようなことが必要だと思いますか。（主なもの5つまでに○印）

発育・発達上の支援が必要な子どものために必要なことについては、「保育所、学校、病院、障がい児通所支援事業所が連携して療育支援をしてくれること」の割合が65.7%と最も高く、次いで「通所・通学先で障がいの特性や発達に合わせた支援をしてくれること」（62.6%）、「相談したいときに素早く、スムーズに相談できること」（47.5%）、「身近な場所で子どもの発達について相談できる場所を増やすこと」「保育士や教職員が障がいへの理解を深めること」（各45.3%）の順となっている。



障がい種別では、身体障がい者や知的障がい者で「子どもを一時的に預かって世話や介助をしてくれること」、身体障がい者で「通園や通学時の介助や付き添いを支援してくれること」、手帳非所持者で「保育士や教職員が障がいへの理解を深めること」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。

発達障がいの診断を受けている人では「通所・通学先で障がいの特性や発達に合わせた支援をしてくれること」「相談したいときに素早く、スムーズに相談できること」「身近な場所での子どもの発達について相談できること」「保育士や教職員が障がいへの理解を深めること」「保育体制や発達上の課題を早期に見つけること」「まわりの子どもが障がいへの理解を深めること」「放課後や夏休みなど長期休業中に過ごせる場所を増やすこと」「障がいの有無にかかわらず遊べる場があること」「子どもを一時的に預かって世話や介助をしてくれること」「通園や通学時の介助や付き添いを支援してくれること」「家庭訪問による相談や指導をしてもらえること」「地域の行事や活動を通じて住民との交流の機会を増やすこと」の割合が、診断を受けていない人を大きく上回っている。

単位 (%)	事業所が、連携し、療育支援をしてもらえること	保育所、学校、病院、障がい児通所支援	通所・通学先で障がいの特性や発達に合わせた支援をしてもらえること	相談したいときに素早く、スムーズに相談できること	身近な場所での子どもの発達について相談できること	保育士や教職員が障がいへの理解を深めること	保育体制や発達上の課題を早期に見つけること	まわりの子どもが障がいへの理解を深めること	放課後や夏休みなど長期休業中に過ごせる場所を増やすこと	障がいの有無にかかわらず遊べる場があること	子どもを一時的に預かって世話や介助をしてくれること	通園や通学時の介助や付き添いを支援してくれること	家庭訪問による相談や指導をしてもらえること	地域の行事や活動を通じて住民との交流の機会を増やすこと	特になし
全体(N=265)	65.7	62.6	47.5	45.3	45.3	40.8	30.2	29.4	18.9	14.0	12.1	4.5	4.5	1.1	
【障がい種別】															
身体障がい者(n=37)	73.0	54.1	35.1	32.4	32.4	21.6	27.0	40.5	27.0	37.8	24.3	5.4	2.7	0.0	
知的障がい者(n=103)	62.1	67.0	47.6	47.6	37.9	35.0	25.2	35.9	26.2	26.2	17.5	5.8	3.9	0.0	
精神障がい者(n=31)	64.5	61.3	48.4	38.7	41.9	45.2	22.6	22.6	19.4	3.2	12.9	6.5	6.5	0.0	
手帳非所持者(n=105)	70.5	63.8	52.4	48.6	54.3	46.7	33.3	25.7	11.4	5.7	5.7	1.9	5.7	1.0	
【発達障がい診断別】															
受けている(n=184)	62.5	65.2	52.2	45.7	48.9	42.9	27.7	31.0	17.4	11.4	12.5	4.3	4.9	0.5	
受けていない(n=70)	72.9	54.3	37.1	45.7	38.6	35.7	35.7	24.3	24.3	15.7	8.6	5.7	4.3	1.4	

注:「その他」は表記から省略している。

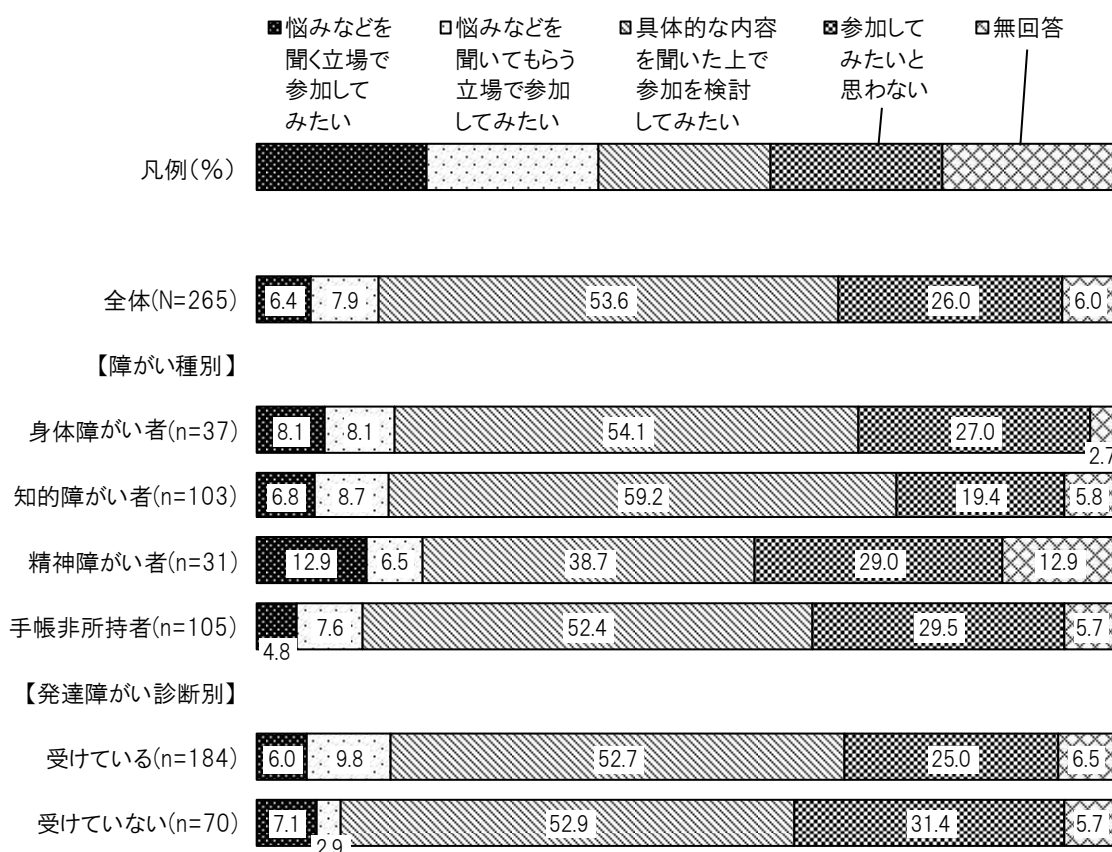
8 ピアサポート活動への参加意向

問 27 障がいのある人や障がいのある子どもを育てた親が、自らの体験に基づいて、同じ仲間であるほかの障がいのある人や親の悩みなどを聞くという取組を「ピアサポート活動」といいます。この活動に参加してみたいと思いますか。(○印は1つ)

ピアサポート活動への参加意向については、「悩みなどを聞く立場で参加してみたい」の割合が 6.4%、「悩みなどを聞いてもらう立場で参加してみたい」が 7.9%、「具体的な内容を聞いた上で参加を検討してみたい」が 53.6%、合計で 67.9%となっている。一方、「参加してみたいと思わない」は 26.0%となっている。

障がい種別では、精神障がい者で「悩みなどを聞く立場で参加してみたい」、知的障がい者で「具体的な内容を聞いた上で参加を検討してみたい」の割合がそれぞれほかの障がいに比べてやや高くなっている。

発達障がいの診断を受けている人では「悩みなどを聞いてもらう立場で参加してみたい」、受けていない人では「参加してみたいと思わない」の割合が高くなっている。



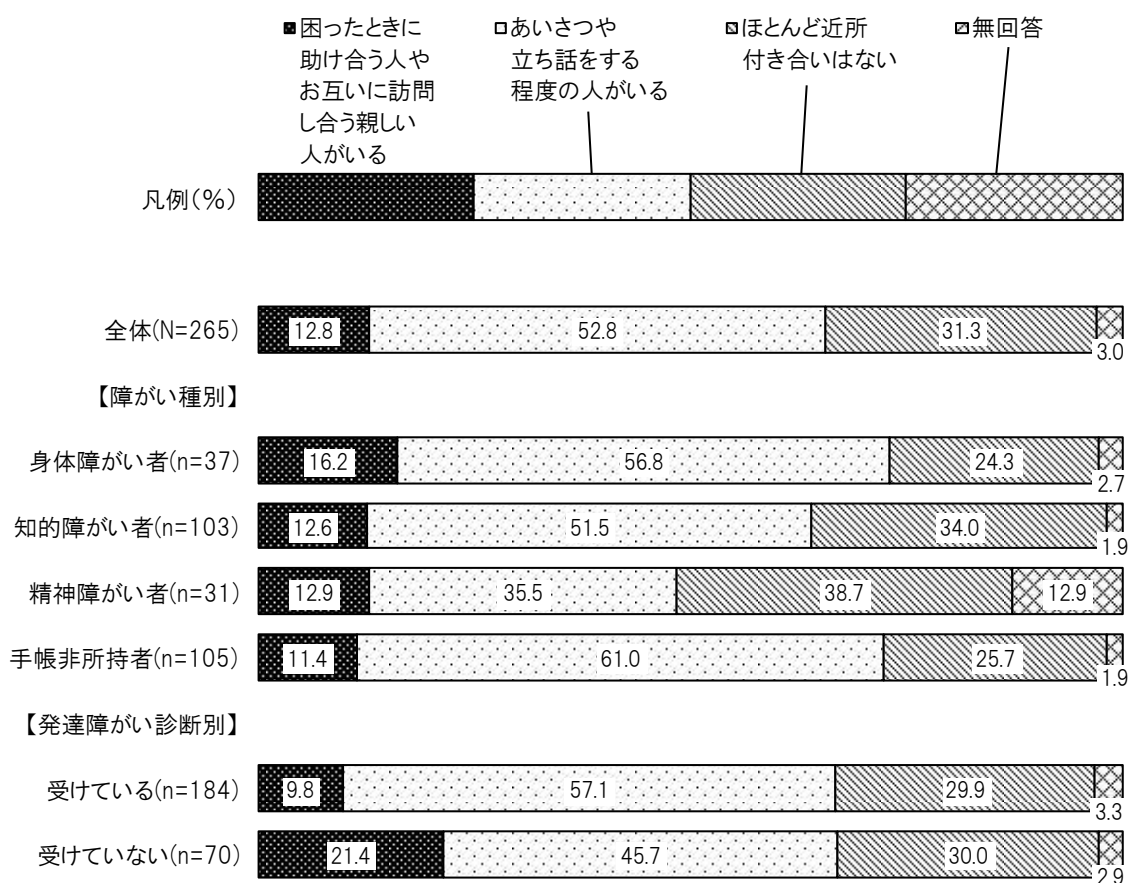
9 近所の人との付き合い程度

問 28 お子さんのご家族とご近所の人との関係は、次のどれに最も近いですか。
(○印は1つ)

近所の人との付き合い程度については、「困ったときに助け合う人やお互いに訪問し合う親しい人がいる」が 12.8%、「あいさつや立ち話をする程度の人がいる」が 52.8%、「ほとんど近所付き合いはない」が 31.3%となっている。

障がい種別では、精神障がい者で「ほとんど近所付き合いはない」の割合がほかの障がいに比べて高くなっている。

発達障がいの診断を受けている人では「あいさつや立ち話をする程度の人がいる」、受けていない人では「困ったときに助け合う人やお互いに訪問し合う親しい人がいる」の割合が高くなっている。

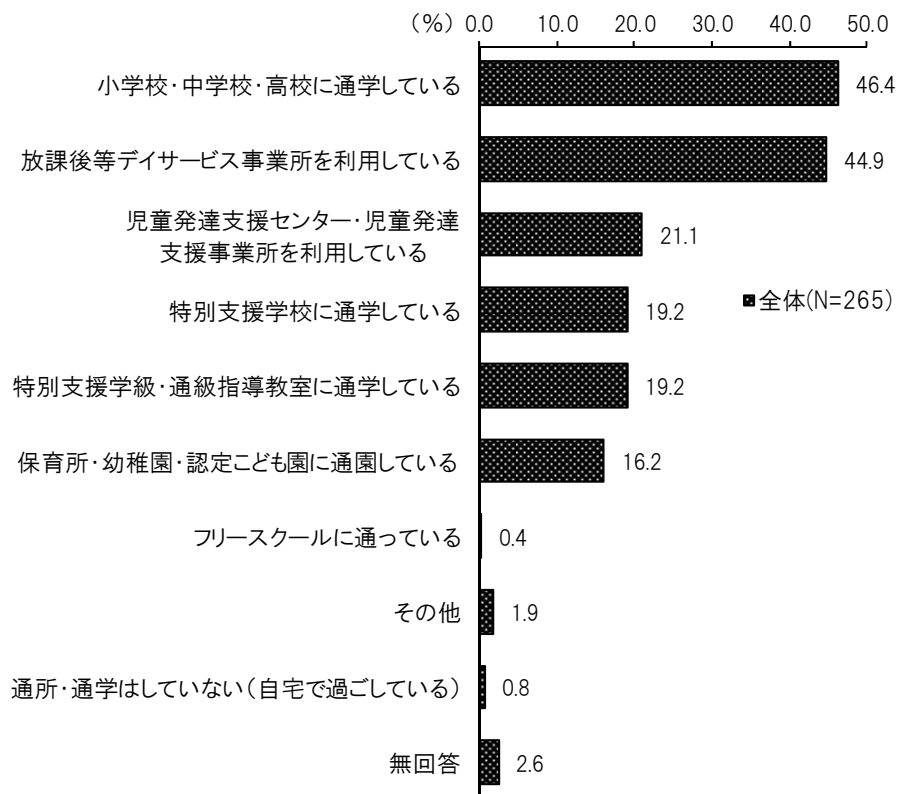


【5】日中の過ごし方について

1 通所・通学先

問 29 お子さんの通所・通学先はどこですか。（あてはまるものすべてに○印）

通所・通学先については、「小学校・中学校・高校に通学している」の割合が 46.4%と最も高く、次いで「放課後等デイサービス事業所を利用している」(44.9%)、「児童発達支援センター・児童発達支援事業所を利用している」(21.1%)、「特別支援学校に通学している」「特別支援学級・通級指導教室に通学している」(各 19.2%)の順となっている。



障がい種別では、身体障がい者で「児童発達支援センター・児童発達支援事業所を利用している」、知的障がい者で「放課後等デイサービス事業所を利用している」「特別支援学校に通学している」、精神障がい者や手帳非所持者で「小学校・中学校・高校に通学している」、手帳非所持者で「保育所・幼稚園・認定こども園に通園している」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。

発達障がいの診断を受けている人では「小学校・中学校・高校に通学している」「放課後等デイサービス事業所を利用している」「特別支援学級・通級指導教室に通学している」の割合が、診断を受けていない人を大きく上回っている。

単位 (%)	小学校・中学校・高校に通学している	放課後等デイサービス事業所を利用している	児童発達支援センター・児童発達支援事業所を利用している	特別支援学校に通学している	特別支援学級・通級指導教室に通学している	保育所・幼稚園・認定こども園に通園している	フリースクールに通っている	その他	通所・通学はしていない（自宅）
全体(N=265)	46.4	44.9	21.1	19.2	19.2	16.2	0.4	1.9	0.8
【障がい種別】									
身体障がい者(n=37)	29.7	40.5	27.0	32.4	18.9	8.1	0.0	8.1	0.0
知的障がい者(n=103)	23.3	52.4	21.4	46.6	18.4	3.9	0.0	2.9	1.0
精神障がい者(n=31)	61.3	41.9	6.5	16.1	12.9	3.2	0.0	0.0	0.0
手帳非所持者(n=105)	61.0	45.7	21.0	0.0	21.0	28.6	1.0	1.0	1.0
【発達障がい診断別】									
受けている(n=184)	56.5	55.4	15.2	20.1	25.5	8.2	0.5	1.1	0.5
受けていない(n=70)	25.7	21.4	35.7	14.3	5.7	37.1	0.0	1.4	1.4

2 ペアレント・メンターの認知状況

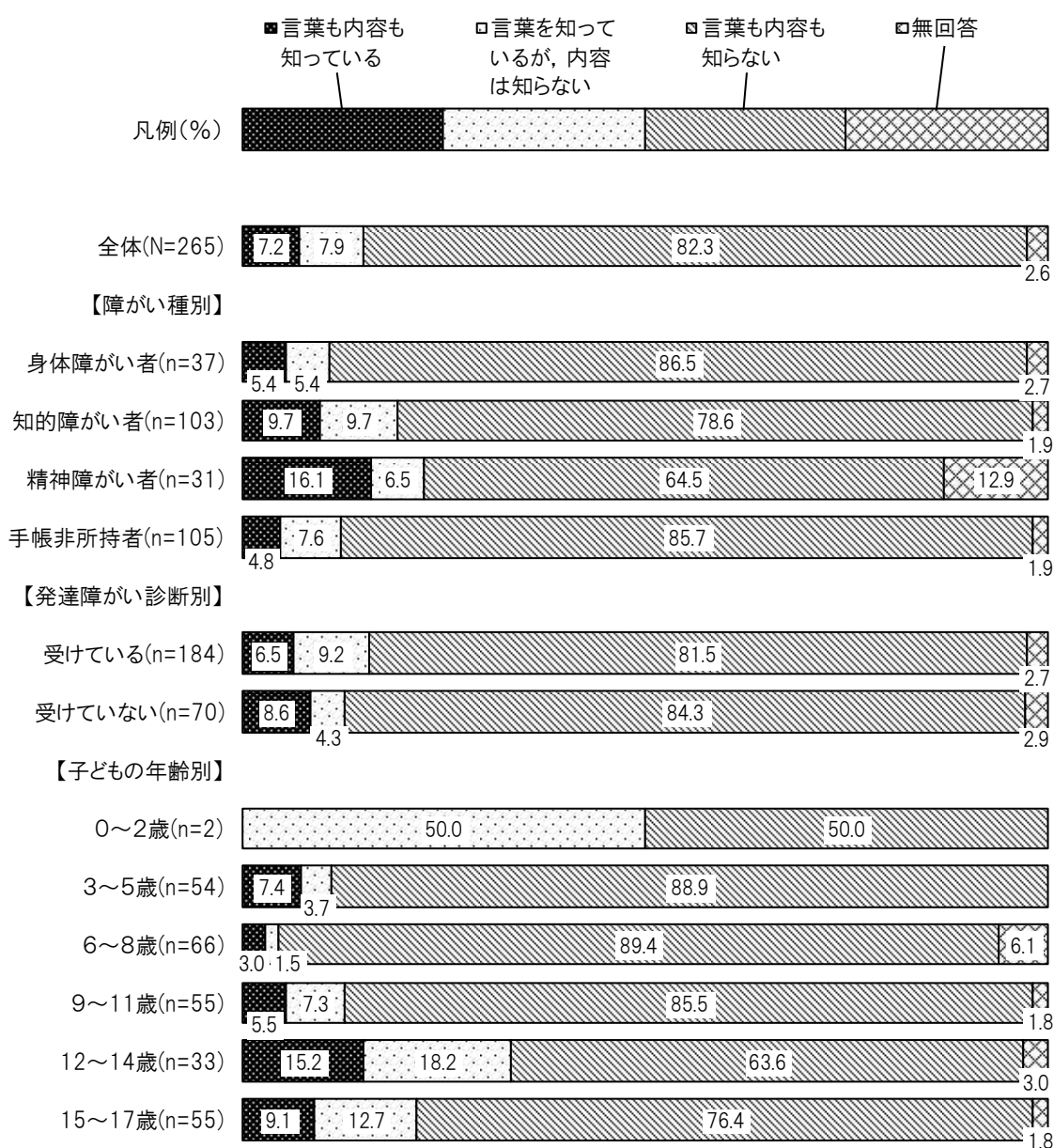
問 30 あなたは、ペアレント・メンターという言葉を知っていますか。(○印は1つ)

ペアレント・メンターの認知状況については、「言葉も内容も知っている」が7.2%、「言葉を知っているが、内容は知らない」が7.9%、合計で15.1%の認知率となっている。一方、8割以上(82.3%)が「言葉も内容も知らない」と回答している。

障がい種別では、精神障がい者で「言葉も内容も知っている」の割合がほかの障がいに比べて高くなっている。

発達障がいの診断を受けている人は受けていない人に比べ、「言葉を知っているが、内容は知らない」の割合がやや高くなっている。

子どもの年齢別では、12～14歳で認知率がほかの年齢層を大きく上回っている。



注:子どもの年齢別の「0～2歳」については、件数(n=)が少ないため参考値として参照

3 ペアレント・メンターへの相談意向

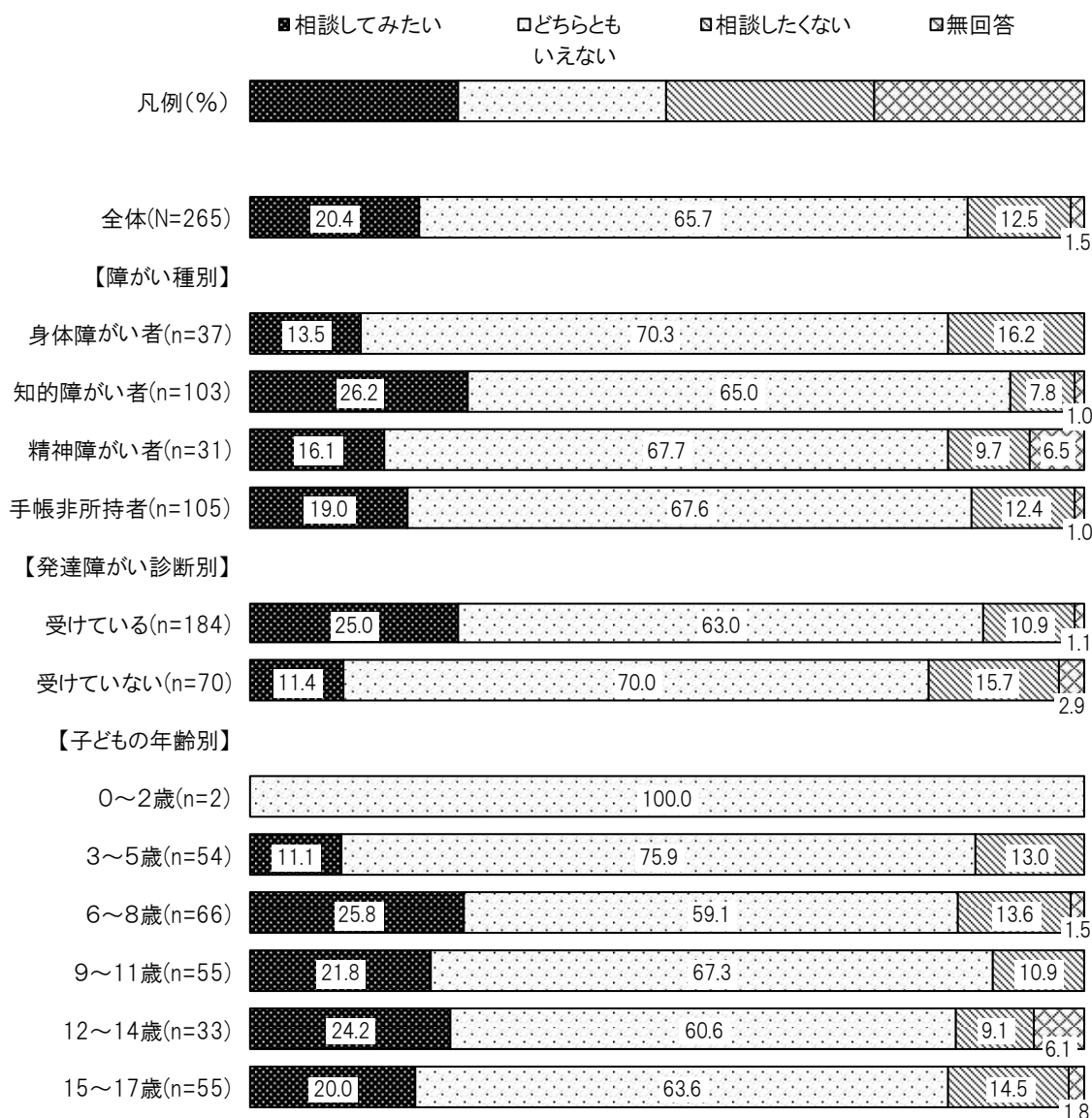
問 31 あなたは、今後、ペアレント・メンターに相談してみたいですか。(○印は1つ)

ペアレント・メンターへの相談意向については、約2割(20.4%)が「相談してみたい」と回答しており、「どちらともいえない」が65.7%、「相談したくない」は12.5%となっている。

障がい種別では、知的障がい者で「相談してみたい」の割合がほかの障がいに比べて高くなっている。

発達障がいの診断を受けている人では「相談してみたい」の割合が、診断を受けていない人を大きく上回っている。

子どもの年齢別では、3～5歳で「どちらともいえない」の割合がほかの年齢層に比べて高くなっている。



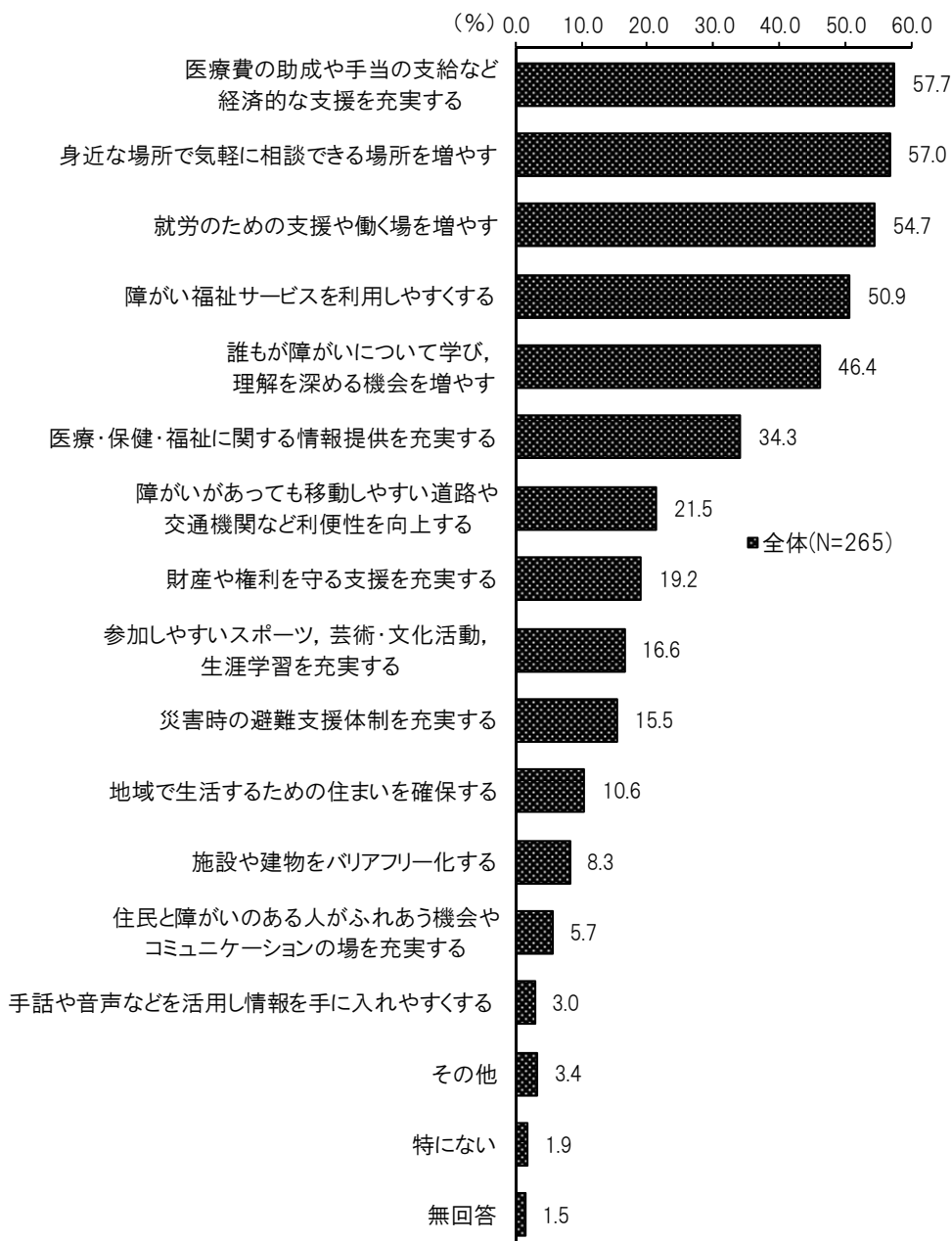
注：子どもの年齢別の「0～2歳」については、件数(n)が少ないため参考値として参照

【6】行政の福祉施策について

1 市が力を入れるべき取組

問 32 障がいのある人にとって暮らしやすいまちをつくるためには、福山市はどのような取組に力を入れるべきだと思いますか。最も力を入れるべきだと思う項目を、上位5つまで選んでください。（主なもの5つまでに○印）

市が力を入れるべき取組については、「医療費の助成や手当の支給など経済的な支援を充実する」の割合が57.7%と最も高く、ほぼ並んで「身近な場所で気軽に相談できる場所を増やす」(57.0%)が続き、以下「就労のための支援や働く場を増やす」(54.7%)、「障がい福祉サービスを利用しやすくする」(50.9%)、「誰もが障がいについて学び、理解を深める機会を増やす」(46.4%)の順となっている。



障がい種別では、身体障がい者で「障がい福祉サービスを利用しやすくする」「医療・保健・福祉に関する情報提供を充実する」「災害時の避難支援体制を充実する」「施設や建物をバリアフリー化する」、知的障がい者で「医療費の助成や手当の支給など経済的な支援を充実する」「地域で生活するための住まいを確保する」、精神障がい者で「就労のための支援や働く場を増やす」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。

発達障がいの診断を受けている人では「身近な場所で気軽に相談できる場所を増やす」「就労のための支援や働く場を増やす」などの割合が、診断を受けていない人を大きく上回っている。

単位 (%)	を医療費の助成や手当の充実する	身近な場所を気軽に相談できる場所を増やす	就労のための支援や働く場を増やす	障がい福祉サービスを利用しやすくする	誰もが理解を深める機会を増やす	医療・保健・福祉に関する情報提供を充実する	障がい者が利用できる道路や交通機関など利便性を向上する	財産や権利を守る支援
全体(N=265)	57.7	57.0	54.7	50.9	46.4	34.3	21.5	19.2
【障がい種別】								
身体障がい者(n=37)	59.5	40.5	35.1	67.6	29.7	48.6	32.4	13.5
知的障がい者(n=103)	67.0	58.3	58.3	56.3	48.5	36.9	25.2	24.3
精神障がい者(n=31)	58.1	51.6	64.5	58.1	45.2	32.3	12.9	22.6
手帳非所持者(n=105)	47.6	63.8	51.4	45.7	49.5	33.3	20.0	16.2
【発達障がい診断別】								
受けている(n=184)	59.8	60.9	63.0	47.8	50.0	34.2	21.2	21.7
受けていない(n=70)	51.4	50.0	32.9	57.1	38.6	31.4	21.4	15.7

単位 (%)	生涯学習の充実を促す活動	災害時の避難支援体制を充実する	地域で生活するための住まいを確保する	施設や建物をバリアフリー化する	多機能な場所の確保	住民と障がい者との交流の場	手話や音声入力を活用する	その他	特になし
全体(N=265)	16.6	15.5	10.6	8.3	5.7	3.0	3.4	1.9	
【障がい種別】									
身体障がい者(n=37)	13.5	29.7	2.7	32.4	5.4	2.7	5.4	2.7	
知的障がい者(n=103)	10.7	18.4	17.5	9.7	8.7	3.9	2.9	0.0	
精神障がい者(n=31)	16.1	16.1	6.5	3.2	6.5	6.5	0.0	0.0	
手帳非所持者(n=105)	22.9	13.3	8.6	5.7	2.9	1.9	2.9	2.9	
【発達障がい診断別】									
受けている(n=184)	17.9	14.1	13.6	6.0	5.4	3.8	3.3	1.1	
受けていない(n=70)	14.3	20.0	4.3	12.9	7.1	1.4	4.3	4.3	

Ⅲ-3 資料 調査票

福山市 福祉に関するアンケート調査

【ご協力のお願い】

日頃より、本市の福祉行政にご理解とご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

本市では、障がい福祉サービスの支給方針をとりまとめた「福山市障がい福祉計画」等の策定に取り組んでいます。

この調査は、計画の策定にあたって、市内にお住まいの障がい者手帳をお持ちの方を対象に、福祉サービスに対するご意見などをお伺いし、計画づくりに役立てる基礎資料とするものです。

このアンケート調査票は、身体障がい者手帳、療育手帳、精神障がい者保健福祉手帳のいずれかをお持ちの方、または福祉サービスを利用している方（本年7月1日現在）から無作為に抽出した方にお送りし、回答をお願いしています。

調査は、無記名でご回答いただきますので、回答された方が特定されたり、個人の回答内容が明らかにされることはありません。

ご多用のところ誠にお手数をおかけしますが、調査の趣旨をご理解いただき、回答にご協力くださいますようお願い申し上げます。

2023年（令和5年）7月

福山市

【調査に関する問い合わせ先】

福山市 保健福祉局 福祉部 障がい福祉課

〒720-8501 福山市東桜町3番5号

TEL：（084）928-1208

FAX：（084）928-1730

この調査票は、8月14日（月曜日）までに、同封の返信用封筒に入れて、無記名で返送してください。（切手は不要です。）

SPコードは省略しています。

【 ご記入にあたってのお願い 】

- 1 このアンケートに直接お書きください。
- 2 このアンケートは、手帳や福祉サービスを受給しているお子さんのことについて伺っています。お子さんのお考えをお聞きの上、または、ご意向を尊重してお答えください。
- 3 市役所の職員が、直接聞き取りをさせていただくことも可能です。希望される方は、福山市障がい福祉課までご連絡ください。
- 4 回答は、2023年（令和5年）7月1日現在の内容をお答えください。
- 5 答えにくいことや答えたくない質問には、無理にお答えいただく必要はありません。

問3 お子さんの年齢をお答えください。(○印は1つ)

1	0～2歳	3	6～8歳	5	12～14歳
2	3～5歳	4	9～11歳	6	15～17歳

問4 お子さんは①次の手帳をお持ちですか。②身体障がい者手帳をお持ちの場合は、手帳に書かれている障がい名もお答えください。(あてはまるものすべてに○印)

① お持ちの手帳の種類																																	
<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>身体障がい者手帳1級</td> <td>7</td> <td>療育手帳(A)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>身体障がい者手帳2級</td> <td>8</td> <td>療育手帳A</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>身体障がい者手帳3級</td> <td>9</td> <td>療育手帳(B)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>身体障がい者手帳4級</td> <td>10</td> <td>療育手帳B</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>身体障がい者手帳5級</td> <td>11</td> <td>精神障がい者保健福祉手帳1級</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>身体障がい者手帳6級</td> <td>12</td> <td>精神障がい者保健福祉手帳2級</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>13</td> <td>精神障がい者保健福祉手帳3級</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>14</td> <td>手帳は持っていない</td> </tr> </table>	1	身体障がい者手帳1級	7	療育手帳(A)	2	身体障がい者手帳2級	8	療育手帳A	3	身体障がい者手帳3級	9	療育手帳(B)	4	身体障がい者手帳4級	10	療育手帳B	5	身体障がい者手帳5級	11	精神障がい者保健福祉手帳1級	6	身体障がい者手帳6級	12	精神障がい者保健福祉手帳2級			13	精神障がい者保健福祉手帳3級			14	手帳は持っていない	<p>↓</p>
1	身体障がい者手帳1級	7	療育手帳(A)																														
2	身体障がい者手帳2級	8	療育手帳A																														
3	身体障がい者手帳3級	9	療育手帳(B)																														
4	身体障がい者手帳4級	10	療育手帳B																														
5	身体障がい者手帳5級	11	精神障がい者保健福祉手帳1級																														
6	身体障がい者手帳6級	12	精神障がい者保健福祉手帳2級																														
		13	精神障がい者保健福祉手帳3級																														
		14	手帳は持っていない																														
② (身体障がい者手帳をお持ちの場合のみ) 手帳に書かれている障がい名をお答えください。																																	
<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>視覚障がい</td> <td>5</td> <td>肢体不自由(上肢)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>聴覚障がい</td> <td>6</td> <td>肢体不自由(下肢)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>平衡機能障がい</td> <td>7</td> <td>肢体不自由(体幹)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>音声・言語・そしゃく機能障がい</td> <td>8</td> <td>内部障がい</td> </tr> </table>	1	視覚障がい	5	肢体不自由(上肢)	2	聴覚障がい	6	肢体不自由(下肢)	3	平衡機能障がい	7	肢体不自由(体幹)	4	音声・言語・そしゃく機能障がい	8	内部障がい																	
1	視覚障がい	5	肢体不自由(上肢)																														
2	聴覚障がい	6	肢体不自由(下肢)																														
3	平衡機能障がい	7	肢体不自由(体幹)																														
4	音声・言語・そしゃく機能障がい	8	内部障がい																														

問5 お子さんは、次^{つぎ}にあげる項目^{こうもく}について、医師^{いし}からの診断^{しんだん}や認定^{にんてい}を受けていますか。

(○印^{じるし}は1つずつ)

(1) 難病 ^{なんびょう} *1の診断 ^{しんだん}	1 受 ^う けている	2 受 ^う けていない
(2) 発達障 ^{はつたつしょう} がい*2の診断 ^{しんだん}	1 受 ^う けている	2 受 ^う けていない
(3) 高次脳機能障 ^{こうじのうきのうしょう} がい*3の診断 ^{しんだん}	1 受 ^う けている	2 受 ^う けていない
(4) 自立支援医療 ^{じりつしえんいりょう} (精神通院 ^{せいしんつういん})の受給者証 ^{じゅきゅうしやしょう}	1 持 ^も っている	2 持 ^も っていない
(5) 医療的ケア ^{いりょうてき} *4	1 受 ^う けている	2 受 ^う けていない
(6) 重症心身障 ^{じゅうじょうしんしんしょう} がい*5の診断 ^{しんだん}	1 受 ^う けている	2 受 ^う けていない

※1 難病^{なんびょう}(特定疾患^{とくていしつかん})とは、パーキンソン病^{びょう}や筋ジストロフィー^{きん}などの治療法^{ちりょうほう}が確立^{かくりつ}していない疾病^{しつぺい}その他の特殊^{とくしゆ}な疾病^{しつぺい}をいいます。

※2 発達障^{はつたつしょう}がいとは、自閉スペクトラム症^{じへい}、注意欠如・多動症^{しやう}(ADHD)、学習障^{がくしゅうしょう}がい(LD)、トゥレット症候群^{しやうこうぐん}、吃音^{きつおん}などをいいます。

※3 高次脳機能障^{こうじのうきのうしょう}がいとは、一般^{いっぱん}に、外傷性脳損傷^{がいしやうせいのおうそんしやう}、脳血管障^{のうけつかんしやう}がい等により脳^{のう}に損傷^{そんしやう}を受け、その後遺症^{こういしやう}等として生じた記憶障^{しやう}がい、注意障^{ちゆういしやう}がい、社会的行動障^{しやかいてきこうどうしやう}がい、失語^{しつご}などの認知障^{にんちしやう}がい等を指すものとされており、具体的^{ぐたいてき}には「会話^{かいわ}がうまくかみ合わない^あ」等の症状^{しやうじやう}があります。

※4 医療的ケア^{いりょうてき}とは、人工呼吸器^{じんこうきゅうき}の使用^{しやう}、たんの吸引^{きゅういん}や経管栄養^{けいかんえいよう}などを行うことをいいます。

※5 重症心身障^{じゅうじょうしんしんしょう}がいとは、重度^{じゅうど}の肢体不自由^{したいみじゆう}と重度^{じゅうど}の知的障^{ちてきしやう}がい^あが重複^{ちゆうふく}した状態^{じやうたい}のことをいいます。

問6 お子さんは「強度行動障^{きやうどこうどうしやう}がい*6」があると言われたことがありますか。(○印^{じるし}は1つ)

1 ある	2 ない
------	------

※6 強度行動障^{きやうどこうどうしやう}がいとは、自傷^{じしやう}、他傷^{たしやう}、こだわり、もの壊し、睡眠^{すいみん}の乱れ、異食^{いしよく}、多動^{たどう}など本人^{ほんにん}や周囲^{しゅうい}の人の暮ら^{ひとく}しに影響^{えいきやう}を及ぼす行動^{こうどう}が、著^{いちじく}しく高い頻度^{たかひんど}で起^おこるため、特別^{とくべつ}に配慮^{はいりょ}された支援^{しえん}が必要^{ひつやう}になっている状態^{じやうたい}のことをいいます。児童^{じどう}の通所受給者証^{つうしよしゅきゅうしやう}の支給量^{しきゅうりやう}等の欄^{らん}に「加算強度行動^{かさんきやうどこうどう}」と印字^{いんじ}されている場合^{ばあい}や外出支援^{がいしゆつしえん}で

行動援助こうどうえんごを利用している場合りよう，医師いしや療育機関等りょういくきかんとから指摘してきされたことがある場合等ばあいとうは「1」としてください。

障がい福祉サービス等の利用についておたずねします

問7 お子さんが、現在利用している障がい福祉サービスについておたずねします。

(1) 現在、支給決定を受けて利用しているサービスをすべてお答えください。

※ 受給者証の記載内容を参考にしてください。

(2) 今後、3年以内に利用したいサービスはありますか。(あてはまるものすべてに○印)

		回答欄	
		問7(1)	問7(2)
(あてはまるものすべてに○印)		現在、 利用している サービス番号に○印 →	い 今後、 3年以内に利用した サービス番号に○印 →
1	未就学児に対して、日常生活における基本的な動作の指導、知識や技能の付与、集団生活への適応訓練などの支援を行うサービスです。	1	1
2	重度の障がいがあり、外出することが非常に困難な未就学児に対して、自宅を訪問し、日常生活に必要な動作の指導や、知識や技能を身に付けるための援助を行うサービスです。	2	2
3	主に未就学児に対して、医療的管理下で、日常生活における基本的な動作の指導、知識や技能の付与、集団生活への適応訓練などの支援と治療を行うサービスです。	3	3
4	就学児に対して、学校の授業終了後や休校日に、施設に通い、生活能力の向上のために必要な訓練や、社会との交流促進などの支援を行うサービスです。	4	4
5	保育所や学校などを訪問し、集団生活への適応のための専門的な支援などを行うサービスです。	5	5



次のページへ続く

		回答欄	
		問 7 (1)	問 7 (2)
(あてはまるものすべてに○印)		現在、利用しているサービス番号に○印→	今後、3年以内に利用したサービス番号に○印→
6 居宅介護 (ホームヘルプ)	ホームヘルパーが、自宅を訪問して、入浴、排せつ、食事等の介護、調理、洗濯、掃除等の家事、生活等に関する助言などを行うサービスです。	6	6
7 行動援護	知的障がいや精神障がいにより行動が困難で常に介護が必要な児童に、居宅内での見守り、外出時の移動の補助などを行うサービスです。	7	7
8 同行援護	視覚障がいにより、移動することが非常に困難な児童に、外出に必要な情報の提供や、移動の援護などを行うサービスです。	8	8
9 短期入所 (ショートステイ)	介護する人が病気の時などに、児童が施設に短期間入所し、入浴、排せつ、食事の介護などを行うサービスです。	9	9
10 福祉型児童 入所支援	障がい児入所施設に入所する児童に対して、保護・日常生活の指導、知識や技能の付与を行うサービスです。	10	10
11 医療型児童 入所支援	障がい児入所施設や指定医療機関に入所などをする児童に対して、保護・日常生活の指導、知識や技能の付与や治療を行うサービスです。	11	11



次のページへ続く

		回答欄	
		問7(1)	問7(2)
		現在、利用しているサービス番号に○印→	い、今後、3年以内に利用したサービス番号に○印→
(あてはまるものすべてに○印)			
12 計画相談支援・障がい児相談支援	障がい児通所支援を利用する児童に、サービスの利用開始時や更新・変更時に利用計画案を作成するとともに、定期的に利用状況を検証し、サービス提供事業者との連絡調整を行うサービスです。	12	12
13 重度障がい者等包括支援	寝たきりなどで常に介護が必要で、介護の必要な程度が非常に高い児童に、居宅介護（ホームヘルプ）などのサービスを、ほかのサービスと組み合わせながら行うサービスです。	13	13
14 移動支援	一人で移動することが困難な人に、自立した日常生活や社会参加のための支援を行うサービスです。	14	14
15 日中一時支援	日中において、介護者の休息や不在の時に、見守りと日中活動の場を提供するサービスです。	15	15
16 支給決定を受けているサービスはない・利用したいサービスはない		16	16



【問7(1)で「1～15」のいずれかを選んだ方は、次は問8にお進みください。
「16」を選んだ方は、次は問14にお進みください。】

【問7(1)で「1～15」のいずれかを選んだ方におたずねします。】

問8 お子さんが利用したことがある障がい福祉サービスに対して、困ったことがありましたか。
(あてはまるものすべてに○印)

- | | |
|------------------------------|----------------------|
| 1 利用したいサービスがあるのに条件が合わず利用できない | 6 子どもが利用できるサービスが少ない |
| 2 支給決定までに時間がかかりすぎる | 7 建物や設備が障がいに配慮されていない |
| 3 身近な施設や事業所を利用できない | 8 サービス内容についての情報が少ない |
| 4 利用したい日や時間に利用できない | 9 その他() |
| 5 こちらの要望を聞いてくれない | 10 特にない |

【問7(1)で「1 児童発達支援」や「4 放課後等デイサービス」を現在利用している方におたずねします。それ以外の方は問15へお進みください。】

問9 お子さんが現在「児童発達支援」や「放課後等デイサービス」を利用している主な理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○印)

- | |
|-------------------------------------|
| 1 保護者が働いているから |
| 2 子どもを家でみることが大変だから |
| 3 放課後児童クラブでの集団活動は子どもがなじむことができなかったから |
| 4 土日や休日、長期休業中でも利用できるから |
| 5 放課後を過ごす場所がないから |
| 6 学校との連絡がとりやすいから |
| 7 医療的ケアが必要な子どもに対応しているから |
| 8 利用人数(定員数)がちょうどよいから |
| 9 指導員の人数が十分だから |
| 10 建物や室内がバリアフリー化されているから |
| 11 保護者の希望をよく聞いてくれるから |
| 12 子どもの成長に気になることや不安があったから |
| 13 学校や保育所、保健師などから助言があったから |
| 14 学習面に不安があるから |
| 15 健診などで助言があったから |
| 16 その他() |

【問7(1)で「1 児童発達支援」や「4 放課後等デイサービス」を現在利用している方におたずねします。】

問10 お子さんが現在利用している「児童発達支援」や「放課後等デイサービス」について、今後、利用日数を増やしたい、または減らしたいと思いませんか。(○印は1つ)

- 1 今後、利用日数を増やしたい
- 2 今後、利用日数を減らしたい
- 3 現在のままでよい

【問7(1)で「1 児童発達支援」や「4 放課後等デイサービス」を現在利用している方におたずねします。】

問11 お子さんが現在利用している「児童発達支援」や「放課後等デイサービス」について、お子さんの療育に良い影響があると思いませんか。(○印は1つ)

- 1 思う
- 2 まあまあ思う
- 3 思わない

【次は問13へ】

【問11で「3」を選んだ方におたずねします。】

問12 お子さんの療育に良い影響があると思わない理由は何ですか。
(あてはまるものすべてに○印)

- 1 子どもの生活面や学習面に改善がみられないため
- 2 子どもの現在の発達状況について、どの程度改善しているのか把握しにくいいため
- 3 事業所のサービスが子どもに適しているのかわからないため
- 4 その他()

【問7(1)で「1 児童発達支援」や「4 放課後等デイサービス」を現在利用している方におたずねします。】

問13 お子さんが現在利用している、または利用したことがある「児童発達支援」や「放課後等デイサービス」について困ったことがありましたか。(あてはまるものすべてに○印)

- 1 サービス内容について情報を入手するのが難しかった
- 2 申請から支給決定までに時間がかかった
- 3 子どもの療育に合ったサービスを提供している事業所についての情報が不足している
- 4 ほかの利用者の声を聞く機会や目に触れる機会がない
- 5 利用したい日に事業所の都合で対応してもらえないことがあった
- 6 身近な事業所の定員がいっぱいでサービスを利用できなかった
- 7 その他()
- 8 特にない



次は問15 へお進みください。

【問7(1)で「16」を選んだ方におたずねします。】

問14 お子さんが障がい福祉サービスを利用していない理由は何ですか。
(あてはまるものすべてに○印)

- 1 サービスを受ける必要がないため
- 2 サービスの対象者の要件を満たさないため
- 3 既に別のサービスの提供を受けているため
- 4 サービスを利用する時間や曜日の都合が合わないため
- 5 身近な地域にサービス提供場所がないため
- 6 引き受けてくれるサービス提供事業所が見つからないため
- 7 利用料金がかかるため
- 8 サービスがあることを知らなかったため
- 9 その他()
- 10 特にない

問15 今後、障がい福祉サービスを利用しやすくするためには、どのようなことが必要だと思えますか。上位5つまで選んでください。(主なもの5つまでに○印)

- 1 どのようなサービスがあるのか、詳しい情報を提供してほしい
- 2 申請や手続きの方法をわかりやすくしてほしい
- 3 申請や手続きを素早くできるようにしてほしい
- 4 障がいの特性に応じた方法で情報を提供してほしい
- 5 本人に適切なサービスをアドバイスしてほしい
- 6 必要なときにすぐに利用できるようにしてほしい
- 7 サービスの回数や時間を増やしてほしい
- 8 身近な場所でサービスが受けられるようにしてほしい
- 9 施設の職員などの技術、知識を向上してほしい
- 10 施設の職員などの人数を増やしてほしい
- 11 サービスの費用負担を軽減してほしい
- 12 重度障がいや医療的ケアが必要な子どもを受け入れる事業所を増やしてほしい
- 13 住んでいる地域によってサービス内容に差がないようにしてほしい
- 14 その他 ()
- 15 特にない

問16 お子さんの障がいのことや福祉サービスに関する情報を、どこから知ることが多いですか。

(あてはまるものすべてに○印)

- | | |
|----------------------|---------------|
| 1 県や市の窓口 | 13 民生委員・児童委員 |
| 2 県や市からの通知 | 14 地域包括支援センター |
| 3 県や市などの広報紙・パンフレット | 15 地域活動支援センター |
| 4 県や市などのホームページ | 16 障がい者団体など |
| 5 通所・通学先 | 17 家族・友人・知人 |
| 6 社会福祉協議会 | 18 ラジオ・テレビ |
| 7 基幹相談支援センター(クローバー) | 19 新聞・雑誌など |
| 8 相談支援事業所 | 20 インターネット |
| 9 福祉施設・サービス提供事業所 | 21 その他 () |
| 10 病院・薬局 | 22 入手方法がわからない |
| 11 ホームヘルパー・ケアマネジャーなど | 23 特にない |
| 12 障がい者相談員 | |

ふだんの暮らしについておたずねします

問17 お子さんの主な介助者についてお答えください。(○印は1つずつ)

① お子さんの主な 介助者(お子さん からみた続柄)	1 父または母 2 きょうだい, 祖父, 祖母など 3 福祉施設の職員・ホームヘルパー	4 その他 () 5 介助は必要ない
② 主な介助者の 年齢	1 17歳以下 3 30~39歳 2 18~29歳 4 40~49歳	5 50~59歳 6 60歳以上

問18 お子さんの介助や支援にあたって, どのような不安や悩みがありますか。
(あてはまるものすべてに○印)

1 介助・支援の方法がわからない	9 一時的に子どもを預かってくれる場がない
2 余暇や休養など自分の時間が持てない	10 何かあったときに介助を頼める人がいない
3 仕事に出られない	11 何かあったときに相談できる人がいない
4 身体的な負担が大きい	12 介助者同士のつながりや交流がない
5 精神的な負担が大きい	13 障がいについて学ぶ場が少ない
6 睡眠が不足している	14 その他
7 経済的な負担が大きい	()
8 地域の人や周囲の理解がない	15 特にない

問19 お子さんの主な介助者が, 必要としている支援は何ですか。(あてはまるものすべてに○印)

1 相談支援や情報提供の充実	5 経済的な支援
2 障がいのある子どもを持つ家族同士の交流	6 その他()
3 心身のリフレッシュ	7 特にない
4 就労への支援	

相談についておたずねします

問20 お子さんの発達の遅れや障がい気付いたとき、どんな情報がほしいと思いましたか。
(あてはまるものすべてに○印)

- 1 実際に何をすればよいか分かる情報
- 2 どこに相談すればよいか、相談先についての情報
- 3 家族を支えてくれる支援機関についての情報
- 4 専門の医療機関についての情報
- 5 療育機関についての情報
- 6 障がいのある子どもやその家族など同じ立場の人に関する情報
- 7 その他()
- 8 特にない

問21 お子さんのことで、相談したいのは、どのようなことですか。
(あてはまるものすべてに○印)

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| 1 子どもの体調のこと | 12 外出・移動のこと |
| 2 家族・学校・職場・近所などでの人間関係のこと | 13 就学・進学・教育のこと |
| 3 介助者の健康や体力のこと | 14 仕事・就職のこと |
| 4 子どもを支援してくれる人のこと | 15 差別や偏見に関すること |
| 5 生活費や収入のこと | 16 子どもの余暇・スポーツ活動のこと |
| 6 利用できる福祉制度のこと | 17 緊急時・災害時のこと |
| 7 家事(炊事・掃除・洗濯)のこと | 18 子どもの話し相手のこと |
| 8 子どもの介助のこと | 19 子どもの結婚のこと |
| 9 子どもが大人になってから(将来)のこと | 20 情報収集のこと |
| 10 育児のこと | 21 その他() |
| 11 住まいのこと | 22 特にない |

問22 お子さんが18歳以上の成年期を迎えた後について、どのような暮らし方を希望しますか。
(○印は1つ)

- | | |
|---------------------|------------------|
| 1 専門学校や大学への進学 | 5 グループホーム等施設への入所 |
| 2 一般企業への就職 | 6 その他() |
| 3 通所施設での生産活動(福祉的就労) | 7 わからない |
| 4 通所施設での生活介護 | |

問23 お子さんは、基幹相談支援センター(クローバー)※1を利用したことがありますか。
(○印は1つ)

- | |
|------------------------|
| 1 利用したことがある |
| 2 利用したことはないが、利用に興味がある |
| 3 利用したことはないし、利用する必要がない |

※1 基幹相談支援センター(クローバー)では、障がいの種別などを問わず、障がいのある人の日常生活や社会生活を支援し、地域で安心して生活できるよう総合相談や専門の相談員による相談を行っています。

問24 お子さんは、こども発達支援センター※2を利用したことがありますか。(○印は1つ)

- | |
|------------------------|
| 1 利用したことがある |
| 2 利用したことはないが、利用に興味がある |
| 3 利用したことはないし、利用する必要がない |

※2 こども発達支援センターでは、就学前の発達が気になるお子さんとその保護者に対し、相談や診察、訓練などの医療的支援を行っています。

問25 お子さんのことで相談先に望むことは何ですか。(あてはまるものすべてに○印)

- 1 どのような相談先があるのか、詳しい情報を提供すること
- 2 1か所でどんな相談にも対応できること
- 3 身近な地域で気軽に相談できる場所が増えること
- 4 障がいの特性に応じて専門の相談ができること
- 5 障がいのある人やその家族など、同じ立場の人に相談ができること
- 6 休日や夜間、緊急時でも相談できること
- 7 電話・FAX・電子メールでの相談ができること
- 8 スマートフォンやパソコンなどで相手の顔を見ながら遠隔で相談できること
- 9 自宅や病院、施設を訪問してくれること
- 10 年齢や状況などに応じた情報を提供してくれること
- 11 相談員の質を向上させること
- 12 その他()
- 13 特にない

問26 発育・発達上の支援が必要な子どものために、どのようなことが必要だと思いますか。
(主なもの5つまでに○印)

- 1 身近な場所で子どもの発達について相談できる場所を増やすこと
- 2 相談したいときに素早く、スムーズに相談できること
- 3 発育や発達上の課題を早期に発見できる体制を充実すること
- 4 保育所、学校、病院、障がい児通所支援事業所が連携して療育支援をしてくれること
- 5 家庭訪問による相談や指導をしてくれること
- 6 通所・通学先で障がいの特性や発達に合わせた支援をしてくれること
- 7 保育士や教職員が障がいへの理解を深めること
- 8 まわりの子どもが障がいへの理解を深めること
- 9 放課後や夏休みなど長期休業中に過ごせる場所を増やすこと
- 10 障がいの有無にかかわらず遊べる場があること
- 11 通園や通学時の介助や付き添いを支援してくれること
- 12 地域の行事や活動を通じて住民との交流の機会を増やすこと
- 13 子どもを一時的に預かって世話をしてくれること
- 14 その他()
- 15 特にない

問27 障がいのある人や障がいのある子どもを育てた親が、自らの体験に基づいて、同じ仲間であるほかの障がいのある人や親の悩みなどを聞くという取組を「ピアサポート活動」といいます。この活動に参加してみたいと思いますか。(○印は1つ)

- 1 悩みなどを聞く立場で参加してみたい
- 2 悩みなどを聞いてもらう立場で参加してみたい
- 3 具体的な内容を聞いた上で参加を検討してみたい
- 4 参加してみたいと思わない

問28 お子さんのご家族とご近所の人との関係は、次のどれに最も近いですか。(○印は1つ)

- 1 困ったときに助け合う人やお互いに訪問し合う親しい人がいる
- 2 あいさつや立ち話をする程度の人がある
- 3 ほとんど近所付き合いはない

日中の過ごし方についておたずねします

問29 お子さんの通所・通学先はどこですか。(あてはまるものすべてに○印)

- 1 保育所・幼稚園・認定こども園に通園している
- 2 小学校・中学校・高校に通学している
- 3 特別支援学校に通学している
- 4 特別支援学級・通級指導教室に通学している
- 5 児童発達支援センター・児童発達支援事業所を利用している
- 6 放課後等デイサービス事業所を利用している
- 7 フリースクールに通っている
- 8 その他()
- 9 通所・通学はしていない(自宅で過ごしている)

問30 あなたは、ペアレント・メンター※という言葉を知っていますか。(○印は1つ)

※ ペアレント・メンターとは、発達障がいのある子どもを持つ親であり、その子育ての経験を生かして、同じような発達障がいのある子どもを持つ親に対して、助言などのサポートを行うトレーニングを受けた人のことをいいます。

- 1 言葉も内容も知っている
- 2 言葉を知っているが、内容は知らない
- 3 言葉も内容も知らない

問33 福山市の障がい福祉の取組について、何かご意見がありましたら、自由にご記入ください。

～ ご協力ありがとうございました ～

同封の返信用封筒に入れて、8月14日(月曜日)までに無記名で返送してください。

Ⅳ フリーアンサー集約結果

【1】18歳以上

問 38 福山市の障がい福祉の取組について、何かご意見がありましたら、自由にご記入ください。

	回答数	主な回答について
1 相談支援体制について	35	○ ワンストップで相談できるようにしてほしい。 ○ 相談窓口を増やしてほしい。
2 経済的支援について	21	○ 物価高なので、支給額を上げてほしい。 ○ 税金の納付額に関係なく、バス券を配付してほしい。
3 市役所・職員について	21	○ 平日は仕事なので、土日でも対応できるようにしてほしい。 ○ 窓口で声が聞こえないよう、パーテーションで仕切ってほしい。
4 情報提供について	19	○ 手帳取得時に、福祉サービスについてもっと詳しく説明してほしい。 ○ 制度について誰もが分かるよう、冊子等を作って配付してほしい。
5 差別や偏見について	19	○ できることは健常者と同じようにしたいと思っても、障がいがあるからと避けられる。 ○ 職場で差別がひどく、挨拶しても無視される等があった。 ○ うつ等、精神疾患の理解を深める活動をしてほしい。
6 福祉サービスについて	17	○ グループホームを増やしてほしい。 ○ 施設の職員を増やしてほしい。
7 障がい者手帳等の申請・手続き等について	16	○ オンラインで更新等ができるようにしてほしい。 ○ 手続きに時間がかかり過ぎる。
8 移動や外出支援について	15	○ 道路のバリアフリー化を進めてほしい。 ○ バスの減便や廃止で、移動手段に困っている。
9 雇用・就労支援について	11	○ 障がい者を雇用している企業は、もう少し障がいのことを理解してほしい。 ○ 作業所の賃金を上げてほしい。
10 将来について	7	○ 親が亡くなったとき、どうしたらいいか分からない。 ○ 老後がすごく心配。
11 その他の意見や要望	52	○ 災害時、重度の障がいのある人が行ける避難所がほしい。 ○ アンケートをもう少し分かりやすくしてほしい。

【2】18歳未満

問 33 福山市の障がい福祉の取組について、何かご意見がありましたら、自由に記入ください。

	回答数	主な回答について
1 福祉サービスについて	30	<input type="radio"/> 土・日曜日でも見てもらえる施設がほしい。 <input type="radio"/> 人材の育成や質の向上に取り組んでほしい。 <input type="radio"/> 移動支援を通学にも使えるようにしてほしい。
2 相談支援体制について	16	<input type="radio"/> 対面や電話で相談しにくいので、インターネットで気軽にできるとよい。 <input type="radio"/> 精神的な障がいがある子については、支援や相談場所が少ない。
3 情報提供について	16	<input type="radio"/> 市役所に障がいがある人、又は保護者に説明や相談ができる人がいてほしい。 <input type="radio"/> 分かりやすい情報提供をしてほしい。
4 市役所・職員について	12	<input type="radio"/> 現場の声、障がいのある子を持つ親の声を直接聞く場を設けてほしい。 <input type="radio"/> 窓口の人数を増やしてほしい。
5 障がい者手帳等の申請・手続き等について	11	<input type="radio"/> 自立支援の期限が切れそうになったら、通知がほしい。 <input type="radio"/> 書く書類が多く、手続きに時間がかかる。
6 経済的支援について	10	<input type="radio"/> 生活する上で必要な車椅子、おむつ等の自己負担はかなり厳しい。 <input type="radio"/> 障がいの軽い子（受給者証のみ）でも十分に働けないので、税の優遇や手当がほしい。
7 保育、教育について	9	<input type="radio"/> 普通高校に障がい枠のようなものを設けてほしい。 <input type="radio"/> もっと、一人一人にあった教育や対応が求められている。
8 交流の機会・場づくりについて	7	<input type="radio"/> 気軽に通える習い事や体験教室がたくさんあるとよい。 <input type="radio"/> 障がいを持つ子どもと親が、周りの人に気兼ねなく利用できる施設等ができればよい。
9 差別や偏見について	6	<input type="radio"/> 当事者を呼ぶなど「リアルな」人権教育を子どもたちにしてほしい。 <input type="radio"/> 学童の先生たちの理解を深めてほしい。
10 その他の意見や要望	17	<input type="radio"/> バリアフリーで暮らしやすいまちを目指してほしい。 <input type="radio"/> 働く場所をもっと増やしてほしい。

福山市 福祉に関するアンケート調査
報告書

発 行 者／2023 年（令和 5 年）11 月
発 行 者／福山市 保健福祉局 福祉部 障がい福祉課
〒720-8501 福山市東桜町 3 番 5 号
TEL（084）928-1208
FAX（084）928-1730
